

上野国分僧寺・ 尼寺中間地域(4)

前橋市元総社町小見地区、群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書 8分冊中の第4分冊。

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第33集 —

図 表 編

1990

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料	財群馬県埋蔵文化財	01-320
	調査事業団保管	49-3
No. 2-71	平成 2 年 7 月 12 日	(6)

上野国分僧寺・ 尼寺中間地域(4)

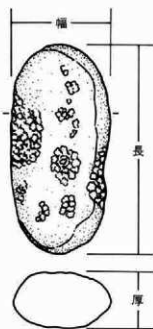
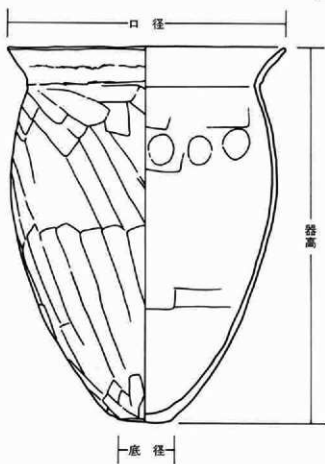
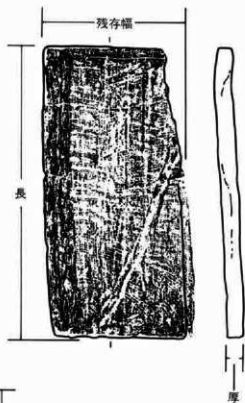
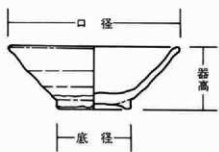
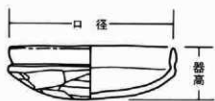
前橋市元総社町小見地区，群馬郡群馬町大字東国分村前・薬師道南・中道南・上野道南(植野道南)・高井道東地区に所在する遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書 8分冊中の第4分冊。

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第33集 —

図 表 編

1990

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



遺構・遺物觀察表

遺構觀察表

B区土坑一覽表

遺構名稱	位置	平面形状	主軸方位	規模 (單位cm)			備 考
				長	幅	深 度	
B区第3号土坑	37-B-32	円形	N-4°-W	104.0	97.5	22.0	
B区第40号土坑DB	37-B-43	不整円形	N-49°-W	101.0	87.5	26.5	
B区第41号土坑DB	#					32.0	
B区第42号土坑A	43-B-38	不整円形	N-34°-W	84.0+α	78.0	14.0	
B区第42号土坑DB	37-B-43	不整形	N-85°-E	66.0+α	53.0	45.0	
B区第43号土坑DB	37-B-44	不整形	N-71°-E	154.0+α	104.0	63.5	
B区第44号土坑A	43-B-38					15.5	
B区第44号土坑DB	37-B-44		N-83°-E	162.0	78.0+α	54.0	
B区第45号土坑DB	#					36.5	
B区第46号土坑DB	#	隅丸方形	N-86°-E	68.0	63.0	51.5	
B区第47号土坑A	37-B-32	円形	N-42°-E	35.5	33.0	24.0	
B区第47号土坑DB	36-B-32	階円形	N-10°-W	115.0+α	89.0+α	62.0	
B区第48号土坑DB	37-B-44					50.0	
B区第49号土坑DB	38-B-45	不整形	N-23°-E	190.5	80.5	57.5	
B区第50号土坑DB	38-B-43	不整円形					徑118.0
B区第51号土坑A	42-B-36	階円形	N-77°-W	82.0	45.0	23.5	
B区第51号土坑DB	38-B-43	方形	N-75°-E	65.0	61.0	32.0	
B区第52号土坑A	43-B-34	階円形	N-85°-E	93.0	77.0	13.0	
B区第52号土坑DB	38-B-42	#	N-8°-E	132.0	83.0	33.0	
B区第53号土坑	43-B-33	#	N-90°-E	30.0	21.0	12.5	
B区第54号土坑DB	38-B-43	#				22.0	
B区第55号土坑A	43-B-31						
B区第55号土坑DB	38-B-44	円形		52.0+α	89.0	26.5	
B区第56号土坑A	43-B-31	隅丸方形	N-33°-W	32.5	28.0	26.5	
B区第56号土坑DB	37-B-43		N-12°-E	103.5+α	118.0	17.5	
B区第57号土坑	43-B-31	隅丸方形	N-49°-W	31.0	30.0	14.0	
B区第58号土坑	42-B-31	#	N-59°-W	28.0	23.5	14.0	
B区第59号土坑	43-B-32	#	N-54°-W	34.0	30.0	19.0	
B区第60号土坑	#	#	N-52°-E	36.0	29.0	22.0	
B区第6号土坑	#	不整方形	N-60°-E	42.0	32.0	24.0	
B区第62号土坑	45-B-34	隅丸円形	N-52°-W	33.5	32.5	8.0	
B区第63号土坑	44-B-34	階円形	N-54°-W	59.0	46.0	12.0	
B区第64号土坑	#	不整円形	N-84°-W	69.0	54.0	13.0	
B区第65号土坑	#	階円形	N-33°-E	38.0	28.0	13.0	
B区第66号土坑	43-B-35	隅丸方形	N-29°-E	45.0	40.0	16.0	
B区第67号土坑	43-B-35	#	N-41°-E	62.0	58.0	19.0	
B区第68号土坑	43-B-36	#	N-63°-E	48.0	44.0	16.0	
B区第69号土坑	45-B-36	#	N-85°-E	29.0	24.0	12.5	

遺構観察表

C区土坑一覽表

遺構名称	位置	平面形状	主軸方位	規模 (単位cm)			備 考
				長	幅	深 度	
C区第13号土坑	27-C-44	円 形	—	83.0	—	36.0	
C区第14号土坑	28-C-46	階 円 形	N-6°-W	75.0	83.0	22.0	
C区第15号土坑	27-C-47	円 形	—	—	—	26.0	径58.0
C区第17号土坑	28-C-48	—	N-90°-E	233.5	167.0	24.0	
C区第18号土坑	23-C-52	階 円 形	N-17°-E	101.0	98.5	—	
C区第23号土坑	14-C-51	不整長方形	N-18°-E	199.0	64.0	20.0	
C区第27号土坑	15-C-51	長 方 形	N-2°-W	93.0	71.0	34.0	
C区第40号土坑	26-C-16	不整円形	N-19°-E	141.0	135.0	22.0	
C区第52号土坑	2-C-49	長 方 形	N-88°-W	171.0	92.0	39.0	
C区第53号土坑09	17-C-53	不整長方形	N-43°-W	89.0	61.0	32.0	
C区第60号土坑	2-C-44	円 形	N-15°-E	69.0	58.0	15.0	
C区第79号土坑	14-C-49	不 整 形	N-33°-W	112.0	101.0	26.0	
C区第80号土坑	10-C-50	長 方 形	N-5°-W	97.5	67.0	24.0	
C区第81号土坑	8-C-50	不 整 形	N-83°-E	196.0	158.0	18.0	
C区第82号土坑	8-C-53	#	N-28°-E	90.0	77.0	36.0	
C区第83号土坑	9-C-52	不整円形	N-16°-W	204.0	181.0	12.0	

遺物一覧表

C区第6号溝跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 遺目 (E)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
9-1 99	土師器 環	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は直削り、口縁内外面は横撫で内面外部・底部は撫で整形。口縁直下に彫溝を残す。	
9-2 99	土師質土 器 皿	覆土内 破片	口 (8.0) 底 (4.8) 高 (2.9)	デイサイト 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
9-3 99	土師質土 器 皿	覆土内 片残存	口 9.3 底 5.1 高 2.3	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部に焼成以前の穿孔有。	
9-4 99	土師質土 器 環	覆土内 破片	口 — 底 6.9 高 —	赤褐色粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転度切り。	
9-5 99	土師質土 器 環	覆土内 破片	口 10.9 底 5.4 高 3.4	白色粒子 細粒	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。外面は風化が著しい。	
9-6 99	土師質土 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 5.4 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
9-7 99	土師質土 器 塊	覆土内 破片	口 — 底 6.9 高 —	黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
9-8 99	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 底 (12.0) 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
9-9	須恵器 高台付環	覆土内 片残存	口 18.0 底 12.0 高 4.2	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。天上は回転篋整形(右回転)。	秋間系
9-10 99	土師器 壺	覆土内 破片	口 35.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄褐	口縁部は外反する。紐作り。外面側部は直削り、口縁部は横撫で、内面側部は直削り。外面、黒く腫る。	吉井系
9-11 99	土師器 土 釜	覆土内 破片	口 18.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄褐	口縁部は短く外反する。紐作り。外面側部は直削り、口縁部は横撫で、内面側部は直削り。	吉井系
9-12 99	土師器 土 釜	覆土内 破片	口 — 底 (15.0) 高 —	白色粒子	酸化焰	明赤褐	紐作り。外面側部は直削り、内面は撫で。底部は直削り。	吉井系
9-13 99	土師器 土 釜	覆土内 破片	口 — 底 (14.0) 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍褐	紐作り整形。外面側部は直削り、内面は撫で。底部に離砂痕有。	吉井系
9-14 99	土師器 土 釜	覆土内 破片	口 — 底 (9.1) 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍黄褐 黒	紐作り後直削り整形。内面全面に灰化物附着。焼し処理を施す。外面増文、焼し処理を施す。	藤岡系
9-15 99	須恵器 瓶	覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。自然輪附着。	秋間系
9-16 99	須恵器 瓶	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面直削り有。	秋間系
9-17 99	須恵器 大 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平叩き・内面内削り)は素文)後轆轤再整形。内面はやや磨減している。外面自然輪附着。外縁を調節する。	秋間系
9-18 99	須恵器 甕	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面側部整形・内面内削り)は素文)。	秋間系
9-19 99	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(内面内削り)は素文)。	秋間系
10-1	土師質土 器 瓶	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 —	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は短く外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系

遺物一覧表

押出番号 図録番号	種別 器	出土位置 保存状態	寸目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
10-2 100	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 底 (8.8) 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後継継盤形(右回転)。外面自然釉附着。	乗附系
10-3 100	灰釉陶 灰釉甕	覆土内 破片	口 底 (7.6) 高 —	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	紐作り後継継盤形(右回転)。付高台。外面自然釉附着。	秋田系
10-4 100	施釉陶器 灰釉甕	覆土内 破片	—	密	良好	オーリーブ灰	継継成形(右回転)。施釉は浸掛。	
10-5 100	施釉陶器 灰釉甕	覆土内 破片	—	密	良好	灰	施釉は浸掛。継継盤形。胴部は回転捩削り。横位尖帯を施す。	
10-6 100	施釉陶器 灰釉甕	覆土内 破片	口 底 5.0 高 —	密	良好	灰	継継成形(右回転)。底部は厚く、高台は短かく積み出す。	
10-7 100	施釉陶器 灰釉甕	覆土内 破片	口 13.5 底 — 高 —	密	良好	灰	継継成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施釉は浸掛。内面口縁直下に横線を施す。	
10-8 100	施釉陶器 灰釉甕	覆土内 破片	口 底 (17.0) 高 —	密	良好	灰	継継盤形(右回転)。	
10-9 100	石製品 磁石	覆土内 一部欠損	長 8.7 幅 3.4 重 104.20	洗紋岩(磁沢)	—	—	両端欠損。手持磁。	
10-10 100	鏡 不詳	覆土内 完存	長 3.2 幅 3.0 重 28.96	粗粒安山岩	—	—	全面磨減。	
10-11 100	鏡 不詳	覆土内 完存	長 5.0 幅 4.2 重 85.46	粗粒安山岩	—	—	全面磨減。	
10-12 100	鏡 不詳	覆土内 完存	長 10.7 幅 6.0 重 300.0	安賢安山岩	—	—	先端部に軽い敲打痕。	
10-13 100	鏡 不詳	覆土内 完存	長 12.5 幅 5.4 重 470.0	溶結凝灰岩	—	—	先端部に軽い敲打痕。	
10-14 100	鏡 不詳	覆土内 完存	長 13.4 幅 5.2 重 580.0	安賢安山岩	—	—	両端に敲打痕。	
10-15 100	鏡 不詳	覆土内 完存	長 13.5 幅 5.0 重 500.0	安賢安山岩	—	—	両端に軽い敲打痕。	
10-16 100	鏡 不詳	覆土内 片残存	長 — 幅 9.0 重 690.0	粗粒安山岩	—	—	先端に敲打痕。	
10-17 100	石製品 羽目石	覆土内 破片	長幅 — 重 580.0	二ツ岳緑石	—	—	全体に磨き整形。一部にハツリ痕。因分寺二寺の基礎化粧か。	
10-18 100	須恵器 大甕 転用円盤	覆土内 完存	厚 2.0	黒色微粒子 白色鉱物微粒子	還元	灰	紐作り。内・外面共に磨減している。外面平行印系。	乗附系
11-1 100 瓦-398	瓦 鏡瓦	覆土内 破片	厚 2.8	白色微粒子	還元	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	笠懸系
11-2 100	瓦 玉縁付男 瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色鉱物微粒子 白色微粒子	還元	灰	半截作り。外面継継盤形・布圧痕。接合はA型。	笠懸系
11-3 100 瓦-473	瓦 字瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元	灰	瓦当意匠は格子文。段頸。女瓦の横断面の曲率は少ない。	曲阿系
11-4 100 瓦-471	瓦 字瓦	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元	灰	瓦当意匠は飛雷文。外縁に蓮子を施す。段頸。頸部に赤色顔料痕。	笠懸系

C区(6号清跡)

採集番号 図版番号	種類	出土位置 遺存状態	寸法 (cm) (8)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
11-5 100 瓦-472	瓦 字瓦	覆土内 破片	厚 2.8	白色黏物粒子	還元	灰	瓦当意匠は右肩行唐草文。段椽。	吉井系か 藤岡系
11-6 100 瓦-136	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色黏物粒子	還元	灰	半截作り。寛譜き文字瓦判読不能(凸面)。側 部面取り4回。粘土板接合痕はZ。	吉井系か 藤岡系
11-7 100 瓦-140	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色黏物粒子	還元	灰	半截作り。寛譜き文字瓦「生」の逆文字「凹」。	吉井系か 藤岡系
11-8 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色黏物粒子	還元	灰	紐作り。側部面取り2回。端部面取り3回。	吉井系か 藤岡系
11-9 100 瓦-138	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色黏物粒子	還元	灰	半截作り。寛譜き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面の布目細かい。側部面取り3回。	吉井系
11-10 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕・布目擦り 消し。凸面錫印き(密)。側部面取り3回。	笠懸系
11-11 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 0.8	白色黏物粒子 黒色黏物粒子	酸化焰 か	橙	一枚作り。側部面取り3回。厚さは非常に薄 い。	樂附系か 藤岡系
11-12 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	シルト粒	酸化焰 か	淡黄橙	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面錫印 き(密)。側部面取り4回。端部面取り1回。	秋田系
11-13 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	黒色粒子 シルト粒	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面錫印 き(密)・糠砂痕有。側部面取り2回。端部面 取り2回。側部に布圧痕。	秋田系
11-14 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。端部面取 り3回。	吉井系
11-15 100 瓦-145	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦判読不能(凸面)。	笠懸系
11-16 100 瓦-131	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。寛譜き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面横骨痕。側部面取り3回。	樂附系
12-1 100 瓦-128	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛譜き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面布撫で消し。端部面取り1回。桶巻き造り か。	笠懸系
12-2 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	黒色粒子 シルト粒	還元焰	灰	凹面横骨痕。凸面正格子叩き。側部面取り2 回。凸面赤色顔料塗彩。12-16と同一個体。	樂附系
12-3 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	赤褐色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面錫印 き(密)。側部面取り4回。	秋田系
12-4 100 瓦-144	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色黏物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。寛譜き文字瓦「古」(凸面)。凸面 縦位の撫で整形。	藤岡系
12-5 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	黒色粒子 白色黏物粒子	還元焰	灰	作りは不詳。凹面撫で整形。側部面取り3回。	樂附系
12-6 100 瓦-134	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色黏物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛譜き文字瓦判読不能(凸面)。凸 面粘土板刺ぎ取り痕。側部面取り3回。	吉井系
12-7 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 3.0	白色黏物粒子	還元焰	灰	一枚作り。側部面取り4回。布目は非常に細 かい。自然粘附着。	樂附系
12-8 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面斜棒 子叩き。	樂附系
12-9 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色黏物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面撫で整形。凹面・凸面粘土板 刺ぎ取り痕。側部面取り3回。端部面取り2 回。	吉井系
12-10 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面錫印き(密)。側部面取り5回。	秋田系
12-11 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	酸化焰 か	橙	一枚作り。凸面錫印き。	笠懸系
12-12 101	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子 シルト粒	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。側部面取 り2回。	樂附系

遺物一覧表

発掘番号 図面番号	種別	出土位置 遺存状態	発見 層目 (G)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
12-13 101 瓦-139	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色紅物粒子	還元焰 灰	一枚作り。寛幅き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の無で無形。	吉井系	
12-14 100 瓦-132	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.4	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰 灰	一枚作り。寛幅き文字瓦判読不能(凸面)。	栗附系	
12-15 100	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色紅物粒子 黒色紅物粒子	還元焰 灰白	一枚作り。凹面・凸面粘土板割ぎ取り痕有。	栗附系か	
12-16 101 瓦-129	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	黒色微粒子	還元焰 灰白	柄巻き造りか。縦幅き文字瓦判読不能(凸面)。凸面正格子叩き。	栗附系 12-2と 同一個体	
12-17 101 瓦-141	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰 灰白	一枚作り。寛幅き文字瓦「十」(凸面)。	笠懸系か	
12-18 101 瓦-127	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰 白灰	一枚作り。寛幅き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。	秋間系	
12-19 101 瓦-135	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色紅物粒子	還元焰 灰	一枚作り。寛幅き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系	
13-1 101 瓦-137	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色紅物粒子 シレット粒	還元焰 灰白	一枚作り。寛幅き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系	
13-2 101 瓦-130	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色紅物粒子	還元焰 暗灰	一枚作り。寛幅き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。	吉井系	
13-3 101 瓦-133	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.0	白色微粒子 白色紅物粒子	還元焰 白灰	一枚作り。寛幅き文字瓦判読不能(凸面)。布目の縦糸が非常に細かい。凸面赤色顔料塗彩。	秋間系か 栗附系	
13-4 101 瓦-146	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色紅物粒子	還元焰 暗灰	一枚作り。寛幅き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の無で無形。	吉井系	
13-5 101 瓦-143	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色紅物粒子	還元焰 灰	一枚作り。刷印記号瓦「同心円」(凸面)。	吉井系	
13-6 101 瓦-142	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰 白灰	一枚作り。刷印文字瓦「廣田」(凸面)。	笠懸系	
13-7 101	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子	酸化焰 か	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕・布目磨り消し。凸面正格子叩き。	笠懸系
13-8 101	瓦 鬼瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子 白色紅物粒子	還元焰 灰	鬼面の左歯牙の文様が残存する。鳥休(鳥糞)の刺り込み有。背面は欠損。	笠懸系か	

C区第9号溝跡

発掘番号 図面番号	種別	出土位置 遺存状態	発見 層目 (G)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
14-1 101	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (6.0) 高 —	黒色微粒子	還元焰 灰	横轆成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
14-2 101	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 6.8 高 —	白色微粒子	還元焰 灰白	横轆成形(右回転)。付高台。	藤岡系
14-3 101	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (8.2) 高 —	微粒状雲母	還元焰 灰	横轆成形(右回転)。付高台。	藤岡系
14-4 101	須恵器 壺	覆土内 破片	最大径 22.4	白色紅物粒子	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	栗附系
14-5 101	須恵器 壺	覆土内 破片	口 19.4 底 — 高 —	微粒状雲母	還元焰 灰	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。踵は貼り付け。	藤岡系

C区(9・10号溝跡)

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
14-6 101	羽蓋	覆土内 破片	口 23.8 底 — 高 —	白色磁物粒子	酸化焰	鈍黄	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形(右回転)。跡は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
14-7 101	熊胎陶器 灰輪	覆土内 破片	口 12.0 底 — 高 —	密	良好	灰白	輪縁成形(右回転)。	
14-8 101 瓦-399	瓦 磨瓦	覆土内 破片	厚 2.7	黒色粒子 シルト粒	還元焰	灰	瓦当意匠不詳。瓦当接合部は平付。男瓦部は紐作り。	秋葉系か 栗附系
14-9 101 瓦-147	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色磁物粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦当き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系

C区第10号溝跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
15-1 101	土師器 環	覆土内 破片	口 (14.1) 底 — 高 —	白色磁物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋形、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に型溝を残す。内面に暗文施す。	栗附系
15-2 101	土師器 環	覆土内 破片	口 (14.2) 底 — 高 —	白色磁物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋形、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型溝を残す。内面に暗文施す。	吉井系
15-3 101	土師質土 器 環	覆土内 瓦残存	口 10.6 底 (3.4) 高 4.5	白色磁物粒子	酸化焰	鈍黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転系切り。	藤岡系か
15-4 101	須恵器 蓋	覆土内 破片	胴部 (5.0)	白色磁物粒子	還元焰	灰白	輪縁整形(右回転)。上半部は回転篋形。胴部は貼り付け。	秋葉系か
16-1 101	須恵器 高塚か	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	輪縁整形(右回転)。内・外面撫でを残す。	秋葉系
16-2 101	土師器 壺	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 —	黒色磁物粒子 白色磁物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋形、口縁部は横撫で、内面胴部は篋無。	藤岡系
16-3 101	土師器 壺	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 —	黒色磁物粒子 白色磁物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。紐作り。口縁部は横撫で。	藤岡系
16-4 101	須恵器 長頸壺	覆土内 頸部残存	取付部 6.2	黒色粒子	還元焰	白灰	紐作り後輪縁整形(右回転)。頸部中央に横線2条を残す。	秋葉系
16-5 101	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反し、13本1単位の波状文を廻らす。紐作り後輪縁整形(右回転)。	東海系か
16-6 102	須恵器 要	覆土内 破片	—	白色粒子 白色磁物粒子	還元焰	灰	紐作り。外面叩き整形。内面内面 素文の叩き整形。	吉井系か 秋葉系
16-7 101	須恵器 壺	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面内面 は背撫で文)。外面は磨滅している。	秋葉系
16-8 102	須恵器 瓶 か	覆土内 破片	—	白色磁物粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面内面 は背撫で文)。外面は磨滅している。	秋葉系
16-9 101	須恵器 鉢	覆土内 瓦残存	口 21.8 底 — 高 11.5	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り後輪縁整形(右回転)。体部下半は回転 篋形。底部やや磨滅している。	秋葉系
16-10 102 瓦-148	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色磁物粒子	還元焰	灰	一枚作り。刷印文字瓦判読不能(凸面)。凹面 布目撫で消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕、正格 子叩き。側面面取り3回。	笠懸系
16-11 102	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色磁物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子叩 き・木目叩き有。側面面取り1回、端面面取 り1回。	笠懸系
16-12 102 瓦-149	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色磁物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。刷印文字瓦判読不能(凸面)。凹面 布目撫で消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕、正格 子叩き。側面面取り3回。	笠懸系

遺物一覧表

C区第8・18号清跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
17-1 103	土製器 環	覆土内 破片	□ 16.3 底 4.5	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	橙	型作り成形。底部・体部は荒削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い肌磨を残す。	藤岡系
17-2 103	須恵器 高台付環	覆土内 破片	□ 13.6 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。高台欠損（付高台）。外面横し処理（秋岡窯跡群の特徴的な技法）。	秋岡系
17-3 103	須恵器 埴	覆土内 破片	□ — 底 (6.3) 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。付高台。	栗附系か 吉井系
17-4 103	須恵器 埴	覆土内 破片	—	赤褐色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。甲き整形（外面平行甲き・内面宛具は素文）後轆轤再整形。	秋岡系
17-5 103 瓦-402	瓦 敷瓦	覆土内 細片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。国分寺創建統一意匠。	笠懸系
17-6 103	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 半透明鉱物粒子	中性焰	黄灰	一枚作りか。凸面平行甲き後撫で整形。側面取り3回、端面面取り2回。	吉井系か 栗附系

C区第11号清跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
18-1 102	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面正格子甲き。側面面取り2回 端面面取り2回。	秋岡系か 栗附系

C区第12号清跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
19-1 102	須恵器 環	覆土内 破片	□ 11.8 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。	秋岡系
19-2 102	須恵器 環	覆土内 破片	□ 13.5 底 6.2 高 4.0	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。内・外面有機質附着。	栗附系か 秋岡系
19-3 102	須恵器 環	覆土内 破片	□ 11.9 底 5.8 高 3.8	微粒状雲母 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。	藤岡系
19-4	須恵器 環	覆土内 破片	—	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	黄橙	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸切り。内面底部に貫抜き文字か記号有「判読不能」。	秋岡系か
19-5 102	須恵器 埴	覆土内 破片	□ 11.4 底 5.9 高 4.5	白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。付高台。	栗附系か 吉井・藤岡系
19-6 102	須恵器 盤	覆土内 破片	□ — 底 (16.0) 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形（右回転）。底部は回転糸無。	秋岡系
19-7 102	須恵器 鉢	覆土内 破片	□ (17.0) 底 — 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	黄褐色	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形（右回転）。体部胴部に強い轆轤痕を残す。	吉井系か 藤岡系
19-8 102	施軸陶器 灰軸平埴	覆土内 破片	最大径 18.0	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形（右回転）。施軸は提掇か。軸調はやや横おる。	
19-9 102	須恵器 埴	覆土内 破片	□ — 底 (14.8) 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形（右回転）。底部に磨砂痕。	栗附系
19-10 102	須恵器 (土師質) 埴	覆土内 破片	—	白色微粒子	中性焰	灰黄	紐作り。外面撫で整形。内面甲き整形宛具は素文後撫で整形。	秋岡系か 藤岡系
19-11 102	須恵器 埴	覆土内 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。外面凸形甲きか。内面宛具素文の甲き整形。内・外面自然釉附着。	秋岡系

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目(目)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
19-12 102	須意 大壺	覆土内 破片	—	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。甲き整形(外面平行甲き)。内面甲き整形。	炭素系
19-13 102	摩勢 不詳	覆土内 破片	長 7.4 幅 1.6 重 24.78	雲母石英片岩	—	—	全体に磨滅している。	
19-14 102	石造 羽目石	覆土内 破片	長 11.0 幅 10.0 重 340.6	雑石(二ツ岳)	—	—	国分寺堂宇の基礎の羽目石か。外面磨き整形。	
19-15 102 瓦-401	瓦 殿瓦	覆土内 与残存	厚 4.0	白色微粒子	中性焰	黄灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。外区は三重圈。国分寺創建統一意匠。	笠懸系
19-16 103 瓦-400	瓦 殿瓦	覆土内 破片	厚 0.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当文様は不詳。	笠懸系
20-1 103	瓦 殿瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰白	一本作り。瓦当面欠損。瓦耳部凸面寛面で整形。	笠懸系
20-2 103	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面寛面で整形。側面取り2回。粘土板接合痕はZ。	笠懸系
20-3 103 瓦-150	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子 微粒状雲母	還元焰	灰白	一枚作り。寛幅き文字瓦判読不能(凸面)。	秋間系か 藤岡系
20-4 103	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。側面取り3回。端部面取り2回。	吉井系
20-5 103	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 半透明鉱物粒子	中性焰 二次焼成か	黄灰	一枚作り。粘土板接合痕はS。側面取り3回。端部面取り1回。	吉井系
20-6 103	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面圏で整形。	吉井系
20-7 103 瓦-151	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。寛幅き文字瓦「大」(凸面)。	吉井系
20-8 103	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面木目甲き。側面取り2回。	吉井系
20-9 103	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	透明鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面斜格子甲き。	笠懸系
20-10 103 瓦-152	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	中性焰	鈍橙	一枚作りか。寛幅き文字瓦判読不能(凸面)。	笠懸系
20-11 103 瓦-156	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛幅き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。	吉井系
20-12 103 瓦-154	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。寛幅き文字瓦「大」(凹面)。凸面縄叩き(密)・磨砂痕有。	秋間系
20-13 103 瓦-153	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。寛幅き文字瓦判読不能(凹面)。凸面縄叩き(密)。	秋間系
20-14 103 瓦-155	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 二次焼成か	橙	一枚作り。寛幅き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系
20-15 103	鉄器 角釘	覆土内 一部欠損	重 (14.2)	—	—	—	鍛えは普通。	
20-16 103	鉄器 角釘	覆土内 先端欠損	重 (5.6)	—	—	—	鍛えは普通。	
20-17 103	鉄器 釘か判別の 茎	覆土内 破片	重 (2.6)	—	—	—	鍛えは普通。	
20-18 103	鉄器 釘	覆土内 先端側部 欠損	重 (2.3)	—	—	—	鍛えは普通。	

遺物一覧表

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
20-19 103	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (2.2)	—	—	—	鍛えは普通。	
20-20 103	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (2.8)	—	—	—	鍛えは普通。	
20-21 103	鉄器 釘	覆土内 先端部 欠損	重 (15.2)	—	—	—	鍛えは普通。	

B区第4号清跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
21-1 251	土師器 壺	覆土内 破片	口 11.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は直削り、口縁部は横撫で、内面胴部は直撫で。	藤岡系
21-2 251	土師器 壺	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 —	白色粒子 細砂粒	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は直削り、口縁部は横撫で、内面胴部は直撫で。	吉井系
21-3 251	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は素文)。	吉井系
21-4 251	須恵器 (土師質) 大 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	酸化焰	赤褐	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は素文)。	兼附系
21-5 251	須恵器 大 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具は青海波文)。	兼附系
21-6 251	土師器 環	覆土内 破片	口 13.0 底 — 高 (5.0)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は直削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。	藤岡系

C区第8号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
23-1 104	土師器 環	覆土内 破片	口 (13.1) 底 — 高 —	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は直削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型書を残す。	藤岡系
24-1 104	土師器 環	床直層 破片	口 14.3 底 — 高 4.4	黒色鉱物粒子 白色微粒子 金雲母少量	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は直削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型書を残す。	藤岡系
24-2 104	雑器 不詳	床直層 完存	長 11.4 幅 5.8 重 423.0	粗粒安山岩	—	—	全面磨減。	
24-3 104	雑器 不詳	床直層 完存	長 3.4 幅 3.5 重 13.7	二ツ岳軽石	—	—	小型の石を何らかに利用している。磨減は使用痕はない。用途不明。	
24-4 104	雑器 不詳	床直層 完存	長 12.5 幅 4.6 重 331.2	溶結凝灰岩	—	—	不詳。	
24-5 104	雑器 不詳	床直層 ほぼ完存	長 12.7 幅 6.0 重 517.4	実質玄武岩	—	—	不詳。	
21-6 104	雑器 不詳	床直層 ほぼ完存	長 12.8 幅 6.2 重 247.7	硬質頁岩	—	—	不詳。	
24-7 104	雑器 不詳	床直層 ほぼ完存	長 14.0 幅 5.8 重 681.3	粗粒安山岩	—	—	不詳。	

C区第9号住居跡

検出番号 図記番号	種別	出土位置 遺存状態	数量 目数(個)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
25-1 104	土器 環	覆土内 破片	□ (10.1) 底 — 高 (3.1)	黒色粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は寛なり、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁直下に甘い型書を残す。	藤岡系
25-2 104	土器 環	床直層 瓦残存	□ 10.5 底 — 高 3.1	黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は寛なり、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁直下に甘い型書を残す。	藤岡系
25-3 104	土器 環	床直層 瓦形	□ 10.6 底 — 高 3.1	黒色粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は寛なり、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁直下に甘い型書を残す。	藤岡系
25-4 104	土器 環	覆土内 破片	□ (11.4) 底 — 高 (2.9)	黒色粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は寛なり、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁直下に甘い型書を残す。	藤岡系
25-5 104	土器 環	床直層 瓦残存	□ 12.7 底 — 高 3.5	黒色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は寛なり、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁直下に甘い型書を残す。	藤岡系
25-6 104	土器 環	床直層 破片	□ (18.3) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は寛なり、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁直下に甘い型書を残す。	藤岡系
25-7 104	須恵器 環	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	輪織成形(右回転)。底部は手持り寛なり。	藤岡系
25-8 104	須恵器 蓋	床直層 ほぼ丸形	□ 10.2 横 2.2 高 3.3	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は丸い。輪織成形(右回転)。上半部は 回転寛なり。胴部は貼り付け。受部は折り返 し。	藤岡系
25-9 104	須恵器 環	床直層 破片	□ (9.2) 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰白	輪織成形(右回転)。	藤岡系
25-10 104	須恵器 環	床直層 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	輪織成形(右回転)。底部は手持り寛なり。	藤岡系
25-11 104	須恵器 環	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰白	輪織成形(右回転)。底部は回転寛切り。	藤岡系
25-12 104	土器 壺	床直層 破片	□ (18.3) 底 — 高 —	微粒状雲母 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛 なり、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	藤岡系
28-1 104	土器 壺	コマ下内 破片	□ 25.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子 デイズイト 微粒状雲母	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛 なり、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	藤岡系
28-2 104	土器 壺	覆土内 破片	□ (23.5) 底 — 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 砂粒	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛 なり、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	藤岡系
28-3 104	須恵器 高環	床直層 破片	□ (24.0) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	輪織成形(右回転)。脚部欠損。体部下半は寛 撫で。	秋間系
28-4 104	須恵器 高環	覆土内 破片	□ (25.1) 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	灰白	輪織成形(右回転)。脚部欠損。体部下半は寛 撫で。	秋間系
28-5 104	土師質土 高環	覆土内 破片	□ (25.2) 底 — 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰 ~還元焰	黄灰	輪織成形(右回転)。脚部欠損。体部下半は寛 撫で。	秋間系
28-6 104	須恵器 高環	覆土内 破片	□ (28.2) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	輪織成形(右回転)。脚部欠損。体部下半は寛 撫で。	秋間系
28-7 104	須恵器 環	覆土内 破片	—	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	輪織成形(右回転)。脚部欠損。体部下半は寛 撫で。	秋間系
28-8 104	須恵器 壺	床直層 破片	□ 14.2 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。紐作り後輪織整形(右回 転)。	秋間系
28-9 104	須恵器 壺	床直層 破片	—	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面瓦具 は青銅製文)。内面は磨滅している。	藤岡系

遺物一覧表

棟号番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考	
28-10 104	須志器 壺	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青濁波文)。外面は磨滅している。	秋間系
28-11 104	須志器 蓋	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。	秋間系
28-12 104	須志器 壺	床直層 破片	—	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青濁波文)。外面は磨滅している。	栗附系
28-13 104	須志器 壺	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青濁波文)。外面は磨滅している。	秋間系
28-14 104	須志器 壺	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青濁波文)。	秋間系
28-15 104	須志器 壺	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青濁波文)。	栗附系
29-1 105	須志器 壺	覆土内 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青濁波文)。	秋間系
29-2 105	須志器 壺	床直層 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青濁波文)。	秋間系
29-3 105	須志器 提瓶	覆土内 破片	—	白色粒子 シルト粒	還元焰	白灰	紐作り後轆轤成形(右回転)。	秋間系
29-4 105	雑器 不詳	床直層 一部欠損	幅 18.8 厚 5.9 重 2860.0	石莫閃緑岩	—	—	図上下端部の縁辺に欠損する。台石等として利用されたか。	

C区第10号住居跡

棟号番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考	
30-1 105	土師器 杯	床直層 瓦残存	口 12.3 底 — 高 3.8	白色粒子 黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は削り、口縁内外面は横溝で、内面体部・底部は無型整形。口縁直下に甘い凹溝を残す。	藤原系
30-2 105	土師器 杯	カマド右 袖 破片	口 (18.1) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底・体部は削り、口縁内外面は横溝で、内面体部・底部は無型整形。	藤原系
30-3 105	土師器 壺	床直層 破片	口 (23.7) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は置割り、口縁部は横溝で、内面胴部は寛撫で。	藤原系

C区第11号住居跡

棟号番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考	
33-1 105	土師質土 器 杯	覆土下層 瓦残存	口 (11.0) 底 (5.1) 高 (3.2)	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は静止未切り。	
33-2 105	土師質土 器 埴	覆土下層 瓦残存	口 12.0 底 6.6 高 4.7	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面で部分的に横りが認められる。	
33-3 105	土師質土 器 埴	覆土下層 瓦残存	口 14.0 底 7.3 高 6.1	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
33-4 105	土師質土 器 埴	カマド左 袖 瓦残存	口 18.9 底 8.9 高 8.2	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
33-5 105	土師質土 器 埴	覆土下層 瓦残存	—	白色微粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	栗附系か
33-6 105	施輪陶器 灰 輪花文	覆土下層 ほぼ完形	口 12.0 底 6.9 高 2.6	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施輪は複溝。輪花(4単位)。	輪投系
33-7 105	須志器 蓋	覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。受部は貼り付け。	秋間系

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目(㎝)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
33-8 105	羽 器	蓋上下層 与残存	口 20.1 底 — 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焙 〜酸化 焙	鈍黄橙	口縁部は直立する。縦作り後撫で整形(右回転)。筒は貼り付け。吉井羽形。	吉井系
33-9	土師質土 器 環	P,内 ほぼ完形	口 11.7 底 5.8 高 3.4	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙	浅黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部は磨減している。	
33-10	土師質土 器 環	P,内 完形	口 11.4 底 5.0 高 3.8	白色鉱物粒子 黒色粒子 透明鉱物粒子	酸化焙	浅黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	東毛系か
33-11	土師質土 器 塊	P,内 完形	口 10.0 底 7.1 高 5.0	白色粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焙	黄橙	輪縁成形(右回転)。付高台。	
33-12	土師質土 器 塊	P,内 完形	口 10.2 底 6.4 高 4.8	白色粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焙	黄橙	輪縁成形(右回転)。付高台。	
33-13 105	土師質土 器 塊	P,内 ほぼ完形	口 13.8 底 8.4 高 5.5	白色粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焙	黄橙	輪縁成形(右回転)。付高台。	
33-14 105	石製石 砥石	P,内 与残存	幅 5.0 厚 2.4 重 227.0	流紋岩(砥沢)	—	—	手持ちと置砥兼用の。利器の先端に刺突痕有。	
33-15 105 瓦-403	瓦 鏝瓦	覆上下層 与残存	厚 2.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焙	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。外区に左端行唐草文を配す。中房の子葉は1+5。瓦当接合部は字付。	笠懸系か 吉井系
34-1 105	瓦 男瓦	カマド右 袖 完形	長 39.6 広 18.5 狭 12.4	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焙	黄橙	半載作り。凸面縦の撫で整形。側面取り1回。端面取り1回。	吉井系
34-2 105	瓦 男瓦	カマド左 袖 与残存	幅 15.6 厚 2.2	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子 白色粒子	還元焙	暗灰	半載作り。凹面撫で整形。凸面赤色顔料塗布。側面取り2回。端面取り1回。	吉井系
34-3 106	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	還元焙	灰	半載作り。側面取り3回。端面取り3回。	笠懸系か
34-4 106	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.3	白色粒子	還元焙	灰	桶巻き造りか。凹面横骨痕有。粘土板割ぎ取り痕。側面取り2回。端面取り2回。	笠懸系
35-1 106	瓦 女瓦	カマド右 袖 ほぼ完形	長 41.7 広 26.8 幅 27.0	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	酸化焙	浅黄橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鈍叩き後撫で整形。側面取り3回。端面取り2回。	吉井系
35-2 106	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.5	黒色粒子	還元焙	灰白	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面縦横撫で・横叩き後撫で整形。側面取り3回。端面取り2回。	杖間系
35-3 106	瓦 女瓦	覆上下層 破片	厚 1.6	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焙	鈍橙	桶巻き造り。凹面布合せ目・横骨痕・布目擦り消し有。凸面縦横撫で。側面取り2回。端面取り2回。	笠懸系
35-4 106	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焙	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面自然粘付着。側面取り3回。	東野系

C区第12号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目(㎝)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
36-1 106	須恵 器 環	覆上下層 破片	口(13.1) 底(6.6) 高 3.6	黒色粒子	還元焙	灰白	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	杖間系
36-2 106	須恵 器 環	カマド右 袖 破片	口 — 底 6.5 高 —	透明鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焙	灰白	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	杖間系
36-3 106	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焙	灰白	半載作り。凸面縦横撫で。側面取り3回。	杖間系

遺物一覧表

探出番号 図版番号	種別 種類	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
36-4 106	瓦 男瓦	カマド石 袖 破片	厚 1.3	黒色粒子 シルト粒	還元焰	灰白	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面輪轆 横撫で。側面面取り1回。	秋岡系
37-1 106	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
37-2 107	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位 の撫で整形。側面面取り3回、端部面取り3 回。	吉井系

C区第13号住居跡

探出番号 図版番号	種別 種類	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
39-1 107	須恵器 壺	床直層 破片	口 15.0 底 7.3 高 5.6	白色微粒子 微粒状雲母	還元焰	白灰	輪轆成形(右回転)。付高台。内・外面磨りが 認められる。	藤岡系
39-2	鉄器 釘	床直層 破片	重 (1.2) 厚 4.5	—	—	—	鍛えは普通。	
39-3	鉄器 釘	床直層 破片	重 (1.7) 厚 4.5	—	—	—	鍛えは普通。	
39-4 107	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面不定方向の撫で整形。凸面端 叩き(密)後撫で整形。側面面取り1回。	吉井系
39-5 107 瓦-157	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。刻印文字瓦「子」(凹面)。	笠懸系
39-6 107	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面布合わせ目痕有。凸面輪轆横 撫で。側面面取り4回。	吉井系

C区第14号住居跡

探出番号 図版番号	種別 種類	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
40-1 107	土師質土 器	覆土内 完形	口 8.9 底 4.5 高 1.9	赤色粒子 黒色粒子 微粒状雲母	酸化焰	淡黄橙	輪轆成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
40-2 107	土師質土 器	床直層 多残存 塊	口 15.0 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	輪轆成形(右回転)。高台欠損。	
41-1 107	土師器 土釜	床直層 破片	口 30.2 底 — 高 —	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は短かく直立する。紐作り後履撫で整 形。	
41-2 107	須恵器 又耳壺	覆土内 破片	最大径 29.0	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後輪轆整形(右回転)。取手は貼り付け。	
41-3 107	羽釜	覆土内 破片	口 (16.8) 底 18.4 高 17.0	白色鉱物粒子 半透明鉱物粒 子 赤色粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は内湾する。紐作り後撫で整形(右 回転)。脚は貼り付け、胴部下半・底部は荒撫で。 吉井型別産。	吉井系
41-4 107	施釉陶器 灰釉碗	覆土内 破片	口 — 底 (7.6) 高 —	密	良好	灰白	輪轆成形(右回転)。付高台。	
41-5 107	雑器 不詳	床直層 破片	長 12.9 幅 4.5 重 397.5	文象斑岩	—	—	先端に敲打痕有。	
41-6 107	雑器 不詳	覆土内 完存	長 8.2 幅 7.2 重 377.8	かこう岩	—	—	先端部に敲打痕有。上面磨滅している。	
41-7 107	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面平行叩き。側面面取り2回。	秋岡系
42-1 107 瓦-158	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.7	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。荒撫で文字瓦判読不能(凸面)。	乗船系

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
42-2 107	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面輪轆横撫で。側面面取り2回。	秋間系
42-3 107	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面輪叩き(密)・磨砂痕有。側面面取り2回。	秋間系
42-4 107	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子	酸化焰	暗橙	柄巻き造り。凹面横骨痕・粘土板刺ぎ取り痕有。凸面輪叩き(密)後撫で整形。輪轆横撫で。粘土板接合痕はS。側面面取り2回。	栗附系
42-5 107	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作りか。凹面寄木尻。側面面取り3回、端部面取り5回。	吉井系

C区第15号住居跡

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
43-1 107	土師質土 器 坏	床直層 破片	口 一 底 4.7 高 一	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内面底部に有機質附着。	
43-2 107	土師器 土 釜	カマド内 破片	口 24.4 最大幅 26.0	白色鉱物粒子 黒色粒子 デイスait	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	
44-1 107	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。内・外面撫で整形。	栗附系
44-2 107	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色粒子 シルト	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背指文)。内面磨滅。	栗附系
44-3 107	須恵器 壺	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は背指文)。	栗附系
44-4 107	雑器 不詳	覆土内 完存	長 14.0 幅 10.1 重 754.4	砂岩	—	—	顯著な使用痕は認められない。	
44-5 108	鉄器 不詳	床直層 完存	一辺 3.3 重 (9.5)	—	—	—	環状鉄製品。断面正方形。磨きは普通。	
44-6 108	鉄器 不詳	床直層 破片	一辺 2.4 重 (2.3)	—	—	—	釘か鉄等の茎と思われる。	
44-7 108	男瓦	覆土内 細片	厚 0.8	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	鈍橙	半載作り。凸面輪轆横撫で。側面面取り2回。	栗附系
44-8 108	男瓦	覆土内 細片	厚 1.1	白色微粒子 雲母	還元焰	暗灰	半載作り。凸面輪轆横撫で。側面面取り2回。	笠懸系
44-9 108	男瓦	覆土内 細片	厚 0.9	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	半載作り。凸面輪轆横撫で。端部面取り1回。	栗附系
44-10 108	男瓦	覆土内 破片	厚 1.2	黒色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り。凸面輪轆横撫で。側面面取り4回。	栗附系
44-11 108	男瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子 白色鉱物粒子 雲母	酸化焰	鈍黄橙	半載作り。凸面平行叩き。	笠懸系
45-1 108	女瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色粒子 半透明鉱物粒 子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	柄巻き造り。凹面横骨痕・粘土板刺ぎ取り痕有。凸面布目撫で消し・輪叩き(密)後撫で整形。側面面取り3回。	笠懸系
45-2 108	女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	黒灰	一枚作り。凸面平行叩き。側面面取り3回。端部面取り2回。	吉井系
45-3 108	女瓦	覆土内 細片	厚 1.6	白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面不整形格子叩き。	栗附系
45-4 108	女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 半透明鉱物粒 子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。端部面取り2回。	吉井系
45-5 108	女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面取位の撫で整形。	吉井系

遺物一覧表

C区第16号住居跡

陣岡番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
46-1 108	須恵器 坏	カマド・ 掘り方内 破片	口 (12.4) 底 (5.8) 高 4.2	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。底部は回転余切り。	
46-2 108	土師質土 器	覆土下層 破片	口 (13.8) 底 (6.0) 高 (3.7)	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
46-3 108	施釉陶器 灰釉 碗	覆土下層 破片	口 (11.5) 底 — 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。高台欠損。施釉は没損。	
46-4 108	施釉陶器 灰釉 碗	床直層 破片	口 (12.6) 底 (7.8) 高 3.3	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は没損。	
47-1 108	土師器 土釜	床直層 破片	口 — 底 10.4 高 —	黒色粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り後置製で整形。	
47-2 108	須恵器 甕	覆土下層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面瓴具は青陶敷文)。内面磨滅。	兼井系
47-3 108	羽釜	覆土下層 破片	口 (19.1) 底 — 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内挿する。紐作り後轆轤成形 (右回転)。脚は貼り付け。吉井系羽釜。	吉井系
47-4 108	土製円盤	床直層 破片	厚 1.7~2.1	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	紐作り。	吉井系
47-5 108	瓦 玉縁付男瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面轆轤横撫で。玉縁接合はA型。	笠懸系
47-6 108	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	黒色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面鑄印き(密)後撫で整形。側部面取り1回。	秋岡系
47-7 108	瓦 男瓦	カマド右 油 破片	厚 1.1	デイサイト 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙褐	半截作り。粘土板接合痕はZ。凸面鑄位の撫で整形。側部面取り1回。	吉井系か 藤岡系
48-1 108	瓦 男瓦	覆土下層 破片	厚 1.5	黒色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り4回。端部面取り1回。	秋岡系
48-2 108	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鑄印き(密)後撫で整形。	吉井系
48-3 109 瓦-159	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	酸化焰	橙褐	一枚作り。笠懸き文字瓦「十か」(凸面)凸面鑄印き(密)後撫で整形。	吉井系
48-4 109	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鑄印き(密)後撫で整形。	兼井系
48-5 109	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鑄位の撫で整形。側部面取り2回。端部面取り2回。	吉井系
48-6 109	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。凹面粘土板割ぎ取り痕・鑄位の撫で整形。凸面轆轤横撫で。端部面取り2回。	吉井系

C区第17号住居跡

陣岡番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
49-1 109	須恵器 坏	覆土下層 与残存	口 13.3 底 6.8 高 4.3	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転余切り。	吉井系か 藤岡系
49-2 109	須恵器 碗	覆土下層 破片	口 (13.6) 底 — 高 (5.7)	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
49-3 109	須恵器 碗	カマド右 袖 破片	口 — 底 (8.2) 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 目目(8)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
49-4 109	須臾器 壺	カマド右 袖 破片	口 底 高 (7.9)	白色粒子	還元焰	灰	罐織成形(右回転)。付高台。	
49-5 109	土師質土 器	カマド左 袖 ほぼ完形	口 底 高 13.8	微粒雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	罐織成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
50-1 109	土師器 壺	カマド右 袖 破片	口 底 高 (20.0)	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は篋形り、口縁部は横撫で、内面割部は縦撫で。	
50-2 109	須臾器 大壺	カマド右 袖 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	5本1単位の波状文を施す。紐作り後罐織成形(右回転)。	栗附系
51-1 109	施軸陶器 灰輪轆	カマド右 袖 破片	口 底 高 (19.2)	密	良好	灰	罐織成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施軸は刷毛塗。	18号住出土 遺物と 接合
51-2 109	磨不 器評	覆上下層 完形	長 幅 重 9.9 8.5 446.6	粗粒安山岩	—	—	側面に敲打痕有。上面は磨滅している。	
51-3 110	鉄釘	床直層 埋没7×3重	重 (31.8)	—	—	—	鍛えは普通。	
51-4 110	鉄釘	床直層 破片	重 (45.7)	—	—	—	上半は屈曲するが、錆によるものではない。鍛えは普通。	
51-5 109	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	暗灰	手敷作り。凹面布合せ目痕。側面取り1回。端面取り1回。	笠懸系
51-6 110	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	黒色粒子	還元焰	灰白	横巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面縄印(密)後撫で整形。側面取り3回。端面取り3回。	栗附系
51-7 109	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.0	白色微粒子 細粒	中性焰	黄灰	手敷作り。凹面布合せ目痕・縦位の撫で整形。側面取り2回。端面取り2回。	藤岡系か 栗附系
51-8 110 瓦-160	瓦 女瓦	カマド左 袖 片残存	厚 狭 24.2	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。寛帯き文字瓦判読不能(凹面)。凹面布目撫り消し。凸面縄印。側面取り2回。端面取り2回。	笠懸系
52-1 110	瓦 女瓦	カマド内 片残存	厚 2.1	白色微粒子	酸化焰	赤褐	一枚作り。凹面布目撫り消し。凸面斜格子印。側面取り3回。端面取り1回。	笠懸系
52-2 110	瓦 女瓦	覆土下層 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	横巻き造りか。凹面横骨痕。側面取り2回。端面取り2回。	吉井系
52-3 110	瓦 女瓦	覆土下層 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。側面取り3回。端面取り2回。	吉井系

C区第18号住居跡

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 目目(8)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
53-1 110	土師質土 器	カマド右 袖 ほぼ完形	口 底 高 9.6 3.6 2.9	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部は磨滅している。内・外面とも横りが認められる。	
53-2 110	土師質土 器	覆土内 片残存	口 底 高 9.7 4.4 3.1	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙褐	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部は磨滅している。内・外面とも横りが認められる。	
53-3 110	土師質土 器	覆土内 片残存	口 底 高 10.6 5.1 3.3	黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部は磨滅している。内・外面とも横りが認められる。	
53-4 110	土師質土 器	覆土内 破片	口 底 高 (11.2)	白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部は磨滅している。内・外面とも横りが認められる。	

遺物一覧表

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
53-5 110	酒器 壺	覆土内 与残存	□ 底 6.1 高 —	透明鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	
53-6 110	土師質土 壺	覆土内 与残存	□ 12.6 底 — 高 —	微粒状青母 透明鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
53-7 110	土師質土 壺	覆土内 与残存	□ 13.4 底 9.0 高 5.6	黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
53-8 110	酒器 壺	覆土内 与残存	□ 14.2 底 6.8 高 5.9	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	
53-9	酒器 (土師質) 瓶	覆土下層 破片	最大径 25.0	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面ハズレ著。	吉井系
53-10 110	酒器 壺	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青海文)。器内面に黒痕。	乗附系
54-1 111	羽蓋 袖	カマド右 与残存	□ 22.4 底 — 高 —	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形(右回転)。踵は貼り付け。内・外面荒撫で。吉井型羽蓋。	吉井系
54-2 111	羽蓋 袖	覆土内 与残存	□ 24.4 底 — 高 —	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形(右回転)。踵は貼り付け。内・外面荒撫で。	吉井系
54-3 111	石製 乳房状磨 製石器	掘り方内 完存	長 16.0 幅 6.8 厚 3.0 重 659.6	変玄武岩	—	—	成形時の打痕が認められる。刃部側に使用痕と思われる平行条痕有。刃部は始刃。	
54-4 112 瓦-161	瓦	カマド右 破片	厚 2.9	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。寛語き文字瓦「四」(凹面)。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回。	吉井系 秋阿系
54-5 111 瓦-162	瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 黒色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。寛語き文字瓦「子」(凹面)。凸面木目叩き。側面面取り3回。	乗附系か 秋阿系
55-1 111	瓦	カマド右 袖破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。側面面取り3回、端面面取り3回。	吉井系
55-2 112	瓦	覆土下層 破片	厚 1.2	白色微粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凸面網叩き(密)。	秋阿系
55-3 111	瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰褐	平織作り。凹面・横脊成粘土板刺ぎ取り痕有。凸面轆轤横撫で。側面面取り1回、端面面取り3回。	笠懸系
55-4 112	瓦	カマド右 袖破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	幅寄せ造り。凹面横脊成。側面面取り3回、端面面取り2回。	吉井系

C区第19号住居跡

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
56-1 112	土師質土 壺	覆土内 与残存	□ 底 (7.0) 高 —	白色粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	
56-2 112	土師質土 壺	カマド右 袖 与残存	□ 12.6 底 6.9 高 5.2	黒色鉱物粒子 白色粒子 アイサイト	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面明文を施す。	吉井系か 藤阿系
96-3 112	土師質土 壺	掘り方内 与残存	□ 13.6 底 6.7 高 4.5	白色粒子 黒色粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	
57-1 112	土師質土 壺	カマド 与残存	□ 17.2 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	

C区(19・20号住居跡)

棟号 図案番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目(目)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
57-2 112	須恵器 (土師質) 壺	覆土内 瓦残存	口(15.2) 最大径 27.6	白色粒子 シルト粒 白色鉱物粒子	還元焰	灰白 灰褐色	口縁部は外反する。縦作り後横轆成形(右回転)。	
57-3 112	土師蓋 土師蓋 破片	掘り方内	口(23.3)	黒色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰白 灰褐色	口縁部は外反する。縦作り後横轆で整形。	吉井系
57-4 112	羽蓋	覆土内 破片	口 19.2 底 — 高 —	白色粒子	中性焰	灰黄	口縁部は内傾する。縦作り後横轆で整形(右回転)。罫は貼り付け。吉井系羽蓋。	吉井系
57-5 112	羽蓋	覆土内 破片	口(22.1) 底 — 高 —	白色鉱物粒子 赤色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾し、口唇部は直立している。縦作り後横轆で整形(右回転)。罫は貼り付け。吉井系羽蓋。	吉井系
57-6 112	施釉陶器 灰釉碗 破片	覆土内	口(14.9) 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施釉は投擲。内面口縁直下に横轆を施す。	
57-7 112	石製品 砥石 破片	掘り方内	重 135.7	流紋岩(砥沢)	—	—	手持低か置底か判別しない。	
57-8 112	鉄器 カマド内 先端欠損 鏝	カマド内 先端欠損	重(5.3)	—	—	—	鍛え良。広錐三角形錐状複式。根の部分は研ぎ減りが著しく、不明瞭な鋸歯を残す。	
57-9 112	銅 刀飾具 足金物	掘り方内 完形	重(5.3)	—	—	—	鍍通しの部分を欠損する。帯鍍通しとは熱圧着による。断面は台形状を呈し鍍層は顕著である。残存非常に良好。	
57-10 112 瓦-474	瓦 瓦	覆土下層 破片	厚 1.5	白色粒子	還元焰	白灰	瓦当左端辺であるが、細片のみ、瓦当意匠不分明。	秋間系
57-11 112	瓦 玉縁付男 瓦	覆土下層 破片	厚 2.3	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	白灰	半轆造り。凸面鈍叩き(密)。側面取付3回。	秋間系
57-12 112	瓦 瓦	覆土下層 破片	厚 2.6	白色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	桶巻き造り。凹面模骨直・粘土板割り取付・腐蝕位の撫で布。凸面布目撫で消し。粘土板接合直は5。	吉井系
57-13 112	瓦 女瓦	覆土下層 破片	厚 2.4	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面布目撫で消し。側面取付2回。端部取付2回。	笠懸系
58-1 113 瓦-163	瓦 男瓦	カマド内 瓦残存	長 39.4 幅 18.8 厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子 半透明鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。寛幅文字瓦「大山」(凸面)。凹面粘土板割り取付。凸面不定方向の撫で。側面取付4回。端部取付3回。	吉井系
58-2 113	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面・凸面粘土板割り取付。凸面横位の撫で整形。側面取付3回、端部取付3回。	吉井系
58-3 112	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面鈍叩き(密)後撫で整形。端部取付2回。	笠懸系
58-4 113	瓦 女瓦	覆土下層 瓦残存	厚 1.6	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面鈍叩き(密)後撫で整形。側面取付3回、端部取付2回。	吉井系

C区第20号住居跡

棟号 図案番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目(目)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
59-1 113	土師質土 器 坏	床直層 ほぼ完形	口 10.0 底 4.9 高 3.4	黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
59-2 113	土師質土 器 埴	覆土内 瓦残存	口 13.5 底 5.6 高 5.5	白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。外面横りが認められる。	
59-3 113	須恵器 埴	覆土内 破片	口(14.3) 底(7.6) 高(4.5)	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。外面横りが認められる。	
59-4 113	土師質土 器 埴	覆土下層 破片	口(16.3) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。底部・高台欠損。	

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
61-1 113	須志器 壺	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は青銅製文)。	須志系
61-2 113	須志器 壺	覆土内 破片	—	透明鉱物粒子 白色鉱物粒子多	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
61-3 113	須志器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (17.9) 高 —	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は素文)。	
61-4 113	羽蓋	覆土内 破片	口 (18.1) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
61-5 113	羽蓋	覆土内 破片	口 (20.0) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
61-6 114	羽蓋	覆土内 瓦残存	口 (9.0) 底 — 高 —	白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後撫で整形(右回転)。胴部下半・底部は異型。吉井型羽蓋。	吉井系
61-7 113	須志器 壺	覆土内 瓦残存	口 — 底 7.4 高 —	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面磨削。	
61-8	施物陶器 灰輪軸	カマド内 破片	口 (14.9) 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。施物は没損。内面口縁部に横線を施す。	
61-9 113	石製品 碁石か	覆土内 完存	長 2.9 幅 3.4 厚 0.9 重 4.8	石英	—	—	住居内出土の個体小遺物は、龍野宮遺跡にまとも出土している。用途不明である。	
61-10	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (8.7)	—	—	—	両端欠損。全体に薄く断面は長方形状を呈する。	
62-1 114	瓦	覆土下層 破片	厚 1.6	白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面正格子叩き。側面面取り1回。	笠懸系
62-2 114 瓦-164	瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。意匠文字瓦判割不純(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面面取り3回。端面面取り2回。	吉井系
62-3 114	瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.7	白色粒子 白色鉱物粒子 黒色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面鈍叩き(密)後撫で整形。側面面取り3回。	笠懸系
62-4 114	瓦	床直層 破片	厚 1.7	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り。凹面布目撫で消し。凸面轆轤撫で。吉井系側面面取り3回。	吉井系

C区第21号住居跡

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
63-1 114	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.4) 底 — 高 —	白色粒子 赤色粒子	酸化焰	黄	型作り成形。底部・体部は異削り。口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。	
63-2	須志器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 —	—	—	—	轆轤成形(右回転)。内面に磨痕有。	
63-3 114	土師質土 器	床直層 瓦残存	口 (12.2) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰 (二次 焼成)	灰黄	轆轤成形(右回転)。内・外面磨りが認められる。	
63-4 114	須志器 埴	覆土内 破片	口 (13.2) 底 — 高 —	白色粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰褐	轆轤成形(右回転)。高台欠損。	
63-5 114	須志器 埴	覆土内 破片	口 (14.2) 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損。	
63-6 114	須志器 埴	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損。	

探検番号 図番番号	種別 器 器	出土位置 遺存状態	寸目 (cm) 量目 (g)	土 質	焼 成 色 調	器形・技法等の特徴	備 考
64-1 114	須 恵 器 埴	覆土内 瓦残存	口 (14.8) 底 (6.4) 高 5.0	白色粒子 白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	還元焰 灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
64-2 114	土師質土 器 埴	床直層 瓦残存	口 — 底 6.7 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰 黄緑	轆轤成形 (右回転)。付高台。内・外面傾りが認められる。	
64-3 114	土師質土 器 埴	床直層 瓦残存	口 — 底 6.8 高 —	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰 灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
64-4 114	土 師 器 壺	床直層 破片	口 (13.3) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰 橙褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面腹部は寛削り、口縁部は横溝で、内面腹部は寛無で。	
64-5 115	須 恵 器 壺	覆土内 完形	口 15.3 底 10.5 高 28.7	黒色粒子 白色粒子	還元焰 白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	
64-6 114	須 恵 器 壺	覆土内 破片	口 (7.8) 底 — 高 —	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	
64-7 114	須 恵 器 (土師質) 鉢	床直層 破片	口 (21.0) 底 — 高 —	白色粒子 赤色粒子	中性焰 灰黄	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	
64-8 114	羽 蓋 器 鉢	覆土内 破片	口 (30.0) 底 — 高 —	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 鈍青	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。罫は貼り付け。	
64-9 114	須 恵 器 壺	カマド右 袖 破片	口 — 底 (22.0) 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井系
64-10 114	施釉陶器 灰 輪 碗	覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	密	良好 白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
64-11	施釉陶器 灰 輪 皿	覆土内 瓦残存	口 — 底 5.6 高 —	密	良好 白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
64-12 114	施釉陶器 緑 釉 劃花文碗	覆土内 破片	—	密	良好 オリーブ灰	見みに花文を印刷する。器形は大きい。	
64-13 114	羽 口 器 碗	覆土内 破片	長 8.8 幅 5.4 厚 2.1	密	酸化焰 橙	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	
64-14 114	羽 口 器 碗	覆土内 破片	長 4.9 幅 2.0 厚 —	密	酸化焰 橙	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	
65-1 115	礫 器 不 詳	床直層 完存	長 10.2 幅 8.6 重 604.2	粗粒安山岩	— —	中央は磨減している。	
65-2 114	礫 器 不 詳	床直層 ほぼ完存	長 13.1 幅 10.9 重 575.4	粗粒安山岩	— —	中央は磨減している。	
65-3 115	礫 器 不 詳	覆土内 瓦残存	長 — 幅 10.2 重 742.6	粗粒安山岩	— —	中央は磨減している。	
65-4	鉄 器 鐵	床直層 茎先端欠 損	身長 4.0 長 10.6 重 (10.7)	—	— —	狭峰三角形輪状式。根の部分には通有には両丸造りと称するが、刃部の研き出しによる鋼筋が認められる。費被断面は四角形。鍛え普通。	
65-5	鉄 器 刀	床直層 破片	重 (1.9)	—	— —	身幅が薄く、全体に細長である事から使用に伴う研ぎ減りが著しいものと思われる。鍛え普通。	
65-6	鉄 器 鉄 釘 か	床直層 破片	重 (2.5)	—	— —	断面四角形。鍛え普通。	

遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
65-7	鉄器 不詳	床直層 破片	重 (29.7)	—	—	—	断面長方形を呈する。尖端部倒れ残存するが通常の釘とは思われない。鍛え普通。	
65-8	鉄器 不詳	床直層 破片	重 (6.4)	—	—	—	断面四角形。鍛え普通。	
65-9	鉄器 不詳	床直層 破片	重 (5.7)	—	—	—	断面長方形。鍛え普通。	
65-10 115 瓦-475	瓦 宇瓦	カマド右 袖 破片	厚 3.0	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙灰	瓦当は右縁行唐草文。瓦当面の幅は狭い。女瓦部は一枚作り。	吉井・藤岡系
65-11 115	瓦 玉縁付男瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	半載作り。轆轤成形。凹面布合せ目痕有。	吉井・藤岡系
65-12 115	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面轆轤横撫で。側面周取り3回。	吉井・藤岡系
65-13 115	瓦 男瓦	覆土下層 破片	厚 2.3	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	淡褐色	半載作り。凹面布目撫で消し。凸面平行叩き。側面周取り3回。	乗附系
65-14 115	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割き取り状。凸面鑊叩き(密)後撫で整形。側面周取り3回、端部周取り2回。	吉井系
65-15 115	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色粒子	中性焰	灰黄	紐作り。凹面布目撫で消し。凸面平行叩き後撫で整形。側面周取り2回。	吉井系
66-1 115	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色粒子 白色鉱物粒子 雲母	還元焰	灰	柄巻き造り。凹面横骨筋。端部周取り2回。	吉井系
66-2 115 瓦-185	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「義田」(凸面)。凹面布合せ目痕有。端部周取り2回。	笠懸系
66-3 115	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。凹面撫で整形。	吉井系

C区第22号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
67-1 115	土師質土器 罎	覆土内 破片	口 — 底 4.1 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
67-2 115	土師質土器 罎	カマド左 袖 破片	口 (14.0) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子 赤色粒子	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形(右回転)。	
67-3 115	土師質土器 塊か	掘り方内 破片	口 (14.7) 底 — 高 —	黒色粒子 透明鉱物粒子 赤色粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。高台欠損。	
67-4 115	土師質土器 塊か	掘り方内 破片	口 (15.4) 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。高台欠損。内面横りが認められる。	
67-5 115	高輪陶器 灰釉皿	カマド右 袖 瓦残存	口 13.2 底 7.3 高 2.5	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は提供。	
67-6 115	高輪陶器 鉢 刺花文罎	床直層 破片	—	密	良好	オリーブ灰	口縁内側に細い沈線による文様表出。	
67-7 115 瓦-404	瓦 龍瓦	床直層 破片	厚 1.2	白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は推定7葉蓮華文系で山王・秋間系の跡出型の抽象文。	秋間系
67-8 116	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.2	赤褐色粒子 黒色粒子	酸化焰	淡黄橙	半載作り。凸面鑊叩き(密)後撫で整形。側面周取り2回。	秋間系

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
68-1 116 瓦-166	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.7	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。篋描き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の軸で整形。側面面取り2回。凸面自然軸附置。	吉井系
68-2 116 瓦-168	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄褐色	一枚作り。篋描き文字瓦「平か」(凸面)。凸面縦面取り。側面面取り3回。	吉井系
68-3 116 瓦-167	瓦 女瓦	カマド左 袖 写残存	厚 2.9	赤褐色粒子 黒色粒子	酸化焰	黄褐色	一枚作り。篋描き文字瓦「一」(凸面)。側面面取り1回、端部目有。	笠懸系
69-1 115 瓦-169	瓦 女瓦	覆土下層 破片	厚 2.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「葉田」(凸面)。	笠懸系
69-2 116	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子 黒色粒子	酸化焰	浅黄褐色	横巻き造り。凹面横骨痕。凸面縦叩き(密)後無で整形。	吉井系
69-3 116	瓦 女瓦	覆土下層 写残存	厚 2.2	黒色粒子 白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	中性焰	灰黄	横巻き造り。凹面横骨痕。凸面縦叩き(密)。側面面取り3回、端部面取り3回。	兼附系
69-4 116	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.9	白色鉱物粒子 半透明鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	横巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面布目無で消し。	吉井系

C区第23号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
70-1 116	土師質土 器 皿	床直層 破片	口 7.9 底 — 高 1.5	微粒状雲母	酸化焰	浅黄褐色	縦軸成形(右回転)。	
70-2 116	土師質土 器 皿	カマド左 袖 破片	口 8.2 底 5.1 高 1.8	黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄褐色	縦軸成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系か
70-3 116	土師質土 器 皿	床直層 完形	口 9.0 底 4.8 高 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	浅黄褐色	縦軸成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
70-4 116	土師質土 器 埴	カマド左 袖 写残存	口 13.2 底 7.1 高 5.0	白色鉱物粒子 微粒状雲母 透明鉱物粒子	還元焰	浅黄褐色	縦軸成形(右回転)。付高台。	
70-5 116	土師 器 土 釜	カマド左 袖 破片	口 (24.0) 底 — 高 —	白色鉱物粒子 デイスサイト 微粒状雲母	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面側部は段無で、口縁部は横無で、内面側部は段無で。	吉井系
70-6 116	石造品 羽目石	カマド左 袖 破片	重 970.3	二ツ岳軽石	—	—	国分寺宮宇の基壇化粧の羽目石か。	
70-7 116	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	鈍灰	半截作り。凸面縦軸横無で。側面面取り2回、端部面取り2回。粘土板接合痕はZ。	笠懸系
70-8 116	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面縦軸横無で。側面面取り2回。	笠懸系
70-9 117 瓦-170	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「葉田」(凸面)。側面面取り2回。	笠懸系
70-10 117	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.6	白色微粒子 シルト粗粒	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行叩き。側面面取り2回。	兼附系
70-11 117	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の横で整形。側面面取り3回。	吉井系

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (#)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
71-1 117	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面取り り3回。	吉井系
71-2 117	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面縦位の無で整形。	吉井系
71-3 117	瓦 女瓦	覆土下層 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面・凸面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系

C区第24号住居跡

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (#)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
73-1 117	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.1) 底 (7.2) 高 2.9	黒色粒子 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。底部・体部は厚削り、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁に型痕を残す。	
73-2 117	土師質土 器 坏	覆土内 片残存	口 13.4 底 7.4 高 3.4	黒色粒子	中性焰	黄灰	輪轆成形(右回転)。底部は凹転垂切り。	
73-3 117	須恵器 埴 埴	覆土下層 破片	口 (13.5) 底 (7.0) 高 5.1	黒色粒子	還元焰	灰	輪轆成形(右回転)。付高台。	
73-4 117	土師質土 器 埴	覆土下層 片残存	口 16.9 底 8.5 高 6.4	黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	淡黄	輪轆成形(右回転)。付高台。	
73-5 117	須恵器 埴 埴	カマド右 袖 片残存	口 — 底 7.6 高 2.7	黒色粒子 透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	白灰	輪轆成形(右回転)。付高台。	
73-6 117	須恵器 埴 埴	覆土内 片残存	口 — 底 7.8 高 —	微粒状雲母 白色粒子	還元焰	灰	輪轆成形(右回転)。付高台。内・外面ともに 横し処理。	
73-7 117	施軸陶器 灰輪碗	床直層 片残存	口 13.8 底 7.5 高 4.0	密	良好	白灰	輪轆成形(右回転)。付高台。施軸は投拂。	
73-8 117 瓦-405	瓦 雌瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子 半透明鉱物粒 子	良好	淡黄橙	一本作り。瓦当面欠損。	吉井系
73-9 117	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	グイサイト 軽石	還元焰	灰	半截作り。凸面平行叩き。	栗附系
73-10 117	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	還元焰	灰白	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面叩 き(密)後撫で整形。側面取り3回。	栗附系
73-11 118	瓦 男瓦	カマド右 袖 片残存	長 20.8 厚 2.2	白色粒子 微粒状雲母	還元焰	暗黒灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面輪 轆撫で整形。側面取り3回。端面取り2 回。	笠懸系
74-1 117	瓦 男瓦	カマド左 袖 ほぼ完形	長 31.0 幅 16.8 扶輪部 13.0	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	半截作り。凹面布合せ目痕。凸面輪轆撫 で整形。側面取り左4回、右3回。端面取り2 回。	笠懸系
74-2 118	瓦 男瓦	カマド左 袖 ほぼ完形	長 41.5 幅 17.5 厚 1.6	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凸面叩き(密)後撫で整形。側 面取り左3回、右2回。	吉井系
75-1 117	瓦 男瓦	カマド左 袖 ほぼ完形	長 41.2 幅 17.0 扶輪部 16.6	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面叩 き(密)後撫で整形。側面取り3回。端面 取り2回。	吉井系
75-2 119	瓦 女瓦	カマド左 袖 ほぼ完形	長 40.0 広端部 27.0 扶輪部 21.0	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	横巻き造り。凹面横骨痕。凸面輪轆撫 で整形。側面取り2回。端面取り2回。	吉井系か

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
76-1 118	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.2	赤色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙黄	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後施で整形。粘土ブロックの積土がある。	兼附系か 吉井系
76-2 118	瓦 女瓦	破片	厚 2.2	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木板・磨砂痕有。凸面T字状縄叩き・磨砂痕有。	兼附系か 伏見系

C区第25号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
77-1 118	土師質土 器 環	覆土内 破片	口 9.4 底 4.4 高 2.9	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
77-2 118	土師質土 器 環	覆土内 瓦残存	口 12.0 底 6.4 高 3.9	黒色粒子 白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面磨りが認められる。	
78-1 118	須志 器 環	カマド右 袖 完形	口 14.2 底 5.9 高 5.0	白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面磨りが認められる。	
78-2 118	須志 器 環	覆土内 瓦残存	口 14.3 底 6.0 高 5.4	白色粒子 白色鉱物粒子 シルト粒	酸化焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
78-3 118	土師質土 器 塊	カマド右 袖 瓦残存	口 6.0 底 — 高 —	赤色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系か 兼附系
78-4 118	須志 器 大要 破片	カマド右 袖 破片	最大径 41.6	白色鉱物粒子 デイスайт	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤 岡系
78-5 118	須志 器 要 破片	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面均具は素文)。外面自然粘附着。78-6と同一個体	兼附系
78-6 119	須志 器 要 破片	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面均具は素文)。外面は叩き後無で。78-5と同一個体	兼附系
78-7 118	雑 器 不 詳	覆土内 完存	長 11.6 幅 6.0 重 699.9	実質安山岩	—	—	断面三角形状を呈し、平面磨減。	
78-8	鉄 器 不 詳	床直層 破片	幅 0.38 重 (9.9)	—	—	—	旧状は四角形状のものとは推定される。門貫用の金具か。	
78-9	鉄 器 不 詳	床直層 破片	幅 0.42 重 (7.0)	—	—	—	全体に曲がった状態であるが、旧状が曲がったものか。又は廃棄時の所産か。不分明。	
78-10 119	瓦 玉縁付男 瓦 破片	カマド右 袖 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形。凸面轆轤横断で。側面取り2回。接合はA類。	吉井系
78-11 119	瓦 玉縁付男 瓦 破片	覆土内 破片	厚 1.2	白色粒子	酸化焰	浅黄橙	紐作り後轆轤整形。凸面轆轤横断で。接合はA類。	笠懸系
79-1 119	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	赤褐色粒子 黒色粒子 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	桶色き造り。凹面線骨痕。凸面米格子叩き。側面側面取り2回。	笠懸系
79-2 119	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.3	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕、凸面縄叩き(密)。	兼附系

C区第26号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
80-1 119	土師質土 器 環	カマド左 袖 破片	口 10.4 底 4.0 高 3.4	赤色粒子 黒色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	

遺物一覧表

押出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
80-2 119	土師質土器 杯	カマド左袖 写残存	口 (11.0) 底 (4.8) 高 3.2	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄褐色	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。内・外面磨りが認められる。	
80-3 119	土師質土器 杯	掘り方 覆土内 写残存	口 (11.2) 底 (5.4) 高 4.0	赤色粒子 白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	
81-1 119	土師質土器 杯	カマド右袖 写残存	口 (13.3) 底 (7.0) 高 4.2	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄褐色	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。内・外面磨りが認められる。	
81-2 119	土師質土器 杯	カマド右袖 破片	口 (15.6) 底 — 高 —	白色粒子 赤色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄褐色	轆轤成形 (右回転)。	
81-3	土師質土器 鉢	覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄褐色	紐作り後轆轤成形。内面指撫で。外面粗な瓦拵で。	乗附系か
81-4 119	土師質土器 埴	カマド右袖 写残存	口 11.7 底 6.4 高 3.9	黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄褐色	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
81-5	土師質土器 埴	床直層 破片	口 — 底 10.5 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子 黒色粒子	酸化焰	黄褐色	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
81-6 119	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	— — —	— — —	良好	灰	轆轤成形 (右回転)。施釉は不詳。	
81-7 119	須恵器 甕	覆土下層 破片	— — —	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面丸具は青銅製文)。内面磨減。	乗附系
81-8 119	須恵器 甕	覆土内 破片	— — —	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面丸具は板目状)。内面磨減。	乗附系
81-9 119	羽釜 蓋	カマド左袖 破片	口 (20.0) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	赤褐色	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤成形 (右回転)。踵は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
82-1 119	羽釜 蓋	カマド右袖 破片	口 20.1 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤成形 (右回転)。踵は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
82-2 119	羽釜 蓋	カマド右袖 破片	口 21.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	黄褐色	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤成形 (右回転)。踵は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
82-3 120	羽釜 蓋	カマド右袖 破片	口 24.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 赤色粒子	酸化焰	黄褐色	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤成形 (右回転)。踵は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
82-4 120 瓦-171	瓦 瓦	カマド右袖 破片	長 40.2 広 28.0 狭 21.0	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。葺幅き文字瓦 [山か] (凸面)。凹面粘土板刺ぎ取り痕。側面取取り 3回、端部取取り 4回。	吉井系
82-5 120	瓦 瓦	カマド右袖 破片	厚 1.8	白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面模骨文。凸面板目叩き。端部取取り 3回。粘土板接合痕は S。	吉井系
82-6 120	瓦 瓦	床直層 破片	厚 2.7	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	赤褐色	一枚作り。側面取取り 4回。	吉井系
83-1 120 瓦-172	瓦 瓦	カマド右袖 破片	厚 2.2	黒色粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄褐色	一枚作り。葺幅き文字瓦判説不能 (凹面)。凸面縦位の無で整形。	吉井系
83-2 120	瓦 瓦	カマド右袖 破片	厚 1.3	細粒 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。側面取取り 2回。端部取取り 2回。	乗附系 ハゼ有。

C区第28号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
85-1	須恵器 坏	掘り方内 破片	口 (12.4) 底 (6.2) 高 3.8	白色粒子 黒色粒子	還元焰 白灰	縦縞成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
85-2 120	須恵器 坏	掘り方内 瓦残存	口 (13.4) 底 (6.8) 高 4.2	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	還元焰 白灰	縦縞成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面焼し処理。	
85-3 120	須恵器 塊	覆土内 瓦残存	口 (11.8) 底 — 高 (4.2)	黒色粒子 白色粒子	還元焰 灰白	縦縞成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
85-4 120	須恵器 塊	掘り方内 瓦残存	口 13.6 底 (6.6) 高 5.0	赤色粒子 白色微粒子	還元焰 黒灰	縦縞成形(右回転)。付高台。	
85-5 120	土師質土 器 塊	掘り方内 ほぼ完形	口 13.8 底 7.0 高 5.3	白色粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 浅黄橙	縦縞成形(右回転)。付高台。内・外面横りが認められる。	
85-6 121	土師質土 器 塊	カマド内 瓦残存	口 17.9 底 — 高 5.9	白色粒子 黒色粒子	酸化焰 鈍橙	縦縞成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内・外面横りが認められる。	
85-7 121	土師質土 器 塊	覆土内 瓦残存	口 — 底 5.9 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰 浅黄橙	縦縞成形(右回転)。付高台。	
85-8 121	土師器 不詳	覆土内 破片	—	透明鉱物粒子	酸化焰 鈍橙	組作り後縦縞で整形。	月夜野系か 吉井系。
85-9 121	須恵器 (土師質) 器	床直層 破片	最大径 23.2	黒色鉱物粒子	酸化焰 浅黄橙	組作り後縦縞整形(右回転)。内・外面ハゼが多い。	葉附系
85-10 121	須恵器 大 壺	床直層 破片	—	白色微粒子多	酸化焰 褐灰	組作り後縦縞整形(右回転)。内・外面ハゼが多い。	笠懸系か
85-11 121	須恵器 大 壺	床直層 破片	—	白色鉱物粒子 ゼイサイト	酸化焰 黒灰	組作り後縦縞整形(右回転)。内・外面ハゼが多い。	吉井系
86-1 121	須恵器 広口 壺	カマド内 破片	最大径 32.7	白色鉱物粒子 白色粒子	中性焰 灰黄	組作り後縦縞整形(右回転)。胴部下半は擦撫で。	吉井・藤岡系
86-2 121	羽釜	床直層 破片	口 (34.3) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 浅黄橙	口縁部は外傾する。組作り後縦縞整形(右回転)。脚は貼り付け。	
86-3 121	須恵器 壺	覆土内 底部残存	口 — 底 8.1 高 —	白色鉱物粒子	還元焰 黒	組作り後縦縞整形(右回転)。	吉井系
86-4 121	施釉陶器 灰輪 輪花文皿	覆土内 瓦残存	口 16.0 底 7.7 高 4.4	密	良好 白灰	縦縞成形(右回転)。付高台。施釉は設掛。	
86-5 121	須恵器 塊	掘り方内 破片	口 — 底 6.6 高 —	白色粒子	還元焰 白灰	縦縞成形(右回転)。付高台。	
86-6 121	施釉陶器 灰輪 裏	覆土内 高部残存	口 — 底 5.2 高 —	密	良好 白灰	組作り後縦縞整形(右回転)。底部は回転糸切り。	
86-7 121	雜器 不詳	掘り方内 完存	長 8.7 幅 7.7 重 402.8	粗粒安山岩	—	全体に扁平で中央部薄減する。	
86-8	鉄 刀	覆土内 尖先欠損	重子 0.15 重 (8.6)	—	—	棟間は鋭く短かい。刀間は曲線を描く。使用に伴う研ぎ減りが著しい。86-9と同一個体か。	
86-9	鉄 刀	覆土内 尖先欠損	重子 0.16 重 (3.4)	—	—	使用に伴う研ぎ減りが顕著。86-8と同一個体か。	
86-10	鉄 器 不詳	覆土内 破片	重 (3.8)	—	—	断面円形状を呈する。図上上端側は円錐形状に凹んでいる。	

遺物一覧表

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
86-11 121 瓦-406	瓦 鏡瓦	掘り方内 瓦残存	厚 1.8	白色粒子	酸化焰	橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。背面撫で整形。瓦当接合部は平行。	笠懸系
86-12 122	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	半織作り。凸面縦横撫で。	吉井系
86-13 122 瓦-173	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。刻印文字瓦「勢」(凸面)。	笠懸系
86-14 122	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行叩き有。	吉井系
86-15 122	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縦叩き後撫で消し。側面叩き2回。	笠懸系
87-1 122	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色粒子 微粒雲母	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦叩き(帯)。側面叩き3回。	乗附系
87-2 122	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縦位撫で整形。	吉井系

C区第27号住居跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
88-1 122	土師質土 器 環	床直層 完形	口 10.6 底 4.4 高 3.2	白色鉱物粒子 黒色粒子 赤色粒子	酸化焰	黄黄橙	縦縞成形(右回転)。底部は回転未切り。	
88-2 122	羽 差	床直層 破片	口 24.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。組作り後縦縞成形(右回転)。調は貼り付け。吉井型羽差。	吉井系
88-3 122	瓦 女瓦	覆土下層 破片	厚 1.2	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で。側面叩き1回。	吉井系

C区第29号住居跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
89-1 122	土師質土 器 環	床直層 破片	—	微粒雲母 黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は置割り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。内面底部に墨書判読不能有。	
89-2 122	土師質土 器 皿	覆土内 ほぼ完形	口 8.9 底 4.2 高 2.4	赤色粒子 白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄黄橙	縦縞成形(右回転)。底部は回転未切り。	
89-3 122	土師質土 器 皿	覆土内 破片	口 (9.2) 底 (5.6) 高 2.4	赤色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	黄黄橙	縦縞成形(右回転)。底部は回転未切り。	
89-4 122	土師質土 器 皿	床直層 完形	口 10.4 底 6.0 高 1.8	白色粒子 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	橙	縦縞成形(右回転)。底部は回転未切り。	
89-5 122	土師質土 器 皿	カマド左 袖 破片	口 — 底 7.0 高 —	白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	黄黄橙	縦縞成形(右回転)。底部は回転未切り。	吉井系
89-6 122	銀裏面 高環脚部	覆土内 破片	—	黒色粒子 白色粒子	酸化焰	灰	組作り後縦縞成形(右回転)。上位に2条の横線を廻らす。	秋間系
89-7 122	石製品 砥石	覆土内 破片	長 — 幅 7.4 重 214.4	砥沢石	—	—	砥面全体に丸みがある。磨着ではないが使用痕が残る。	
90-1 122	陶器 凹石	床直層 完存	長 10.0 幅 8.8 重 308.9	粗粒安山岩	—	—	両面に凹みを有する。凹内部は磨滅した状況であるが、小単位の敲打痕が認められる。	
90-2 122	女瓦 瓦製砥石	覆土内 瓦残存	長 8.6 幅 3.6 重 69.5	白色微粒子	—	—	女瓦片を転用し砥石として用いる。手持砥。秋間系	秋間系

棟別番号 図版番号	種別 種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
90-3	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (26.1)	—	—	—	全体に湾曲する状態であるが、旧伏をとどめている。図上左上端側に突出部を備え左側部は折り曲げた状態になっている。	
90-4	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (3.9) 一辺 0.25	—	—	—	頭部を欠損する。角釘で先端は鈍角に尖る。	
90-5 122	施釉陶器 緑釉 輪花文銅	覆土内 破片	—	密	良好	オリブ灰	輪縁成形(右回転)。口唇部を指で擠み、輪花を表出する。	
90-6 122	瓦 瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 シルト粒	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割き取り痕。赤色顔料塗彩。凸面隅叩き(密)後輪縁横撫で。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系か 藤岡系
90-7 122	瓦 玉縁付男 瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	平嵌作り後輪縁整形。凸面隅叩き(密)後輪縁横撫で。玉縁接合はA型。	吉井系
90-8 122	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面合わせ目痕。凸面輪縁横撫で。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
90-9 122	瓦 玉縁付男 瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	平嵌作り後輪縁整形。凸面隅叩き後輪縁横撫で。側部面取り3回。玉縁接合はA型。	吉井系
91-1 123 瓦-174	瓦 女 瓦	カマド右 袖 瓦残存	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。貫通き文字瓦「介か」(凸面)。側部面取り3回。端部面取り3回。	吉井系
91-2 123	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	酸化焰	橙褐色	桶巻き造り。凹面筒状のもの。横骨痕有。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
91-3 123	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.0	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	白灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面隅叩き(密)後撫で整形。側部面取り2回。	秋間系
91-4 123	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 3.0	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。側部面取り2回、端部面取り3回。	吉井系
91-5 123	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.9	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面横骨痕・粘土板割き取り痕・凸面輪縁横撫で。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系か 藤岡系
91-6 123	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.4	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板割き取り痕。凸面木目叩き。側部面取り2回。	笠懸系
91-7 122	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	白灰	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割き取り痕。輪縁横撫で。凸面隅叩き(密)。	吉井系

C区第34号住居跡

棟別番号 図版番号	種別 種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
92-1 123	須恵器 環	覆土内 破片	口 (13.2) 底 (7.1) 高 3.8	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	白灰	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
93-1 123	羽釜	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 —	バミス 白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形(右回転)。踵は貼り付け。	月夜野系
93-2 123	施釉陶器 灰釉 輪	覆土内 破片	口 11.4 底 6.0 高 2.1	密	良好	白灰	輪縁成形(右回転)。施釉は段掛。	
93-3 123	鉄器 鏡	床直層 頭部欠損	一辺 0.5 重 (65.3)	—	—	—	93-6 とほぼ同様の形状と思われる。断面基調は正方形。	
93-4 123	鉄器 鏡	床直層 頭部欠損	重 (53.5)	—	—	—	93-6 とほぼ同様の形状と思われる。断面基調は正方形。	
93-5 123	鉄器 鏡	床直層 先端欠損	重 (54.3)	—	—	—	93-6 とほぼ同様の形状と思われる。断面基調は正方形。	

遺物一覧表

検出番号 図面番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
93-6 123	鉄器 鏝	床直層 完存	重 (67.1)	—	—	—	断面正方形で、元来は2ヶ所の歪みがなかったものと思われる。頭部は鏝状のものと思われ。93-3～5は本例と同様な形状である。	
93-7 123	鉄器 刀 破片	床直層	重 (19.4)	—	—	—	鋒及び基灰欠損。横切・刀刃は鋸が使用に伴う研ぎ減りが著しい。	
93-8 123	瓦 男瓦 破片	覆土下層	厚 2.0	赤褐色粒子 白色粒子	還元焰	灰	平截作り。凸面縁縁横断で。玉縁接合はA型。	秋間系
93-9 123	瓦 女瓦 破片	覆土下層	厚 2.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨伏。凸面縁縁横断で。側面面取り2回。端部面取り1回。	秋間系
93-10 123	瓦 瓦 破片	覆土下層	厚 2.5	白色陶粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面書木度・布目割で消し。凸面縁縁面斜格子叩き。端部面取り2回。	笠懸系

C区第37号住居跡

検出番号 図面番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
94-1 124	土器 器 坏	覆土下層 完形	口 11.4 底 — 高 3.6	黒色粒子 黒色陶物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は置削り、口縁内外面は横断で、内面体部・底部は撫で整形。口縁部下に強い外縁を残す。	
94-2 124	土器 器 坏	覆土下層 完形	口 10.5 底 — 高 3.6	白色粒子 透明陶物粒子 黒色陶物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。底部・体部は置削り、口縁内外面は横断で、内面体部・底部は撫で整形。	
94-3 124	土器 器 坏	カマド左 袖 完形	口 10.8 底 — 高 2.9	白色粒子 白色陶物粒子 黒色陶物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は置削り、口縁内外面は横断で、内面体部・底部は撫で整形。	
94-4 124	土器 器 坏	覆土下層 完形	口 11.0 底 — 高 3.6	黒色粒子 黒色陶物粒子 白色陶物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は置削り、口縁内外面は横断で、内面体部・底部は撫で整形。	
94-5 124	土器 器 坏	覆土下層 完形	口 11.1 底 — 高 3.9	黒色粒子 白色粒子 黒色陶物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部に顕著な型腐を残す。口縁部は横断で。	
94-6 124	土器 器 坏	覆土下層 完形	口 11.3 底 — 高 3.8	白色陶物粒子 黒色陶物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は置削り、口縁内外面は横断で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に型腐を残す。	
94-7 124	土器 器 坏	掘り方内 完形	口 11.4 底 — 高 3.7	黒色粒子 燧石質母 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は置削り。口縁部は横断で。	
94-8 124	土器 器 坏	覆土下層 完形	口 11.5 底 — 高 3.8	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。底部・体部は置削り。口縁部は横断で。	
95-1 124	土器 器 坏	覆土下層 完形	口 11.7 底 — 高 3.7	黒色粒子 黒色陶物粒子 透明陶物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は置削り。口縁直下に甘い型腐を残し、口縁部は横断で。	
95-2 124	須恵器 器 坏	覆土下層 完形	口 11.8 底 — 高 3.0	黒色粒子 白色陶粒子	還元焰	灰白	輪廊成形(右回転)。底部は手持ち置削り。	秋間系
95-3 124	土器 器 坏	カマド右 袖 完形	口 11.9 底 — 高 3.8	黒色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は置削り。口縁部は横断で。	
95-4 124	土器 器 坏	覆土下層 完形	口 13.3 底 — 高 4.3	黒色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は置削り整形。口縁部は横断で。口縁直下は型腐を残さず甘い撫でを施す。	
95-5 124	土器 器 坏	覆土下層 完形	口 13.6 底 — 高 4.5	白色粒子 黒色粒子 黒色陶物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は置削り整形。口縁部は横断で。	
95-6 124	土器 器 坏	覆土下層 完形	口 15.1 底 — 高 5.2	黒色粒子 透明陶物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は置削り整形。口縁部は横断で。口縁直下は型腐を残さず甘い撫でを施す。	
95-7 124	土器 器 坏	カマド右 袖 完形	口 15.1 底 — 高 5.4	黒色粒子 黒色陶物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は置削り整形。口縁部は横断で。口縁直下は型腐を残さず甘い撫でを施す。	

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
96-1 124	土師器 坏	覆土下層 完形	口 16.5 底 — 高 6.6	黒色粒子	酸化焰 橙	型作り成形。底部・体部は覆削り整形。口縁部は横撫で。	
96-2 124	須恵器 高坏脚部	覆土下層 完形	—	白色微粒子	還元焰 灰	紐作り後横撫整形(右回転)。	秋間系
96-3 124	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰 白灰	紐作り。可き整形(外面不評・内面兎具は青銅放文) 外面自然釉附着。	秋間系
96-4 124	石造品 紡錘車	覆土下層 完形	長 5.0 幅 5.1 厚 1.2 重 39.5	蛇紋岩	—	全体に扁平で上面は成形時の圓取り回数が見られる。同様に背面の整形時の整形単位が見られる。	

C区第39・41号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
98-1 124	須恵器 坏	床直層 写残存	口 13.4 底 7.0 高 4.0	白色粒子 透明鉱物粒子	還元焰 灰	横撫成形(右回転)。底部は回転未切り。	乗附系か
98-2 124	須恵器 塊	床直層 破片	口 — 底 6.9 高 —	微粒状骨母 白色粒子 赤色粒子	還元焰 灰	横撫成形(右回転)。付高台。	東毛系か
98-3 124	土師質土 器	覆土内 破片	口 8.4 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰 橙	横撫成形(右回転)。	藤間系
98-4 124	須恵器 塊	覆土内 破片	口 13.0 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰 灰白	横撫成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系
98-5 124	土師質土 器	覆土内 破片	口 13.0 底 3.3 高 7.1	白色微粒子 黒色粒子	中性焰 黄灰	横撫成形(右回転)。	秋間系
98-6 124	土師質土 器	床直層 破片	口 14.0 底 — 高 —	黒色粒子 白色微粒子 細砂粒	酸化焰 浅黄橙	横撫成形(右回転)。	吉井系か
98-7 124	土師質土 器	床直層 破片	口 14.0 底 — 高 —	微粒状骨母	中性焰 黄灰	横撫成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤間系
98-8 124	須恵器 塊	床直層 破片	口 14.1 底 — 高 —	白色粒子	中性焰 黄灰	横撫成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系
98-9 124	須恵器 塊	床直層 写残存	口 16.1 底 7.8 高 6.1	白色粒子 黒色粒子	還元焰 灰白	横撫成形(右回転)。付高台。	乗附系か
98-10 124	須恵器 塊	床直層 破片	口 — 底 7.0 高 —	赤褐色粒子 黒色粒子 細砂	酸化焰 明赤濁	横撫成形(右回転)。底部は回転未切り。	吉井・藤間系
98-11 124	羽蓋	床直層 破片	口 35.0 底 — 高 —	小角礫多量	酸化焰 鈍橙	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形(右回転)。罫は貼り付け。胴部は裏の撫で整形。	吉井系
99-1 124	土師器 壺	床直層 破片	口 16.2 底 — 高 —	微粒砂	酸化焰 橙	口縁部は外傾する。紐作り。外面胴部は覆削り。口縁部は横撫で、内面胴部は鋭撫で。	
99-2 124	須恵器 壺	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰 白灰	3本1単位の波状文を施す。紐作り後横撫整形(右回転)。	秋間系
99-3 124	施釉陶器 灰輪瓶	床直層 破片	口 — 底 (10.0) 高 —	密	良好 灰白	紐作り後横撫整形(右回転)。底部は回転未削り。	
99-4 124	鐵器 不詳	床直層 ほぼ完存	幅 5.8 厚 2.3 重 132.4	ひん岩	—	先端敲打による欠損有。	

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	別種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
99-5 124	埴 不	部 評	完存	長 6.6 幅 5.5 重 193.4	粗粒安山岩	—	—	全体に丸味を帯びている。上面の平坦気味な面跡残す。	
99-6	鉄 釘	部 か	床直層 一部欠損	一辺 1.5 重 (29.9)	—	—	—	跡は普通。全体に先細り状で、尖端は若干屈曲する。	
99-7	鉄 刀	部 子	床直層 跡・茎欠	かさね 0.18 重 (5.4)	—	—	—	跡を欠損し、身は全体に使用に伴う研ぎ減りが非常に著しい。関節は緩やかなカーブを描く。	
99-8	鉄 釘	部 か	床直層 頭部欠損	一辺 0.64 重 (14.8)	—	—	—	頭部欠損する。断面四角形を呈する。	
99-9	鉄 片	部 評	床直層 破片	重 (15.4)	—	—	—	全体に不整形で判断できない。	
99-10 125	瓦 男	瓦	覆土内 細片	厚 2.9	白色軟物粒子	酸化焰	橙褐色	手轍作り。	吉井系
99-11 125	瓦 女	瓦	床直層 破片	厚 1.7	白色軟物粒子	酸化焰	黄褐色	一枚作り。凸面調印き(密)後無で整形。扇部面取り3回。	吉井系
99-12 125	瓦 女	瓦	覆土内 細片	厚 1.3	黒色粒子	還元焰	白灰	桶巻き造り。凹面模倣痕。凸面調印き(密)。	栗原系
99-13 125	瓦 女	瓦	覆土内 細片	厚 1.2	白色軟物粒子	中性焰	灰青	一枚作り。凸面木目印き。側面面取り2回。	吉井系
99-14 125	瓦 女	瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色軟物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
99-15 125	瓦 女	瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色軟物粒子	酸化焰	鈍黄褐色	一枚作り。凹面布合せ目痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り2回。	吉井系

C区第42号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	別種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
100-1 125	須 壺	器 坏	床直層 片残存	口 (11.0) 底 (5.2) 高 3.7	赤色粒子 白色軟物粒子	還元焰	白灰	輪軸成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系か
100-2 125	土師 器	カマド 左 袖 坏	カマド左 袖 ほぼ完形	口 12.0 底 5.4 高 3.5	白色粒子	酸化焰	黄褐色	輪軸成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面横し処理。	吉井系か
100-3 125	土師 器	カマド 右 袖 坏	床直層 片残存	口 (14.3) 底 (8.0) 高 6.3	白色微粒子 透明軟物粒子	酸化焰	浅黄褐色	輪軸成形(右回転)。付高台。内・外面横し処理。	吉井系か
100-4 125	土師 器	カマド 左 袖 坏	覆土内 破片	口 — 底 5.1 高 —	黒色粒子 白色粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄褐色	輪軸成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系か
100-5 125	須 壺	器 壺	ビット内 片残存	底 7.6 最大径 12.8	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。付高台。	栗原系か
100-6 125	須 壺	器 瓶	カマド右 袖 破片	最大径 27.6	白色軟物粒子 透明角礫	酸化焰	鈍褐色	紐作り後輪軸整形(右回転)。	栗原系か 笠懸系
101-1 125	羽 蓋	部 破片	ビット内 破片	口 (18.0) 厚 0.8	白色軟物粒子 黒色軟物粒子	酸化焰	浅黄褐色	口縁部は直立する。紐作り後輪軸整形(右回転)。跡は貼り付け。吉井型羽蓋	吉井系
101-2 125	羽 蓋	部 破片	カマド右 袖 破片	口 15.2 厚 0.9	黒色粒子 白色軟物粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄褐色	口縁部は内傾する。紐作り後輪軸整形(右回転)。跡は貼り付け。吉井型羽蓋	吉井系
101-3 125	羽 蓋	部 破片	床直層 破片	口 19.0 厚 0.7	白色軟物粒子 透明軟物粒子	酸化焰	浅黄褐色	口縁部は直立する。紐作り後覆面形整形(右回転)。跡は貼り付け。側部は縦位の瓦削り。	月夜野系
101-4 125	羽 蓋	部 破片	カマド左 袖 破片	口 (20.0) 厚 0.6	白色軟物粒子 透明軟物粒子	酸化焰	浅黄褐色	口縁部は直立する。紐作り後覆面形整形(右回転)。跡は貼り付け。側部は縦位の瓦削り。	月夜野系
101-5 125	羽 蓋	部 破片	カマド右 袖 破片	最大径 23.3	白色軟物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄褐色	紐作り後輪軸整形(右回転)。側部下縦位の瓦削り。	吉井系か

C区(42・43号住居跡)

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
101-6 125	土師器 土釜	カマド右 袖 破片	底 (6.1) 厚0.7~1.5	白色微粒子	中性焙	灰黄	紐作り。外面肩部は縦轆回転、腹周り、器面はささくれている。口縁部は横轆で、内面肩部は縦轆で。	兼附系
101-7 125	施釉陶 灰釉瓶	カマド・ 廻り方内 破片	—	密	良好	灰白	紐作り後縦轆整形(右回転)。体部下平は回転算削り。	
101-8 125	襷 不詳	床直層 瓦残存	幅 10.6 重 299.2	粗粒安山岩	—	—	半分欠損する。上面磨減する。	
101-9 125 瓦-175	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焙	灰白	手轆作り。寛幅き文字瓦「真」(凹面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕有。側面面取り3回。	兼附系
102-1 126	瓦 女瓦	カマド・ 廻り方内 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焙	浅黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り1回、端部面取り3回。	吉井系
102-2 126	瓦 女瓦	カマド・ 廻り方内 破片	厚 2.1	白色微粒子 ダイヤサイト	酸化焙	橙	桶巻き造り。凹面横骨状。凸面叩き(密)後撫で整形。側面面取り3回、端部面取り1回。	吉井系
102-3 126	瓦 女瓦	カマド・ 廻り方内 破片	厚 2.1	白色微粒子 ダイヤサイト	中性焙	黄灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面叩き(密)後撫で整形。側面面取り3回、端部面取り3回。	吉井系
102-4 126	瓦 女瓦	カマド・ 廻り方内 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焙	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	笠懸系

C区第43号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
103-1 126	須志 土環	覆土内 破片	口 — 底 7.0 高 —	白色微粒子 白色微粒子	還元焙	灰	縦轆成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系か
103-2 126	須志 土環	カマド・ 覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 —	黒色微粒子	還元焙	褐灰	縦轆成形(右回転)。	吉井系か
103-3 126	瓦製円盤	カマド右 袖 完形	径 4.4 幅 5.2 厚 0.7	黒色微粒子	酸化焙	褐灰	凸面平行叩き。	秋間系
103-4 126	鉄 不詳	床直層 一部欠損	重 (23.4)	—	—	—	履又式。鋒は短かく、刃部は内側のみに認められる。研ぎ減りにより鋒が短くなったものとみられる。	
103-5 126	鉄 不詳	床直層 破片	重 (9.1)	—	—	—	断面正方形で細長い。利器のまきか。	
103-6 126 瓦-176	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.5	白色微粒子 白色微粒子	還元焙	灰	一枚作り。寛幅き文字瓦判読不能(凸面)。側面面取り4回、端部面取り2回。	吉井系
103-7 126	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.8	白色微粒子 白色微粒子	酸化焙	鈍黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜格子叩き。端部面取り3回。	笠懸系
104-1 126	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.7	白色微粒子	酸化焙	黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・縦位の撫で整形。凸面叩き(密)後縦位の撫で整形。側面面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
104-2 126	瓦 女瓦	カマド内 瓦残存	厚 3.0	夾雑物少量 ダイヤサイト 白色微粒子	酸化焙	浅黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面端部は縦位の縦削り。側面面取り4回、端部面取り2回。	兼附系

遺物一覧表

C区第44号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
105-1 126	須志器 環	カマド内 覆土内	口 (15.0) 底 — 高 —	微粒雲母 白色粒子	還元焰	灰白	輪轆成形 (右回転)。内面磨で整形。	藤岡系
105-2 126	瓦 男瓦	カマド・ 覆土内 破片	厚 1.3	デイスait 白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面順叩き(密)後磨で整形。側面 面取り3回。	吉井系
105-3 127	瓦 女瓦	カマド右 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 小角礫	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造りか。凸面磨骨痕。端面面取り1回。	吉井系

C区第45号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
106-1 127	土師質土 壺 皿	床直層 完形	口 7.8 底 3.7 高 1.9	赤色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	輪轆成形 (右回転)。底部は回転未切り。	
106-2 127	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 5.1 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	輪轆成形 (右回転)。底部は回転未切り。外面 磨りが認められる。	
106-3 127	土師質土 器 埴	床直層 破片	—	黒色粒子 白色粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	輪轆成形 (右回転)。付高台。	

C区第46号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
107-1 127	須志器 埴	掘り方内 破片	口 — 底 (6.5) 高 —	白色粒子 微粒状雲母	還元焰	灰白	輪轆成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
107-2 127	須志器 埴	床直層 互残存	口 15.3 底 8.9 高 5.8	白色粒子	還元焰	灰白	輪轆成形 (右回転)。付高台。	秋岡系
107-3 127	須志器 埴	カマド内 互残存	口 16.1 底 9.3 高 5.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	輪轆成形 (右回転)。付高台。	秋岡系
108-1 127	土師器 壺	カマド・ 掘り方内 破片	口 (14.6) 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、 口縁部は横撫で、内面割部は磨撫で。	藤岡系
108-2 127	土師器 壺	床直層 破片	口 (14.4) 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は寛削り、 口縁部は横撫で、内面割部は磨撫で。	藤岡系
108-3 127	土師器 壺	床直層 破片	口 (21.3) 底 — 高 —	白色粒子 白色粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、 口縁部は横撫で、内面割部は磨撫で。	藤岡系
108-4 127	須志器 皿	覆土内 互残存	口 13.9 底 8.4 高 2.7	黒色粒子	還元焰	灰白	輪轆成形 (右回転)。付高台。	秋岡系
108-5 127	雑器 不詳	床直層 完形	長 13.5 幅 9.2 重 385.3	二ツ岳軽石	—	—	全体に敲打に判り刻痕が顕著である。	
108-6 127	雑器 不詳	カマド左 袖 互残存	幅 4.8 重 152.8	石英閃緑岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	
108-7 127	鉄器 紡輪車	床直層 一部欠損	重 (30.7)	—	—	—	軸部の先端を欠損する。	

縄文番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
108-8 127	鉄 瓦	覆土内 一部欠損	重 (7.5)	—	—	—	刀身の中位部を欠損する。蓋は調査時段階で欠損している。刃端は不明瞭で縁面はしっかりしている。	
108-9 127	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.0	黒色粘土	酸化焰	浅黄橙	手載作り。凸面正格子叩き。側面面取り2回、端面面取り1回。	兼附系か 秋間系
108-10 127	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	手載作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り1回、端面面取り1回。	吉井系
109-1 127	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	一枚作り。凹面撫で整形。側面面取り3回、端面面取り3回。	吉井系
109-2 127	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	黒色粘土	還元焰	灰	一枚作り。凹面右目撫で消し後不定方向の撫で整形。端面面取り1回。	兼附系

C区第47号住居跡

縄文番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
110-1 128	須恵 壺	口 カマド 掘り方内 破片	口 — 底 8.0 高 —	黒色粘土	還元焰	灰	罐罐成形(右回転)。付高台。	秋間系

C区第48号住居跡

縄文番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
111-1 128	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (5.0) 高 —	黒色鉱物粒子 白色粘土 微粒状炭母	酸化焰	浅黄橙	罐罐成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
111-2 128	須恵器 壺	覆土内 %残存	口 14.3 底 6.4 高 5.1	白色粘土 白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	罐罐成形(右回転)。付高台。	藤岡系
111-3 128	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (17.2) 底 — 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 微粒状炭母	還元焰	灰	罐罐成形(右回転)。	吉井・藤岡系
111-4 128	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 6.6 高 —	シルト質 白色粘土	還元焰	灰	紐作り後罐罐整形(右回転)。	藤岡系か
111-5 128	羽 蓋	覆土内 破片	口 — 底 (11.0) 高 —	白色鉱物粒子 白色粘土 透明鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後罐罐整形(右回転)。内面横し処理。	
111-6 128	施軸陶器 灰軸轆	覆土内 破片	口 12.4 底 — 高 —	密	良好	灰白	罐罐成形(右回転)。(付高台)。施軸は脱け。	
111-7 128	施軸陶器 灰軸轆	覆土内 破片	口 — 底 7.0 高 —	密	良好	灰白	罐罐成形(右回転)。付高台。	
111-8 128	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	良好	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り2回、端面面取り2回。	吉井系
111-9 128	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	良好	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面鈍叩き(密)後撫で整形。	吉井系か 藤岡系
111-10 128	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面罐罐横撫で。側面面取り2回。	吉井系
111-11 128	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.0	黒色粘土 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面平行叩き。	兼附系
111-12 128	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.6	赤色粘土 白色粘土	還元焰	灰白	一枚作り。凹面寄木痕。凸面鈍叩き(密)・彫砂肌有。	秋間系
112-1 128	土師器 坏	覆土内 %残存	口 (10.1) 底 — 高 2.7	微粒状炭母 白色粘土	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は直削り。口縁及び器内面は横撫で。内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い彫痕を残す。	藤岡系
112-2 128	土師器 坏	床直層 %残存	口 (10.6) 底 — 高 2.6	微粒状炭母 白色粘土	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は直削り。口縁内外面は横撫で。内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に横を有する。	藤岡系

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	数量 (個)	土質	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考
112-3 128	土師器 環	掘り方 覆土内 瓦残存	口 (10.5) 底 — 高 3.3	白色粒子 黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焙 橙	型作り成形。底部・体部は罫削り、口縁内面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
112-4 128	土師器 環	カマド左 袖 破片	口 (10.9) 底 — 高 2.7	—	酸化焙 橙	型作り成形。底部・体部は罫削り、口縁内面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に型膚を有する。	吉井系 藤岡系
112-5 128	土師器 環	カマド左 袖 破片	口 (11.1) 底 — 高 (3.1)	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙 橙	型作り成形。底部は罫削り、体部は横撫で、口縁直下に型膚を残す。	藤岡系か 太田系
112-6 128	土師器 環	床直層 完形	口 11.3 底 — 高 3.9	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙 橙	型作り成形。底部・体部は罫削り整形。口縁部及び内面は横撫で、口縁直下に型膚を残す。	藤岡系
112-7 128	土師器 環	床直層 完形	口 (12.2) 底 — 高 2.6	白色粒子	酸化焙 橙	型作り成形。底部・体部は罫削り整形。口縁部及び内面は横撫で、口縁直下に型膚を残す。	藤岡系か 太田系
112-8 128	土師器 環	床直層 完形	口 (13.0) 底 — 高 —	白色粒子 デイスイト	酸化焙 橙	型作り成形。底部・体部は罫削り整形。口縁部及び内面は横撫で。	藤岡系
112-9 128	土師器 環	床直層 完形	口 16.4 底 — 高 4.6	白色微粒子 褐色粒子	酸化焙 橙	型作り成形。底部・体部は罫削り整形。口縁部及び内面は横撫で。	藤岡系か 太田系
112-10 128	土師器 環	床直層 完形	口 (15.8) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焙 橙	型作り成形。底部・体部は罫削り整形。口縁部及び内面は横撫で。	藤岡系
112-11 128	土師器 壺	床直層 完形	口 (15.8) 底 — 高 —	白色鉱物粒子	酸化焙 橙	口縁部は外反する。体部・底部は罫削り、口縁部・器内面は横撫で。	
112-12 129	土師器 壺	床直層 瓦残存 最大径	口 21.4 底 — 高 17.7	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙 橙	口縁部は外反する。紐作り。外面側部は罫削り、口縁部は横撫で、内面側部は横撫で。	吉井系
112-13 128	須恵器 蓋	床直層 一部欠損	口 (8.0) 底 — 高 2.6	白色粒子	還元焙 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。受部は折り返し。	秋間系
112-14 128	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (10.5) 底 — 高 —	白色微粒子	還元焙 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。受部は折り返し。	秋間系
112-15 128	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 12.0 底 — 高 —	白色粒子 白色微粒子	還元焙 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。	秋間系
113-1 128	須恵器 蓋	床直層 破片	口 (23.1) 底 — 高 —	白色微粒子	還元焙 白灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。天井部は回転掻き目。	秋間系
113-2 128	須恵器 壺	床直層 破片	—	ベントナイト 黒色粒子	還元焙 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は背衝波文)。	秋間系
113-3 128	須恵器 壺	床直層 破片	—	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焙 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は背衝波文)。	栗附系
113-4 128	須恵器 壺	床直層 破片	—	白色微粒子多 白色鉱物粒子	還元焙 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は背衝波文)。113-7と同一体	秋間系
113-5 128	須恵器 壺	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焙 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は背衝波文)。	栗附系
113-6 128	須恵器 壺	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焙 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は背衝波文)。	秋間系
113-7 129	須恵器 壺	覆土内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焙 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は背衝波文)。外面自然粘附着。113-4と同一体	秋間系
113-8 129	須恵器 壺	掘り方内 破片	厚 0.9 最大径 (41.0)	白色微粒子	還元焙 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具は背衝波文)。	秋間系

C区第49号住居跡

探訪番号 図版番号	種別 器	出土位置 遺存状態	産目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
114-1 129	土師質土 壺	カマド左 袖 瓦残存	口 12.9 底 — 高 —	白色藍物粒子 黒色粒子	酸化焰	褐色	輪轆成形(右回転)。付高台。内・外面状の 襷りが認められる。	吉井系
114-2 129	土師質土 壺	床直層 瓦残存	口 — 底 6.0 高 —	白色藍物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪轆成形(右回転)。付高台。内・外面襷し地 理。	吉井系
114-3 129	土師質土 壺	覆土内 破片	—	白色藍物粒子	酸化焰	黄褐色	紐作り後輪轆整形(右回転)。	吉井系
115-1 129	須恵器 壺	カマド右 袖 瓦残存	最大径11.4	白色微粒	還元焰	灰	紐作り後輪轆整形(右回転)。ハゼ有。	東刺系
115-2 129	須恵器 壺	床直層 破片	—	白色粒子 シルト質	還元焰	明灰	紐作り。叩き整形(外面假目叩き・内面宛具 は素文)。	秋間系
115-3 129	須恵器 壺	カマド左 袖 破片	厚1.2~3.0 口 42.8	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	口唇部は平坦で口唇直下に尖符を刻す。7 本1単位の波状文を刻す。紐作り後輪轆整 形(右回転)。424-9と同一個体。	秋間系
115-4 129	羽蓋 破片	ピット 破片	口 20.0	白色微粒	中性焰 ~酸化 焰	浅黄褐色	口縁部は内傾する。紐作り後輪轆整形(右回 転)。脚は貼り付け。	吉井系
115-5 129	羽蓋 破片	カマド左 袖 破片	口 (20.9)	黒色藍物粒子 白色粒子	中性焰	黄灰	口縁部は内湾する。紐作り後輪轆整形(右回 転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
115-6 129	羽蓋 破片	カマド右 袖 破片	口 25.0	白色藍物粒子	還元焰	灰	口縁部は直立する。紐作り後輪轆整形(右回 転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
115-7 129	羽蓋 破片	床直層 破片	口 — 底 7.2 高 —	白色藍物粒子	中性焰	黄灰	紐作り後襷で整形(右回転)。外面襷無で、 吉井型羽蓋。	吉井系
115-8 130	磨不 詳	覆土内 完存	長 20.5 幅 5.2 重 404.4	粗粒安山岩	—	—	上面は磨滅している。	
115-9 130	磨不 詳	床直層 完存	長 13.1 幅 5.9 重 614.0	実質安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	
116-1 130	施釉陶器 瓦	床直層 破片	厚 0.7	密	良好	白灰	紐作り後輪轆整形(右回転)。	
116-2 130 瓦-565	瓦	覆土内 瓦残存	厚 0.9	白色藍物粒子	還元焰	灰	単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。背面 襷で整形。493-7(瓦-563)と接合。	吉井・藤 岡系 瓦-407
116-3 130	瓦	床直層 破片	厚 1.0	黒色粒子	中性焰	黄灰	平截作り。凸面不定方向の無で。側面取り 1回。	秋間系
116-4 130 瓦-178	瓦	床直層 破片	厚 2.8	白色藍物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。刻印文字瓦「多」(凸面)。凹面 横骨痕・布合わせ目痕。凸面層位の箇所。側 面取り2回、端面取り2回。	吉井系
116-5 130 瓦-177	瓦	床直層 破片	厚 2.6	白色藍物粒子	還元焰	灰	一枚作りのみ。刻印文字瓦「多」(凸面)。	吉井系
116-6 130 瓦-565	瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.4	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布合せ目痕。側面取り1回、 端面取り1回。116-2(瓦-407)・493-7 (瓦-563)と接合。	秋間系
116-7 130	瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.5	白色藍物粒子 ダイヤ シルト質	酸化焰	橙	桶巻き造りのみ。凹面横骨痕。側面取り2回、 端面取り1回。	吉井系
116-8 130	瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.2	白色藍物粒子 円粒多	酸化焰	浅黄褐色	一枚作り。凸面純叩き後襷で整形。側面取 り2回、端面取り3回。	吉井系

遺物一覧表

C区第50号住居跡

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	釉土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
118-1 130	土師質土器 皿	カマド内 朽残存	口底 (5.0) 高—	黒色鉱物粒子	酸化焰	褐色	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
118-2 130	土師質土器 坪	ビツ内 覆土内 破片	口底 (15.5) 高—	黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系
118-3 130	土師質土器 坪	ビツ内 覆土内 破片	口底 (6.8) 高—	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	乗附系か
118-4 130	須恵器 埴	3層	口底 7.4 高 6.2	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	
118-5 130	土師質土器 埴	ビツ内 覆土内 破片	口底 (8.0) 高—	微粒微雲母	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
118-6 130	須恵器 蓋	覆土内 破片	口底 1.3 9.2 高 1.7	黒色粒子白色 微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転旋削り。胴部は貼り付け。	秋間系
118-7 130	土師土器 土蓋	カマド右 軸 破片	口底 18.0 高—	赤褐色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は荒撫で、口縁部は横撫で、内面胴部は縦撫で。	吉井系か
118-8 130	須恵器 埴	床直層 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面正色子叩き・内面削具は素文)。外面自然釉附着。	秋間系か 東海系
118-9 130	土産 陶	床直層 破片	口底 (24.0) 高—	白色鉱物粒子	酸化焰	—	紐作り後荒撫で整形。底部は磨砂面。6号溝の9-10と同一個体と思われる。	吉井系
118-10 130	雑器 不詳	床直層 完存	長 11.2 幅 10.3 重 965.8	粗粒安山岩	—	—	上面は磨滅している。全体に被熱割れが認められる。	
118-11 131	鉄器 鏝	床直層 一部欠損	重 (750.0)	—	—	—	遺存状態は非常に良い。鍛えは良好とみられる。	
118-12 131	鉄器 鏝	覆土内 一部欠損	重 (7.2)	—	—	—	狭縁三角形脇伏式。鋒部・茎尻は調査後の欠損。鍛えは普通。	
118-13 131	鉄器 不詳	掘り方内 一部欠損	重 (91.0)	—	—	—	鋒部は調査後の欠損であるが、冠高と伏の造りになっている。両端式で茎尻欠損する。武器の鏝鏝と思われる。鍛えは普通。	
118-14 131	鉄器 刀子	覆土内 刀身半分 欠損	重 (13.7)	—	—	—	研ぎ減りが著しい。鍛えは普通。	
118-15 131	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (4.0)	—	—	—	利部の茎が。鍛えは普通。	
118-16 131	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (15.3)	—	—	—	鍛えは普通。	
118-17 131	鉄器 鉄釘か	覆土内 破片	重 (2.9)	—	—	—	鍛えは普通。	
118-18 131	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (8.0)	—	—	—	鍛えは普通。	
118-19 131	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (0.9)	—	—	—	利部の茎。鍛えは普通。	
118-20 131	鉄器 鉄釘か	覆土内 破片	重 (8.8)	—	—	—	鍛えは普通。	
119-1 131	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子 デイスサイト	酸化焰	橙	半截作り。凹面横撫で整形。	笠懸系
119-2 131	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨板・粘土板割ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。	乗附系
119-3 131	瓦 女瓦	3層 破片	厚 1.8	シルト粒	酸化焰	鈍黄灰	桶巻き造り。凹面・横骨板粘土板割ぎ取り痕有。凹面自然釉附着。凸面縄叩き。	乗附系

C区 (50・51・53号住居跡)

探跡番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
119-4 132	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で 消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
119-5 131	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.5	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。側部面取り2 回、端部面取り2回。	笠懸系
119-6 132	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で 消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕・斜格子叩き。 側部面取り2回、端部面取り1回。	笠懸系
119-7 131	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位 の撫で整形。側部面取り2回。	吉井系
119-8 131	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面錫印き(密) ・磨砂痕有。側部面取り2回。	秋間系

C区第51号住居跡

探跡番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
120-1 132	須恵器 埴	床直層 写残存	口 13.8 底 7.1 高 4.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
120-2 132	須恵器 埴	床直層 写残存	口 14.8 底 7.8 高 3.7	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転傘切り。外面 傾し処理。焼成時重ね焼きの痕下部。	秋間系
120-3 132	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (5.0)	—	—	—	刀部を有すると思われる、小刀乃至大刀子と思 われるが、重ねが薄く、おそらく大刀子と思 われる。	
120-4 132	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.0	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で 消し。凸面錫印き(密)・粘土板剥ぎ取り痕。 側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
120-5 132	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色粒子 透明鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
120-6 132	瓦 女瓦	カマド・ 覆土内 破片	厚 3.0	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・自然釉多 量附着。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
120-7 132	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.8	白色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面寄水痕。凸面錫印き後撫で整 形。側部面取り4回後撫で整形。	秋間系
121-1 132	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.3	白色粒子 シルト粒	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目撫で 消し。凸面磨砂痕・縦位の撫で整形。側部面 取り2回、端部面取り2回。側部布目痕有。	栗附系
121-2 132	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	柄巻き造り。凹面横脊痕。凸面轆轤成形で。 側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系

C区第53号住居跡

探跡番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
122-1 132	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 8.6 高 —	白色鉱物粒子 デイスait 微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
122-2 132	須恵器 埴	覆土内 破片	口 23.2 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。器作り後轆轤整形(右回 転)。口唇部下端は粘土板張り付け。	栗附系
122-3 132	鉄器 刀	覆土内 破片	重 (21.9)	—	—	—	重ねが比較的厚い。	

遺物一覧表

棟号番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
123-1 132	器種不明	覆土内 破片	—	微粒状雲母	還元焰	白灰	全体に布目が認められる。断面では渣の口縁と 思われるものがあり、それに粘土を附加し ている。布目は非常に細かい。	藤岡系
123-2 132	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面鑄印キ(密)後継り整形。	栗附系
123-3 132	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目織で消し。凸面鑄印キ後 継り位の産物で、側部面取り2回。漆喰痕有。	笠懸系
123-4 132 瓦-179	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面織で整形。凸面継り位の産物で、	吉井系

C区第54号住居跡

棟号番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
124-1 133	土師質土 器	床直層 片残存	口 (13.7) 底 (7.1) 高 6.0	黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	輪縁成形(右回転)。付高台。	吉井系
124-2 133	黒色土器 埴	貯蔵穴 破片	口 (15.1) 底 — 高 —	白色微粒子 雲母粒	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。内・外面織し処理。	
124-3 133	須恵器 埴	床直層 片残存	口 (16.0) 底 (9.0) 高 5.8	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。付高台。	秋間系か 栗附系
124-4 133	土師質土 器 香炉	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (7.0)	微粒状雲母 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	輪縁成形(左回転)。底部は回転糸切り。側部 は貼り付け。	15世紀後 半から16 世紀前半
124-5 133	土師器 壺	カマド内 破片	口 (16.6) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	褐色	「コ」の字状口縁。紐作り。外面側部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面側部は篋撫で。	
124-6 133	土師器 壺	カマド内 破片	口 (17.4) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	褐色	「コ」の字状口縁。紐作り。外面側部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面側部は篋撫で。	
125-1 133	土師器 壺	床直層 片残存	口 18.8 底 3.3 高 25.8	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面側部は篋削 り、口縁部は横撫で、内面側部は篋撫で。	
125-2 133	須恵器 埴	覆土内 破片	頸 (14.0)	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後輪縁整形(右回転)。外部叩きは平行 叩き、内面は手による短叩き。輪縁再整形。	秋間系
125-3 133	鎌不 評	貯蔵穴 完存	長 25.0 幅 20.6 重 5700	粗粒安山岩	—	—	先端部に割離痕が認められる。上面は全体に 磨減し、中央部は特に顕著である。	
125-4 133 瓦-180	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.2	白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面布合せ目織。凸面輪縁横撫で。 側部面取り1回、端部面取り1回。	笠懸系
125-5 133	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	半截作り。寛播き文字瓦「本カ」(凸面)。側 部面取り3回。端部は篋撫で。	吉井・藤 岡系
125-6 133	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面継り位の産物で整形。側部面取 り3回。	吉井系
126-1 134	瓦 玉縁付男 瓦	貯蔵穴 完形	狭 12.1 広 18.2 長 40.6	白色鉱物粒子 デイヤイト	還元焰	灰	半截作り。輪縁整形。凸面鑄印キ(密)後継り 横撫で。側部面取り2回。	吉井系
126-2 133	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子	還元焰	鈍灰	半截作り。凸面継り位の産物で整形。側部面取 り2回、端部面取り1回。	栗附系
126-3 134	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凸面平行叩き。側部面取り3回。	栗附系

探訪番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	軸土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
126-4 134	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.5	小角礫 デイスait	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造り。凹面横骨痕粘土板割ぎ取り痕有。 凸面鑄叩き(密)。側部面取り3回。端面面取 り3回。128-1・128-2と同一個体。	栗附系
127-1 134 瓦-181	瓦 女瓦	貯蔵穴 ほぼ完形	広 28.5 狭 41.6 厚 2.5	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。底端文字瓦「エ」(凸面)。凸面 縦位の推で整形。側部面取り2回。端面面取 り2回。126-4・128-2と同一個体。	栗附系
127-2 134	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.8	黒色粒子 白色粒子 雲母	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面横骨痕粘土板割ぎ取り痕有。 凸面鑄叩き(密)。側部面取り2回。端面面取 り3回。	栗附系
127-3 134	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.5	黒色粒子多 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。粘土板接合痕はS。	栗附系
127-4 135	瓦 女瓦	貯蔵穴 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面鑄叩き(密)。 側部面取り3回。	藤岡系
127-5 134	瓦 女瓦	貯蔵穴 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面鑄叩き(密)後縦位の推で整形。	吉井・藤岡系
128-1 134	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 微粒状雲母	中性焰	灰黄	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面鑄叩き(密)後 鑄叩き(密)。側部面取り4回。	藤岡系
128-2 134	瓦 女瓦	貯蔵穴 破片	厚 1.6	小角礫 デイスait	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面鑄叩き(密)後 側部面取り4回。126-4・127-1と同一個体。	栗附系

C区第55号住居跡

探訪番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	軸土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
130-1 135	須恵器 坏	カマド・ 埋土内 瓦残存	口 12.0 底 6.7 高 3.5	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	罐體成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
130-2 135	須恵器 坏	覆土内 破片	口(12.1) 底(6.7) 高 3.7	白色微粒子	還元焰	灰	罐體成形(右回転)。	秋間系
130-3 135	須恵器 坏	床直層 瓦残存	口 12.3 底 6.9 高 3.8	黒色粒子	還元焰	灰白	罐體成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
130-4 135	須恵器 坏	床直層 瓦残存	口 12.3 底 7.3 高 3.8	黒色粒子	還元焰	灰白	罐體成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
130-5 135	須恵器 坏	覆土内 瓦残存	口 12.4 底 6.3 高 3.1	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	罐體成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
130-6 135	須恵器 坏	床直層 瓦残存	口 12.4 底 6.7 高 3.4	白色微粒子	還元焰	灰白	罐體成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
130-7 135	須恵器 坏	床直層 瓦残存	口 13.1 底 8.5 高 3.6	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	罐體成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
130-8 135	須恵器 坏	覆土内 瓦残存	口(13.2) 底 7.0 高 3.7	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	罐體成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
130-9 135	須恵器 坏	覆土内 破片	口(14.2) 底(7.0) 高 3.5	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	罐體成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
130-10 135	須恵器 残片	床直層 破片	口(16.4) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	罐體成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系

遺物一覧表

博覧番号 図版番号	種別 種類	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
130-11 135	須恵器 埴輪	カマド内 破片	口 (16.5) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	秋田系
130-12 135	須恵器 埴輪	床直層 破片	口 18.6 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	秋田系
130-13 135	須恵器 坏	床直層 破片	口 — 底 5.6 高 —	白色鉱物粒子 微粒状炭母	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転未切り。内面 底部に墨書「野説不能」有。	藤岡系
130-14 135	須恵器 坏	床直層 破片	口 — 底 5.8 高 —	白色鉱物粒子 微粒状炭母	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転未切り。	藤岡系
130-15 135	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色鉱物粒子 微粒状炭母	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転未切り。外面 焼し処理。	秋田系
130-16 135	須恵器 埴輪	覆土内 破片	口 — 底 (8.9) 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系
130-17 135	須恵器 埴輪	床直層 欠残存	口 — 底 6.9 高 —	白色粒子 デイスайト	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
130-18 135	須恵器 埴輪	覆土内 破片	口 — 底 (13.3) 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋田系
130-19 135	須恵器 埴輪	覆土内 破片	口 — 底 (17.5) 高 —	白色鉱物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋田系
131-1 135	須恵器 蓋	覆土内 破片	柄 — 口 14.0 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。 上半部は回転歪削り。受部は折り返し。	秋田系
131-2 135	須恵器 蓋	覆土内 破片	柄 — 口 16.0 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。 上半部は回転歪削り。	秋田系
131-3 135	須恵器 蓋	覆土内 破片	柄 — 口 18.2 高 —	白色微粒子	還元焰	白灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。 上半部は回転歪削り。	秋田系
131-4 135	須恵器 脚	床直層 破片	—	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
131-5 135	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井系
131-6 135	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	暗褐色	紐作り後轆轤整形 (右回転)。 131-7 と同一個体か	乗附系か 藤岡系
131-7 135	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	暗褐色	紐作り後轆轤整形 (右回転)。 131-6 と同一個体か	乗附系か 藤岡系
131-8 135	須恵器 鉢	覆土内 破片	口 — 底 (17.4) 高 —	白色粒子	還元焰	白灰	紐作り。外面平行叩き後、内面は手の捏て目。	秋田系
131-9 135	須恵器 鉢	カマド右 袖 瓦残存	口 29.8 厚 0.9	白色粒子 白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	還元焰	白灰	口縁部は外反し口唇部は直立する。紐作り後 轆轤成形 (右回転)。	乗附系か
131-10 135	須恵器 横瓶	覆土内 破片	厚 0.6~1.2	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き) 後轆轤再 整形。	乗附系
131-11 135	須恵器 大壺	覆土内 破片	厚 0.9	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面瓦具 は平行) 内面磨減気味。	吉井系か 笠懸系
131-12 136	施釉陶器 灰釉碗	床直層 破片	口 — 底 (8.2) 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
131-13 136	漆器 不詳	床直層 破片	長 11.7 幅 10.8 重 976.5	石英閃緑岩	—	—	扁平な面が磨滅している。	

探出番号 図版番号	種別 種類	出土位置 遺存状態	寸法 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
132-1 136	磁器 不詳	床直層 ほぼ完存	厚 9.2 重 287.0	二ツ岳軽石	— —	先端部に胎打による割離痕がある。	
132-2 136	石造品 つか石	床直層 ほぼ完存	幅 5.9 厚 2.3 重 3675.0	粗粒安山岩	— —	二分二等の同基壇化整のものと思われる。	
132-3 136	磁器 磁石	床直層	重 707.4	粗粒安山岩	— —	図上上面には、成形時の胎打痕であると認められる。材質が粗い点から、鉄器等の刃部成形用か。蓋磁。	
132-4 136	鉄器 不詳	床直層 破片	重 (50.8)	—	— —	断面は長方形を呈する。	
132-5 136	鉄器 鉄釘か	床直層 破片	重 (4.1)	—	— —	断面は正方形を呈する。上端部・尖部個は欠損している。	
132-6 136	瓦 遊瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色黏物粒子 多量	還元焰 鈍灰	瓦当面は欠損している。詳細不詳。	吉井系
132-7 136	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.5	白色黏物粒子	還元焰 灰褐色	半軟作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦位の 手撫で。側面面取り1回。	兼附系か 吉井系
133-1 136	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰 橙	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦 叩き(密)。側面面取り2回、端面面取り1回。	吉井系
133-2 136	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色黏物粒子	還元焰 白灰	紐作りか。凹面・凸面縦位の撫で整形。側 面面取り2回。	兼附系
133-3 136	瓦 雌瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.2	白色黏物粒子	酸化焰 鈍橙	瓦当欠損。瓦当意匠は四分寺前建と思われ る。	笠懸系
133-4 136	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色黏物粒子 多量	酸化焰 黄橙	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦 位の撫で整形。側面面取り2回。	兼附系か 吉井系
133-5 137 瓦-182	瓦 女瓦	覆土内 写残存	長 39.2 厚 2.6	白色黏物粒子	還元焰 灰	一枚作り。貫通き文字瓦「大」(凸面)。凹 面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側 面面取り3回。	吉井系
133-6 136	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色黏物粒子	還元焰 灰	横巻き造りか。凹面横骨痕。凸面縦叩き後撫 で整形。	吉井系
133-7 136 瓦-183	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子 白色黏物粒子	中性焰 灰黄	横巻き造りか。貫通き文字瓦判読不能凹面横 骨痕・粘土板刺ぎ取り痕・凸面縦叩き(密)。	藤岡系
134-1 137	瓦 女瓦	カマド左 袖 写残存	狭 23.8 厚 2.1	白色微粒子	酸化焰 か	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面正格 子叩き・粘土板刺ぎ取り痕。側面面取り3回、 端面面取り3回。	笠懸系
134-2 137	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色粒子	還元焰 灰白	横巻き造り。凹面粘土板刺ぎ取り痕・横骨痕 粘土板合わせ目有。凸面縦叩き(密)。側面 面取り1回。	秋岡系
134-3 136	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.6	白色黏物粒子	酸化焰 か	一枚作り。凸面縦叩き(密)後撫で整形。側 面面取り3回、端面面取り3回。	吉井系
134-4 136	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.5	白色黏物粒子	還元焰 灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦 叩き(密)後横軸撫で。側面面取り1回、端 面面取り1回。	吉井系
134-5 137	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 3.1	赤色粒子 白色黏物粒子	酸化焰 橙灰	横巻き造りか。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸 面縦叩き(密)。側面面取り3回、端面面取り3 回。	吉井系

遺物一覧表

C区第56号住居跡

神宮寺 国庫番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 (cm)	土質	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
135-1 137	土師質土 器	床直層 完形	口 8.6 底 5.1 高 1.8	雲母粒 白色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
135-2 137	土師質土 器	床直層 片残存	口 12.2 底 7.1 高 3.9	雲母粒 白色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
135-3 137	施釉陶器 灰釉 輪花皿	仮り上げ 完形	口 14.1 底 7.6 高 2.9	密	良好	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
136-1 137	土師器 土 釜	覆土内 片残存	口 28.6	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外傾する。紐作り、外面割部は寛撫で、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	吉井系
136-2 138	土師器 土 釜	床直層 片残存	口 34.1	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は外傾する。紐作り、外面割部は寛撫で、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	吉井系
136-3 137	雑器 不詳	床直層 片残存	長 — 幅 4.4 重 289.1	デライト	—	—	特別な使用痕は認められない。	
136-4 138	鉄器 釘	覆土内 一部欠損	重 (8.9)	—	—	—	頭部は錆化が著しく、旧状は不明な点がある。	
136-5 137	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (1.8)	—	—	—	基の可能性はある。断面は正方形を呈する。	
136-6 137	鉄器 鉄釘か	カマド内 破片	重 (11.2)	—	—	—	断面は正方形を呈する。	
136-7 138 瓦-477	瓦 字 瓦	床直層 破片	厚 2.6	白色鉱物粒子 シルト粒	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右肩行唐草文。凹面縁部は凹削り。 凸面縁撫で。側面取り4回。	吉井系
136-8 138 瓦-476	瓦 字 瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 3.1	粗粒白色鉱物 粒子多量	還元焰	灰白	瓦当意匠は、左肩行唐草文。凹面・凸面撫で 整形。接合は不詳。	吉井系か 笠懸系
136-9 138	瓦 男 瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	半截作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面隅叩 き(密)。側面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
136-10 138	瓦 男 瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半截作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。側面取 り2回、端部面取り1回。	吉井系
136-11 138	瓦 男 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作りか。凸面轆轤横撫で。側面取り3回。 137-1と同一個体。	秋岡系
137-1 138	瓦 男 瓦	覆土内 片残存	狭幅 12.0 幅 13.6 厚 1.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り。凸面隅叩き後轆轤横撫で。側面取 り1回、端部面取り1回。136-11と同一個 体。	秋岡系
137-2 138	瓦 男 瓦	覆土内 片残存	狭幅 13.6 幅 17.3 厚 2.0	白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凸面隅叩き後轆轤横撫で。側面取 り2回、端部面取り2回。	栗原系か
137-3 138	瓦 女 瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面縁位の寛撫で。凸面縁位・不 定方向の撫で。側面取り2回、端部面取り 1回。	吉井系
137-4 138	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面撫 で整形。側面取り2回、端部面取り3回。	吉井系
137-5 138	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.9	赤褐色粒子 シルト粒	還元焰	灰褐	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕・指撫で・ 摩砂痕有。凸面粘土板刺ぎ取り痕・摩砂痕有。 側面取り1回、端部面取り1回。	秋岡系

C区第57号住居跡

発掘番号 図版番号	種類	出土位置 埋存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
138-1 139	須恵器 皿	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
138-2 139	土師質土 器	カマド右 袖 瓦残存	口 (14.0) 底 (6.8) 高 (6.7)	白色微粒子 赤色粒子	酸化焰	黄褐色	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面は磨減している。外面は二次焼成を受けている。	
138-3 139	土師質土 器	床直層 瓦残存	口 14.5 底 7.5 高 5.8	白色微粒子	酸化焰	鈍黄褐色	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面横りが認められる。	乗附系か
138-4 139	土師質土 器	カマド右 袖 破片	口 — 底 (8.4) 高 —	黒色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面横りが認められる。	
138-5 139	土師質土 器	床直層 破片		黒色微粒子 白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	乗附系か
138-1 139	須恵器 蓋	床直層 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。上半部は回転盤削り。蓋輪は浸掛。	秋間系
138-2 139	須恵器 高 環	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。外面は窪削で。	秋間系
138-3 139	土師質土 器	覆土内 破片	口 30.0 底 — 高 —	白色微粒子 黒色微粒子 透明微粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。口縁部は横撫で、口縁の形状は御美焼に類似している。	吉井・藤岡系
138-4 139	須恵器 甕	覆土内 破片	口 19.0 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り。口縁部は横撫で。	秋間系
138-5 139	須恵器 瓶	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	鈍灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
138-6 139	須恵器 瓶	床直層 破片	底 (19.6)	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	鈍灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
138-7 139	須恵器 壺	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形 (右回転)。内面は磨減している。	秋間系
138-8 139	須恵器 盆	カマド右 袖 破片	口 30.0 底 — 高 —	白色微粒子 デライト	還元焰	明褐 明褐色	紐作り後轆轤整形 (右回転)。胴部下半は縦位の皮削り。吉井型羽釜の類品で鈿を類さない物。	吉井系
138-9 139	施輪陶器 灰輪碗	床直層 破片	口 — 底 (8.2) 高 —	密		良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施輪は浸掛。
138-10 139	施輪陶器 灰輪碗	床直層 破片	口 — 底 (8.5) 高 —	密		良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施輪は浸掛。
138-11 139	雑器 不詳	覆土内 瓦残存	長 — 幅 6.2 重 53.0	石英閃緑岩	—	—	—	平皿面は磨減している。器の裏面は板敷による割傷がある。
138-12 139	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。複雑き文字瓦判読不能 (凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面不定方向の撫で整形。	吉井系
138-13 139	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色微粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。側面取り 2 回、端面取り 2 回。	吉井系
138-14 139	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 0.9	白色微粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。側面取り 2 回。	乗附系
138-15 139	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面鈍叩き・羅紗直・荒撫で整形。側面取り 3 回後撫で。	秋間系
140-1 139	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色粒子 白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面の布目 6cm に 20本でかなり細かい。凸面不定方向の撫で。	吉井系
140-2 139	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で。	笠笠系
140-3 139	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面平行叩き。	吉井系

遺物一覧表

C区第58号住居跡

神田番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	土質	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
142-1 139	須恵器 坏	カマド右 袖 瓦残存	口 13.2 底 5.9 高 3.9	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	白灰	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
142-2 139	須恵器 坏	カマド左 袖 完整	口 13.6 底 6.8 高 3.9	黒色鉱物粒子	還元焰	白灰	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か 栗附系
142-3 140	須恵器 埴	覆土内 瓦残存	口 14.3 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	白灰	輪縁成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
142-4 140	土師質土 器 埴	床直層 瓦残存	口 (14.4) 底 (7.4) 高 5.3	微粒雲母 透明鉱物粒子 黒色粒子	中性焰	黄灰	輪縁成形(右回転)。付高台。	藤岡系
142-5 140	須恵器 埴	床直層 瓦残存	口 14.6 底 6.5 高 5.5	白色微粒子 ダイヤモンド 透明鉱物粒子	還元焰 (中性焰 気味)	白灰	輪縁成形(右回転)。付高台。	藤岡系
142-6 140	須恵器 埴	掘り方内 瓦残存	口 15.4 底 7.1 高 5.5	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	白灰	輪縁成形(右回転)。付高台。	栗附系か
142-7 140	須恵器 埴	カマド 掘り方内 瓦残存	口 (15.9) 底 (7.6) 高 5.1	白色微粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	鈍黄灰	輪縁成形(右回転)。付高台。	栗附系か 藤岡系
142-8 140	土師質土 器 埴	カマド右 袖 破片	口 (16.0) 底 — 高 —	白色微粒子	中性焰	灰白	輪縁成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系か
142-9 140	須恵器 埴	床直層 瓦残存	口 17.3 底 8.9 高 7.5	白色微粒子	還元焰	白灰	輪縁成形(右回転)。付高台。内・外面磨りが認められる。	藤岡系
142-10 140	須恵器 埴	床直層 瓦残存	口 — 底 6.5 高 —	白色微粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。付高台。内・外面磨りが認められる。	藤岡系
142-11	内黒土器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	輪縁成形(右回転)。付高台。内面は増文を施す。横し処理を施す。	吉井系
142-12 140	須恵器 埴	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	口縁部は外反し、7本1単位の歯状文を施す。紐作り後輪縁整形(右回転)。	吉井系
142-13 140	羽釜 埴	覆土内 破片	口 22.4 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	口縁部は直立する。紐作り後輪縁整形(右回転)。罫は貼り付け。	
143-1 140	胎釉陶器 灰釉耳皿	掘り方内 ほぼ完整	口 (10.7) 底 5.0 高 2.5	密	良好	白灰	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。内面施釉は剥落。	
143-2 140	砥石	覆土内 完整	重 154.6	濃緑岩(砥沢)	—	—	手持砥。	
143-3 140	雜器 不詳	床直層 完整	長 15.2 幅 7.3 重 839.4	粗粒安山岩	—	—	平ら面は磨滅している。	
143-4 140	磁器 白磁埴 破片	床直層 破片	—	密	良好	乳白色	化粧土を施す。北方諸宮の産物と思われる。	
143-5 140	瓦 男瓦	カマド右 袖 ほぼ完整	長 42.0 幅 16.6 広 21.7	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。凹面縦位の襷で整形。凸面輪縁横撫で。側部面取り2回、端部面取り1回。	栗附系
143-6 140	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 少量・夾少量	還元焰	白灰	紐作り。凹面磨で。凸面縦位の襷で整形。側部面取り1回。	栗附系
143-7 140	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.5	黒色粒子多量	還元焰	灰白	半截作り。凸面縦位の襷で整形。側部面取り1回。	秋葉系
144-1 141	瓦 玉縁付男 瓦	カマド内 瓦残存	幅 15.4 厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙 浅黄橙	半截作り。凹面粘土割ぎ取り仮・縦位の襷で整形。凸面輪縁横撫でか縄引き後磨で。側部面取り2回。	吉井系

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目(ε)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
144-2 140	男瓦	カマド内 写残存	幅 15.5 厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	鈍灰	半織作り。凸面輪縁横撫で。側面取り3回、端部面取り1回。	吉井系
144-3 140	男瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.9	黒色粒子	還元焰	白灰	半織作り。凸面縄叩き(密)後撫で。側面取り1回。	秋岡系
144-4 141	男瓦	カマド右 袖 写残存	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	白灰	半織作り。凹面縦位の手撫で。側面取り2回、端部面取り2回。	秋岡系
144-5 141	瓦	カマド右 袖 写残存	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	白灰	半織作り。凹面布合せ目肌。凸面輪縁横撫で後不定方向の撫で整形。側面取り3回、端部面取り3回。	栗野系
145-1 141 瓦-184	女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 デイスait	還元焰	暗灰	紐作り。篋詰き文字瓦「七」(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。	吉井・藤岡系
145-2 141 瓦-185	女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	白灰	一枚作り。篋詰き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
145-3 141 瓦-186	女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	鈍灰 鈍黄	一枚作り。篋詰き文字瓦「里か黒」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
145-4 141 瓦-187	女瓦	覆土内 細片	厚 1.6	白色鉱物粒子 デイスait	還元焰	白灰	一枚作り。篋詰き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。	秋岡系
145-5 141	女瓦	カマド内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 雲母	還元焰	灰	一枚作り。凹面縦位の撫で整形。側面取り1回、端部面取り2回。	吉井系
145-6 141	女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 デイスait	酸化焰	鈍黄	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面輪縁横撫で後縦位の手撫で。側面取り2回。	吉井系
145-7 141	女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 デイスait	酸化焰	鈍黄	桶巻き造り。凹面粘土板割ぎ取り痕・横骨痕有。凸面輪縁横撫で。縄叩き(密)後撫で整形・布目痕有。	吉井系
145-8 142	瓦	カマド内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子 雲母	還元焰	白灰	一枚作り。凸面平行叩き。側面取り2回、端部面取り2回。	藤岡系
145-9 141	女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.1	白色微粒子 雲母	還元焰	灰	一枚作り。凹面布合せ目肌。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回。	藤岡系か 栗野系
145-10 141	瓦	カマド内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 多量・雲母	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面輪縁横撫で。端部面取り1回。	吉井系
146-1 142	女瓦	床敷層 破片	厚 2.3		還元焰	灰	一枚作りか。凹面寄木板。凸面磨砂痕・縄叩き(密)。側面取り3回。	秋岡系
146-2 142	女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目撫で消し、凸面縄叩き(密)。	笠懸系

C区第62号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目(ε)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
148-1 142	土師質土 器 皿	掘り方内 完形	口 8.4 底 4.6 高 1.9	黒粒雲母 白色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	暗灰青	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
148-2 142	土師質土 器 皿	掘り方内 完形	口 8.6 底 4.9 高 1.9	白色粒子 黒粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
148-3 142	土師質土 器 皿	カマド右 袖 写残存	口(9.3) 底(5.9) 高 2.3	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
148-4 142	土師質土 器 埴	カマド右 袖 写残存	口 — 底 8.0 高 —	黒粒状雲母 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	輪縁成形(右回転)。付高台。東毛以東乃至武蔵北部の産品。	

遺物一覧表

邦国番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
148-5 142	羽蓋	覆土内 破片	口 (20.4) 底 — 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	暗灰褐色	口縁部は直立する。組作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
148-6 142	羽蓋	覆土内 破片	—	黒色鉱物粒子	酸化焰	黄緑	口縁部は内傾する。組作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
148-7 142	施軸陶器 灰軸	掘り方内 破片	口 — 底 16.0 高 —	密	良好	白灰	組作り後轆轤整形(右回転)後回転器で。付高台。施軸は刷毛塗。	
148-8 142	鉄器 刀子	覆土内 破片	重 (2.2)	—	—	—	刃部側は調査後の欠損であるが、断面から刀子と考えられる。	
148-9 142	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (6.8)	—	—	—	断面は正方形を呈する。	
149-1 142	瓦 玉縁付男瓦	掘り方内 破片	厚 2.8	白色鉱物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰白	半截作り。凸面鏝印き(密)後撫で整形。	東野系
149-2 142	瓦 男瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り1回、端部面取り1回。	藤岡系
149-3 142	瓦 男瓦	床直摺 破片	厚 1.4	白色微粒子	酸化焰	橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・轆轤痕撫で後板目叩き。凸面粘土板剥ぎ取り痕・糸切り痕有。側面取り3回。	笠懸系
149-4 142	瓦 男瓦	カマド・ 覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子 黒色粒子 雲母	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	笠懸系
149-5 142	瓦 女瓦	床直摺 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	酸化焰	橙褐色	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘土板剥ぎ取り痕・縦位の撫で整形。側面取り3回、端部面取り3回。	吉井系
149-6 143	瓦 女瓦	床直摺 片残存	幅 21.6 厚 2.4	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
150-1 143	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 片残存	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面板目斜格子叩き・粘土板剥ぎ取り痕有。側面取り2回、端部面取り1回。	笠懸系
150-2 143	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 1.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面板目叩き。端部面取り1回。	笠懸系
150-3 143	瓦 女瓦	床直摺 破片	厚 2.2	白色微粒子 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面鏝印き(密)・粘土板剥ぎ取り痕。側面取り2回。	笠懸系

C区第63号住居跡

邦国番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
151-1 144	土器 壺	カマド右 袖 破片	口 (24.4) 底 — 高 18.5	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	残黄緑	口縁部は外反する。組作り後轆轤整形。外面側部は直削り、口縁部は横撫で、内面側部は縦撫で。吉井型羽蓋の脚、口縁を付かない物。	吉井系
151-2 143	羽蓋	カマド左 袖 破片	口 (20.0) 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	残黄緑	口縁部は直立する。組作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
151-3 143	施軸陶器 灰軸小瓶	床直摺 片残存	口 — 底 (5.4) 高 —	密	良好	白灰	組作り後轆轤整形(右回転)。施軸は提供。	
151-4 143	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凹面布目撫で消し、凸面鏝印き(密)後撫で整形。側面取り1回、端部面取り2回。	吉井系
151-5 144	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.5	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。側面取り3回。	秋岡系

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
151-6 144	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.2	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面鉤印(密)。	枕間系

C区第65号住居跡

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
153-1 144	土師質土 器	カマド右 袖 瓦残存	口 9.2 底 4.2 高 2.0	白色微粒子 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
153-2 144	土師質土 器	床直層 瓦残存	口 9.3 底 5.4 高 2.1	白色微粒子 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。内面 襷りが認められる。	
153-3 144	土師 土 壺	カマド右 袖 破片	口 — 底 (10.0) 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子多量	酸化焰	赤褐	紐作り後覆器で整形。	吉井系
153-4 144	石造 壺の袖材	床直層 破片	長 8.7 重 1201.2	縦紋岩質凝灰 岩	—	—	地山の砂岩質土を利用している。全体に鑿状 工具による小単位の整形を施す。	
153-5 144	鉄 鉢	床直層 一部欠損	重 (4.4)	—	—	—	抜縁三角形縁快器式。65-4と同様と考え られる。	
153-6 144	瓦 男瓦	カマド左 袖 瓦残存	幅 13.0 厚 2.2	シルト粗粒 赤色鉱物粒子	還元焰	灰	平縁作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面輪縁 横撫で。側面面取り3回、端面面取り2回。	垂附系
153-7 144 瓦-188	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。刻印文字瓦「當か」(凹面)。凸面 縁位の撫で整形。側面面取り3回。	吉井系
153-8 144	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縁位 の撫で整形。側面面取り3回。	吉井系
153-9 144	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縁位 の撫で整形。側面面取り3回。	吉井系

C区第66号住居跡

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
154-1 144	土師 土 環	床直層 瓦残存	口 10.4 底 — 高 3.6	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は覆削り、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。	
154-2 144	土師 土 環	床直層 完形	口 11.0 底 — 高 3.7	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は覆削り、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁直下に型膚を残す。	
154-3 144	土師 土 環	カマド左 袖 完形	口 13.6 底 — 高 4.4	黒色粒子 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は覆削り、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁直下に型膚を残す。	
154-4 145	土師 土 壺	カマド右 袖 破片	口 — 底 5.4 高 —	白色粒子 黒色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は黄撫 で、口縁部は横撫で、内面胴部は覆撫で。	
154-5 144	土師 土 壺	カマド右 袖 瓦残存	口 19.8 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。口縁部・内外面 は横撫で。	
154-6 145	土師 土 壺	カマド右 袖 破片	口 — 底 5.4 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り。底部は覆削り、内面胴部は覆撫で。	

遺物一覧表

C区第67号住居跡

棟号 図原番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 寸法 (cm) 重量 (g)	土質	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
155-1 145	土師質土器 皿	床直層 完形	口 8.4 底 3.8 高 1.9	微粒状雷母 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焙	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転未切り。	藤岡系か
155-2 145	土師質土器 皿	床直層 完形	口 8.4 底 5.4 高 1.9	微粒状雷母 白色鉱物粒子	酸化焙	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転未切り。	吉井・藤岡系
155-3 145	内黒土器 足高台付埴	床直層 片残存	口 10.0 底 4.6 高 3.8	微粒状雷母 白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焙	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面横し処理、暗文を施す。	藤岡系か
155-4 145	土師質土器 足高台付埴	床直層 破片	口 11.5 底 6.8 高 4.9	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	栗附系か
155-5 145	土師質土器 足高台付埴	床直層 片残存	口 14.6 底 7.4 高 5.2	黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焙	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系か
155-6 145	土師質土器 足高台付埴	カマド右 軸 片残存	口 14.4 底 9.2 高 6.3	白色鉱物粒子	酸化焙	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
156-1 145	土師質土器 脚付鉢	覆土内 破片	厚 0.9	赤褐色粒子 雷母 白色鉱物粒子	酸化焙	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
156-2 145	土師質土器 脚付鉢	覆土内 破片	口 — 底 (7.2) 高 —	細粒砂多量 微粒状雷母 白色鉱物粒子	酸化焙	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
156-3 145	施釉陶器 灰軸皿	覆土内 破片	口 (13.8) 底 (7.5) 高 3.0	密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は没拵。	
156-4 145	施釉陶器 緑軸碗	覆土内 破片	—	軟質	良好	オリブ灰	轆轤成形 (右回転)。	
156-5 145	施釉陶器 緑軸碗	覆土内 破片	—	須恵質	良好	オリブ灰	轆轤成形 (右回転)。	
156-6 145	鉄器 スラグ	覆土内 —	重 (24.7)	—	—	—	全体に錆化が著しくスラグの可能性もある。	
156-7 145	石製品 礎石	覆土内 完形	長 2.9 幅 2.4 重 24.3	粗粒安山岩	—	—	全体に球形状を呈する。上面は顕著に磨滅している。	
156-8 145	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.1	透明粒子 白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焙	浅橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の手撫で整形。粘土板接合痕S。	笠懸系
156-9 145	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	還元焙	鈍灰	半截作り。側面取り2回。	吉井系
156-10 145	瓦 女瓦	カマド左 軸 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	酸化焙	橙黄	一枚作り。凹面希目撫で消し。凸面縦叩き(密)後撫で整形。	吉井系
156-11 145	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子多 黒色粒子	還元焙	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り3回。	笠懸系
156-12 145	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.1	黒色粒子	還元焙	灰白	一枚作りか。凸面縦叩き(密)後撫で整形。	栗附系
156-13 145	瓦 女瓦	カマド左 軸 破片	厚 2.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焙	明赤灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系

C区第68号住居跡

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
157-1 145	須恵器 埴	カマド右 袖 破片	口 — 底 (9.4) 高 —	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
157-2 145	羽釜	カマド左 袖 破片	口 (22.0) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	口縁部は直立する。紐作り後継で整形(右回転)。脚は貼り付け。	吉井系
158-1 145	瀬戸内 瓦	覆土内 完存	長 7.6 幅 7.8 重 258.4	瀬戸安山岩	—	—	上面全体が磨減する。	
158-2 145	瓦 男瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 0.8	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面轆轤焼成で。側面取り2回。	笠懸系
159-1 145	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 雲母	還元焰	灰	紐作りか。端部面取り2回。	吉井系
159-2 145	瓦 男瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕・布合わせ目痕。凸面轆轤焼成で。粘土板接合痕はS。側部面取り2回。	乗附系
159-3 145	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.0	雲母 白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面側で整形。凸面粘土板割ぎ取り痕。側部面取り2回。	笠懸系
159-4 145	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凹面布目痕で消し。側部面取り部は無で。	吉井系
159-5 146	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面溝取り(密)。	笠懸系
159-6 146	瓦 女瓦	掘り方・カ マド・覆土内 破片	厚 1.8	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面脚取り(密)。端部面取り1回。	乗附系

C区第69号住居跡

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
160-1 146	土師瓦 器	床直層 片残存	口 (11.1) 底 (6.7) 高 2.4	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤間系か
160-2 146	須恵器 埴	カマド・ 覆土内 破片	口底 — 底 (8.8) 高 —	黒色粒子	還元焰	灰白	自然粘附着。轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系
160-3 146	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転糸削り。受部は折り返し。	
160-4 146	土師器 甕	床直層 破片	口 (14.1) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面側部は篋削り、口縁部は横割で。内面側部は篋削り。	
160-5 146	須恵器 蓋	覆土内 破片	厚 0.8	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
160-6 146	羽釜	床直層 破片	口 (22.0) 底 — 高 —	雲母 黒色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内湾する。紐作り後継で整形(右回転)。脚は貼り付け。体部は篋削り。	吉井・藤間系
160-7 146	石製 碁石か	覆土内 完存	長 2.0 幅 1.7 重 5.0	珉質頁岩	—	—	全体に扁平である。	
160-8 146	鉄器 釘	覆土内 片残存	重 (6.4)	—	—	—	頭部は大きく、身は細い。尖端欠損。	
160-9 146	鉄器 釘か	覆土内 破片	重 (32.2)	—	—	—	錆により、160-10と溶着している。	
160-10 146	鉄器 釘か	覆土内 破片	重 (32.2)	—	—	—	曲線を描いており、錆により160-9と溶着している。	

遺物一覧表

押印番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	釉土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
160-11 146	鉄器 釘	覆土内 一部欠損	重 (11.7)	—	—	—	中央を欠損する。断面正方形形状を呈する。	
160-12 146	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (6.6)	—	—	—	断面は丸味を帯びた三角形形状を呈し、旧状断面は長方形を呈した可能性がある。	
160-13 146	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (5.4)	—	—	—	上半部欠損。断面正方形形状を呈する。	
160-14 146	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (6.2)	—	—	—	尖端部及び上半部を欠損する。断面正方形形状を呈し、細身である。	
160-15 146	鉄器 不詳	カマド内 破片	重 (17.3)	—	—	—	尖端部側を環状に曲げている。	
160-16 146	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	半截作り。凹面縁位の無で整形。側面面取り3回、端部面取り3回。	笠懸系
160-17 146	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縁口(帯)。側面面取り1回。	秋閑系
160-18 146	瓦 女瓦	床直層 細片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。端部面取り1回。	秋閑系

C区第71号住居跡

押印番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	釉土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
161-1 146	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.1) 底 — 高 —	白色微粒子	酸化焰	橙	輪縁成形(右回転)。内面放射状の暗文を施す。	藤岡系か 栗附系か
161-2 146	内黒土器 坏	床直層 破片	口 (14.2) 底 — 高 —	白色粒子 黒色微物粒子	酸化焰	浅黄橙	輪縁成形(右回転)。内面横し処理、暗文を施す。	吉井・藤岡系か
161-3 146	須恵器 壺	床直層 破片	口 — 底 (6.1) 高 —	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後輪縁整形(右回転)。付高台。	栗附系
161-4 146	須恵器 種	覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	鈍灰青	紐作り。叩き整形(外面平打ち・内面丸出しは素文)。	栗附系
161-5 146	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 —	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後輪縁整形(右回転)。体部直線で。	栗附系
162-1 146	土師器 土壺	掘り方・ 覆土内 破片	口 — 底 (9.5) 高 —	赤色粒子 黒色粒子 透明微物粒子	酸化焰	橙	紐作り後輪縁整形。外面直線直線で。	吉井・藤岡系
162-2 146	羽釜	カマド右 袖 破片	口 18.2 底 — 高 —	白色微物粒子 黒色微物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は内湾する。紐作り後輪縁整形(右回転)。鈿は貼り付け。吉井形羽釜	吉井系
162-3 146	施釉陶器 灰釉壺	覆土内 破片	—	密	良好	—	紐作り後輪縁整形(右回転)。	
162-4 146	鉄器 不詳	覆土内 一部欠損	重 (45.1)	—	—	—	図上下端は正方形形状を呈する。釘の可能性も考えられる。	
162-5 146	鉄器 釘	掘り方内 一部欠損	重 (20.9)	—	—	—	L字状に折れ木質遺存する。	
162-6 146	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縁位の無で整形。側面面取り2回。	秋閑系
162-7 146 瓦-192	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 細片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。度挿き文字瓦「田」(凹面)。凹面無で整形。	吉井・藤岡系
162-8 146 瓦-191	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.3	白色粒子 黒色微物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。度挿き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。側面面取り3回。	吉井・藤岡系
162-9 146 瓦-190	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「富」。(凸面)。凸面縁位の無で整形。	吉井・藤岡系
162-10 146 瓦-189	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色微物粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。度挿き文字瓦判読不能(凸面)。凹面無で整形。側面面取り3回。	吉井・藤岡系

C区(71・72号住居跡)

棟号番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (#)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
162-11 147	瓦 女瓦	床直層 完形	長 38.0 広 31.6 高 23.0	白色微粒子	還元焰 灰	一枚作り。凸面縦位の裏割り後木目叩き。側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井・藤岡系
163-1 147	瓦 女瓦	床直層 完形	長 26.3 広 29.6 狭 23.6	白色微粒子 白色鉱物粒子 雲母	還元焰 灰	一枚作り。凸面縦位の裏割り後木目叩き。側部面取り1回、端部面取り2回。	吉井・藤岡系

C区第72号住居跡

棟号番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (#)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
165-1 147	須恵器 坏	床直層 破片	口 12.8 底 7.2 高 3.3	黒色粒子	還元焰 白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
165-2 147	須恵器 坏	床直層 完形	口 13.7 底 7.2 高 3.6	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
165-3 147	須恵器 坏	カマド右 袖 与残存	口 13.1 底 6.5 高 4.4	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 黒灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
165-4 147	須恵器 蓋	床直層 与残存	口 (15.6) 高 —	白色粒子	還元焰 黒灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転面取り。	秋間系
165-5 147	施釉陶器 灰輪調	掘り方・ 覆土内 破片	口 (16.6) 底 — 高 —	密	良好 白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施釉は剥離。	
165-6 147	須恵器 壺	床直層 破片	—	黒色粒子少量 白色粒子少量	還元焰 白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面叩きは平行叩き。	
165-7 147	雜器 不詳	床直層 完形	長 22.1 幅 8.8 重 942.0	粗粒安山岩	—	上面平坦面が磨滅している。	
165-8 148 瓦-566	瓦 宇瓦	床直層 与残存	厚 2.4	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	瓦当部分には均整書草文。曲線部。女瓦部は一枚作りか。凸面縦位の裏で整形。側部面取り2回。167-3(瓦-558)・478-19(瓦-513)と接合。	吉井系 瓦-478
165-9 148 瓦-194	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 微粒状雲母	中性焰 灰黄	半載作り。寛幅き文字瓦「大か」(凸面)。側部面取り3回。	吉井系
165-10 148	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.5	黒色粒子	還元焰 白灰	半載作り。凸面轆轤横断。側部面取り2回、端部面取り1回。	秋間系
166-1 148	瓦 男瓦	カマド 掘り方内 破片	厚 2.5	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 黒赤	半載作り。凸面縦位の裏で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	乗附系
166-2 148	瓦 男瓦	カマド 掘り方内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	酸化焰 橙	一枚作り。側部面取り2回。	吉井系
166-3 147	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.9	白色微粒子 白色微粒子	中性焰 灰黄	褐色き造りか。凹面横骨痕。凸面縦位の裏で整形。側部面取り2回。	乗附系
166-4 148	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰 赤橙	半載作り。凸面縦位の裏で整形。側部面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
166-5 148	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 暗灰	一枚作り。凸面平行叩き。側部面取り2回。	吉井系
166-6 148	瓦 女瓦	掘り方・ マフ・覆土内 破片	厚 1.9	黒色粒子多量 白色微粒子	還元焰 灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕、凸面縦位の裏で整形。側部面取り2回、端部面取り3回。	乗附系
167-1 149 瓦-183	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 与残存	長 39.6 幅 25.8 厚 2.4	白色微粒子 白色粒子	還元焰 暗灰	一枚作り。寛幅き文字瓦「中止」(凹面)。凸面縦位の裏で整形。側部面取り3回、端部面取り広端部2回、狭端部1回。	吉井系
167-2 148	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.5	白色微粒子 白色粒子多量	還元焰 暗灰	一枚作り。凸面縦位の裏で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系

遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
167-3 149 瓦-566	瓦 字瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り尻。側面取 り3回。瓦当欠損。165-8 (瓦-478)・ 478-19 (瓦-513)と接合。	古井系 瓦-558
167-4 148	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 2.9	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子・ 木目叩き。側面取り2回。	笠懸系
168-1 149	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 与残存	幅 23.0 狭 20.4 厚 1.4	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り尻、凸面平行 叩き。側面取り1回。端面取り2回。凸 面中央部縦位に磨減する。	乗附系
168-2 149	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.1	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面叩き後撫で整形。	乗附系
168-3 148	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.0	微粒状雲母	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子叩 き。	笠懸系

C区第140号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
169-1 149	土師器 埴輪	カマド内 破片	口 16.0 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	輪縁成形 (右回転)。	藤岡系
169-2 149	土師器 埴輪	床直層 破片	—	黒色鉱物粒子 微粒状雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は寛削 り、内面胴部は直撫で。	藤岡系
169-3 149	鉄器 鋳り金具	掘り方内 —	幅 1.85 東 (7.9)	—	—	—	鉄地金剛張り。側面端部に開状の縦線を有す る。文様は宝相華文をも掘りし開眼に七子を 2から4回1単位で加飾する。工人は右利き。	

C区第73号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
171-1 149	須恵器 埴輪	床直層 破片	口 (9.5) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪縁成形 (右回転)。付高台。口縁部欠損。	秋間系
171-2 149 瓦-479	瓦 字瓦	床直層 破片	厚 2.6	黒色粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は綾杉文。全体に自然釉附着が著し い。	秋間系
171-3 149	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作りか。凸面叩き後撫で整形。	乗附系
172-1 150	瓦 男瓦	床直層 与残存	厚 2.2	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	半織作り。凸面縦位の側で整形。側面取 り4回。端面取り1回。	乗附系

C区第74号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
173-1 149	須恵器 埴輪	床直層 与残存	口 (12.5) 底 7.2 高 3.2	黒色粒子	還元焰	灰	輪縁成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
173-2 150	内黒土器 皿	床直層 与残存	口 13.8 底 6.6 高 2.3	雲母 白色粒子	酸化焰	橙	輪縁成形 (右回転)。付高台。内面横し処理 文を施す。	藤岡系
173-3 149	土師質土 器	床直層 与残存	口 13.3 底 7.8 高 3.5	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	淡黄	輪縁成形 (右回転)。底部は回転糸切り。口 唇部周辺に有機質附着。外面横し処理。	秋間系
174-1 149	土師質土 器	床直層 与残存	—	黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄橙	輪縁成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。外 面横し処理。	藤岡系か 秋間系

C区(140・73・74・76号住居跡)

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
174-2 149	土師貫土 器	床直層 瓦残存	口 — 底 8.4 高 —	黒色鉱物粒子	酸化焰	黄褐色	轆轤成形(右回転)。付高台。外面僅し処理。	藤岡系か 秋間系
174-3 150	須志 蓋	床直層 破片 (頸部)	長 7.2 幅 6.9 厚 1.6	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	灰	轆轤成形(右回転)。転用円盤。頸部を残し天 井部全体を打ち欠いている。 「コ」の字状口縁。	栗附系
174-4 150	土師 罌	床直層 破片 (頸部)	口 (19.1) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面胴部は蓋削り、口縁部は横撫で、 内面胴部は横撫で。	藤岡系
174-5 150	織 不 群	床直層 完存	長 18.1 幅 6.8 重 944.3	溶結凝灰岩	—	—	平坦面を磨減する。	
175-1 150	鉄 刀	床直層 瓦残存	重 (2.8)	—	—	—	刀心中心から葉を欠損する。重ねや中厚い。	
175-2 150	鉄 刀	器 カマド内 破片	重 (14.3)	—	—	—	縁及び葉部を欠損する。	
175-3 150	鉄 刀	床直層 一部欠損	重 (12.3)	—	—	—	くの字に折れ、鋒内側を欠損する。図中には 復元図を記した。	
175-4 150	鉄 刀	床直層 一部欠損	重 (24.2)	—	—	—	鋒葉を欠損。研ぎ減りが顕著。	
175-5 150	鉄 不 群	床直層 破片	重 (5.9)	—	—	—	鎌か刀子の茎と考えられる。尖端側に木質が 錆化して残存する。	
175-6 150	鉄 釘	床直層 破片	重 (1.9)	—	—	—	尖端部を欠損する。	
175-7 150	鉄 不 群	床直層 破片	重 (2.7)	—	—	—	環状を呈するものか。167-8と同一個体の可 能性有。	
175-8 150	鉄 不 群	床直層 破片	重 (3.3)	—	—	—	環状を呈するものか。167-7と同一個体の可 能性有。	
175-9 150	鉄 釘	床直層 破片	重 (1.5)	—	—	—	断面正方形を呈する。	
175-10 150	鉄 釘	覆土内 破片	重 (9.8)	—	—	—	頭部・尖端部を欠損する。L字状に折れてい る。	
175-11 150	鉄 釘	床直層 一部欠損	重 (16.7)	—	—	—	全体に長く、上半部の緩やかなカーブを描き 頭部を欠損する。	
175-12 150	鉄 不 群	床直層 一部欠損	重 (20.8)	—	—	—	階円形状を呈する。展開復元したものを提示 した。	
175-13 150	瓦 男	カマド内 瓦残存	長 40.7 厚 1.4	白色粒子	還元焰	灰白	平縁作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り 2回。	栗附系
175-14 150	瓦 男	床直層 瓦残存	長 23.8 厚 2.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縄叩 き(密)後轆轤撫で整形。側面取り2回、端 面取り1回。	栗附系
175-15	瓦 女	覆土内 瓦残存	厚 2.3	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り 2回。	吉井系
176-1 151	瓦 女	覆土内 ほぼ完形	長 38.3 幅 24.9 厚 2.9	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。厚縁き文字瓦「山上か」(凸面)。 凹面粘土板割ぎ取り痕・縦位の撫で整形。 185-2と同一個体。	栗附・吉 井系
176-2 151	瓦 女	床直層 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕・布目撫で 消し。凸面縄叩き(密)。側面取り2回、端 面取り2回。	栗附系
176-3 150	瓦 女	床直層 瓦残存	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰	鈍黄	一枚作り。凹面布目撫で消し・縦位の撫で整 形。凸面縄叩き(密)。側面取り2回。	笠懸系

C区第76号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
178-1 151	土師 罌	覆土内 破片	口 (11.6) 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は蓋削り、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁に産瘤を残す。内面風化顕著。	藤岡系

遺物一覧表

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
178-2 151	土師器 土師環	床直層 破片	口 (11.8) 底 — 高 4.0	雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は覆削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁に型磨を残す。内面風化顯著。	藤岡系
178-3 151	土師器 土師環	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 3.6	白色微粒子 黒色鉱物粒子 雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は覆削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁に型磨を残す。内面風化顯著。	藤岡系
178-4 151	土師器 土師環	覆土内 与残存	口 (13.5) 底 — 高 4.1	雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は覆削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁に型磨を残す。内面風化顯著。	藤岡系
178-5 151	土師器 土師環	覆土内 破片	口 — 底 (10.2) 高 —	白色微粒子 デイスait 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。内面にラテン暗文・放射状暗文を施す。	藤岡系
178-6 151	須恵器 須恵環	床直層 ほぼ完形	口 12.2 底 6.5 高 3.7	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
178-7 151	須恵器 須恵環	床直層 完形	口 12.8 底 6.8 高 3.9	黒色微粒子 白色鉱物粒子 デイスait	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
178-8 151	須恵器 須恵環	床直層 与残存	口 12.8 底 6.8 高 3.9	白色微粒子 微粒状雲母 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
178-9 151	須恵器 須恵塊	床直層 与残存	口 12.9 底 8.3 高 5.8	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	淡黄	轆轤成形(右回転)。付高台。外面僅し処理。	秋間系
178-10 151	石製品 紡錘車	覆土内 ほぼ完形	口 3.8 底 3.8 重 42.3	蛇紋岩	—	—	外面磨き整形の単位が認められる。	
178-11 151	礫 不詳	覆土内 完形	口 3.2 底 2.1 重 9.9	砂岩	—	—	上面磨減する。	
178-12 151	須恵器 模範か	床直層 与残存	—	黒色微粒子 白色鉱物粒子 雲母	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。体部下半に平行叩き有。	粟附系
178-13 152	瓦 鏡瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色微粒子	酸化焰	黄橙	瓦当部欠損。瓦当意匠は不詳。男瓦部の凸面は縦位の覆撫で整形。側部面取り3回。	吉井系
178-14 151	瓦 玉縁付男瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	橙	半鏡作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回。端部面取り1回。	笠懸系
178-15 152	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子			一枚作り。凸面正格子叩き。墨書「判読不能」。	笠懸系
179-1 152 瓦-195	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面叩き後撫で整形。粘土板接合痕はS。	秋間系
179-2 152	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面粘土板割ぎ取り痕・繩叩き(密)後撫で整形。	笠懸系
179-3 152	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凹面撫で整形。凸面正格子叩き。	笠懸系
179-4 152	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 デイスait	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面粘土板割ぎ取り痕・横撫で消し。凸面叩き(密)後轆轤横撫で。側部面取り3回。端部面取り2回。	粟附系
179-5 152	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.6	白色鉱物粒子 黒色微粒子少量	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕・縦位の覆撫で。凸面叩き(密)後轆轤横撫で。端部面取り1回。	粟附系
179-6 152	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.8	白色微粒子 デイスait	還元焰	鈍灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回。端部面取り2回。	吉井系
179-7 151	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き作り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面轆轤横撫で。端部面取り2回。	吉井系

C区第75号住居跡

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
181-1 152	施釉内輪 灰輪蓋	床直層 破片	最大径 23.0	密	良好	灰	紐作り後輪縁整形(右回転)。胴部・体部は回転歪り。外面全面に施釉。	
181-2 152	漆器 不詳	床直層 完存	長 幅 重 9.8 3.0 156.2	滑結凝灰岩	—	—	平煎煎は磨減する。	

C区第77号住居跡

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
182-1 152	土師質土 器 坏	床直層 瓦残存	口 底 高 11.5 6.1 4.0	白色粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	淡黄	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	188-6 と同一個 体
182-2 152	須恵器 埴 地	床直層 完形	口 底 高 12.4 6.8 4.9	白色粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	輪縁成形(右回転)。付高台。	藤岡系
182-3 152	須恵器 坏	覆土内 瓦残存	口 底 高 (13.1) (7.0) 3.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
182-4 152	須恵器 坏	床直層 瓦残存	口 底 高 (14.0) (6.2) 3.5	白色粒子 白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
182-5 152	土師質土 器 埴 地	覆土内 瓦残存	口 底 高 — (7.3) —	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	淡黄	輪縁成形(右回転)。付高台。内・外周縁りが認められる。	吉井・藤 岡系か
182-6 152	須恵器 皿	カマド・ 掘り方内 瓦残存	口 底 高 (14.3) (8.3) 3.0	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。付高台。	秋間系
182-7 152	土師質土 器 足高台付 埴 地	覆土下層 破片	口 底 高 — (13.9) —	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	輪縁成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
182-8 152	土師質土 器 耳 皿	覆土下層 破片	—	黒色鉱物粒子	中性焰	淡黄	皿の両端を内側に曲げる。	藤岡系か
182-9 152	施釉陶器 灰輪蓋	覆土下層 破片	口 底 高 (18.9) — —	密	良好	灰白	口縁部は外反する。紐作り後輪縁整形(右回転)。施釉は視損。	
182-10 152	須恵器 罍	覆土内層 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰	7本1単位の波状文を施す。紐作り後輪縁整形(右回転)。	
182-11 152	漆器 不詳	覆土下層 完存	長 幅 重 5.6 3.6 70.9	砂岩	—	—	全体に小ぶりで上面に磨減が認められる。	
182-12 152	施釉陶器 緑輪蓋	床直層 破片	—	須恵質	良好	緑	輪縁成形(右回転)。	
182-13 152	施釉陶器 灰輪蓋	覆土下 破片	—	密	良好	灰白	紐作り後輪縁整形(右回転)。	
182-14 152	鉄器 刀子	覆土内 一部欠損	重 (18.9)	—	—	—	鋒・茎尻欠損。研ぎ減りが認められる。茎の幅が広い。刀身は大身の造り。	
182-15 152	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (16.4)	—	—	—	断面長方形である。刀子の茎が、刀子の茎の場合182-4の欠損部分か。	
182-16 152	鉄器 釘	覆土内 一部欠損	重 (7.7)	—	—	—	断面長方形気味。尖端側を欠損する。	
182-17 152	鉄器 釘か	覆土内 破片	重 (9.3)	—	—	—	断面・正方形・長方形両者が認められる。	
182-18 152	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (5.1)	—	—	—	断面長方形形状を呈する。	
182-19 152	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (14.9)	—	—	—	断面正方形形状を呈する。箇中上位下は欠損する。	

遺物一覧表

神田番号 図録番号	種別 種類	出土位置 遺存状態	長さ 幅 厚 (cm)	重量 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
183-1 153	瓦 男 瓦	カマド左 袖 完形	長 37.9 幅 16.4 厚 16.8		白色紅物粒子	酸化焰 橙	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)。側面取り左4回・右2回、端面取り2回。	吉井系
183-2 153 瓦-196	瓦 男 瓦	カマド左 袖 片残存	長 38.3 幅 17.4 厚 1.6		白色紅物粒子	酸化焰 暗灰 黒	半截作り。刷印文字瓦「依」(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の側で後縁縁溝で。側面取り左3回、端面取り4回。	笠懸系
184-1 153	瓦 男 瓦	覆土内 片残存	幅 23.5 厚 2.0		白色微粒子 白色紅物粒子	還元焰 灰	半截作り。凸面平行叩き(全面)。側面取り2回、端面取り2回。	栗附系
184-2 153	瓦 男 瓦	覆土内 片残存	厚 1.6		白色紅物粒子	中性焰 黄灰	半截作り。凹面布合せ目痕。側面取り2回。	栗附系
184-3 153 瓦-197	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 2.1		白色紅物粒子 ダイヤサイト 白色微粒子	還元焰 暗灰	半截作り。窪箱き文字瓦「成」(凸面)。凸面平行叩き。端面取り2回。	吉井系
184-4 153	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.3		白色紅物粒子 白色微粒子	中性焰 黄灰	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縄叩き態で整形。側面取り2回、端面取り2回。	吉井系
184-5 153	瓦 男 瓦	掘り方内 片残存	厚 2.0		白色微粒子 白色紅物粒子	中性焰 黄灰	半截作りか。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面粘土板割ぎ取り痕・縁縁溝で。側面取り2回、端面取り3回。	吉井系
185-1 154	瓦 男 瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.3		白色紅物粒子	還元焰 灰	半截作り。凸面縄叩き(密)後縁で整形。粘土板接合痕は乙。	吉井系
185-2 瓦-198	瓦 女 瓦	覆土下 片残存	長 37.8 幅 25.7 厚 2.6		白色紅物粒子 白色微粒子	還元焰 暗灰	一枚作り。窪箱き文字瓦「川上」(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。側面取り3回。	吉井系 176-1と 同一形体
185-3 154 瓦-199	瓦 女 瓦	カマド右 袖 片残存	長 36.2 厚 1.8		白色粒子 ダイヤサイト	還元焰 灰	桶巻き造り。窪箱き文字瓦「一八か六か」(凸面)。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕。側面取り3回、端面取り3回。	吉井系か
185-4 154	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.8		白色微粒子 白色紅物粒子	酸化焰 鈍橙	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面平行叩き・赤色顔料塗布。	栗附系
185-5 154	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.6		白色微粒子多	還元焰 灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面縄叩き(密)後縁で整形。	笠懸系か
186-1 154	瓦 女 瓦	カマド右 袖 片残存	長 40.5 幅 26.8 厚 2.4		白色微粒子多	還元焰 灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面正格字叩き側面取り2回、端面取り2回。	笠懸系か
186-2 154	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.3		白色微粒子	酸化焰 鈍橙	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面縄叩き後縁位の側で整形。粘土板接合痕は乙。	笠懸系か
186-3 154	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8		シレット粒	還元焰 鈍灰	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕。凸面磨砂底縄叩き(密)。側面取り3回。	伏間系
186-4 154	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.7		白色微粒子	還元焰 鈍橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
186-5 154	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8		白色紅物粒子 黒色粒子	還元焰 灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕、凸面木目破片。側面取り3回。	笠懸系
186-6 154	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.0		黒色微粒子	還元焰 灰	一枚作り。凸面縦位の側で整形。側面取り2回、端面取り2回。	栗附系
187-1 154	瓦 女 瓦	床直層 片残存	厚 1.1		白色微粒子	還元焰 灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縄叩き(密)後縁位の側で整形。側面取り2回、端面取り2回。	笠懸系
187-2 154	瓦 女 瓦	床直層 片残存	厚 1.7		白色紅物粒子 白色微粒子 黒色粒子	酸化焰 鈍橙	桶巻き造り。凹面横骨痕・布合せ目痕。凸面縄叩き(密)後縁で整形。側面取り2回、端面取り2回。	吉井系
187-3 156	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.8		白色紅物粒子	還元焰 灰	桶巻き造りか。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)後縁位の側で整形。側面取り2回。	吉井系
187-4 156	瓦 女 瓦	カマド左 袖 片残存	厚 1.5		白色微粒子 白色紅物粒子	還元焰 灰	桶巻き造りか。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面縄叩き(密)後縁位の側で整形。側面取り2回。	吉井系

C区第81号住居跡

探出番号 図標番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 目録 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
188-1 155	土師器 環	覆土内 破片	口 (10.5) 底 — 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。底部・体部は筒形、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。内面暗文を施す。口縁直下に甘い型層を残す。	藤岡系か
188-2 155	土師器 環	覆土内 破片	口 11.0 底 (7.4) 高 2.8	微粒状雲母 黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系
188-3 155	土師器 環	覆土内 破片	—	薄い層状をなす。密	酸化焰	橙	内面に暗文を施す。	畿内産
188-4 155	土師質土 器 皿	覆土内 破片	口 (9.7) 底 (4.6) 高 2.3	白色粒子 黒色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。口縁部に傷が認められる。	
188-5 155	土師質土 器 環	覆土内 破片	口 (10.3) 底 (6.2) 高 3.1	赤褐色粒子 白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	
188-6 155	土師質土 器 環	覆土内 片残存	口 (10.5) 底 (5.4) 高 3.9	白色粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	182-1 と同一個 体
188-7 155	土師質土 器 環	覆土内 片残存	口 (11.0) 底 (4.7) 高 3.5	白色粒子 透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系か
188-8 155	須恵器 埴 地	覆土内 破片	口 (12.3) 底 (7.3) 高 4.3	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
188-9 155	土師質土 器 環	覆土内 破片	口 — 底 5.4 高 —	黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
188-10 155	内黒土器 環	床直層 破片	口 — 底 6.6 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子 シルト粒	酸化焰	鈍黄黒	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。内面暗文を施す。横し処理。	藤岡系
188-11 155	須恵器 埴 地	覆土内 破片	口 — 底 7.0 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。内面赤色顔料の痕跡・磨滅している。	秋間系
188-12 155	須恵器 埴 地	覆土内 破片	—	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	兼形系か 藤岡系
188-13 155	須恵器 大 甕	床直層 破片	—	黒色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	5本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形 (右回転)。	藤岡系
188-14 155	施釉陶器 灰釉陶皿	覆土内 破片	—	密	良好	オリブ 灰	宝相華文を加飾する。加飾は細い篋状工具の先端で施文する。(火中している)	
188-15 155	礫 器 不 詳	覆土内 完存	長 6.0 幅 6.1 重 127.9	粗粒安山岩	—	—	平皿面を磨滅している。	
188-16 155	礫 器 不 詳	廻り方 覆土内 完存	長 5.2 幅 7.4 重 113.3	二ツ岳緑石	—	—	特別な使用痕は認められない。	
188-17 156	鉄 器 不 詳	覆土内 一部欠損	重 (52.5)	—	—	—	雁又式。唐庚段階で欠損している。回中に復元器を添えた。	
188-18 155	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (28.7)	—	—	—	断面正方形状を呈する。爪を磨いているが、環状のものとは思われない。	
188-19 156	鉄 器 釘	覆土内 破片	重 (9.2)	—	—	—	断面正方形状を呈する。頭部欠損する。	
188-20 155	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (18.4)	—	—	—	薄い板状で形状から特殊なものと思われる。	
188-21 155	須恵器 大 甕 転用円盤	覆土内 破片	厚 0.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰黄 褐色	紐作り。叩き整形 (外周平行叩き・内周宛具は放射状)。頸部側を転用している。	
188-22 156	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子 白色粒子 ダイヤサイト	酸化焰	鈍橙	桶巻き造りか。凹面横骨痕。凸面縦位の横で整形。端面面取り1回。	吉井系

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	産目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
189-1 156	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面輪軸横撫で。側面取り3回、 端部取り3回。	笠懸系
189-2 156	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面輪軸 横撫で。	果附系
189-3 156	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面粘土 板割ぎ取り痕・縦位の跡で整形。側面取り 3回、端部取り2回。	笠懸系
189-4 156	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面平行叩き。側面取り2回。	果附系
189-5 156	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行 叩き。	果附系

C区第78号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	産目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
190-1 156	土師質土 器 環	床直層 %残存	□ 12.1 高 6.3 高 4.8	白色粒子 白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
190-2 156	土師質土 器 環	掘り方・ 覆土内	□ (12.3) 高 6.1 高 4.4	陶粒状雲母 白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	輪軸成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
190-3 156	須恵器 破片	覆土内 破片	厚 6.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。内・外面自然物 附着。頸部は細く口縁部は強く大きく開く。	秋岡系
190-4 156	須恵器 壺	掘り方内 破片	□ — (10.1) 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 雲母	還元焰	灰白	紐作り後輪軸整形(右回転)。付高台。	
190-5 156	羽釜 左 袖 破片	カマド左 袖	□ (21.2)	黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形(右回 転)。背は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
190-6 156	須恵器 壺	掘り方内 破片	□ — 高 (13.0) 高 —	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。外面底部は覽胸 で。外面平行叩き、内面内具は素文。	藤岡系か
190-7 156	須恵器 壺	カマド左 袖 掘り方内 破片	□ — 高 (10.5) 高 —	白色鉱物粒子	還元焰	鈍灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。外面底部は覽胸 で。	吉井系
191-1 156	須恵器 大甕	掘り方内 破片	—	陶粒状雲母 黒色粒子少量	還元焰	鈍灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面内具 は素文)。内面は磨滅している。	秋岡系
191-2 156	瀬器 不評	カマド右 袖 完存	長 10.7 幅 9.8 重 469.5	粗粒安山岩	—	—	扁平で被熱によるひび割れ。	
191-3 156	瀬器 不評	カマド右 袖 完存	長 21.4 幅 5.8 重 1535.3	粗粒安山岩	—	—	上面は磨滅する。	
191-4 156	瓦 男瓦	掘り方内 破片	厚 1.7	白色微粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。覽胸き文字瓦判読不能(凸面)。 凸面輪軸横撫で。482-3(瓦-561)・ 483-16(瓦-560)と接合。	秋岡系 瓦-200
191-5 156	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.4	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き作り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕 有。凸面端叩き(密)後輪軸横撫で。	果附系

C区第79号住居跡

探検番号 図層番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
192-1 157	土師質土器 罎	掘り方内 破片	口 10.0 底 — 高 2.5	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。	吉井・藤 岡系
192-2 157	土師質土器 罎	カマド内 破片	口 10.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
192-3 157	土師質土器 罎	床直層 瓦残存	口 10.2 底 5.2 高 3.2	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
192-4 157	土師質土器 罎	掘り方内 突形	口 10.7 底 5.0 高 3.1	白色粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
192-5 157	土師質土器 罎	覆土内 瓦残存	口 10.8 底 6.1 高 2.7	白色粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
192-6 157	土師質土器 罎	覆土内 瓦残存	口 11.5 底 6.7 高 5.1	白色粒子 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系か
194-1 157	土師質土器 罎	カマド右 袖 破片	口 12.7 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
194-2 157	土師質土器 罎	カマド左 袖 瓦残存	口 14.6 底 9.5 高 6.6	白色粒子 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
194-3 157	須恵器 皿	覆土内 破片	口 13.5 底 7.0 高 2.4	白色微粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
194-4 157	羽釜	掘り方内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子 雲母	酸化焰	鈍橙	紐作り後推で整形(右回転)。底部周辺回転痕 留り。	吉井・藤 岡系
194-5 157	土釜	掘り方・ 覆土内 破片	—	シルト粒多量	酸化焰	灰褐	紐作り。外面胴部は段削り、内面胴部は段削 で。	吉井・藤 岡系
194-6 157	須恵器 罎	床直層 瓦残存	口 — 底 13.6 高 —	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。	栗附系
194-7 157	土師質土器 罎	カマド左 袖 瓦残存	—	微粒状雲母 白色微粒子 白色鉱物粒子	中性焰	橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
194-8 157	羽釜	掘り方内 破片	—	微粒状雲母 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。	藤岡系
194-9 157	羽釜	掘り方内 破片	口 20.2 底 — 高 —	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罎は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
194-10 157	羽釜	掘り方内 破片	口 17.1 底 — 高 —	白色鉱物粒子	中性焰	黒褐	口縁部は外傾する。紐作り後推で整形(右回 転)。罎は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
195-1 157	羽釜	カマド右 袖 破片	口 19.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。罎は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
195-2 157	須恵器 大甕	掘り方・ 覆土内 破片	—	白色微粒子 微粒状雲母	還元焰	暗灰	胴部を転用し、方形状の割れ口状に整形な す。内面側が、非常によく磨減して「つるつ る」している。	藤岡系
195-3 157	須恵器 大甕	床直層 破片	—	白色鉱物粒子 デライト	還元焰	褐灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具 は不詳)。	栗附系か 藤岡系

遺物一覧表

発掘番号 国庫番号	種別 器種	出土位置 保存状態	度量 (cm) 直径 (φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
195-4 157	施釉陶器 磁器陶枕	覆土内 破片	—	密	良好	黒 オリ ブ灰	宝相華文を加飾する。加飾は細い彫状工具の 先端で施文する。(火中している) 188-14と 同一個体で底面側である。	188-14 と同一個 体
195-5 158	須志器 大 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	良好	暗灰	紐作り。印き整形(外面平行印き・内面宛具 は素文)。内面は非常によく磨滅「つるつる」 している。	泉附系
195-6	施釉陶器 灰 軸皿	カマド・ 覆土内 破片	口 16.4 底 — 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施 釉は投掛。	
195-7 158	施釉陶器 灰軸小瓶	床直層 破片	口 5.4 底 — 高 —	密	良好	灰白	口縁部は外反する。紐作り後轆轤成形(右回 転)。施釉は投掛。	
195-8 158	磁 器 白 磁碗	覆土内 破片	—	密	良好	乳白	轆轤成形。回転方向不詳。化粧土を施す。	
195-9 158	磨 器 不 詳	床直層 ほぼ完存	長 9.4 幅 10.8 重 594.4	かこう岩	—	—	上面は磨滅している。	
196-1 158	磨 器 不 詳	床直層 ほぼ完存	長 11.8 幅 8.9 重 520.6	粗粒安山岩	—	—	上面は磨滅している。	
196-2 158	磨 器 不 詳	掘り方内 完存	長 15.8 幅 11.8 重 1417.7	粗粒安山岩	—	—	上面は磨滅している。	
196-3 158	磨 器 不 詳	掘り方内 完存	長 13.2 幅 9.2 重 813.8	粗粒安山岩	—	—	上面は磨滅している。	
196-4 158	石製 品 壺の袖材	カマド左 袖 破片	幅 12.3 重 4800.0	未固結凝灰岩	—	—	地山シルト質土を直方体に削り出し、面取り は小単位の整形を施している。	
197-1 158 瓦-480	瓦 字 瓦	掘り方内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は鏡形文。細片であるが母体に付し た鏡形文と同型であると考えられる。	秋間系
197-2 158	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鑿 叩き(密)後轆轤成形。側面面取り2回。	笠懸系
197-3 158	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 1.1	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の無で整形。端面面取り 1回。	泉附系
197-4 158 瓦-202	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 微粒雲母	還元焰	灰白	一枚作り。鏡形文字瓦「真」(凸面)。凹面 粘土板割ぎ取り痕。	吉井系
197-5 160	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 1.7	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面布目無で消し。凸面粘土板割 ぎ取り痕。鑿叩き(密)有。	笠懸系
197-6 159	瓦 女 瓦	カマド右 袖 ほぼ完形	長 35.2 狭 20.0 厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面横骨状・粘土板割ぎ取り痕 有。凸面轆轤成形で整形。	吉井系 3.7kg
198-1 159	瓦 女 瓦	カマド左 袖 完形	長 34.4 広 23.6 狭 20.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面粘土 板割ぎ取り痕・縦位の無で整形。側面面取り 左2回・右3回。端面面取り2回。	吉井系 2.9kg
198-2 160	瓦 女 瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕・布目無で 消し。凸面粘土板割ぎ取り痕・正格子印き。	笠懸系
198-3 160	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.8	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕・布目無で 消し。凸面粘土板割ぎ取り痕・正格子印き。 側面面取り2回。	笠懸系
198-4 159	瓦 女 瓦	掘り方内 %残存	長 40.6 厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦目印き後縦位の無で整形。 側面面取り3回。端面面取り2回。	泉附系
199-1 160	瓦 女 瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面粘土板割ぎ取り痕・正格子印 き。側面面取り1回。端面面取り1回。面取 り跡から無で。	秋間系

C区(80・82号住居跡)

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
199-2 150	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面不整格子印き。側面面取りが 回端部面取り2回。199-3と同一個体。	笠懸系 乗附系
199-3 160	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.2	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面・凸面粘土板剥ぎ取り痕。側 面面取り2回、端部面取り2回。199-2と同 一個体。	

C区第80号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
200-1 160	須恵器 壺	床直層 完形	口 11.7 底 5.8 高 4.3	黒色鉱物粒子 白色粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面磨りが 認められる。	吉井・藤 岡系
201-1 160	土師質土 器 足高高台 付 壺	掘り方内 片残存	口 (12.8) 底 (8.3) 高 5.8	黒色鉱物粒子 白色粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系か
201-2 160	瀬軸陶器 緑釉 轆	掘り方内 破片	口 16.5 底 8.7 高 6.6	密	軟質	オーブ 灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は薄く、露 胎がする。	
201-3 160	瀬軸陶器 灰釉 轆	床直層 破片	口 10.4 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施 釉は剥損。	
201-4 160	雑器 不詳	掘り方内 完存	長 10.0 幅 10.4 重 901.0	流紋岩	—	—	上面が磨滅し屈みを有する。	
201-5 160	須恵器 大壺	掘り方・ 覆土内 破片	—	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	白灰	紐作り。叩き整形(外面木目叩き・内面丸具 は不詳)。	吉井系
201-6 160	須恵器 大壺 転用碗か	掘り方内 破片	—	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩きは無で整形により不明。割部片 を転用し周辺を打ち欠いたのち磨いている。	乗附系
201-7 160 瓦-409	瓦 轆	掘り方内 片残存	厚 2.5	白色微粒子	還元焰	白灰	瓦意匠匠は、復弁7葉(山王・秋間系)の軸 象文。	秋間系
201-8 160 瓦-410	瓦 轆	掘り方内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	瓦意匠匠は、復弁7葉(山王・秋間系)の軸 象文。	秋間系
201-9 160	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目磨で消し。凸面磨叩き (密)。	笠懸系
201-10 161	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面正格 子印き。	笠懸系 子印き。
202-1 161	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘 土板剥ぎ取り痕後不定方向の磨で整形。側面 面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
202-2 161	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位 の無で整形。側面面取り1回。	吉井系

C区第82号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
203-1 161	土師質土 器 坏	床直層 片残存	口 11.0 底 6.2 高 3.0	赤色粒子 黒色粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	

遺物一覧表

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 単位 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
203-2 161	土師質土 器 杯	床直層 ほぼ完形	口 10.5 底 5.9 高 3.1	白色粒子 黒色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
203-3 161	土師器 壺	覆土内 破片	口 16.5 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍黄緑	口縁部は外傾する。紐作り。外部彫部は窪無で、口縁部は横無で、内面彫部は縦無で。	藤岡系
203-4 161	羽釜	床直層 破片	口 (18.9) 底 — 高 —	黒色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	浅黄緑	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形 (右回転)。踵は貼り付け。吉井系羽釜。	吉井系
203-5 161	加輪陶器 灰輪小瓶	掘り方・ 覆土内 破片	口 (5.8) 底 — 高 —	密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。加輪は没掛。	
203-6 161	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (10.4)	—	—	—	断面長方形状を呈する。	
204-1 161	瓦 玉縁付男 瓦	覆土内 破片	厚 1.7	黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面轆轤横無で整形。	吉井・藤岡系
204-2 161	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	半截作り。凸面轆轤横無で整形。側面面取り2回。	吉井・藤岡系
204-3 161	男瓦 カマド内	破片	厚 2.2	白色微粒子	酸化焰	橙	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕・布合せ目痕。凸面縦位の無で整形。側面面取り4回。	笠懸系
204-4 161	女瓦 カマド内	破片	厚 2.3	白色微粒雲母	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面隅印き(密)後無で整形。側面面取り3回、端部面取り1回。	栗附系
204-5 161	瓦 瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面不定方向の無で整形。凹面無状。側面面取り2回。	吉井・藤岡系
204-6 161	女瓦 掘り方内	破片	厚 2.3	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	鈍灰	桶巻き造り。凹面横骨直・粘土板割ぎ取り痕有。凸面轆轤横無で。側面面取り2回。	栗附系

C区第84号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 単位 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
205-1 161	須恵器 壺 杯	覆土内 破片	口 13.0 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰		轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	秋岡系
205-2	鉄器 釘	覆土内 一部欠損	重 (12.0)	—	—	—	断面長方形状を呈する。頭部欠損。	

C区第85号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 単位 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
206-1 161	須恵器 壺 杯	掘り方内 互残存	口 13.3 底 7.2 高 6.0	白色粒子 黒色粒子 微粒状雲母	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。内・外器縁りが認められる。	藤岡系
206-2 161	須恵器 壺 杯	掘り方内 破片	—	黒色鉱物粒子 赤色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	吉井・藤岡系
206-3 161	須恵器 壺	掘り方内 破片	—	黒色鉱物粒子 細粒砂	中性焰	淡黄	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井・藤岡系
207-1 162	須恵器 大壺	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	栗附系
207-2 161	土釜	掘り方内 破片	—	透明鉱物粒子 シルト質 黒色鉱物粒子	酸化焰	灰濁 鈍橙	口縁部は外反する。紐作り後縦無で整形。	藤岡系か
207-3 162	土師質土 器 瓶	掘り方内 破片	口 — 底 (13.7) 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
207-4 161	加輪内器 灰輪 輸花文碗	掘り方内 破片	口 (15.0) 底 — 高 —	密	良好	灰青	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。施 輪は投擲。	
207-5 161	雑器 不詳	掘り方内 完存	長 18.3 幅 7.0 重 1258.6	粗粒安山岩	—	—	上面磨減し先細瓶打痕が認められる。	
207-6 162 瓦-408	瓦 破片	床直層 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。	吉井・藤 岡系
207-7 162 瓦-201	瓦 破片	掘り方内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	平嵌作り。梵書き文字瓦「子文」(凸面)。凸 面粘土板剥ぎ取り痕・裏位の継で整形。側部 面取り3回、端部面取り3回。	吉井系
207-8 162	瓦 破片	掘り方内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 少量	酸化焰	鈍橙	極巻き造りか。凹面腰骨痕・粘土板剥ぎ取り 痕。凸面隅印き(密)後側で整形。側部面取り 2回、端部面取り2回。	栗附系
208-1 163 瓦-203	瓦 破片	カマド・ 掘り方内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。梵書き文字瓦「大」(凹面)。凸面 T字隅印き(密)。側部面取り3回、一部は無 で、端部面取り1回。	秋間系
208-2 163	瓦 破片	掘り方内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 デイスait	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・布目跡で 消し。凸面隅印き(密)。扉砂痕有。側部面取 り2回。	栗附系
208-3 162	瓦 破片	掘り方内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色無粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘土 板剥ぎ取り痕・板目印き。側部面取り2回。	吉井系

C区第86号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
209-1 163	土師質土 器 坏	カマド左 袖 %残存	口 (10.2) 底 (5.4) 高 3.2	白色微粒子 白色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
209-2 163	土師質土 器 坏	カマド右 袖 %残存	口 (10.5) 底 (6.0) 高 2.6	白色微粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
209-3 163	土師質土 器 塊	カマド左 覆土内 %残存	口 (16.6) 底 — 高 —	微粒雲母 砂粒	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
210-1 163	須恵系 大甕	カマド 覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き)。内面は磨 減している。	
210-2 163	羽蓋 破片	カマド右 袖 破片	口 (18.6) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。踵は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
210-3 163	羽蓋 破片	カマド右 袖 破片	口 (23.1) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。踵は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
210-4 163	羽蓋 破片	掘り方・ 覆土内 破片	口 (24.1) 底 — 高 —	白色微粒子 赤色粒子	酸化焰	淡黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。踵は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
210-5 163	鉄器 不詳	掘り方内 破片	重 (10.5)	—	—	—	断面正方形状を呈する。	
210-6 163	鉄器 不詳	掘り方内 破片	重 (5.3)	—	—	—	断面正方形状を呈する。	
210-7 163	石製品 碁石か	カマド内 完存	長 2.3 幅 2.0 重 8.6	桂質頁岩	—	—	片側扁平である。形状から碁石とも思われる。	
211-1 163	雑器 不詳	カマド・ 覆土内 完存	長 11.8 幅 12.3 重 1090.8	粗粒安山岩	—	—	扁平面が磨減する。	

遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
211-2 163	男瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.5	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。	笠懸系
211-3 164	男瓦	カマド左 袖 ほぼ完形	長 41.4 幅 19.0 厚 2.1	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。割印文字瓦「方」(凹面)。凹面 横骨直粘土板刺ぎ取り痕。側面取り2回。	吉井系
211-4 163	女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面鑿印き(密)縦 横溝で後不定方向の撫で整形。側面取り 2回。端面取り1回。	吉井系
211-5 163	女瓦	カマド・ 廻り方内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色微粒子	中性焰	黄灰	桶巻き作り。凹面横骨痕・粘土板刺ぎ取り痕 有。凸面鑿印き(密)後撫で縦横溝で整形・ 粘土板接合痕有。側面取り3回、端面取 り1回。	栗附系
211-6 163	女瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.4	微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面不定方向の撫で整形。	栗附系
212-1 164	男瓦	カマド右 袖 ほぼ完形	長 38.5 幅 17.2 厚 10.6	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面布合せ目痕・粘土板刺ぎ取り 痕有。側面取り2回、端面取り1回。	栗附系

C区第87号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
213-1 163	土師質土 器 埴	床直層 瓦残存	口 16.0 底 8.6 高 5.3	黒色鉱物粒子 白色微粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	橙	輪縁成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系か

C区第88号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
214-1 163	須恵器 埴	覆土内 瓦残存	口 (14.0) 底 — 高 (3.9)	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。高台欠損後坏に転用。	吉井・藤 岡系
214-2 163	埴 不詳	覆土内 完存	長 9.7 幅 11.9 重 256.5	実質安山岩	—	—	平相面が磨減している。	
214-3 163	羽口	覆土内 破片	—	—	—	—	使用に伴なう色調変化が認められるが、破片 の為、スラダ等は認められない。	
214-4 163	鉄器 刀子	廻り方内 破片	重 (12.5)	—	—	—	刀身の大半を欠損し、茎大半も欠損する。	
214-5 164	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (8.2)	—	—	—	全体に先廻り状で断面正方形状を呈する。	
214-6 163	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (31.5)	—	—	—	断面欠損。断面正方形状を呈する。	
214-7 164	鉄器 不詳	廻り方内 破片	重 (10.6)	—	—	—	断面正方形状を呈する。縦縁側に2ヶ所折れ 曲がる。	
214-8 164	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (4.8)	—	—	—	断面正方形状を呈する。	
215-1 164	埴 不詳	覆土内 完存	長 14.4 幅 5.2 重 674.3	実質玄武岩	—	—	上面が磨減している。	
215-2 164	須恵器 婁	覆土内 破片	厚 1.0	白色鉱物粒子 多量	還元焰	鈍灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。内面は磨減している。	藤岡系
215-3 164	須恵器 婁	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は背陶紋文)。内面はやや磨減している。	栗附系

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目(φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
215-4 164	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色黏物粒子 白色粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面部位の無で整形。側面取り3回、端面取り2回。215-5と同一個体か。	乗附系
215-5 164	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.2	白色黏物粒子 白色粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凸面部位の無で整形。側面取り2回、端面取り1回。215-4と同一個体か。	乗附系
215-6 164	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凸面鈍叩き(密)、磨砂痕有。	乗附系

C区第107号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目(φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
216-1 164	土師質土 器 坏	覆土内 与残存	口 13.4 底 6.5 高 3.4	白色粒子 白色黏物粒子 黒色粒子	酸化焰	橙黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転未切り。内・外面有磨削痕。	乗附系か 藤岡系
216-2 164	須恵器 埴	掘り方内 与残存	口 (14.7) 底 (8.5) 高 6.1	黒色粒子 白色粒子 シルト粒	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
216-3 164	須恵器 蓋	掘り方内 与残存	高 — 底 (16.4) 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転置削り。	秋間系
217-1 165	須恵器 壺	掘り方内 破片	口 (12.0) 最大径 (20.7)	白色粒子 透明黏物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤成形(右回転)。	藤岡系
217-2 182	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 (2.4)	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面鈍叩き(密)後無で整形・磨砂痕有。側面取り3回、端面取り2回。上半部を欠損する。	秋間系
217-3	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (6.9)	—	—	—	上半部を欠損する。	
217-4	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (1.6)	—	—	—	上半部を欠損する。	

C区第108号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目(φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
218-1 164	土師質土 器 坏	床直層 完形	口 13.0 底 5.5 高 3.9	雲母 白色黏物粒子 黒色黏物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転) 底部は回転未切り。内面横りが認められる。	吉井・藤岡系
218-2 165	須恵器 埴	覆土内 破片	厚 1.0	微粒状雲母	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形後無で整形。	乗附系
218-3 165	施釉陶器 緑釉陶	覆土内 破片	厚 0.2	須恵質	良好	緑	轆轤成形(右回転)。	
219-1	須恵器 蓋	覆土内 与残存	口 (7.6) 高 — 口 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。上半部は回転置削り。側面は貼り付け。	秋間系
219-2 165 瓦-411	瓦 雌瓦	カマド内 破片	厚 1.4	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	黄橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。因分寺前建統一意匠。背面には背面竹管を長方形状に成形したものを刺突する。	笠懸系
219-3 165 瓦-215	瓦 女瓦	カマド内 ほぼ完形	長 37.6 幅 24.0 狭 20.6	白色黏物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。段幅き文字瓦「サ」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面取り2回、端面取り2回。	吉井系
219-4 165 瓦-216	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面布目無で滑し・赤色顔料塗布。凸面鈍叩き(密)斜格子叩き。	笠懸系

遺物一覧表

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
219-5 165	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.0	黒色粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縁叩き(密)後撫で整形・磨砂痕有。側面取取り1回。	秋田系
219-6 165	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し、凸面縁叩き(密)後撫で整形。	兼附系

C区第89号住居跡

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
221-1 165	施軸陶器 灰軸段皿	覆土内 瓦残存	口 12.2 底 6.9 高 2.6	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施軸は投掛。	
221-2 165	施軸陶器 灰軸段皿	覆土内 破片	口 13.0 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
221-3 165	施軸陶器 灰軸碗	覆土内 破片	口 15.9 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施軸は投掛。	
221-4 165	施軸陶器 灰軸瓶	覆土内 破片	—	密	良好	白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	
221-5 165	施軸陶器 灰軸瓶	覆土内 破片	—	密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
221-6 165	土 蓋	覆土内 破片	口 18.3 底 — 高 —	微粒状雲母 白色微粒雲母	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外傾する。内・外面紐作り後段微で整形。	古井・藤岡系
221-7 165	須恵器 罎	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	鈍灰	口縁部は外反し、11本1単位の波状文を施す。紐作り轆轤整形(右回転)。	兼附系
221-8 165	須恵器 大甕	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	7本1単位の波状文を施す。紐作り後轆轤整形(右回転)。	古井系
221-9 166	碑 器	覆土内 充存	重 39.7	角閃石安山岩	—	—	全体的に磨き整形により磨滅をしている。	
222-1 166	須恵器 大甕 転用皿	覆土内 破片	厚 1.0	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き)大甕の側面を転用する。周辺部を打ち欠き割れ口を整形する。	藤岡系か 兼附系
222-2 166 瓦-205	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子 シルト粒	還元焰	灰白	平載作り。蓋置き文字瓦何説不能(凹面)。側面取取り2回。	藤岡系
222-3 166	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色粒子 白色粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凸面縁位の撫で整形。側面取取り2回。	兼附系
222-4 166	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	鈍灰	桶巻き造り。凹面模骨痕。凸面縁位の撫で整形。側面取取り2回。	笠懸系
222-5 166	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	橙	平載作り。凸面平行叩き。側面取取り3回。	古井・藤岡系
222-6 166	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	一枚作りか。凸面縁位の撫で整形。側面取取り2回。側面取取り2回。	古井・藤岡系

C区第100号住居跡

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
223-1 166	土師器 罎	床直層 破片	口 (18.2) 底 — 高 —	黒色微粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面側部は蓋削り、口縁部は横撫で、内面は横撫で。	藤岡系
223-2 166	須恵器 高台付杯	覆土内 破片	口 — 底 (9.8) 高 —	白色粒子 黒色粒子 赤色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。削り出し高台。	秋田系
223-3 166	土師質土 器 椀	床直層 破片	口 — 底 (4.6) 高 —	白色微粒子 黒色微粒子 透明微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	

探出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
223-4 166	地軸陶器 灰軸 皿	覆土内 片残存	口 12.5 底 (7.2) 高 (2.3)	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。地軸は没損。	
223-5 166	地軸陶器 灰軸 罎	覆土内 破片	口 — 底 (7.7) 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。地軸は不詳。	
223-6 166	須恵器 瓶	掘り方内 破片	口 — 底 (19.4) 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面ハズが著しい。	秋間系
223-7 166	石製品 砥石	覆土内 破片	幅 3.2 重 112.7	縞沢石	—	—	断面三角形状を呈する。破損品を成形し使用している。手持砥。	
223-8 166	石製品 砥石	床直層 破片	幅 4.6 重 302.8	縞沢石	—	—	置砥。両面からの使用が顕著で中央部が非常に肉薄になり、欠損は最も薄い部分で割れている。	
223-9 166	漆器 不詳	床直層 完存	長 16.4 幅 13.8 重 1271.0	石英閃緑岩	—	—	全体は、扁平で丸く平坦面が磨滅している。	
223-10 166	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (2.2)	—	—	—	利箭の基か。	
223-11 166	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (13.4)	—	—	—	尖端部を欠損する。	
223-12 166	瓦 床直層 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	平織作り。凸凹縦位・不定方向の撫で。側面面取り2回、端部面取り2回。	吉井系	
223-13 166	瓦 床直層 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	平織作り。粘土板接合はZ。側面面取り3回、端部面取り2回。	吉井系	
223-14 166	瓦 床直層 破片	厚 1.1	微粒状雲母 白色微粒子	還元焰	灰	平織作り。凸凹轆轤横撫でと縦位の撫で。	藤岡系	
223-15 166	瓦 床直層 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	平織作り。端部面取り1回。	吉井系	
224-1 166	瓦 床直層 破片	厚 1.8	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	横巻き造り。凹面横骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸凹轆轤横撫で、側面面取り2回。	栗附系	
224-2 166	瓦 床直層 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸凹正格子叩き。側面面取り2回。	笠懸系	
224-3 166	瓦 床直層 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	横巻き造りか。凹面横骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸凹縦位の撫で整形。	栗附系	
224-4 166	瓦 床直層 破片	厚 2.3	黒色粒子	還元焰	灰	横巻き造り。凹面横骨痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸凹叩き(密)後轆轤撫で後又叩き後轆轤再整形。		

C区第110号住居跡

探出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
225-1 167	須恵器 埴	覆土内 片残存	口 12.7 底 5.9 高 5.0	白色微粒子 白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。内面環りが認められる。	藤岡系
225-2 167	須恵器 埴	床直層 片残存	口 13.6 底 7.4 高 5.9	白色鉱物粒子 鉾礫	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内面環りが認められる。	吉井・藤岡系
225-3 167	須恵器 埴	床直層 破片	口 — 底 (5.5) 高 —	雲母 赤色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内面環りが認められる。	藤岡系
225-4 167	羽釜	掘り方内 破片	口 21.1 底 — 高 —	白色粒子 白色微粒子 雲母	酸化焰	橙	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。踵は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
225-5 167	羽釜	掘り方内 破片	口 20.2 底 — 高 —	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。踵は貼り付け。胴部下半・底部は笠削り。吉井型羽釜。	吉井系
225-6 167	地軸陶器 灰軸 罎	掘り方内 破片	最大径 21.8	密	良好	黄灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。下半は回転脱削り。地軸は不詳。	

遺物一覧表

博物館番号 国庫番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
226-1 167	須恵器 壺	床直層 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不正格子叩き・内面 宛具は素文）。内面は磨滅している。 226-2・3と同一個体。	秋間系
226-2 167	須恵器 壺	床直層 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不正格子叩き・内面 宛具は素文）。内面は磨滅している。 226-1・3と同一個体。	秋間系
226-3 167	須恵器 壺	床直層 破片	—	黒色粒子白色 微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面不正格子叩き・内面 宛具は素文）。内面は磨滅している。 226-1・2と同一個体。	秋間系
226-4 167	雑器 不詳	掘り方内 完存	長 12.7 幅 11.0 重 899.8	石英閃緑岩	—	—	平坦面は磨滅している。	

C区第96号住居跡

博物館番号 国庫番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
228-1 167	土師器 坏	床直層 破片	口 (17.1) 底 — 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	型作り成形。底部・体部は削削り、口縁内・ 外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。 口縁直下につけ型痕を残す。内・外面横り。	
228-2 167	土師質土 器 坏	カマド右 袖 片残存	口 11.8 底 5.5 高 2.7	白色粒子 白色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	黄橙	横撫成形（右回転）。底部は回転未切り。	
228-3 167	土師質土 器 坏	床直層 片残存	口 14.5 底 5.8 高 4.0	雲母 白色粒子 赤色粒子	酸化焰	浅黄橙	横撫成形（右回転）。底部は回転未切り。内・ 外面横りが認められる。	
228-4 167	内黒土器 埴 埴	カマド右 袖 片残存	口 9.5 底 5.8 高 3.9	白色粒子 白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	横撫成形（右回転）。付高台。内面横し処理、 叩文を施す。	
228-5 167	内黒土器 埴 埴	カマド左 袖 完形	口 10.7 底 5.5 高 4.4	雲母 白色粒子 赤色粒子	酸化焰	鈍橙	横撫成形（右回転）。付高台。内・外面横し処 理、叩文を施す。内・外面有機質附着。坏部 は型作り成形の可能性もある。	
228-6 167	羽釜 破片	カマド右 袖 破片	口 21.9 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 雲母	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形（右回 転）。罫は貼り付け。胴部は寛削り。吉井型羽 釜。	吉井系
228-7 167	羽釜 破片	床直層 破片	口 (22.1) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 雲母	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形（右回 転）。罫は貼り付け。胴部は寛削り。 吉井型羽釜。	吉井系
228-8 167	羽釜 破片	床直層 破片	口 (22.4) 底 — 高 —	黒色粒子 黒色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形（右回 転）。罫は貼り付け。胴部は寛削り。 吉井型羽釜。	吉井系
228-9 167	羽釜 破片	床直層 破片	口 (23.0) 底 — 高 —	白色粒子 赤色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形（右回 転）。罫は貼り付け。胴部は寛削り。 吉井型羽釜。	吉井系
228-10 168	羽釜 破片	カマド左 袖 破片	口 (23.0) 底 — 高 —	白色粒子 赤色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形（右回 転）。罫は貼り付け。胴部は寛削り。 吉井型羽釜。	吉井系
229-1 167	羽釜 破片	カマド右 袖 破片	口 (24.8) 底 — 高 —	黒色粒子 灰岩 白色粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後撫で整形（右回 転）。罫は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
229-2 167	羽釜 破片	カマド右 袖 破片	—	白色粒子 白色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	紐作り後撫で整形（右回転）。胴部下半は寛削 り。吉井型羽釜。	吉井・藤 岡系
229-3 168	羽釜 破片	カマド左 袖 破片	底 (6.6)	白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	黄橙	紐作り後横撫整形（右回転）。胴部下半は寛削 り。	月夜野系 か 吉井系

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 埋存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
229-4 168	羽蓋	覆土内 破片	口 — 底 (8.2) 高 —	黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍粒	紐作り後輪縁整形(右回転)。胴部は寛帯で。	
229-5 168	曲輪陶器 灰釉脱脂	カマド・ 覆土内 破片	口 — 底 (7.6) 高 —	密	良好	白灰	輪縁成形(右回転)。付高台。曲輪は脱脂。	
229-6 168	漆器 不詳	覆土内 完存	長 10.0 幅 9.6 重 877.7	粗粒安山岩	—	—	小口面に敲打痕が顕著に認められる。平坦面は磨滅する。	
229-7 168	漆器 不詳	掘り方内 完存	長 10.8 幅 9.6 重 788.7	粗粒安山岩	—	—	小口面は全体に敲打痕が認められ、平坦面は磨滅し、両面共に屈みが瓶形状に接続している。	
229-8 168	鉄刀	床直層 破片	重 (11.7)	—	—	—	刀身の大半を欠損する。茎は完存しているが折れ曲がっている。	
229-9 168	鉄器 不詳	カマド・ 覆土内 破片	重 (4.5)	—	—	—	棒状で断面正方形状を呈する。	
229-10 168	鉄釘	覆土内 一部欠損	重 (21.4)	—	—	—	調査後中央部を欠損。頭部は大きい。	
229-11 168 瓦-208	瓦 瓦 瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.8	白色粒子 細白色鉱物粒 子	還元焰	灰	半截作り。葎編き文字瓦「文城」(凸面)、凸面縦位の撫で整形。	吉井系
230-1 168	瓦 男	床直層 破片	厚 2.9	白色微粒子	酸化焰	橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き。側面面取り4回。	兼附系
230-2 168	瓦 男	掘り方内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回。端面面取り2回。	吉井系
230-3 168	瓦 男	床直層 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	還元焰	鈍灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り2回。	兼附系
230-4 169	瓦 女	カマド左 袖 破片	厚 3.2	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り4回。端面面取り1回。	吉井系
230-5 169 瓦-206	瓦 女	掘り方内 瓦残存	幅 15.8 厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。葎編き文字瓦「二」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回。端面面取り2回。	笠懸系
231-1 169 瓦-207	瓦 女	カマド右 袖 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	鈍灰	一枚作り。葎編き文字瓦「八田甲斐女」(凸面)。凸面平行叩き後撫で整形。側面面取り2回。端面面取り2回。	吉井系
231-2 168	瓦 女	カマド左 袖 破片	厚 2.8	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子少	還元焰	灰	一枚作り。凸面鈍叩き(密)。後縦位の撫で整形。	吉井系
231-3 168	瓦 女	カマド右 袖 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端面面取り3回。	吉井系
231-4 169	瓦 女	カマド右 袖 破片	広 28.6 厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り。凹面縦位の撫で整形。側面面取り2回。端面面取り2回。	吉井系
231-5 168	瓦 女	カマド右 袖 破片	厚 2.1	白色微粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面鈍叩き後縦位の撫で整形。側面面取り1回。端面面取り1回。	笠懸系
232-1 168	瓦 女	カマド右 袖 破片	厚 2.2	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子叩き側面面取り2回。端面面取り1回。	笠懸系
232-2 169	瓦 女	掘り方・ 覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子多量	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回。	兼附系
232-3 169	瓦 女	床直層 破片	厚 0.6	微粒状雲母 白色粒子 ダイヤサイト	酸化焰	黒灰 鈍黄橙	一枚作り。凹面磨目有。	吉井・藤岡系

遺物一覧表

C区第97号住居跡

押図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
233-1 169	須恵器 埴	掘り方内 破片	口 — 底 (7.9) 高 —	雲母 白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰 灰白	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。内 面襷りを認める。	藤岡系
233-2 169	土 釜	覆土内 破片	口 26.0 底 — 高 —	細砂粒 黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰 鈍黄橙	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤で整形。	吉井系
233-3 170	須恵器 埴	掘り方内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰 灰白	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面瓦具 は素文) 後轆轤再整形。	秋間系
233-4 169	施軸内器 灰軸皿	カマド・ 覆土内 破片	口 11.8 底 — 高 —	密	良好 灰白	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。施 軸は浸掛。	—
234-1 169	羽 釜	覆土内 破片	口 (26.8) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子	酸化焰 鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。脚は貼り付け。吉井型弱基。	吉井系
234-2 169	施軸内器 灰軸壺	掘り方内 破片	口 — 底 — 高 —	密	良好 灰白	紐作り後轆轤整形 (右回転)。外面施軸は浸掛。	吉井系
234-3 170	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰 暗灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
234-4 170	瓦 男瓦	カマド左袖 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰 暗灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
235-1 170 瓦-209	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色微粒子	中性焰 黄灰	一枚作り。屋縁ま文字瓦「日」(凹面)。凹面 粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側 面部取り3回。	吉井系
235-2 170	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰 灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面不定 方向の撫で。側面部取り2回。	吉井系
235-3 170	瓦 女瓦	カマド左袖 片残存	厚 1.2	微粒状雲母	還元焰 灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面隅叩 き後(密)後撫で整形。側面部取り1回、端部 面取り1回。	藤岡系

C区第99号住居跡

押図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
236-1 170	須恵器 坏	カマド左袖 破片	口 (11.1) 底 (6.3) 高 3.8	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
236-2 170	土師質土器 坏	覆土内 破片	口 (11.6) 底 (6.1) 高 2.8	白色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰 淡黄	轆轤成形 (右回転)。底部は覆削り。	吉井・藤岡系
236-3 170	須恵器 坏	掘り方内 破片	口 (12.5) 底 (6.7) 高 3.5	白色粒子 赤色粒子	還元焰 灰白	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
236-4 170	須恵器 坏	覆土内 片残存	口 13.6 底 (6.4) 高 3.3	白色微粒子 雲母	還元焰 灰白	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
236-5 170	須恵器 坏	カマド左袖 片残存	口 (13.2) 底 (8.6) 高 3.6	赤色粒子 雲母	中性焰 灰黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
236-6 170	須恵器 埴	床直副 破片	口 — 底 — 高 —	透明鉱物粒子 赤色粒子 白色粒子	中性焰 灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
236-7 170	土師質土器 足高台付 埴 脚部	覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰 橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系か
236-8 170	須恵器 皿	カマド右袖 破片	口 (13.6) 底 (7.3) 高 2.5	白色粒子	還元焰 灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系

検出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (個)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
236-9 170	須恵器 高台付坏	床直割 破片	口 底 11.2 高 —	白色微粒子多	還元焰	灰	輪轆成形(右回転)。削り出し高台。	秋間系
236-10 170	須恵器 高台付坏	床直割 破片	口 底 13.0 高 —	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	輪轆成形(右回転)。付高台。	秋間系
236-11 170	須恵器 高台付坏	覆土内 破片	口 27.0 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	輪轆成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系
237-1 170	須恵器 壺	床直割 破片	—	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	縄作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は放射状)。	秋間系
237-2 170	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	縄作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は不詳)後輪轆再整形。内面は磨減する。転用説あり。	秋間系
237-3 170	羽蓋	覆土内 破片	口 23.2 底 — 高 —	白色微粒子 黒色微粒子 ダイサイト	酸化焰	橙	口縁部は内傾する。縄作り後輪轆整形(右回転)。罫は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
237-4 170	羽蓋	覆土内 破片	口 24.0 底 — 高 —	白色微粒子 黒色微粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。縄作り後輪轆整形(右回転)。罫は貼り付け。罫部は寛削り。	藤岡系
237-5 170	施物陶器 縁輪破片	覆土内 破片	—	密	良好	オリブ灰	輪轆成形(回転方向不詳)。軟質で釉調は淡い。	
237-6 170	雑器 不詳	覆土内 完存	長 4.9 幅 2.8 重 49.3	家買安山岩	—	—	上面磨減する。	
237-7 170	雑器 不詳	覆土内 完存	長 5.2 幅 4.7 重 135.3	粗粒安山岩	—	—	上面磨減する。	
237-8 170	雑器 不詳	覆土内 完存	長 8.3 幅 5.2 重 135.0	粗粒安山岩	—	—	上面磨減する。	
237-9 170	雑器 不詳	覆土内 完存	長 9.1 幅 4.9 重 300.4	粗粒安山岩	—	—	上面磨減する。	
237-10 171	鉄器 刀子	覆土内 破片	重 (3.7)	—	—	—	刀身及び茎を欠損する。	
237-11 171	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (2.8)	—	—	—	断面長方形を呈する。尖端側を欠損する。	
237-12 171	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (5.0)	—	—	—	断面長方形を呈する。尖端側を欠損する。	
237-13 171	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (10.7)	—	—	—	断面長方形を呈する。尖端側を欠損する。	
237-14 171	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (5.3)	—	—	—	断面正方形状を呈する。棒状を示す。	
237-15 170	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (4.7)	—	—	—	断面長方形状を呈し、やや先細り状である。	
237-16 171	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (13.8)	—	—	—	二本が軸で締着している。右上左側は断面長方形状を呈し右側は正方形状を呈する。尚且上右側は下端が折れ曲がっている。	
237-17 171	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (1.7)	—	—	—	全体的に欠損する。遺存部では、断面三角形状を呈するが、田状は方形を呈したと思われる。	
237-18 171	瓦 盤瓦	床直割 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	一本作り。瓦当部を欠損する。	笠懸系
237-19 171	瓦 男瓦	床直割 破片	厚 0.5	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	手載作り。凸面縦位の撫で整形。側部は撫で、	秋間系
237-20 171	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰白	手載作り。凸面輪轆横撫で整形。側面取り1回、端部取り2回。	吉井系
237-21 171	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色微粒子 シルト質	酸化焰	黄緑	一枚作り。凸面縦叩き(密)後縦位の撫で整形。	栗附系

遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
238-1 171 瓦-210	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。鹿縮き文字瓦「辛」(凸面)。側面 面取り3回、端部面取り1回。	吉井系
238-2 171	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面罫印き。	笠懸系
238-3 171	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色微粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面布目撫で消し後縦位の撫で整 形。凸面斜格子印き。端部面取り4回。	笠懸系
238-4 171	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.1	白色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面斜格子印き。	笠懸系
238-5 171	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面縦位の撫で整形。凸面縦横 撫で。側面面取り2回。	吉井系
238-6 171	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰	橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。凹面は霧状。	吉井系

C区第104号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
239-1 171	土器 環	掘り方・ 覆土内 破片	口 (11.8) 底 (5.1) 高 3.8	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	体部・体部下半は手持ち足削り。	
239-2 171	内黒土器 埴	掘り方・ 覆土内 破片	口 (13.9) 底 — 高 —	赤色粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。内面磨し処理・暗文を施 す。	藤岡系
239-3 171	土師質土 器 環	カマド内 破片	口 (14.2) 底 (6.8) 高 4.4	透明鉱物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)、底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
240-1 171	土師質土 器 埴	床直層 残存	口 — 底 (6.7) 高 —	雲母 透明鉱物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	
240-2 171	内黒土器 埴	掘り方 覆土内 破片	—	黒色粒子 黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内 面磨し処理・暗文を施す。	
240-3 171	鉄器 釘	カマド内 完存	重 (5.3)	—	—	—	全体に短い。	
240-4 171	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 2.0	黒色粒子	酸化焰	白灰	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り 3回。	秋間系
240-5 172 瓦-213	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.6	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍灰	一枚作り。鹿縮き文字瓦「山岡」(凹面)。凸 面縦位の撫で整形。側面面取り2回、端部面 取り1回。	吉井系
240-6 172	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.7	黒色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面罫印 き(密)。磨砂痕有。	秋間系
240-7 172	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面平行印き。	吉井系
240-8 171	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面に布の圧 痕有。側面面取り2回。	吉井・藤 岡系
240-9 171	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面粘土 板刺ぎ取り痕、縦位の撫で整形。側面面取り 3回。	笠懸系

C区第105号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
241-1 172	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 —	黒色粒子 赤色粒子 雲母	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
241-2 172	須恵器 環	覆土内 破片	口 (5.5) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 透明鉱物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系

C区 (104・105・106号住居跡)

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
241-1 172	羽蓋か	覆土内 破片	口 一 高 (7.9) 高 一	黒色鉱物粒子 微粒状雲母 白色粒子	酸化焰	黄褐色	紐作り。外面胴部は削削り、内面胴部は擦撫で。	吉井・藤 岡系
241-4 172	甕 不器	カマド右袖 瓦残存	幅 5.0 重 295.7	砂岩	—	—	平直面が磨滅する。片側は打撃による剥離。	
241-5 172	石製品 碁石か	カマド右袖 瓦残存	長 1.7 幅 1.6 重 3.4	石英	—	—	発色は褐色よく出る。同様な遺物の中では最も小さい。	
241-6 172	鉄器 匙	覆土内 一部欠損	重 (9.3)	—	—	—	肥の先端側と柄の上端部を欠損する。	
241-7 172	瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縁縁無で。側面面取り3回、端部面取り2回。	兼助系か 吉井系
241-8 172	瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄褐色	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縁叩き(密)後撫で整形。	兼助系
242-1 172	酒器 甕	カマド右袖 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後縁縁無。凸面平行叩き。内面は磨滅している。	兼助系
242-2 172	瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 多量	還元焰	灰	一枚作り。凸面縁位の強で整形。端部面取り1回。	兼助系

C区第106号住居跡

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
246-1 172	土器 壺	カマド内 完形	口 13.2 底 9.1 高 4.1	凝灰岩 ゲイサイト 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄褐色	型作り成形。底部・体部は削削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い彫溝を残す。	兼助系
246-2 172	須恵 甕	カマド内 破片	口 一 底 (7.9) 高 一	黒色粒子	還元焰	灰白	縁縁成形(右回転)。底部は回転糸切り後指撫でを施している。	伏見系
246-3 172	男瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面縁位の寛撫で。凸面縁位の撫で整形。側面面取り4回、端部面取り2回。	吉井系
247-1 173	玉縁付男瓦	カマド内 瓦残存	厚 1.1	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縁縁無で。側面面取り3回、端部面取り2回。	伏見系
247-2 172	瓦	カマド内 破片	厚 2.1	白色粒子	酸化焰	橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縁縁縁無で。側面面取り3回、端部面取り2回。	笠懸系
247-3 172	瓦	カマド内 瓦残存	狭 11.0 幅 14.6 厚 2.3	白色鉱物粒子 黒色粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	半截作り。凸面縁叩き(密)後撫で整形。玉縁部は縁縁縁無で整形。側面面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
247-4 172	瓦	カマド内 瓦残存	厚 1.6	白色鉱物粒子 砂粒	酸化焰	黄褐色	半截作り。凸面縁縁縁無で。側面面取り3回、端部面取り3回。	笠懸系
248-1 173	男瓦	カマド内 瓦残存	狭 6.2 幅 8.5 厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縁位の寛削り後縁縁縁無で。側面面取り2回、端部面取り1回。	笠懸系
248-2 173	瓦	カマド内 完形	広 27.3 長 20.0 長 39.2	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縁位の撫で整形。内外面とも自然縁縁。側面面取り3回、端部面取り2回。	吉井系 5.3kg
249-1 173 瓦-214	瓦	カマド内 瓦残存	狭 13.0 長 23.6 幅 15.4	白色鉱物粒子 ゲイサイト	還元焰	灰白	一枚作り。刷印文字瓦「富」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縁位の平撫で。一部に布目・荒磨り。側面面取り3~4回。	吉井系 6.1kg
249-2 174	瓦	カマド内 破片	厚 2.1	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄褐色	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子叩き後縁縁で縁位の平撫で整形。	笠懸系
249-3 174	瓦	カマド内 破片	厚 2.2	白色微粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横脊痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縁叩き(密)。	笠懸系
249-4 174	瓦	カマド内 細片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。側面面取り4回。端部面取り1回、端部は寛撫で。	笠懸系
249-5 174	瓦	カマド内 細片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰	黄褐色	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き。側面面取り2回。	笠懸系
249-6 174	瓦	カマド内 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	黄褐色	一枚作り。凹面布目撫で消し後縁位の撫で整形。側面面取り3回、端部面取り1回。	笠懸系
249-7 174	瓦	カマド内 破片	厚 2.5	白色微粒子 白色粒子	酸化焰	黄褐色	桶巻き造り。凹面横脊痕・粘土板剥ぎ取り痕有。凸面縁縁縁無で整形。側面面取り2回。	吉井系

遺物一覧表

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
250-1 174	瓦 女瓦	カマド内 瓦残存	厚 2.3	白色黏物粒子 白色粒子 ダイヤサイト	酸化焰	斜橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系

C区第121号住居跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
251-1 174	土師質土 罌	覆土内 破片	口 (9.2) 底 (5.3) 高 2.1	白色粒子 赤色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	
251-2 174	土師質土 罌	床直層 瓦残存	口 (12.2) 底 — 高 —	黒色黏物粒子 白色粒子 赤色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損。	
251-3 174	土師器 土差	床直層 破片	—	黒色黏物粒子 砂粒多 雲母	酸化焰	橙	紐作り後、外面縦位の撫で、内面横位の篋撫で整形。	
251-4 174	石器 火打ち石	覆土内 破片	重 16.1	石英	—	—	使用痕は認められない。母岩から採取する。母岩が大きい。	
251-5 174	雑器 不詳	床直層 ほぼ完存	幅 7.2 厚 4.5 重 759.8	石英閃緑岩	—	—	平面が磨滅し、上端破打により剥落している。	
251-6 174	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.1	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面布目撫で消し。凸面隅叩き後轆轤横撫で。側部面取り3回。	乗附系
251-7 174	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色黏物粒子	還元焰	橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面隅叩き後撫で整形。	乗附系
251-8 174	瓦 女瓦	床下ビッド 破片	厚 2.5	白色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面撫で整形。	乗附系
251-9 174	瓦製品 罌	覆土下層	厚 4.6	白色黏物粒子 円礫微量 夾少量	酸化焰	浅黄橙	図上上面は磨滅が認められない。裏面側が磨滅している。上面側は辺にそって、撫で整形を施し、側部は篋撫で整形を施す。	吉井・藤 同系

C区第128号住居跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
252-1 175	土師器 罌	床直層 破片	口 21.9 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色黏物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外周胴部・口縁部は横撫で、内面胴部は篋削り。	藤岡系
252-2 175	土師器 罌	覆土内 破片	口 22.0 底 — 高 —	白色黏物粒子 白色微粒子 雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外周胴部・口縁部は横撫で、内面胴部は篋削り。	藤岡系
252-3 175	須恵器 小瓶	覆土内 破片	口 — 底 7.6 高 —	黒色粒子	還元焰	黒灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。底部周辺回転篋削り。内面底部に自然軸附着。	
252-4 175	鉄器 刀子	覆土内 破片	重 (7.6)	—	—	—	鋒、刀身の茎部以下を欠損する。重ねが薄い。	
252-5 174	雑器 不詳	床直層 完存	長 12.4 幅 5.3 重 473.1	粗粒安山岩	—	—	上面側が磨滅する。	
252-6 175	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。全体に漆喰被熱有。側部面取り2回、端部面取り1回。	笠懸系
252-7 176	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色黏物粒子 赤色粒子 白色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面隅叩き(密)後縦位の篋削り、轆轤横撫で整形。粘土板接合痕はS。	吉井系
252-8 175	瓦 女瓦	覆土内 破片	幅 28.0 長 36.8 厚 2.3	白色黏物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面隅叩き(密)後轆轤横撫で整形。側部面取り3回、端部面取り3回。	吉井系

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
253-1 175	瓦 女瓦	床直層 瓦残存	長 40.0 厚 2.0	白色藍物粒子 透明藍物粒子	還元焰	灰	縁巻き造り。凹面横骨直・粘土板割ぎ取り直有。凸部隅叩き(密)後納輪横撫で整形。側面 面取り3回、端部面取り2回。	東附系
253-2 176	瓦 女瓦	床直層 瓦残存	長 40.8 厚 1.3	白色藍物粒子 透明藍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り直、凸部隅叩 き(密)後撫で整形。側面面取り1回、端部面 取り1回。粘土板接合痕状のものが見られる。	東附系
254-1 175 瓦-564	瓦 女瓦	床直層 瓦残存	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作りか。刻印文字瓦「佐」(凸面)。凹面 寄木痕。凸面板目叩き・斜格子叩き。側部面 取り2回。487-14 (瓦-557)と接合。	笠懸系 瓦-222

C区第109号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
255-1 176	土師器 坏	覆土内 破片	口 (15.2) 底 — 高 3.8	白色粒子 黒色藍物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は型削り。口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁直下に甘い型傷を残す。	藤岡系
256-2 176	土師器 罎	覆土内 破片	口 (20.3) 底 — 高 —	白色藍物粒子 黒色藍物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。体部・底部は型削り、口 縁部・内外面は横撫で。	吉井・藤 岡系
255-3 176	須恵器 蓋	掘り方・ 覆土内 破片	口 (18.2) 柄 — 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。 上半部は回転旋削り。受部は折り返し。外面 は自然釉附着。	秋間系
257-1 176	須恵器 坏	掘り方内 破片	口 (12.0) 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。外面自然釉附着。	
257-2 176	須恵器 盤	掘り方内 破片	口 (20.0) 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。底部は回転旋削 り。	東附系か 吉井・藤 岡系

C区第103号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
257-3 176	土師質土 器 埴	床直層 瓦残存	口 (10.6) 底 (5.0) 高 4.7	白色粒子 黒色藍物粒子	中性焰	灰黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面磨りが 認められる。	吉井・藤 岡系
257-4 176	土師質土 器 埴	覆土内 瓦残存	口 13.0 底 7.7 高 6.4	黒色藍物粒子 透明藍物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系か
257-5 176	須恵器 埴	覆土内 瓦残存	口 14.2 底 6.7 高 5.1	黒色粒子 グライタイト	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
257-6 176	須恵器 埴	床直層 破片	口 — 底 (7.1) 高 —	微粒状雲母	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
257-7 176	須恵器 罎	覆土内 破片	口 22.7 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。縦作り後轆轤整形(右回 転)。内面自然釉附着。	東附系
258-1 176	羽蓋	覆土内 破片	口 (24.2) 底 — 高 —	黒色粒子 白色藍物粒子	中性焰	灰黄	口縁部は直立する。縦作り後轆轤整形(右回 転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。258-2と 同一個体の可能性有。	吉井系
258-2 176	羽蓋	床直層 破片	口 25.0 底 — 高 —	黒色藍物粒子 白色微粒子	中性焰	灰黄	口縁部は直立する。縦作り後轆轤整形(右回 転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。258-1と 同一個体の可能性有。	吉井系
258-3 176	石製品 紙石	破片	厚 4.9 重 491.7	磁沢石	—	—	石材は軟質で全体に磨減する。底面は二面あ り、いづれも裏紙として使っている。	
258-4 176	雑器 不詳	掘り方内 ほぼ完存	幅 5.9 厚 5.0 重 587.8	砂岩	—	—	上面を磨減し、両面に敲打痕が認められる。	

遺物一覧表

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	厚目 直径 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
259-1 176	漆器 不詳	覆土内 片残存	厚 3.8 重 1196.6	雲母石英片岩	—	—	上面を磨滅する。	
259-2 176	瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色微粒子 黒雲母	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面輪轆 横撫で整形。側面取り3回、端部面取り1回。	秋間系
259-3 177	瓦	床直層 破片	厚 1.7	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面輪轆 横撫で。側面取り3回、端部面取り1回。	秋間系
259-4 176 瓦-212	瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。底指き文字互判誤不施(凸面)。凸 面輪轆横撫で整形。側面取り3回。	笠懸系
259-5 176	瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦位 の撫で整形。	栗附系
259-6 176	瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色鉱物微粒子	酸化焰	浅黄橙 黄橙	横巻き造り。凹面横骨痕・粘土板刺ぎ取り痕 有。凸面鑿印き(密)。側面取り3回。	栗附系

C区第147号住居跡

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	厚目 直径 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
260-1 177	土師質土 器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (6.6) 高 —	白色微粒子	酸化焰	黄橙	輪轆成形(右回転)。底部は回転糸切り。内面 有機質附着。	秋間系
260-2 177	羽蓋	覆土内 破片	口 24.0 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物微粒子 白色鉱物微粒子	酸化焰	橙	口縁部は直立する。紐作り後輪轆整形(右回 転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井・藤 岡系
260-3 177	瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物微粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦位 の撫で整形。側面取り4回、端部面取り2 回。	吉井系
260-4 177	瓦	覆土内 破片	厚 2.7	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り 1回。	笠懸系
260-5 177	瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色鉱物微粒子 黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面寄木痕。凸面鑿印き(密)。側 面取り3回。	秋間系
260-6 177	瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面鑿印き(密) 後撫で整形。	笠懸系

C区第113号住居跡

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	厚目 直径 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
261-1 177	土師質土 器 埴	掘り方内 ほぼ完形	口 12.6 底 5.7 高 4.9	白色鉱物微粒子 ダイヤサイト 白色微粒子	中性焰	灰黄	輪轆成形(右回転)。付高台。内・外面に環り が認められる。	吉井・藤 岡系
261-2 177	土師質土 器 埴	床直層 片残存	口 (16.3) 底 — 高 —	白色微粒子 白色鉱物微粒子 黒色鉱物微粒子	中性焰	灰黄	輪轆成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内 面環りが認められる。	栗附系
261-3 177	土師質土 器 埴	掘り方内 破片	口 (16.4) 底 — 高 —	黒色微粒子	酸化焰	浅黄橙	輪轆成形(右回転)。262-1と同一個体か。	藤岡系か 栗附系
262-1 177	土師質土 器 埴	掘り方内 破片	口 (16.5) 底 — 高 —	黒色微粒子	酸化焰	浅黄橙	輪轆成形(右回転)。261-3と同一個体か。 298-2と接合。	藤岡系か 栗附系
262-2 177	高輪陶器 灰 輪 埴	覆土内 片残存	口 (12.9) 底 (7.5) 高 3.9	密	良好	白灰	輪轆成形(右回転)。付高台。施釉は没損。	
262-3 177	高輪陶器 灰 輪 埴	掘り方内 片残存	口 13.0 底 7.6 高 3.6	密	良好	白灰	輪轆成形(右回転)。付高台。施釉は没損。	
262-4 177	高輪陶器 緑 輪 埴	掘り方・ 覆土内 破片	口 — 底 (7.0) 高 —	密	良好	オリーブ 沢	輪轆成形(右回転)。付高台。施釉は没損。	

C区 (147・113・114号住居跡)

探出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 目録 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
262-5 177	須恵器 甕	覆土内 破片	頸 13.6 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	還元焰	黒灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。頸部直下は窪有り。	藤岡系か 乗附系
262-6 177	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 11.1 高 —	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後叩き整形(右回転)。	乗附系
262-7 177	須恵器 羽釜か	覆土内 破片	口 — 底 (17.0) 高 —	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部下半・底部は窪有り。	吉井系
262-8 177	須恵器 大甕	掘り方内 破片	口 (18.6) 底 (15.0) 高 —	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部は平行叩き。下半内外面は使用に伴う磨減。	乗附系
262-9 177	雑器 不詳	掘り方内 完存	長 5.2 幅 3.1 重 37.9	流紋岩	—	—	平坦面磨減する。	
262-10 177	鉄器 鋳り金具か	覆土内 完形	重 (6.6)	—	—	—	一辺2.2cmの正方形を呈し、縁辺に沿って溝を施している。	
262-11 177	石造品 不詳	掘り方内 破片	幅 14.6 厚 3.3 重 1439.3	粗粒安山岩	—	—	炭素されている。平坦面が磨減している。	
263-1 178	須恵器 土師質 甕	床直層 片残存	口 (18.6) 底 (16.4) 高 31.0	白色粒子 白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
263-2 177	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面粘土板切り取り。凸面叩き(密)後撫で・轆轤横撫で整形。側面取り2回、端部面取り2回。	乗附系 き(密)後撫で・轆轤横撫で整形。側面取り2回、端部面取り2回。
263-3 178	瓦 女瓦	掘り方内 ・覆土内 破片	厚 1.8	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	一枚作り。凸面叩き後縦位の撫で整形。側面取り1回、端部面取り2回。	笠懸系
263-4 178	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.1	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面叩き(密)後縦位の撫で整形。側面取り2回、端部面取り2回。	藤岡系
263-5 178	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.1	白色微粒子 ローム	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面叩き(密)。側面取り2回。	笠懸系
264-1 178	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 黒色微粒子	還元焰	紺灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。端部面取り2回。	吉井系

C区第114号住居跡

探出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 目録 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
266-1 178	土師質土 器 埴	床直層 完形	口 13.8 底 7.7 高 6.2	黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	二次焼成	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
266-2 178	土師質土 器 埴	カマド右 袖 完形	口 (14.7) 底 8.8 高 7.1	黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	二次焼成	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
266-3 178	土師質土 器 埴	覆土内 破片	口 (14.8) 底 — 高 —	黒色粒子 赤色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	二次焼成	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系か
266-4 178	土師質土 器 埴	床直層 完形	口 (15.1) 底 — 高 —	雲母 黒色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	二次焼成	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系か
266-5 178	須恵器 大甕	覆土内 破片	厚 1.0	シルト質 細砂粒 白色粒子	還元焰	白灰	6本1単位の波状文を施す。紐作り後轆轤整形(右回転)。	藤岡系
266-6 178	石製品 碁石か	床直層 完存	長 2.0 幅 2.0 重 6.9	石英	—	—	石材の色が白いため碁石と思われる。	
266-7 178	施軸陶器 灰軸 輪花文段皿	掘り方・ 覆土内 破片	口 — 底 6.7 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施軸は提線。	266-8と同一個体

遺物一覧表

邦国番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
266-8 178	陶輪内器 灰釉 菊花文波風	床直層 破片	口 13.9 底 (6.2) 高 3.5	黒	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。陶輪は没出。	266-7と同一個体
266-9 178	陶輪内器 小瓶	床直層 ほぼ完形	口 — 底 6.3 高 —	黒	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。陶輪は没出。	
266-10 178	土師質土 器 瓶	床直層 破片	最大径 25.4 底 13.0	白色粒子	酸化焰	二次焼成	紐作り轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
266-11 178	瓦 瓦	カマド右袖 破片	厚 2.3	シルト質 白色微粒子	還元焰	灰	手轆作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行叩き後荒撫で整形。側面面取り2回。	樂附系
266-12 179	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 1.9	白色微粒子 微粒状雲母 白色微粒子	還元焰	黒灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面細叩き(密)。	吉井・藤岡系
266-13 178	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 1.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕・布目撫で消し。凸面粘土板割ぎ取り痕・叩き(密)。側面面取り2回。	笠懸系
267-1 179	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 1.7	黒雲母 白色微粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。	吉井系

C区第115号住居跡

邦国番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
268-1 179	土師器 壺	覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 3.3	黒色微粒子 透明微粒子	酸化焰	黄橙	型作り後荒撫で整形。口縁・内面横撫で。口縁直下・底部に型痕を残す。	藤岡系
268-2 179	酒器 壺	覆土内 破片	口 (9.3) 底 (5.1) 高 4.1	白色微粒子 赤色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。外面横りが認められる。	秋間系
268-3 179	酒器 壺	覆土内 破片	口 (11.8) 底 (8.0) 高 3.0	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。外面自然輪彫着。	秋間系
268-4 179	酒器 壺	カマド右袖 写残存	口 12.4 底 5.8 高 3.9	白色粒子 雲母	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
268-5 179	酒器 壺	覆土内 破片	口 (12.8) 底 (5.6) 高 3.5	白色粒子 黒色粒子 雲母	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
269-1 179	酒器 壺	床直層 写残存	口 13.7 底 6.2 高 3.9	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	樂附系か
269-2 179	酒器 壺	床直層 ほぼ完形	口 14.0 底 7.2 高 5.3	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
269-3 179	酒器 壺	掘り方内 破片	口 14.0 底 — 高 —	黒色粒子 白色微粒子 雲母	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	樂附系か 藤岡系
269-4 179	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (14.2) 底 — 高 —	白色粒子 黒色微粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系か
269-5 179	土師器 壺	掘り方内 破片	口 (17.0) 底 — 高 —	黒色粒子 黒色微粒子	酸化焰	鈍黄褐色	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は荒撫で。	藤岡系
269-6 179	土師器 壺	覆土内 破片	口 (17.0) 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子 黒色微粒子	酸化焰	黄橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は篋削り。口縁部は横撫で。内面胴部は荒撫で。	藤岡系
269-7 179	土師器 壺	床直層 写残存	口 (20.1) 底 — 高 —	黒色粒子 黒色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。体部・底部は荒撫で。口縁部・器内面は横撫で。肩部は横位の篋削り。胴部は斜位の荒撫で。	藤岡系

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目(単位)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
269-8 179	須恵器 高台付甕	掘り方内 破片	—	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。瓶の可能性もある。	秋田系
270-1 179	須恵器 横瓶か	カマド内 破片	最大径 27.7	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後叩き整形。内面兎耳は素文。外面は轆轤写形。272-6と同一個体か。	栗附系
270-2 179	須恵器 瓶	掘り方内 破片	最大径 17.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	栗附系
270-3 179	雑器 不詳	掘り方・ 覆土内 完存	長 8.8 幅 5.7 重 190.8	粗粒安山岩	—	—	上面磨減する。	
270-4 179	鉄器 刀子	カマド内 破片	重(1.8)	—	—	—	鋒及び茎方向を欠損する。	
270-5 179	鉄器 刀子	掘り方内 破片	重(13.9)	—	—	—	刀身は研ぎ減りが非常に著しく、研ぎ減っている。茎は身幅が変わらず先端部を欠損するが270-6は欠損の茎と考えられる。	
270-6 179	鉄器 不詳	カマド内 破片	重(5.4)	—	—	—	両端を欠損する。270-5の茎の可能性もある。	
270-7 179	鉄器 釘	掘り方内 破片	重(25.6)	—	—	—	尖端を欠損する。断面正方形状を呈する。全体に歪んでいる。	
270-8 179	石器 鏃	覆土内 完存	身幅 3.4 重ね 0.8 重 1.2	黒曜石	—	—	鋒の尖端を欠損する。無茎平根三角形動体。	
270-9 179 瓦-217	瓦 男瓦	掘り方内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	手載作り。刻印記号互同心円状(凸面)。凸面縦位の無で整形。側面取り2回、端部面取り2回。	吉井・藤岡系
270-10 179	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	酸化焰	淡黄橙	一枚作り。凸面罫叩き(密)後撫で整形。側面取り1回、端部面取り1回。	吉井系
270-11 180	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 黒色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り3回。	吉井系
270-12 180	瓦 瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板割り取られ。凸面罫叩き(密)後撫で整形。側面取り1回。	吉井・藤岡系

C区第116号住居跡

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目(単位)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
271-1 180	土師質土 壺	覆土内 破片	口 (12.0) 底 (5.2) 高 4.3	微粒状雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面底部に横りが認められる。	栗附系か 藤岡系
271-2 180	須恵器 坏	床直層 完形	口 12.2 底 5.1 高 3.7	黒色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面に横りが認められる。	吉井・藤岡系
271-3 180	土師質土 坏	カマド左袖 ほぼ完形	口 13.0 底 5.9 高 4.0	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面に横りが認められる。	栗附系か 藤岡系
271-4 180	土師質土 壺	カマド左袖 瓦残存	口 15.5 底 7.6 高 5.7	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙 白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面に横りが認められる。	栗附系か 藤岡系
272-1 180	土師質土 壺	床直層 破片	口 — 底 8.3 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
272-2 180	須恵器 小瓶	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面に設けられた横りが認められる。	秋田系
272-3 180	須恵器 小瓶	覆土内 破片	最大径7.3	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。自然釉附着。	秋田系
272-4 180	須恵器 壺	床直層 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面兎耳は青濁塗文)。	秋田系
272-5 180	須恵器 壺	覆土内 破片	—	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面兎耳は素文)。	秋田系
272-6 180	須恵器 瓶	床直層 破片	—	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面兎耳は素文。外面は轆轤再整形。横風の可能性有。270-1と同一個体か。	栗附系

遺物一覧表

探出番号 図帳番号	種別 器種	出土位置 保存状態	寸目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
272-7 180	加軸陶器 灰釉瓶	床直層 与残存	口 (16.8) 底 (7.8) 高 6.3	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。外面底部に墨書「衣」有。	
272-8 180	石製品 砥石	床直層 破片	幅 1.9 厚 1.9 重 20.0	紫沢石(流紋岩)	—	—	面が粗れている。非常に小型の物である。上面が磨滅する。	
272-9 180	石製品 砥石	床直層 完存	長 1.9 幅 1.7 重 2.6	珠寶安貫岩	—	—	比較的扁平である。	
272-10 180	磨器 不詳	床直層 与残存	幅 5.5 厚 5.9 重 770.1	砂岩	—	—	上面が磨滅する。尖端欠損する。	
272-11 180 瓦-412	瓦 殿瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。男瓦部は半載作り。凸面版位の側で整形。	笠懸系
272-12 181 瓦-220	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦端き文字瓦判読不能(凹面)。	吉井系
273-1 180 瓦-567	瓦 字瓦	床直層 破片	厚 3.5	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右行唐草文。外区に圈線を廻らす。428-1? (瓦-487)と接合	吉井系 瓦-483
273-2 180 瓦-218	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦端き文字瓦「神」(凹面)。	乗附系
273-3 181 瓦-219	瓦 女瓦	床直層 与残存	厚 2.9	白色粒子 白色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。瓦端き文字瓦「九」(凸面)。端部面取り2回。	吉井系
273-4 181	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色粒子 白色微粒子 微粒状器母	酸化焰	橙	半載作り。凹面布合せ目肌。凸面不定方向の側で整形。	笠懸系
273-5 181	瓦 男瓦	床直層 与残存	幅 11.3 厚 2.0	白色粒子	明橙	半載作り。凸面正格子叩き。側面取り2回。端部面取り3回。	乗附系	
273-6 181	瓦 男瓦	カマド・掘り方内 破片	幅 15.4 厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰褐	半載作り。凸面轆轤腹。側面取り2回。	笠懸系
274-1 181	瓦 女瓦	カマド右軸 破片	厚 2.3	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目無で消し。版位の側で整形。凸面叩き後板目叩き。側面取り2回。	笠懸系
274-2 181	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面叩き。	笠懸系
274-3 181	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面貼土板割ぎ取り肌。凸面丁字總叩き。側面取り2回。	秋間系
274-4 181	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面布目無で消し。凸面板目叩き。側面取り1回。端部面取り2回。	笠懸系
274-5 181	瓦 女瓦	カマド 破片	厚 2.6	白色粒子 白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面轆轤腹で有。凸面正格子叩き後側で整形。	乗附系

C区第107・119号住居跡

探出番号 図帳番号	種別 器種	出土位置 保存状態	寸目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
275-1 181	土師質土 器 坏	床直層 与残存	口 (9.8) 底 5.0 高 3.1	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系か
275-2 181	須恵系 器 坏	覆土内 与残存	口 (13.1) 底 (7.8) 高 3.1	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
275-3 181	土師質土 器 埴	床直層 与残存	口 (15.0) 底 7.8 高 4.8	黒色鉱物粒子 白色粒子 細礫	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系か

C区 (107・119・124・134号住居跡)

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
275-4 181	土師質土器 足高台付 埴 部	床直層 与残存	口 底 高 — — 13.5	白色磁物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
275-5 182	瓦 瓦	覆土内 破片	厚 — — 1.6	白色磁物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	手轆作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤 撫で、鑄叩き(密)後撫で整形。側面取りり1 回、端面取りり1回。	吉井系
275-6 181	瓦 瓦	床直層 破片	厚 — — 2.0	白色磁物粒子 透明磁物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面木目 叩き後撫で整形。端面取りり2回。	吉井系
275-7 182	瓦 瓦	床直層 破片	厚 — — 2.0	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面T字 鑄叩き(密)後履位の撫で整形。側面取りり2 回、端面取りり2回。276-1と同一個体か。	秋岡系
276-1 女	瓦 瓦	床直層 破片	厚 — — 2.4	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面鑄叩 き(密)・磨砂痕有。側面取りり2回、端面取 りり2回。275-7と同一個体か。	秋岡系

C区第124号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
278-1 182	須恵器 埴	掘り方内 破片	口 底 高 — — (6.8)	白色粒子 白色微粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
278-2 182	須恵器 壺	カマド・ 覆土内 破片	口 底 高 — — (20.5)	白色粒子	還元焰	黒灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。内面自然釉附着。	秋岡系
278-3 182	鉄器 不詳	掘り方内 破片	重 — — 1.7	—	—	—	断面正方形状を呈する。全体に紐帯である。	
278-4 182	瓦 瓦	覆土内 破片	厚 — — 1.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	手轆作り。凹面履位の寛撫で整形。側面取り り左2回右3回。端面取りり1回。	秋岡系
278-5 182	瓦 瓦	覆土内 破片	厚 — — 1.8	白色磁物粒子 白色粒子	還元焰	灰	手轆作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面履位 の寛撫で整形。側面取りり4回、端面取り り2回。	吉井系
278-6 182	瓦 瓦	カマド左 袖 破片	厚 — — 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面履位 の撫で整形。側面取りり3回、端面取りり1 回。	吉井系
278-7 182	瓦 瓦	カマド左袖 破片	厚 — — 1.5	白色磁物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面鑄叩 き(密)、後撫で整形。側面取りり2回。	吉井系
278-8 182 瓦-221	瓦 瓦	覆土内 破片	厚 — — 1.9	白色磁物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛撫き文字瓦「字兼者」か(凸面)。 凸面履位の手撫で整形。自然釉附着。側面取 りり2回、端面取りり1回。	吉井系

C区第134号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
280-1 182	土師質土器 ほぼ兜形 皿	床直層	口 底 高 — — 9.5 4.6 2.8	黒色磁物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	栗形系か 藤岡系
280-2 182	内黒土器 埴	床直層 破片	口 底 高 — — 7.1	微粒状雲母 透明磁物粒子 黒色磁物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面燻し処理・ 暗文を施す。	吉井・藤 岡系
280-3 182	羽釜 埴	掘り方内 破片	口 底 高 — — 22.8	白色粒子 白色磁物粒子	還元焰	黒灰	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。踵は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
280-4 182	羽釜 埴	覆土内 破片	—	白色磁物粒子 微粒状雲母	中性焰	褐	紐作り後轆轤整形 (右回転)。踵は貼り付け。 全体に器内が非常に薄い。	吉井系
280-5 182	土師器 土器	覆土内 破片	口 底 高 — — 25.7	微粒状雲母 黒色磁物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面側部は履位 の寛撫で、口縁部は横撫で、内面側部は寛撫 で。	吉井系

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (単位)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
280-6 182	石造品 凹石	覆土内 完存	幅 17.0 高 9.7 重 2225.0	粗粒安山岩	—	—	中央部に凹みを有する。敲打によりあけられている。裏面も敲打の痕跡有。	
281-1 183	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色黏物粒子	酸化焰	淡黄橙	半截作り。凸面鑄叩き(密)後施で整形。側部面取り1回。	吉井系
281-2 183 瓦-223	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刷印文字凡判断不能(凸面)。	笠懸系
281-3 183	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色黏物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面横骨痕。凸面鑄叩き(密)。端部面取り2回。	吉井系
281-4 183	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.2	微粒状雲母	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面横骨痕・布合わせ目痕有。凸面横骨痕で整形。側部面取り2回、端部面取り2回。粘土板積合度はS。	笠懸系
281-5 183	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色黏物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割り取り痕。凸面粘土板割り取り痕・縦位の撫で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系

C区第135号住居跡

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (単位)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
282-1 183	土師器 坏	床直層 完形	口 11.0 底 — 高 3.5	黒色黏物粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。底部・体部は型作り、口縁内外面は横撫で。内面体部・底部は撫で整形。口縁に甘い型書を残す。	藤岡系
282-2 183	須恵器 坏	覆土内 破片	口 12.0 底 (8.0) 高 2.9	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
282-3 183	内黒土器 埴	床直層 破片	口 14.0 底 — 高 —	黒色黏物粒子	酸化焰	淡黄橙 黒灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損。内面横し処理・磨文を施す。	太田系か
282-4 183	土師質土器 埴	床直層 破片	口 15.0 底 — 高 —	金雲母 白色微粒子 ローム	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
282-5 183	施釉陶器 灰輪軸	覆土内 破片	口 10.4 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。施釉は没掛け。	
282-6 183	施釉陶器 緑輪軸 輪花文画	覆土内 破片	—	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。内面印刷花文を残す。	
282-7 183	土師器 甕	覆土内 破片	口 19.9 底 4.1 高 27.6	白色粒子 黒色黏物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面側部は筒削り、口縁部は横撫で、内面側部は磨撫で。	藤岡系
282-8 183	鉄器 刀子	床直層 一部欠損	重 (54.5)	—	—	—	刃が著しく、茎が細い。鋒に焼き入れ痕が認められる。研ぎ減りがやや顕著。	
282-9 183 瓦-484	瓦 宇瓦	覆土内 破片	厚 2.4	白色粒子 白色黏物粒子	還元焰	灰白	瓦当裏面に右輪行唐草文。女瓦部は一枚作り。	吉井系
283-1 183	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色黏物粒子	中性焰	灰黄	紐作り。凸面轆轤横撫で。側部面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
283-2 183	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.7	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目割で消し。凸面鑄叩き(単)。側部面取り2回。	笠懸系
283-3 183	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色黏物粒子	酸化焰	黄橙	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割り取り痕有。凸面横骨痕で整形。端部面取り2回。	吉井系
283-4 183	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色黏物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面鑄叩き(密)。側部面取り3回、端部面取り2回。	秋間系

C区第138号住居跡

棟号 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	目録 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
284-1 184	土師質土 器 環	掘り方・ 覆土内 破片	口 (9.4) 底 (5.2) 高 3.3	白色粒子 黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系
284-2 184	須恵器 環	カマド・ 覆土内 破片	口 10.0 底 4.4 高 2.8	白色粒子	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形 (右回転)。	吉井・藤岡系
284-3 184	須恵器 環	掘り方・ 覆土内 破片	口 (10.5) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 砂粒	酸化焰	淡黄	轆轤成形 (右回転)。	東附系か藤岡系
284-4 184	須恵器 環	覆土内 破片	口 (10.7) 底 (5.6) 高 3.2	白色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
284-5 184	須恵器 埴	掘り方・ 覆土内 破片	口 (11.4) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
284-6 184	須恵器 埴	カマド・ 覆土内 完形	口 11.4 底 5.8 高 4.4	黒色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面燻し処理・明文を施す。	藤岡系
285-1 184	須恵器 環	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
285-2 184	鉄器 小刀	掘り方・ 覆土内 一部欠損	重 (28.9)	—	—	—	鋒のふくらは丸味を帯び鋒側は全体にうつむいている。焼き入れによると考えられる。背面には別個体が附着している。	平造り
285-3 184	鉄器 刀子	カマド・ 掘り方内 破片	重 (7.8)	—	—	—	鋒側及び基部に欠損する。	
285-4 184	漆器 不詳	床直層 ほぼ完形	幅 3.8 厚 3.5 重 93.3	砥沢石(流紋岩)	—	—	先端に敲打痕が認められる。	
285-5 184 瓦-224	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。笠箱き文字瓦利説不能(凸面)。凸面縦位の無で整形。	吉井系
285-6 184	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.8	ローム 白色微粒子	酸化焰	淡黄橙	半枚作り。凸面鑄印き(密)後縁で整形。	笠懸系
285-7 184	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	酸化焰	橙褐	半枚作り。側面面取り2回。端部面取り2回。	吉井系
285-8 184	瓦 女瓦	掘り方・ 覆土内 破片	厚 3.0	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の無で整形。	吉井系

C区第142号住居跡

棟号 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	目録 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
286-1 184	土師質土 器 環	覆土内 瓦残存	口 19.4 底 7.0 高 3.7	黒色粒子 赤褐色粒子 微粒状雲母	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。内面燻し。外面横りが認められる。	東附系か藤岡系
286-2 184	土師質土 器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (8.0) 高 —	黒色粒子 黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
286-3 184	土師質土 器 埴	カマド右 袖 瓦残存	口 (15.9) 底 (9.7) 高 7.0	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。内・外面横りが認められる。	藤岡系
287-1 184	土師質土 器 埴	カマド内 破片	口 18.1 底 — 高 —	赤褐色粒子	中性焰	淡黄	轆轤成形 (右回転)。	秋同系
287-2 184	土師器 甕	カマド左 袖 破片	口 20.2 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面側部は寛用り、口縁部は横無で、内面側部は鼠無で。	藤岡系

遺物一覧表

標記番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 目目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
287-3 184	土師器 壺	カマド・ 掘り方内 破片	口 (21.3) 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面割部は寛削り、口縁部は横無で、内面割部は縦無で。	藤岡系
287-4 184	須恵器 不詳 脚部	カマド内 破片	口 — 底 30.8 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り平行印き。	
287-5 184	高粘陶器 灰釉瓶	カマド内 破片	口 — 底 (9.0) 高 —	密	良好	黄灰	輪轆成形(右回転)。付高台。胴部・底部は回転置用り。施釉は浸掛。	
287-6 184	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (5.1)	—	—	—	断面正方形状を見する。緩やかにカーブするが環状製品とは思われない。	
287-7 184	鉄器 釘	覆土内 一部欠損	重 (46.5)	—	—	—	頭部は大きく、全体に太く長い。鋒を欠損する。	
287-8 184	雑器 不詳	床直層 ほぼ充存	幅 3.0 厚 2.8 重 150.0	実質玄武岩	—	—	両端部に敲打痕が認められる。	
288-1 184 瓦-413	瓦 葺瓦	床直層 片残存	厚 1.8~3.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は、復井4葉蓮華文。中房は環状中房。	吉井・藤岡系
288-2 184 瓦-485	瓦 字瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右面行唐草文。額部を欠損する。女瓦部は一枚作り。	笠懸系
288-3 185 瓦-225	瓦 男瓦	カマド内 ほぼ充存	長 38.4 幅 16.6 厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰白	半載作り。凹面・凸面布合せ目無。側面面取り1回。	笠懸系
288-4 184	瓦 男瓦	カマド右袖 片残存	厚 1.9	白色鉱物粒子 シルト粒 雲母	還元焰	灰白	桶巻き造りか。凹面横骨痕か。凸面縦位の撫で、輪轆横撫で整形。側面面取り3回、端面面取り2回。	栗附系
288-5 184	瓦 男瓦	カマド右袖 片残存	厚 2.4	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	半載作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り1回、端面面取り1回。	笠懸系
289-1 185	瓦 男瓦	カマド左 袖 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半載作り。凹面布合せ目無。側面面取り1回、端面面取り1回。	吉井系
289-2 185 瓦-226	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛縮き文字瓦瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
289-3 185	瓦 女瓦	カマド左袖 片残存	厚 2.1	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面面取り2回、端面面取り3回。	吉井系
289-4 185	瓦 女瓦	カマド右袖 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回、端面面取り2回。	栗附系
289-5 185	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	還元焰	白灰	紐作り。凹面横位の撫で整形。側面面取り3回、端面面取り2回。	笠懸系
289-6 185	瓦 女瓦	カマド左袖 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面撫で整形。端面面取り1回。	秋岡系

C区第143号住居跡

標記番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 目目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
290-1 185	須恵器 足付圓蓋 脚部	掘り方内 破片	口 — 底 (13.2) 高 —	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り後輪轆整形(右回転)。	藤岡系か 栗附系
290-2 185	須恵器 壺	掘り方内 破片	口 21.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。紐作り後輪轆整形(右回転)。内・外面自然粘附着。口縁部に暗文状の縦位の筋が認められる。	秋岡系
290-3 185	須恵器 壺	掘り方内 破片	口 19.4 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	紐作り。印き整形(外面平行印き・内面瓦具は青濁文状)。口縁部は輪轆整形。何部以下を欠損する。	秋岡系

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
290-4 185	甌 不詳	甌り方内 一部欠損	幅 3.8 厚 6.9 重 626.2	蛇紋岩	—	—	上面は磨滅する。	
290-5 185	甌 不詳	甌り方内 完存	長 14.3 幅 5.8 重 622.1	滑結凝灰岩	—	—	上面は磨滅する。	
290-6 185	甌 不詳	甌り方内 完存	長 11.2 幅 7.0 重 379.9	実質安山岩	—	—	上面は磨滅する。	

C区第144号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
292-1 186	土師器 坏	覆土内 破片	□ 12.4 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は寛削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型傷を残す。	藤岡系
292-2 186	土師器 坏	床直層 破片	□ (12.5) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄褐	型作り成形。底部・体部は寛削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型傷を残す。	藤岡系
292-3 186	土師器 坏	床直層 破片	□ (12.5) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。底部・体部は寛削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型傷を残す。	藤岡系
292-4 186	土師器 坏	床直層 破片	□ (14.1) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄褐	型作り成形。底部・体部は寛削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型傷を残す。	藤岡系
292-5 186	土師器 坏	床直層 完形	□ 16.8 底 — 高 4.2	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄橙	型作り成形。底部・体部は寛削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型傷を残す。	藤岡系
292-6 186	須恵器 蓋	覆土内 破片	楕 — □ (18.0) 高 —	黒色粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。輪縁成形(右回転)。	杖岡系
292-7 186	土師器 甕	床直層 破片	□ 21.2 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	藤岡系
292-8 186	土師器 甕	床直層 破片	□ (21.2) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	藤岡系
292-9 186	土師器 甕	覆土内 破片	□ (23.7) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	藤岡系
292-10 186	土師器 甕	覆土内 破片	□ (24.0) 底 — 高 —	細砂粒 微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	藤岡系
292-11 186	甌 不詳	覆土内 瓦残存	幅 15.0 厚 5.0 重 1762.7	石英閃緑岩	—	—	上面磨滅。小口削写を欠損する。	
292-12 186	土師器 高台付坏 部	床直層 破片	□ — 底 10.4 高 —	黒色鉱物粒子 黒色粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙褐	紐作り後輪縁成形。底部は寛削り。	藤岡系
292-13 186	土師質土 器	床直層 瓦残存	□ 19.6 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 黒色粒子 デイスайト	酸化焰	橙	輪縁成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤岡系

C区第145号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
291-1 186	須恵器 埴	覆土内 破片	□ (14.6) 底 (5.6) 高 4.4	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。付高台。内・外面磨り認められる。	藤岡系

遺物一覧表

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 目量 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
293-1 186	土師器 壺	覆土内 破片	口 底 (7.1)	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	輪軸成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
293-2 186	土師器 壺	覆土内 破片	口 (19.0) 底 高	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は直削り、口縁部は横撫で、内面胴部は直撫で。	藤岡系
293-3 186	羽釜	覆土内 破片	口 24.0 底 高	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	褐 淡褐	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形 (右回転)。肩は貼り付け。吉井梨形釜。	藤岡系か 吉井系
293-4 186	施釉陶器 灰釉煮	カマド右 袖 瓦残存	口 底 12.5 高	密	良好	白灰	紐作り後輪軸整形 (右回転)。付高台。胴部は回転削り。内面有機質附着。施釉は刷毛塗。	
293-5 186	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 3.4	白色鉱物粒子 ローム	酸化焰	淡褐	桶巻き造り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鑢叩き (密) 後撫で、輪軸横撫で整形。	吉井系
293-6 186	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。凹面縦位の直削り。凸面輪軸横撫で整形。側面取 2 回。端面取 3 回。	兼附系
293-7 186	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 3.7	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目撫で消し。縦位の手撫で整形。凸面縦位の手撫で。	吉井系

C区第146号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 目量 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
294-1 186	土師器 坏	床直層 宛形	口 12.7 底 3.4 高	黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は直削り、口縁は内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁部に直撫を残し、有機質附着。	
294-2 186	土師器 坏	床直層 瓦残存	口 12.1 底 高 3.2	白色粒子 透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は直削り、口縁は内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁部に直撫を残す。	
294-3 186	須恵器 埴	床直層 瓦残存	口 (14.3) 底 高	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	輪軸成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
294-4 186	土師器 壺	床直層 破片	口 (20.1) 底 高	白色鉱物粒子 白色粒子 赤色粒子	還元焰	白灰	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は直削り、口縁部は横撫で、内面胴部は直撫で。	
294-5 186	鉄器 刀子	カマド内 一部欠損	重 (14.8)	—	—	—	歪欠損する。研ぎ減りが著しく尖端斜面に焼き入れの部分が認められる。	
294-6 187	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 雲母 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕・布目撫で消し。凸面鑢叩き (密) 後撫で整形。粘土板接合痕は乙。	兼附系
294-7 187	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.8	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕、布目撫で消し。凸面縦位の撫で整形。側面取 2 回、端面取 3 回。	吉井系
295-7 187 瓦-227	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。直撫き文字瓦「毎阿」(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。側面取 3 回。	吉井系
295-2 187	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 3.0	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面横骨痕。端面取 2 回。	吉井系
295-3 187	瓦 女瓦	カマド右 袖 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。自然粘附着。側面取 2 回、端面取 1 回。	吉井・藤岡系

C区第148号住居跡

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 目量 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
296-1 187	須恵器 坏	覆土内 破片	口 14.0 底 高	微粒砂 微粒状雲母	酸化焰	淡黄橙	輪軸成形 (右回転)。	吉井・藤岡系

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目(個)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
297-1 187	須恵器 大 壺	床直層 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)後輪縁内整形。	秋田系
297-2 187	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面平行叩き、横位の強で整形。側面取2回、端部取2回。	泉附系
297-3 187	瓦 男 瓦	覆土内 細片	厚 1.9	白色鉱物粒子 黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦位の強で整形。	吉井系
297-4 187	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.5	黒色粒子 白色鉱物粒子 雲母	還元焰	灰	横書き造り。凹面横骨痕み。凸面叩き後撫で、縦位・横位・不定方向の撫で後輪縁横撫で整形。側面取2回、端部取2回。	吉井系
297-5 187 瓦-228	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.1	白色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。刻印文字瓦「佐」(凸面)。凸面撫で後正格子叩き。	吉井系
297-6 187	瓦 女 瓦	覆土内 細片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰白	横書き造り。凹面横骨痕み。側面取2回。	泉附系

C区第150号住居跡

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目(個)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
298-1 187	土師質土 壺	床直層 片残存	口 11.6 底 6.1 高 4.5	黒色鉱物粒子 黒色粒子	酸化焰	淡黄	輪縁成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
298-2 187	土師質土 壺	ピット内 破片	口 (16.2) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄橙	輪縁成形(右回転)。高台欠損(付高台)。262-1と接合	藤岡系か泉附系
298-3 187	施釉陶器 緑 軸 刺花文壺	覆土内 破片	—	軟質	良好	オリブ灰	輪縁成形(右回転)。外面に三角形状に凸部がある。内面刺花文を残す。	
298-4 187	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面粘土板刺ぎ取り痕、自然釉附着。側面取2回。	吉井系
298-5 188	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 1.5	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面横位の強で整形。側面取2回。	泉附系
299-1 187 瓦-229	瓦 女 瓦	掘り方内 片残存	厚 2.6	白色鉱物粒子 白色粒子 軽石	還元焰	暗灰	一枚作り。寛拙き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の強で整形。側面取2回。端部取2回。	吉井系
299-2 188	瓦 女 瓦	土坑内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色粒子 雲母	酸化焰	純橙	一枚作り。凸面縦位の強で整形。側面取2回。	吉井系

C区第151号住居跡

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目(個)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
300-1 188	須恵器 壺	掘り方内 破片	口 — 底 (7.2) 高 —	白色微粒子 白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。付高台。	藤岡系
300-2 188	羽 釜	掘り方・ 覆土内 破片	口 (21.2) 底 — 高 —	黒色粒子 白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	口縁部は直立する。紐作り後輪縁整形(右回転)。罫は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
300-3 188	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面板目叩き後端叩き。	笠懸系

C区第152号住居跡

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目(個)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
301-1 188	土師器 坏	覆土内 破片	口 12.8 底 (3.3) 高 —	黒色鉱物粒子 黒色粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。器部・体部は指削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・器部は撫で整形。口縁直下に甘い形痕を残す。	藤岡系

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 単位 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
301-2 188	土師質土 器 杯	覆土内 破片	口 (13.8) 底 (5.9) 高 3.7	黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰 [2300]	淡黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
302-1 188	須恵器 器 杯	覆土内 破片	口 (13.3) 底 高	白色鉱物粒子 —	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は手持ち篋削り。	乗附系
302-2 188	須恵器 器 埴	覆土内 破片	口 (14.1) 底 高	白色粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形 (右回転)。高台穴削 (付高台)。	乗附系
302-3 188	土師質土 器 埴	覆土内 破片	口 (16.1) 底 高	透明鉱物粒子 —	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形 (右回転)。高台穴削。	乗附系
302-4 188	須恵器 器 埴	覆土内 破片	口 (16.1) 底 (10.6) 高 5.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系
302-5 188	須恵器 器 埴	覆土内 破片	口 底 (9.8) 高	白色粒子 白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	杖岡系
302-6 188	須恵器 大 甕	覆土内 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	紐作り後轆轤成形 (右回転)。内面磨減する。	乗附系
302-7 188	施釉陶器 灰 輪 長 直 壺	覆土内 破片	口 (11.8) 底 高	密	良好	白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤成形 (右回転)。	
302-8 188	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 3.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、布目痕で消し。粘土板接合痕はS。側面面取り2回。	吉井系
302-9 188	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側面面取り3回。	吉井系
302-10 188	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色微粒子 雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目痕で消し。凸面縦位の無で整形。側面面取り3回。	藤岡系
302-11 188	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子 雲母	酸化焰	橙	一枚作り。凹面一部分無で消し。凸面縦印き(密)後無で整形。	吉井系

C区第153号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 単位 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
303-1 188	土師質土 器 皿	覆土内 破片	口 (10.2) 底 (5.0) 高 3.1	白色鉱物粒子 赤色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か 乗附系
303-2 188	土師質土 器 杯	覆土内 破片	口 (11.0) 底 高	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。	藤岡系
303-3 188	土師質土 器 杯	床面層 破片	口 (11.7) 底 4.6 高 3.1	白色粒子 黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
303-4 189	土師質土 器 杯	覆土内 破片	口 底 4.0 高	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
303-5 189	施釉陶器 灰 輪 埴	覆土内 破片	口 底 (7.8) 高	密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は段掛。	
303-6 189	土師質土 器 埴	覆土内 破片	口 底 7.1 高	赤色粒子 透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は段掛。	藤岡系
303-7 189	羽 蓋	覆土内 破片	口 (25.1) 底 高	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	暗褐	口縁部は内傾し直立する。紐作り後轆轤成形 (右回転)。罫は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
303-8 189	羽蓋	覆土内 破片	口 — 底 (6.2) 高 —	白色粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後轆轤成形(右回転)。胴部下・底部は厚削り。	藤岡系
303-9 189	須恵器	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面内角は素文)。内面やや磨減している。	兼附系
303-10 189	須恵器	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面内角は背割素文)。	兼附系
303-11 189	須恵器	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面内角は背割素文)後轆轤再整形。内面磨減している。ハズレ有り。	秋間系
303-12 189	雑器	床直層 ほぼ完存	長 10.4 幅 3.6 重 200.0	実質玄武岩	—	—	上面が磨減している。	
303-13 189	鉄器	覆土内 一部欠損	重 (19.0)	—	—	—	基を欠損している。鍛えは比較的良好か。	
303-14 189 瓦-230	瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。旋盤文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系
303-15 189	瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄橙	半截作り。凸面縦位の無で整形。側面面取り1回、端部面取り1回。	吉井系
304-1 189	瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 粒状赤母	中性焰	灰黄	半截作り。側面面取り1回、端部面取り1回。	藤岡系
304-2 189	瓦	覆土内 破片	厚 2.0	粒状赤母	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面横叩き(密)後磨で整形。側面面取り3回。	秋間系
304-3 189	瓦	床直層 破片	厚 2.5	白色微粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凸面板目叩き後横叩き(密)。	笠懸系
304-4 189	瓦	カマド内 破片	厚 2.2	夾少量	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面横叩き(密)。側面面取り1回。磨は撫で。	秋間系
304-5 189	瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	白灰	一枚作りか。凸面平行叩き。	兼附系か 笠懸系
304-6 189	瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子 デイスайト	酸化焰	橙	桶さき造り。凹面横骨肌。凸面轆轤横撫で整形。側面面取り2回。	吉井系
304-7 189	瓦	覆土内 破片	厚 2.8	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の無で整形。側面面取り3回。	吉井系
304-8 189	瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子 デイスайト	酸化焰	橙	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側面面取り2回。	笠懸系

C区第154号住居跡

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
305-1 189	須恵器 坏	カマド内 破片	口 — 底 (8.0) 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系

B区第1号住居跡

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
306-1 190	土師 坏	掘り方内 完形	口 11.7 底 — 高 3.1	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。底部・体部は厚削り、口縁は内外面は横撫で。底部は旋削り。口縁直下に甘い型膚を残す。	藤岡系
306-2 190	土師 坏	掘り方・ 覆土内 破片	口 12.7 底 — 高 3.7	白色微粒子 黒色鉱物粒子 白色小塵	酸化焰	橙	型作り成形。底部に磨砂肌。体部厚削り。口縁直下に甘い型膚を残す。	太田系か
306-3 190	土師 坏	掘り方内 破片	口 13.2 底 — 高 4.6	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部厚削り。口縁部より内部は横撫で。口縁直下に甘い型膚を残す。	太田系か
309-1 190	須恵器 坏	掘り方内 完形	口 12.8 底 7.0 高 3.4	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面有機質附著。内面数ヶ所附著。	秋間系

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	直径 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
309-2 190	黒色土器 坏	掘り方内 完形	口 13.2 底 5.7 高 3.9	微粒状雲母 雲母	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
309-3 190	須恵器 坏	掘り方内 5%残存	口 13.3 底 6.5 高 3.9	微粒状雲母 黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
309-4 190	須恵器 坏	掘り方内 完形	口 13.4 底 7.7 高 3.8	黒色鉱物粒子 雲母 白色顔料	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋岡系
309-5 190	須恵器 坏	覆土内 破片	口 13.5 底 6.0 高 4.0	シルト質	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
309-6 190	須恵器 埴	掘り方 覆土内 5%残存	口 13.7 底 6.7 高 5.5	微粒状雲母 黒色粒子 白色顔料	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	乗附系か
309-7 190	須恵器 埴	掘り方内 5%残存	口 13.8 底 6.4 高 5.0	白色顔料 白色鉱物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋岡系
309-8 190	土師質土 器 埴	カマド・ 掘り方内 5%残存	口 14.0 底 7.4 高 5.7	白色顔料 微粒状雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
309-9 190	須恵器 埴	覆土内 破片	口 14.2 底 6.2 高 5.0	ダイヤサイト 白色顔料 微粒状雲母	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
309-10 190	須恵器 埴	覆土内 破片	口 14.2 底 6.2 高 5.9	白色顔料 微塵	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
309-11 190	須恵器 埴	カマド内 5%残存	口 14.2 底 8.2 高 4.9	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋岡系
309-12 190	須恵器 埴	掘り方内 完形	口 14.6 底 8.0 高 5.6	黒色粒子 微粒状雲母 白色顔料	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内・外面有機質附着。	秋岡系
309-13 190	須恵器 坏 か	覆土内 5%残存	口 14.8 底 — 高 —	白色顔料	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。内・外面有機質附着。	秋岡系
309-14 190	黒色土器 坏	覆土内 破片	口 — 底 5.4 高 —	黒色顔料	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
309-15 190	須恵器 蓋	掘り方・ 覆土内 破片	口 17.0 径 — 高 —	白色顔料 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転製り。	秋岡系
309-16 190	須恵器 蓋	掘り方・ 覆土内 破片	口 17.0 径 — 高 —	白色顔料 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転製り。	秋岡系
310-1 190	土師器 小型壺	カマド・ 掘り方内 破片	口 12.0 底 — 高 —	黒色顔料 微粒状雲母	酸化焰	暗橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部下半は縦位の莖削り、口縁部・器内面は横無で、肩部は横位の莖削り。	藤岡系
310-2 190	土師器 壺	覆土内 破片	口 18.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色顔料 シルト質	酸化焰	黄橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部下半は縦位の莖削り、口縁部・器内面は横無で、肩部は横位の莖削り。	藤岡系
310-3 190	土師器 壺	床直層 破片	口 19.5 底 — 高 —	白色顔料 微粒状雲母 黒色顔料	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は莖削り、口縁部・器内面は横無で。	藤岡系
310-4 190	土師器 壺	カマド内 破片	口 — 底 (5.0) 高 —	黒色顔料 微粒状雲母 白色顔料	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。底部は縦位の莖削り。	藤岡系
310-5 190	土師器 台付小型壺	掘り方内 破片	—	微粒状雲母 黒色顔料	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。底部は縦位の莖削り。	藤岡系

B区(1号住居跡)

発掘番号 採取番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
310-6 190	須恵器 甕	カマド・ 覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具 は不詳)。破片化後、鉄分(スラグ)が附着し ている。	秋間系
310-7 190	高輪陶師 灰釉小碗	覆土内 破片	口 10.5 底 5.4 高 3.8	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は段掛け。	
310-8 190	鉄器 刀子	掘り方内 一部欠損	重 (35.2)	—	—	—	鋒は調査後の欠損。研ぎ減りが著しい。	
310-9 190	鉄器 大刀子	掘り方内 欠残存	重 (60.3)	—	—	—	顕著な研ぎ減りが認められない。調査以前の 欠損。再鍛造用の素材か。	
310-10 190	鉄器 釜	掘り方内 破片	重 (1.9)	—	—	—	310-9と同一個体か。	
310-11 190	鉄器 不詳	掘り方内 破片	重 (1.3)	—	—	—	片面が剥落している。詳細は不詳。	
310-12 190	鉄器 釜	カマド 掘り方内 破片	重 (3.7)	—	—	—	310-9の基か。	
310-13 190	鉄器 不詳	掘り方内 破片	重 (5.7)	—	—	—	錆割れがあり、実際の断面より太い。	
310-14 190	鉄器 不詳	カマド 掘り方内 破片	重 (6.6)	—	—	—	断面正方形状を呈する。両端が曲がっている。	
310-15 190	鉄器 不詳	掘り方内 破片	重 (3.0)	—	—	—	断面正方形状を呈する。先端が曲がっている が、環状の製品とは考えられない。	
310-16 190	鉄器 スラグ	掘り方内 —	重 (22.9)	—	—	—	—	
310-17 190	銅型 印面銅型 銅印型	覆土内 一部欠損	—	—	—	—	銅印の鋳型。文字数及び文字は不分明。	
310-18 190	銅型 印面銅型 銅印型	覆土内 破片	—	—	—	—	銅印の鋳型。文字数及び文字は不分明。	
310-19 190	銅型 印面銅型 銅印型	覆土内 破片	—	—	—	—	銅印の鋳型。紙の鋳型	
310-20 190	羽口	覆土内 破片	厚 2.5	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。環元 部が割合高い位置で認められる。	
310-21 190	羽口	覆土内 破片	厚 1.8	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。環元 部と酸化部が産脱し、やや環元部が少ない。	
310-22 190	羽口	覆土内 破片	厚 2.7	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、破片 の為、スラグ等は認められない。環元部が少 ない。中性部が目立つ。	
310-23 190	羽口	覆土内 破片	厚 2.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。環元 部が少ない。	
310-24 191	羽口	覆土内 破片	厚 2.5	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。酸化 部は内面にしか認められない。	
311-1 191	石製品 砥石	覆土内 欠残存	重 3450.0	粗粒安山岩	—	—	石の目は粗いが、ほぼ全面に使用が認められ る。側面には、皿状に磨った使用痕が認め られる。	
312-1 191	羽口	覆土内 破片	厚 2.5	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが多量に融着し、ケイ酸分が付着する。 環元部分が認められる。	
312-2 191	石製品 羽口	覆土内 先端残存	幅 9.9 孔経 2.9 厚 3.3 重 877.5	二ツ岳軽石	—	—	粗い面取りをしただけで成形している。先端 にスラグが融着する。	

遺物一覧表

神託番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状況	度量 量目 (φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
312-3 191	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子	還元焰	黄緑	紐作りのみ。凸面縦位の半楕で整形。側面取り 2回。	笠懸系
312-4 191	瓦 玉縁付男瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半楕作り。凸面縦向き後軸縦横楕で整形。側 面取り3回。玉縁接合はA型。	吉井系
312-5 191	瓦 男 瓦	カマド左袖 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半楕作り。凸面縦位の半楕で。側面取り3 回、端面取り3回。	吉井系
313-1 191	瓦 男 瓦	カマド左袖 残残存	長 39.2 厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半楕作り。寛播き文字瓦「手」(凸面)。凸面 縦位の楕で整形。側面取り3回、端面取り 1回。	吉井系
313-2 191	瓦 男 瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	半楕作り。凸面平行印。端面取り1回。	乗附系
313-3 191	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.4	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面縦位の楕で整形。側面取り 3回。	吉井系
313-4 193 瓦-354	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。寛播き文字瓦「代」(凸面)。凹面 粘土板刺ぎ取り痕。側面取り3回、端面取 り1回。	乗附系
313-5 191	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦向き(密)。側面取り5回。	杖間系
313-6 191	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。側面取り2回。	乗附系
314-1 192	瓦 男 瓦	掘り方・ 覆土内 残残存	狭幅 11.2 長 16.0 厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半楕作り。側面取り3回、端面取り1回。	笠懸系
314-2 193	瓦 男 瓦	掘り方内 残残存	広幅 22.6 厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半楕作り。凸面平行印。縦位の楕で整形。 側面取り左4回・右3回、端面取り2回。	吉井系
315-1 192 瓦-348	瓦 男 瓦	掘り方内 完形	長 38.8 幅 16.0 広 18.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半楕作り。寛播き文字瓦「十」(凸面)。凹面 粘土板刺ぎ取り痕。側面取り3回、端面取 り3回。	吉井系 2.9kg
315-2 192 瓦-350	瓦 男 瓦	カマド左袖 完形	長 37.0 狭幅 13.0 広 22.6	白色鉱物粒子 黒色粒子	中性焰	黄灰	半楕作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面粘土板刺ぎ取り痕。布目楕で消し。側面取 り3回、端面取り2回。	吉井系 3.1kg
316-1 192 瓦-349	瓦 男 瓦	カマド右袖 完形	長 38.0 狭幅 12.0 広 19.0	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	半楕作り。寛播き文字瓦「人」(凸面)。凹面 粘土板刺ぎ取り痕。側面取り3回、端面取 り2回。	吉井系 2.9kg
316-2 191	瓦 男 瓦	カマド左袖 完形	長 38.9 狭幅 13.0 広 18.6	白色微粒子	還元焰	灰	半楕作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦位 の楕で整形。側面取り2回、端面取り1 回。	笠懸系 3.1kg
317-1 192 瓦-351	瓦 男 瓦	カマド左袖 完形	長 36.4 狭幅 11.2 広 17.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半楕作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凸 面縦位の楕で整形。側面取り3回、端面取 り2回。	吉井系 2.0kg
317-2 193	瓦 男 瓦	カマド左袖 完形	長 40.0 狭幅 12.6 広 31.2	白色粒子	還元焰	灰	半楕作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面楕で 縦横楕楕で。縦位の楕で整形。側面取り左 1回・右3回、端面取り1回。	笠懸系 2.6kg
318-1 192	瓦 男 瓦	カマド左袖 完形	長 37.8 狭幅 12.4 広 18.6	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半楕作り。凸面縦横楕楕で後縦位の楕で整形。 側面取り3回、端面取り1回。	笠懸系 2.8kg
318-2 195	瓦 女 瓦	カマド右袖 残残存	長 46.6 幅 27.6 狭幅 23.0	白色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄 鈍黄楕	紐作り。叩き整形。外面叩きは不詳。内面宛 具は青海波文。後軸縦再整形。側面取り2 回、端面取り1回。	吉井・藤 岡系か
319-1 194 瓦-356	瓦 女 瓦	床直層 完形	長 40.9 幅 29.3 狭幅 21.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦「乙」(凸面)。側面 取り2回、端面取り2回。	吉井系
320-1 194 瓦-353	瓦 女 瓦	床直層 ほぼ完形	長 41.3 幅 27.8 狭幅 23.0	白色鉱物粒子	酸化焰	淡黄楕	一枚作り。寛播き文字瓦「十」(凸面)。側面 取り2回、端面取り1回。	吉井系
321-1 193 瓦-352	瓦 女 瓦	掘り方内 完形	長 40.4 幅 28.6 狭幅 21.8	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。寛播き文字瓦「衣」(凸面)。側面 取り2回、端面取り1回。	吉井系 4.5kg
321-2 195	瓦 女 瓦	カマド 完形	長 39.4 幅 27.0 狭幅 24.6	白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕・寄木蔵有。 凸面縦位の楕で整形。側面取り2回、端面 取り1回。	笠懸系 3.8kg

B区第2号住居跡

棟号 図面番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	土質	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
322-1 196	土師質土 器 坏	床直層 %残存	口 13.3 底 6.0 高 4.3	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	罐罐成形(右回転)。上半部は回転削り。内・外面磨りが認められる。	藤岡系
322-2 196	須恵器 埴 地	掘り方内 破片	口 (13.4) 底 (7.0) 高 5.7	黒色粒子	還元焰	灰白	罐罐成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
323-1 196	土師質土 器	覆土内 ほぼ完形	口 15.4 底 6.5 高 6.6	黒色鉱物粒子 雲母	酸化焰	黄橙	罐罐成形(右回転)。付高台。内・外面磨りが認められる。	藤岡系
323-2 196	土師質土 器	掘り方内 %残存	口 18.3 底 — 高 —	ローム粒子 微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	罐罐成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
323-3 196	須恵器 埴 地	掘り方内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	罐罐成形(右回転)。付高台。	秋間系
323-4 196	土師器 破片	覆土内 底 高	口 16.6 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り後登無で整形。	
323-5 196	土師器 壺	カマド・ 覆土内 破片	口 22.3 底 — 高 —	透明鉱物粒子 微粒状雲母 白色微粒子	酸化焰	黒灰 暗橙	口縁部は外反する。紐作り後登無で整形。	笠懸系か 藤岡系
323-6 196	羽 蓋	カマド・ 覆土内 破片	口 (18.0) 底 — 高 —	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は直立する。紐作り後罐罐成形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
323-7 196	羽 蓋	カマド・ 掘り方内 破片	口 (18.6) 底 — 高 —	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は直立する。紐作り後罐罐成形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井・藤 岡系
323-8 196	羽 蓋	カマド・ 掘り方内 %残存	口 19.8 底 6.5 高 23.1	白色鉱物粒子 雲母	酸化焰	浅黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後登無で整形(右回転)。脚は貼り付け。胴部下半・底部は直削り。吉井型羽蓋。	吉井系
323-9 196	羽 蓋	カマド・ 掘り方内 %残存	口 20.1 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子 砂粒	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は直立する。紐作り後登無で整形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
323-10 196	羽 蓋	カマド・ 掘り方内 破片	口 20.2 底 — 高 —	微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後罐罐成形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。324-1と同一個体	吉井・藤 岡系
324-1 196	羽 蓋	床直層 破片	口 — 底 8.0 高 —	微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	紐作り後罐罐成形(右回転)。胴部下半・底部は直削り。吉井型羽蓋。323-10と同一個体	吉井・藤 岡系
324-2 196	羽 蓋	掘り方内 破片	口 — 底 (9.0) 高 —	白色微粒子 微粒砂	酸化焰	浅黄橙	紐作り後罐罐成形(右回転)。胴部下半・底部は直削り。底部有機質附着。	藤岡系
324-3	土師器 土 蓋	覆土内 破片	口 — 底 11.2 高 —	黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り後登無で整形。	
324-4 196	土師器 土 蓋	覆土内 破片	口 — 底 (14.0) 高 —	黒色鉱物粒子 白色微粒子 軽石	酸化焰	鈍橙	紐作り後登無で整形。	吉井・藤 岡系
324-5 196	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (18.3)	—	—	—	上層は、弧を描き環状であった事が推定される。	
324-6 196	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (50.3)	—	—	—	断面正方形を呈し太い。	
324-7 196	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (37.3)	—	—	—	全体に錆が著しい。	
324-8 197 瓦-532	瓦	掘り方内 破片	厚 2.7	微粒状雲母 白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右隣行書文。外区に珠点を配す。頸は曲線型。女瓦部は一枚作り。凸面側で整形。赤色顔料塗彩。	笠懸系
324-9 196	瓦 玉縁付瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面側で整形。凸面罐罐横溝で整形。側面取回2回。	秋間系

遺物一覧表

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (φ)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
324-10 196	瓦 玉縁付男 瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面鑄叩き後撫で整形。側面取 り2回。	吉井系
324-11 197	瓦 男瓦	掘り方内 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	浅黄緑	半截作り。凸面板目叩き後撫で整形。側面取 り1回。	吉井系
324-12 197	瓦 カマド内 破片	厚 2.3	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面粘土 板割ぎ取り痕・撫で整形。側面取り4回、 端部取り3回。	笠懸系	
325-1 197 瓦-445	瓦 體瓦	カマド・ 覆土内 写残存	厚 1.1	微粒状雲母 白色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	瓦当面欠損。瓦当意匠は不詳。男瓦部は半截 作り。凸面鑄造整形。側面取り3回。	吉井系
325-2 197 瓦-357	瓦 女瓦	床直層 写残存	厚 2.5	白色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。寛緒き文字瓦「十」(凸面)。凹面 粘土板割ぎ取り痕。凸面撫で整形。側面取 り3回。	吉井系
325-3 197 瓦-358	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.5	白色微粒子 白色粒子	酸化焰	明鈍橙	一枚作り。寛緒き文字瓦「八角割か」(凸面)。 凸面撫で整形。側面取り2回、端部取り 3回。	吉井系
325-4 197	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.8	雲母 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鑄 叩き(密)、指圧痕有。側面取り1回、端部 取り3回。	栗附系か 藤岡系
326-1 198	瓦 女瓦	カマド右袖 写残存	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。布目撫 で整形。凸面鑄叩き後撫で消し。	笠懸系か 吉井系
326-2 197	瓦 女瓦	カマド右袖 破片	厚 1.8	黒色粒子 雲母	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鑄 叩き(密)。側面取り1回。	秋岡系
326-3 197	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鑄 叩き(密)。	秋岡系
326-4 197	瓦 女瓦	カマド左 袖 写残存	厚 1.9	デイスait 白色微粒子 小礫	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕、布2枚合 わせ。凸面板目叩き後取位の撫で整形。側 面取り1回、端部取り2回。	吉井・藤 岡系
326-5 198	瓦 女瓦	カマド内 破片	厚 1.6	デイスait 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面板目叩き後撫で整形。側面取 り1回、端部取り1回。	吉井系
327-1 198	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.7	微粒状雲母 白色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕、指圧痕有。 凸面撫で整形。側面取り5回、端部取り 2回。	吉井・藤 岡系
327-2 198	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.7	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面鑄位の撫で整形。布目の縦糸 6cmのうち72cmと細かい。	笠懸系か 吉井系
327-3 198	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.6	白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨直・粘土板割ぎ取り痕 有。凸面鑄造整形。側面取り2回、 端部取り2回。	笠懸系

B区第3号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (φ)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
328-1 198	土師質土 器	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.1)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
328-2 198	須恵器 坏	覆土内 写残存	口 (14.0) 底 10.0 高 2.9	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋岡系
328-3 198	土師質土 器	掘り方内 完形	口 10.3 底 6.7 高 5.8	微粒多量	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
328-4 198	須恵器 坏	床直層 破片	口 — 底 (6.5) 高 —	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
328-5 198	須恵器 器	掘り方内 破片	口 — 底 (6.0) 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系

B区(3・4号住居跡)

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
328-6 198	羽蓋	床直層 破片	口 (23.0) 底 — 高 —	細粒 白色鉱物粒子	酸化焰	灰褐	口縁部は直立する。紐作り後継輪整形(右回転)。踵は貼り付け。吉井系羽蓋。	吉井系
328-7 198	羽蓋	床直層 破片	—	黒色鉱物粒子 塵	酸化焰	橙	紐作り後継輪整形(右回転)。踵は貼り付け、胴部下半・底部は削削り。吉井系羽蓋。	吉井系
328-8 198	鉄器 蓋	覆土内 破片	重 12.1	—	—	—	狭縁三角形扶輪筒式。研ぎ出しにより、溝筋を出している。	
328-9 198	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (21.1)	—	—	—	薄い棒状の製品と思われる。	328-10と同 一個体か
328-10 198	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (27.5)	—	—	—	薄い棒状の製品と思われる。	328-9と同 一個体か
328-11 198	鉄器 釘か	掘り方内 破片	重 (16.3)	—	—	—	断面正方形を呈する。同様の物が2点隣により縫着している。	
328-12 198	鉄器 釘か	覆土内 破片	重 (6.7)	—	—	—	断面長方形を呈する。釘と思われる。	
329-1 198	瓦 男瓦	カマド右袖 破片	厚 1.0	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面寄水張。凸面隅叩き後継輪横撫で整形。側面面取り1回。	秋間系
329-2 199	瓦 男瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	明橙	半枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面輪縁横撫で整形。側面面取り2回。	笠懸系
329-3 199	瓦 女瓦	カマド右袖 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	黄橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面正格子叩き後継輪の撫で整形。側面面取り4回、端部面取り2回。	笠懸系
329-4 199	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	黄橙	一枚作り。凸面縁位の撫で整形。端部面取り4回。	笠懸系
329-5 199	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縁位の撫で整形。側面面取り1回、端部面取り1回。	笠懸系
329-6 199	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.5	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凸面斜格子叩き。	秋間系
329-7 199	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色微粒子	中性焰	黄灰	一枚作り。凸面縁位の撫で整形。側面面取り3回、端部面取り1回。	秋間系
329-8 198	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.5	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面ハゼ有。凸面隅叩き。履砂痕有。側面面取り3回。	秋間系

B区第4号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
330-1 199	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	継輪成形(右回転)。底部は寛調整。	秋間系
330-2 199	須恵器 埴	床直層 破片	口 — 底 7.0 高 —	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	継輪成形(右回転)。付高台。内・外面底部に溝りを認める。	吉井・藤 岡系
330-3 199	土師質土 埴	覆土内 破片	口 — 底 6.7 高 —	白色粒子 黒色粒子 微粒状雲母	還元焰	橙	継輪成形(右回転)。付高台。内・外面底部に溝りを認める。	藤岡系
330-4 199	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 (7.6) 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	継輪成形(右回転)。付高台。内・外面底部に溝りを認める。	秋間系
330-5 199	須恵器 埴	覆土内 与残存	口 16.3 底 9.5 高 5.0	黒色粒子	還元焰	灰	継輪成形(右回転)。付高台。内・外面底部に溝りを認める。	秋間系
330-6 199	須恵器 蓋	カマド内 破片	口 — 底 5.0 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	白灰	継輪成形(右回転)。上半部は回転覆削り。胴部は貼り付け。	秋間系
330-7 199	漆器 不詳	覆土内 完存	長 13.3 幅 5.6 重 562.9	粗粒安山岩	—	—	全体に丸く長い襷を利用している。両端には縦打痕が認められる。	

遺物一覧表

B区第5号住居跡

棟号 図案番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
332-1 200	土師器 坏	床直層 完形	口 9.6 底 — 高 3.3	黒色鉱物粒子 微粒状雲母 白色粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は削り、口縁内面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。外面底部に雫りが認められる。	藤岡系
332-2 200	土師器 坏	床直層 片残存	口 13.6 底 — 高 4.0	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	全体的に磨減している。覆削りの新旧関係は不分明。	藤岡系
332-3 200	土師器 小蓋	床直層 片残存	口 7.2 底 — 高 6.6	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	紐作り、下半部は型作り成形。底部・体部は削り、口縁は内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。外面底部に雫りが認められる。	藤岡系
333-1 200	須恵器 蓋	床直層 完形	口 9.5 幅 1.2 高 2.4	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転削り。胴部は貼り付け。	秋岡系
333-2 200	須恵器 坏	床直層 完形	口 9.0 底 5.6 高 3.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	秋岡系
333-3 200	須恵器 大壺	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。	秋岡系
333-4 200	雑器 不詳	覆土内 完存	長 24.8 幅 11.3 重 559.8	粗粒安山岩	—	—	平面面は磨減し先端部に敲打痕が認められる。	
333-5 200	雑器 不詳	覆土内 完存	長 22.2 幅 11.6 重 606.8	粗粒安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	
333-6 200	鉄器 金具	覆土内 破片	重 (27.3)	—	—	—	平面形状に器長を丸く取る。側部は折り曲げられている。側部の形状から、木蓋に対し、打ち込む物と思われる。	
333-7 200	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面隅切り。側面取り2回、端部面取り4回。	秋岡系

B区第6号住居跡

棟号 図案番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
334-1 200	土師質土 器	床直層 完形	口 10.1 底 6.4 高 2.3	砂粒 白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転削り。	吉井・藤岡系
334-2 200	土師質土 器	床直層 完形	口 15.0 底 9.7 高 6.0	砂粒 白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	淡黄灰 淡黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
334-3 200	須恵器 埴	床直層 ほぼ完形	口 17.2 底 — 高 6.0	雲母 白色微粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙 鈍黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤岡系
334-4 200	須恵器 埴	床直層 片残存	口 — 底 7.4 高 —	微粒状雲母 シルト質	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。底部に雫りが認められる。	藤岡系
334-5 200	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口 15.4 底 — 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。	
334-6 200	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 破片	口 — 底 6.4 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
334-7 200	施釉陶器 灰釉埴	覆土内 破片	口 — 底 6.0 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	
334-8 200	鉄器 釘	覆土内 一部欠損	重 (49.9)	—	—	—	尖端部欠損。断面正方形を呈し、頭部は比較的小さい。	
334-9 200	瓦 男瓦	覆土内 細片	厚 1.1	白色粒子	還元焰	暗灰	半截作り。側面取り3回、端部面取り1回。	笠懸系

B区(5・6・7・8号住居跡)

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
334-10 200	瓦 瓦	床直層 破片	厚 1.8	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	桶巻き造り。内面縦横骨状で整形。端面面取り1回。	秋回系か 乗附系
334-11 200	瓦 瓦	床直層 破片	厚 1.5	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰 黄緑	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回。	吉井・藤 岡系

B区第7号住居跡

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
335-1 200	須恵器 坏	覆土内 破片	口 13.9 底 6.8 高 3.6	微粒状霞母 白色粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。高部は回転糸切り。内・外面に横りが認められる。	藤岡系
335-2 200	土師質土 皿	覆土内 破片	口 — 底 4.2 高 —	白色微粒子	還元焰 浅黄緑	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
335-3 200	土師質土 壺	掘り方内 破片	口 — 底 8.7 高 —	微粒状霞母 黒色鉱物粒子	還元焰 浅黄緑	轆轤成形(右回転)。付高台。内面撫し処理。	吉井系
335-4 200	土師質土 壺	カマド・ 覆土内 破片	—	微粒状霞母	還元焰 浅黄緑	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤 岡系
336-1 200	土師質土 壺	カマド内 破片	口 — 底 (5.2) 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰 浅黄緑	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
336-2 200	須恵器 壺	覆土内 破片	口 (8.8) 底 — 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋回系
336-3 201	須恵器 壺	覆土内 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰白	紐作り。甲き整形(外面平行甲き・内面宛具は厚目)。内面は磨滅している。	秋回系
336-4 200	須恵器 壺	床直層 破片	厚 1.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋回系
336-5 200	鉄器 刀子	覆土内 一部欠損	重 (29.7)	—	—	刃部及び茎尻を欠損する。	
336-6 200	鉄器 刀子	覆土内 瓦残存	重 (13.7)	—	—	刀身中央から鋒を欠損し。茎尻も欠損する。研ぎ減りが認められる。	
336-7 201	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (1.9)	—	—	両端を欠損する。断面は円形状を呈するが、旧体は多角形的な物と考えられる。	
336-8 201	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 (2.0)	白色鉱物粒子	還元焰 白灰	半枚作り。凸面縦位の撫で、轆轤横撫で整形。側面取り3回、端面取り3回。	藤岡系
336-9 201	瓦 女瓦	カマド・ 覆土内 破片	厚 (1.8)	白色鉱物粒子	還元焰 暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り4回、端面取り3回。	吉井系
336-10 201	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	還元焰 橙	一枚作り。凸面縦向き後撫で整形。端面面取り1回。	吉井系
336-11 201	瓦 女瓦	カマド 破片	厚 1.6	黒色粒子	還元焰 灰	桶巻き造り。凹面縦骨状。凸面縦横撫で整形。側面取り3回。	秋回系
336-12 201	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰 暗灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回、端面取り2回。	吉井系

B区第8号住居跡

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
337-1 201	須恵器 壺	カマド内 破片	口 (14.4) 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系
337-2 201	須恵器 壺	床直層 ほぼ完形	口 14.9 底 6.7 高 5.2	微粒状霞母 白色微粒子	還元焰 黒灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系

遺物一覧表

採出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
337-3 201	須恵器 埴	覆土内 破片	□ 12.1 底 — 高 —	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	秋間系か 泉附系
337-4 201	土師器 埴	カマド・ 覆土内 破片	□ (16.0) 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄緑	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は寛筒 り、口縁部は横断で、内面割部は寛筒で。	藤岡系
337-5 201	土師器 埴	カマド内 破片	□ (10.4) 底 — 高 —	微粒状雲母 白色微粒子 黒色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面割部は寛筒 り、口縁部は横断で、内面割部は寛筒で。	吉井系
337-6 201	須恵器 埴	覆土内 破片	厚 0.7	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は放射状)。	秋間系
337-7 201	須恵器 埴	カマド・ 覆土内 破片	厚 0.6	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外面平行叩き・内面宛具 は放射状)。	秋間系
338-1 201	須恵器 埴	床直層 破片	厚 0.6	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。	泉附系
338-2 201	須恵器 埴	覆土内 破片	厚 0.9	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。外面自然釉附着。	秋間系
338-3 201	須恵器 埴	覆土内 破片	□ — 底 11.9 高 —	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形 (右回転)。付高台。	秋間系
338-4 201	鉄 不 評	覆土内 互残存	重 (11.3)	—	—	—	断面正方形状を呈する。両端を欠損する。	
338-5 201	羽 口	カマド・ 覆土内 破片	—	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部に スラグが附着し、ケイ酸分が附着する。	
338-6 201	施軸肉輪 灰輪軸	覆土内 破片	□ 10.1 底 — 高 —	密	良好	白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。	
338-7 201	施軸肉輪 灰輪軸	覆土内 破片	□ 10.8 底 — 高 —	密	良好	白灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。	
338-8 201 瓦-359	瓦	床直層 破片	厚 2.3	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。寛楕き文字瓦判読不能 (凹面)。凹 面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の無で整形。 側面取 2 回。	笠懸系
338-9 201 瓦-360	瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。寛楕き文字瓦「大」 (凹面)。凸面 鑄印き (密)。側面取 3 回。	秋間系
338-10 202	瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	橙	半織作り。凸面平行叩き。側面取 2 回。	吉井系
338-11 202	瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	暗灰	半織作り。凸面縦位の無で整形。側面取 3 回。端部取 1 回。	吉井・藤 岡系
338-12 201	瓦	カマド内 破片	幅 15.3 厚 1.5	シルト粒 白色微粒子	還元焰	灰	半織作り。凸面縦位の無で整形。側面取 1 回。端部取 1 回。	
338-13 201	瓦	床直層 破片	厚 0.8	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面無で整形。端部取 1 回。	秋間系
338-14 202	瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面平行叩き後無で整形。側面 取 2 回。端部取 2 回。	吉井系
338-15 202	瓦	掘り方内 破片	厚 1.7	黒色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面 T 字鑄印き。端部取 1 回。	秋間系
338-16 202	瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面布目無で消し。凸面鑄印き。 側面取 2 回。	笠懸系

B区第9号住居跡

採出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
339-1 202	内黒土器 埴	床直層 破片	□ 13.7 底 — 高 —	微粒状雲母	酸化焰	黄緑	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系

B区(9・10・11号住居跡)

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
339-2 202	須恵 埴	覆土内 瓦残存	口 16.7 底 7.8 高 5.8	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。付高台。	藤岡系
339-3 202	須恵 埴	覆土内 破片	口 — 底 9.4 高 —	黒色微粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。付高台。	栗原系
339-4 202	土師 甕	覆土内 破片	口 12.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は窪削り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	
339-5 202	鉄 不	覆土内 一部欠損	重 (18.1)	—	—	—	断面薄い長方形状を呈する。両端を欠損する。	
339-6 202 瓦-533	瓦 字	床直層 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	黄黄橙	瓦当意匠は右前行唐草文。外縁に珠点を配する。瓦瓦部は一枚作り、凸面縁で整形。	笠懸系
339-7 202	瓦 男	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰	黄黄橙	半載作り。凸面縁位の撫で整形。粘土板接合痕は乙。側面面取り3回。	吉井系
339-8 202	瓦 女	覆土内 破片	厚 1.8	白色粒子	還元焰	黒灰	一枚作り。凸面縁叩き。側面面取り1回、端部面取り1回。	笠懸系

B区第10号住居跡

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
340-1 202	土師 甕	カマド・ 覆土内 破片	口 10.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子	酸化焰	黄黄橙	輪縁成形(右回転)。	吉井・藤岡系
340-2 202	黒色土 埴	床直層 瓦残存	口 10.5 底 4.4 高 2.8	白色粒子	還元焰	黒褐	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面撫し処理。	吉井系
340-3 202	土師 埴	床直層 破片	厚 0.9	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子 細塵	酸化焰	黄橙	輪縁成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
341-1 202	内黒土 埴	床直層 瓦残存	口 35.0 底 15.0 高 14.9	白色粒子(バミ) 白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	黒褐	紐作り後横撫で整形。内・外面撫し処理、暗文を施す。	月夜野系
341-2 202	鉄 不	床直層 ほぼ完存	厚 3.4 重 799.9	粥粒安山岩	—	—	平坦面が磨滅し、縁辺部は敲打による欠損が顕著である。	
341-3 203	鉄 釘	カマド内 覆土内 瓦残存	重 (17.3)	—	—	—	断面正方形を呈する。両端及び中央を欠損する。	
341-4 203	瓦 男	カマド内 瓦残存	幅 16.0 厚 1.5	白色鉱物粒子	酸化焰	黄黄橙	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縁叩き後輪縁横撫で整形。側面面取り2回。	秋間系
341-5 203	瓦 女	カマド内 瓦残存	幅 18.8 厚 2.8	白色鉱物粒子	酸化焰	黄黄橙	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面面取り左2回・右3回、端部面取り3回。	吉井系
342-1 202	瓦 女	床直層 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縁叩き(密)後撫で整形。	秋間系
342-2 202	瓦 女	床直層 破片	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰	黄黄橙	横巻き造り。凹面横骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面縁叩き(密)。	吉井系
342-3 203	瓦 女	床直層 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縁位の撫で整形。側面面取り3回、端部面取り3回。	吉井系

B区第11号住居跡

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目(g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
343-1 203	土師 甕	カマド・ 掘り方内 破片	口 13.1 底 — 高 (3.1)	微粒状雲母 黒色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は窪削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型痕を残す。	藤岡系
343-2 203	須恵 埴	カマド・ 掘り方内 瓦残存	口 8.6 底 7.0 高 3.6	黒色粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 保存状態	寸法 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
344-1 203	須志器 埴	覆土内 瓦残存	口 14.5 底 7.7 高 4.5	白色磁物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井系
344-2 203	須志器 埴	覆土内 破片	口 15.3 底 7.6 高 4.8	シルト質 雲母	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
344-3 203	土師質土 器 埴	覆土内 破片	口 13.3 底 — 高 —	白色磁物粒子	酸化焰	黄褐	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
344-4 203	土師質土 器 埴	覆土内 破片	口 14.0 底 — 高 —	白色磁粒子	中性焰	黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤 岡系
344-5 203	須志器 埴	床直層 破片	口 15.1 底 — 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋間系
344-6 203	土師質土 器 埴	床直層 破片	—	白色磁物粒子 塵	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
344-7 203	土師質土 器 埴	床直層 破片	口 — 底 7.6 高 —	微粒状雲母 白色微粒子	中性焰	灰黄白	轆轤成形(右回転)。付高台。内面底部に貫刺 き文字、判読不能。	藤岡系
344-8 203	土師質土 器 埴	床直層 破片	—	微粒状雲母	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
344-9 203	須志器 埴	床直層 瓦残存	口 — 底 (7.1) 高 —	雲母 白色磁物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
344-10 203	須志器 坏	覆土内 破片	口 — 底 6.6 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
344-11 203	土師質土 器 埴	カマド・ 掘り方内	口 — 底 6.9 高 —	微粒状雲母	還元焰	黒褐 黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内面横し処理を 施す。	藤岡系
344-12 203	須志器 埴	カマド内 破片	口 — 底 8.8 高 —	シルト粒	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内面横し処理を 施す。	秋間系
345-1 203	土師器 壺	カマド・ 掘り方内 破片	口 19.4 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色磁物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削 り、口縁部は横溝で、内面胴部は寛削で。	藤岡系
345-2 203	土師器 壺	覆土内 破片	口 20.4 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母 黒色磁物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削 り、口縁部は横溝で、内面胴部は寛削で。	藤岡系
345-3 203	土師器 壺	カマド・ 掘り方内 破片	口 24.0 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母 黒色磁物粒子	還元焰	灰褐	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削 り、口縁部は横溝で、内面胴部は寛削で。	藤岡系
345-4 203	須志器 埴	覆土内 破片	口 21.0 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母 黒色磁物粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤成形(右回 転)。脚は貼り付け。	吉井系
345-5 203	須志器 壺	覆土内 破片	口 6.0 底 — 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤成形(右回転)。内・外面自然輪 筋着。	秋間系
345-6 203	須志器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具 は背海波文)。	乗附系
345-7 203	須志器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子 小白色磁物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具 は背海波文)。横線帯を施す。	藤岡系
345-8 204	須志器 壺	カマド・ 覆土内 破片	最大径 28.7	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤成形(右回転)。外面蓋の底径の 部分が縮着。外面自然輪筋着。	秋間系
345-9 204	須志器 大 変 形 用 埴	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面丸具 は不詳)。内面磨減顯著。	乗附系

B区 (11号住居跡)

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
346-1 204	加軸内器 灰検査	カマド内 破片	口 一 底 13.0 高 一	密	良好	灰白	紐作り後継継ぎ形(右回転)。付高台。胎物は不詳。	
346-2 204	鉄器 釘	床直層 為残存	重 (7.0)	—	—	—	尖端部欠損。上端は腰やかに曲がっている。	
346-3 204	鉄器 釘	覆土内 為残存	重 (37.2)	—	—	—	両端部欠損。	
346-4 204	鉄器 不詳	床直層 破片	重 (17.1)	—	—	—	断面正方形状を呈する。	
346-5 204	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (1.4)	—	—	—	何かの残片か。	
346-6 204	雑器 不詳	覆土内 為残存	幅 5.4 厚 4.0 重 353.0	粗粒安山岩	—	—	上面を磨滅する。下端は叩き使用が認められる。所謂スタンプ状石器。	
346-7 204	雑器 不詳	床直層 完存	長 11.4 幅 7.3 重 480.3	粗粒安山岩	—	—	上面を磨滅する。	
346-8 204	雑器 不詳	床直層 完存	長 12.0 幅 5.3 重 392.6	実質玄武岩	—	—	上面を磨滅する。	
346-9 204	雑器 不詳	床直層 為残存	幅 7.4 厚 4.2 重 625.1	粗粒安山岩	—	—	上面を磨滅する。上端欠損。下端部破打痕が認められる。	
346-10 204	雑器 不詳	床直層 完存	長 12.3 幅 6.8 重 442.0	粗粒安山岩	—	—	上面を磨滅する。	
346-11 204	雑器 不詳	床直層 完存	長 11.2 幅 4.2 重 248.2	粗粒安山岩	—	—	上面を磨滅する。	
346-12 204	雑器 不詳	覆土内 為残存	幅 6.2 厚 3.6 重 282.7	粗粒安山岩	—	—	特別な使用痕が認められない。上端欠損。	
346-13 204 瓦-534	瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 赤色粒子 白色微粒子	酸化焙	橙	瓦当意匠は格子文。華は曲線型。女瓦部は一枚作り。	吉井系
347-1 204	瓦	カマド内 為残存	長 45.2 幅 19.4 厚 3.7	白色鉱物粒子 ダイヤサイト	還元焙	灰白	半截作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦位の手無で整形・不定方向の残無で。側部面取り3回、端部面取り1回。	吉井系
347-2 205	瓦	床直層 為残存	幅 20.2 厚 1.9	黒色粒子	還元焙	灰	半截作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦継横無で整形。側部面取り3回、端部面取り1回。	秋間系
347-3 204	瓦	床直層 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焙	灰	一枚作り。凹面水痕。凸面縦叩き後無で整形。側部面取り2回。	秋間系
347-4 204	瓦	床直層 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焙	黄橙	一枚作り。凸面縦継横無で整形。側部面取り2回。	笠懸系か 吉井系
348-1 205	瓦	床直層 為残存	長 41.8 幅 28.3 厚 1.1	黒色粒子	還元焙	灰白	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側部面取り1回、端部面取り1回。	秋間系
348-2 205	瓦	カマド内 為残存	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色微粒子 赤色粒子	酸化焙	橙	一枚作り。凸面水目無で消し。側部面取り1回、端部面取り1回。	吉井系
348-3 205	瓦	カマド内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	酸化焙	橙	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側部面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
348-4 205	瓦	掘り方内 破片	厚 1.0	白色鉱物粒子 微粒状器母	酸化焙	鈍橙	一枚作り。凸面不定方向の無で整形。側部面取り1回。	吉井・藤 岡系

遺物一覧表

B区第13号住居跡

博覧番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 目録 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
349-1 205	須恵器 坏	床直層 与残存	口 13.0 底 5.6 高 3.9	白色粒子	中性焰	灰黄 黒灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
349-2 205	須恵器 坏	床直層 与残存	口 12.9 底 5.8 高 4.1	雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
349-3 205	須恵器 塊	床直層 破片	口 13.2 底 — 高 —	雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
350-1 205	須恵器 塊	カマド・ 覆土内 破片	口 — 底 6.8 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
350-2 205	土師器 台付罌	覆土内 破片	—	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	底部は貫削り、内面は寛無で。脚部は紐作り後撫で整形。	藤岡系
350-3 205	羽蓋	覆土・ 掘り方内 破片	口 20.1 底 — 高 —	透明藍物粒子 白色粒子	酸化焰	黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤成形 (右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
350-4 205	雜器 不詳	覆土内 完存	長 3.9 幅 3.6 重 64.9	靑瓷安山岩	—	—	全体的に球形状で上面をやや磨滅する。	
350-5 205	羽口	覆土内 破片	厚 2.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められる。使用に伴う脆性が認められる。	
350-6 205	鉄器 刀子	覆土内 与残存	重 (21.8)	—	—	—	刀身及び茎尻を欠損する。研ぎ減りが著しい。	
350-7 206	雜器 不詳	覆土内 ほぼ完存	長 16.2 厚 3.9 重 1584.3	靑瓷安山岩	—	—	側部を一部欠損する。肩平面は磨滅し、小口及び側部に割傷がある。	
350-8 206	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	半截作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り1回、端面取り3回。	吉井系
350-9 206	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り1回、端面取り1回。	吉井系
350-10 206	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	半截作り。凹面布合せ目成。凸面縦位の撫で整形。轆轤横撫で整形。側面取り1回、端面取り2回。	吉井系

B区第14号住居跡

博覧番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 目録 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
351-1 206	土師器 坏	掘り方内 与残存	口 14.1 底 9.3 高 3.9	雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は貫削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁に甘い面層を残す。	藤岡系
351-2 206	土師質土 器 塊	掘り方内 破片	口 (14.0) 底 6.2 高 5.9	透明鉱物粒子 白色粒子 赤色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面内黒・研削を施す。外面貫削り。	藤岡系
351-3 206	須恵器 坏	カマド内 ほぼ完形	口 13.3 底 7.0 高 3.8	雲母 デイスイト	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
351-4 206	須恵器 塊	覆土内 破片	口 (13.5) 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 雲母 シルト質	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	吉井・藤岡系
352-1 206	土師質土 器 坏	床直層 与残存	口 13.3 底 5.8 高 3.8	細砂粒 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
352-2 206	須恵器 坏	カマド・ 覆土内 与残存	口 13.3 底 (7.0) 高 4.1	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	

B区(13・14号住居跡)

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
352-3 206	須恵器 埴	床直層 瓦残存	口 15.1 底 — 高 —	砂粒 ダイサイト	還元焰 灰白 浅黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤 岡系
354-1 206	須恵器 埴	カマド・ 覆土内 破片	口 15.2 底 — 高 —	微粒状雲母 シルト質	中性焰 黄灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
354-2 206	須恵器 埴	床直層 ほぼ完形	口 15.8 底 — 高 —	砂粒 白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰 灰褐	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤 岡系
354-3 206	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 6.9 高 —	白色鉱物粒子 微粒状雲母	還元焰 黒灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
354-4 206	土師器 壺	カマド・ 覆土内 瓦残存	口 18.2 底 3.6 高 27.4	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰 鈍黄橙	口縁部は外反する。縦作り。外面割部は寛前期、口縁部は横撫で、内面割部は寛中期。	
354-5 206	鉄器 釘	床直層 一部欠損	重 (91.3)	—	—	断面正方形形状を呈する。尖端を欠損する。断面は大きい。	
354-6 206	鉄器 釘	床直層 瓦残存	重 (18.0)	—	—	全体的に歪む。尖端側を欠損する。断面正方形形状を呈する。	
354-7 206	鉄器 釘	カマド内 一部欠損	重 (12.7)	—	—	断面正方形形状を呈し両端を欠損する。茎とも思われる。刀子か。	
354-8 206	鉄器 不詳	床直層 一部欠損	重 (74.3)	—	—	断面長方形形状を呈する。全体に細長い。両端を欠損する。	
354-9 206	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰 灰	縦作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
355-1 206	石造品 破片	床直層 羽目石	重 1,880	二ツ岳緑石	—	区分寺堂宇基礎化整の羽目石か。	
355-2 207	瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰 灰白	一枚作り。凸面錫叩き。側面面取り4回。	秋間系
355-3 207	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.6	雲母 黒色微粒子 白色微粒子	還元焰 灰	一枚作り。凸面錫叩き。磨砂痕有。側面面取り3回。	秋間系
355-4 207 瓦-361	瓦 女瓦	カマド内 ほぼ完形	長 39.4 幅 22.8 厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰 灰	一枚作り。寛福き文字瓦「中止」(凹面)。側面面取り左3回・右2回。端部面取り広4回・狭3回。	吉井系 4.4kg
356-1 207	瓦 女瓦	床直層 瓦残存	長 40.3 幅 25.6 厚 3.0	白色鉱物粒子	還元焰 灰	一枚作り。凸面段位の撫で整形。側面面取り2回。端部面取り1回。	吉井系
356-2 208	瓦 女瓦	カマド内 瓦残存	厚 2.0	白色微粒子 白色鉱物粒子 微粒状雲母	還元焰 灰	一枚作り。凸面段位の撫で整形。側面面取り2回。端部面取り1回。	兼附系
357-1 207 瓦-362	瓦 女瓦	床直層 瓦残存	厚 2.4	白色微粒子 白色微粒子	酸化焰 橙	一枚作り。寛福き文字瓦「入」(凸面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面段位の手撫で整形。側面面取り2回。端部面取り2回。	吉井系
357-2 208	瓦 女瓦	カマド内 瓦残存	厚 2.5	白色微粒子	還元焰 褐	一枚作り。凹面寄木状。凸面板目叩き後段位の撫で整形。側面面取り2回。端部面取り2回。	笠懸系
357-3 208	瓦 女瓦	覆土内 瓦残存	幅 27.2 厚 2.0	白色微粒子	還元焰 褐	一枚作り。凸面不正格子叩き。側面面取り1回。端部面取り1回。	笠懸系
357-4 208	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰 橙	一枚作り。凸面平行叩き後撫で整形。側面面取り3回。	兼附系
358-1 208	瓦 女瓦	カマド内 破片	幅 27.6 厚 1.6	白色微粒子	酸化焰 黄橙	一枚作り。	笠懸系
358-2 208	瓦 女瓦	床直層 瓦残存	厚 2.5	白色微粒子 白色微粒子	還元焰 灰白	横帯き造りか。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面轆轤横撫で整形。	

遺物一覧表

B区第15号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
359-1 209	土師器 坏	掘り方内 完形	口 10.6 底 — 高 3.1	白色粒子 黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は寛削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い彫痕を残す。	藤岡系
359-2 209	土師器 坏	掘り方内 完形	口 11.0 底 — 高 3.0	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は寛削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い彫痕を残す。	藤岡系
359-3 209	土師器 坏	ハツドを施 す・覆土内 完形	口 11.1 底 — 高 3.3	黒色鉱物粒子 雲母	酸化焰	橙	型作り成形。体部は撫でを施している。	藤岡系
359-4 209	土師器 坏	掘り方内 完形	口 14.0 底 — 高 3.0	微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。体部は撫でを施している。	藤岡系
359-5 209	土師器 壺	床直層 片残存	口 11.2	微粒状雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は横撫で。	藤岡系
360-1 209	土師器 壺	床直層 破片	底 3.8	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	体部・底部は寛削り、器内面は横撫で。	藤岡系
360-2 209	須恵器 短頸壺	覆土内 破片	底 8.0 最大径 10.4	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後継継成形（右回転）。	秋田系
360-3 209	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	7本1単位の波状文を刻らす。紐作り後継継成形（右回転）。	秋田系
360-4 209	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面砲丸は背海技法）。	果附系
360-5 209	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面砲丸は背海技法）。	秋田系
360-6 209	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面砲丸は背海技法）。	秋田系
360-7 209	須恵器 壺	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後継継成形（右回転）。	秋田系
360-8 209	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面砲丸は背海技法）。	秋田系
360-9 209	須恵器 壺	覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形（外面平行叩き・内面砲丸は背海技法）内面は磨減している。	果附系

B区第16号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
361-1 209	土師器 坏	床直層 片残存	口 13.0 底 — 高 3.9	白色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は寛削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁に彫痕を残す。	藤岡系
361-2 209	須恵器 坏	覆土内 片残存	口 13.3 底 5.4 高 4.2	白色粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	輪縁成形（右回転）。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
361-3 209	須恵器 坏	床直層 片残存	口 (13.9) 底 7.3 高 3.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	輪縁成形（右回転）。底部は回転糸切り。	秋田系か 果附系
361-4 209	須恵器 坏	掘り方・ 覆土内 破片	口 — 底 6.5 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	還元焰	明灰濁	輪縁成形（右回転）。底部は回転糸切り。	藤岡系
361-5 209	須恵器 埴	覆土内 破片	口 14.5 底 6.6 高 4.9	白色微粒子	還元焰	灰	輪縁成形（右回転）。付高台。	果附系
361-6 209	須恵器 埴	ハツド・覆 土内 片残存	口 16.2 底 8.0 高 5.2	黒色粒子	還元焰	灰	輪縁成形（右回転）。付高台。	秋田系
363-1 209	須恵器 埴	覆土内 破片	口 15.4 底 7.7 高 4.8	微粒状雲母 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	輪縁成形（右回転）。付高台。	藤岡系

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
363-2 209	須恵器 埴	覆土内 破片	口 (16.0) 底 (7.5) 高 (5.1)	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
363-3 209	須恵器 埴	床直層 片残存	口 16.3 底 7.8 高 6.1	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋岡系
363-4 209	須恵器 埴	床直層 片残存	口 (16.3) 底 (7.4) 高 4.7	微粒状雲母 白色粒子	還元焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
363-5 209	須恵器 埴	覆土内 破片	口 21.5 底 11.2 高 9.9	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
363-6 209	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 5.8 高 —	微粒状雲母	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
363-7 209	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 6.7 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
363-8 209	須恵器 埴	床直層 破片	口 — 底 6.9 高 —	微粒状雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
363-9 209	須恵器 埴	床直層 片残存	口 — 底 7.5 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子 シルト質	中性焰	浅灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
363-10 209	須恵器 皿	覆土内 破片	口 12.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	秋岡系
363-11 209	須恵器 皿	床直層 片残存	口 14.0 底 7.6 高 2.9	微粒状雲母 黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
363-12 209	須恵器 皿	覆土内 破片	口 14.1 底 8.0 高 2.2	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋岡系
363-13 209	土師器 坏	カマド・ 覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 細砂	酸化焰	橙	底部は歪曲を顕著に残す。	藤岡系
363-14 210	土師器 甕	カマド内 破片	口 18.4 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	藤岡系
363-15 210	土師器 甕	床直層 破片	口 (14.8) 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	藤岡系
363-16 209	土師器 埴	掘り方・ 覆土内 破片	口 21.4 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子 雲母	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り。外面胴部は寛削り、口縁部は横撫で、内面胴部は寛撫で。	吉井・藤 岡系
363-17 209	羽 蓋	覆土内 破片	最大径 24.7	透明鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。	月夜野系
364-1 210	須恵器 甕	マフ・掘り 方・覆土・ 破片	口 — 底 (12.8) 高 —	アイサイト 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井・藤 岡系
364-2 210	土師器 甕	カマド 掘り方内 破片	口 — 底 3.4 高 —	微粒状雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	体部・底部は寛削り。器内面は横撫で。	藤岡系
364-3 210	施釉陶器 灰 軸 瓦	覆土内 破片	口 15.0 底 7.6 高 2.8	密	良好	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は洗掛。	
364-4 210	施釉陶器 灰 軸 瓦	覆土内 片残存	最大径 17.6	密	良好	白灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
364-5 210	瀬 不 評	床直層 完存	長 10.6 幅 4.2 重 233.9	粗粒安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	

遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	土質	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
364-6 210	鉄器 刀子	覆土内 一部欠損	重 (5.8)	—	—	—	刀身中央部及び茎が欠損する。全体的に刃部は直線的に研ぎ減っている。鋒は枯れ気味である。	
364-7 210	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (18.5)	—	—	—	全体に短かく湾曲している。断面正方形形状を呈する。	
364-8 210	鉄器 釘	覆土内 破片	重 (25.9)	—	—	—	頸部を残存する。断面正方形形状を呈する。	
364-9 210	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (2.3)	—	—	—	断面正方形形状を呈する。両端欠損。	
364-10 210	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (4.1)	—	—	—	断面正方形形状を呈する。両端欠損。	
364-11 210	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (2.9)	—	—	—	湾曲している。両端欠損。断面長方形形状を呈する。	
364-12 210	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (2.3)	—	—	—	湾曲している。両端欠損。断面長方形形状を呈する。	
364-13 210	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (5.6)	—	—	—	湾曲している。両端欠損。断面長方形形状を呈する。	
364-14 210	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (2.1)	—	—	—	湾曲している。両端欠損。断面三角形形状を呈する。	
364-15 210	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (12.7)	—	—	—	断面正方形形状を呈し頸状部は断面長方形を呈する。尖端は先磨り状で欠損する。	
364-16 210	鉄器 不詳	覆土内 一部欠損	重 (23.6)	—	—	—	333-6 と類似する。側部は長い。	
364-17 210 瓦-363	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 デイスイト	酸化焰	橙	一枚作り。麓揃き文字瓦「上」(凹面)。凸面縦位の無で整形。側部面取り 4 回。	吉井系
364-18 瓦-571	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。麓揃き文字瓦「大」(凹面)。凸面縦向き(密)丁字状。側部面取り 3 回。	秋間系
365-1 211	瓦 男瓦	床直層 完形	長 44.2 広 22.4 狭 17.0	黒色粒子 夾	還元焰	灰白	半載作り。凹面布合せ目嵌。凸面縦向き後縁横溝で整形。側部面取り 2 回、端部面取り 1 回。	秋間系 2 kg
365-2 211	瓦 男瓦	覆土内 為残存	長 45.7 幅 17.3 狭 15.0	黒色粒子	還元焰	灰白	半載作り。凸面縦向き後縁横溝で整形。側部面取り 3 回、端部面取り 2 回。	秋間系
366-1 210	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 0.8	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	半載作り。凸面縦位の無で整形。側部面取り 3 回、端部面取り 1 回。	秋間系
366-2 210	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 0.8	白色粒子	還元焰	灰	半載作り。凹面布合せ目嵌。凸面縦向き。側部面取り 1 回。	秋間系
366-3 211	瓦 男瓦	掘り方・ 覆土内 為残存	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰白	半載作り。凸面縦位の無で、縦位の手摺で整形。側部面取り 2 回、端部面取り 1 回。	秋間系
366-4 210	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色粒子	還元焰	灰白	半載作り。凸面縦向き。側部面取り 1 回、端部面取り 1 回。	秋間系
366-5 210	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	暗灰	半載作り。凹面粘土板割ぎ取り直・布合わせ目嵌。凸面無で整形。端部面取り 3 回。	笠懸系
366-6 210	瓦 男瓦	掘り方内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	暗灰	半載作り。凹面無で整形。凸面縦位の無で整形。側部面取り 2 回、端部面取り 1 回。	笠懸系
366-7 210	瓦 男瓦	床直層 破片	厚 1.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦位の深掘り後無で整形。端部面取り 2 回。	吉井・藤間系
366-8 210	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	半載作り。凸面粘土板割ぎ取り直。側部面取り 1 回、端部面取り 1 回。	藤間系か
366-9 210	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨嵌。凸面平行叩き。側部面取り 2 回。	栗附系
367-1 212	瓦 女瓦	床直層 完形	長 47.0 広 37.6 狭 30.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨嵌。凸面丁字叩き(密)。側部面取り左 3 回・右 2 回、端部面取り 1 回。	栗附系
367-2 211	瓦 女瓦	床直層 為残存	長 50.9 厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側部面取り 3 回、端部面取り 3 回。	吉井系
368-1 211	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り直。凸面縦位の無で整形。側部面取り 3 回、端部面取り 4 回。	吉井系

調査番号 図号番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 目録 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
368-2	瓦 女	床直層 破片	厚 1.5	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	淡黄橙	一枚作り。凸面無で整形。	藤岡系
368-3	瓦 女	カマド内 破片	厚 1.3	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕有。凸面錫叩き(密)。側面割ぎ出し段有。	秋間系
368-4 210	瓦 女	覆土内 破片	厚 2.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面錫叩き後軸横溝無で整形。	吉井・藤岡系
368-5	瓦 女	カマド内 破片	厚 1.4	白色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕有。凸面錫叩き(密)。側面面取り1回。	秋間系
368-6 211	瓦 女	カマド内 破片	厚 1.2	白色鉱物粒子 白色微粒子 微粒状雲母	還元焰	白灰	一枚作り。凸面平行叩き後無で整形。側面面取り2回。	吉井・藤岡系
368-7	瓦 女	カマド内 破片	厚 1.1	白色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕。凸面錫叩き(密)。	秋間系
368-8 211	瓦 瓦	床直層 残存	厚 1.8	白色粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面縦位の無で整形。側面面取り2回、端面面取り2回。	藤岡系
368-9	瓦 女	傍竈坑 破片	厚 1.0	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面T字溝叩き(密)。	秋間系
368-10	瓦 女	傍竈坑 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面無で整形。端面面取り2回。	東附系
368-11 212	瓦 女	床直層 破片	厚 0.9	黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面T字溝叩き。側面面取り3回、端面面取り1回。	秋間系
369-1 212	瓦 女	カマド・ 掘り方内 破片	厚 1.0	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	淡黄橙	一枚作り。凹面布合せ目痕。凸面縦位の手無で整形。	秋間系
369-2	瓦 女	掘り方・ 覆土内 破片	厚 1.1	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面無で整形。端面面取り1回。	東附系か 秋間系
369-3	瓦 女	掘り方・ 覆土内 破片	厚 0.9	白色粒子	還元焰	暗灰	柄巻き造りか。凹面横骨痕。凸面平行叩き(密)。側面面取り2回。	秋間系
369-4	瓦 女	カマド内 破片	厚 1.1	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面横骨痕。凸面縦位の無で整形。側面面取り1回。	東附系
369-5	瓦 女	覆土内 破片	厚 1.6	微粒状雲母 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕・布目無で消し。凸面粘土板割ぎ取り痕、縦位の無で整形。側面面取り2回、端面面取り2回。	笠懸系
369-6	瓦 女	覆土内 破片	厚 1.6	白色粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面本目叩き後無で整形。	藤岡系

B区第17号住居跡

調査番号 図号番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 目録 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
370-1 212	土師質土 器 坏	カマド・ 覆土内 破片	口 (10.0) 底 (5.4) 高 2.6	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か 吉井系
370-2 212	土師質土 器 坏	床直層 残存	口 9.1 底 4.5 高 2.5	雲母 黒色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
370-3 212	土師質土 器 埴	カマド・ 覆土内 残存	口 (15.4) 底 ー 高 ー	白色微粒子 白色鉱物粒子 網罟	酸化焰	黒橙	轆轤成形(右回転)。高台欠削(付高台)。内面暗文を施し、熨し起尾。	吉井・藤岡系
370-4 212	土師質土 器 埴	掘り方・ 覆土内 破片	口 ー 底 7.0 高 ー	透明鉱物粒子 細砂	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内面熨し処理を施す。	吉井・藤岡系
370-5 212	土師質土 器 埴	覆土内 破片	口 ー 底 6.0 高 ー	透明鉱物微粒子 白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
370-6 212	土師質土 器 埴	覆土内 破片	口 ー 底 7.5 高 ー	黒色鉱物粒子 白色微粒子 微粒状雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系

B区(18・19・20号住居跡)

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
374-5 213	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.0	微粒状雲母	還元焰	白灰	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側面周取り 2部。	藤岡系

B区第19号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
375-1 214	土師器 坏	覆土内 破片	口 10.1 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	鈍橙	型作り成形。底部・体部は寛削り、口縁内外 面は横削で、内面体部・底部は無で整形。口 縁直下に甘い整唐を残す。	藤岡系
375-2 214	土師器 坏	床直層 ほぼ完形	口 13.4 底 — 高 4.9	雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。底部・体部は寛削り、口縁内外 面は横削で、内面体部・底部は無で整形。口 縁直下に甘い整唐を残す。	藤岡系
375-3 214	土師器 坏	床直層 破片	口 15.2 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	型作り成形。底部・体部は寛削り、口縁内外 面は横削で、内面体部・底部は無で整形。口 縁直下に甘い整唐を残す。	藤岡系
375-4 214	須恵器 坏	床直層 ほぼ完形	口 12.4 底 7.8 高 3.7	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は手持り寛削り。	秋間系
375-5 213	土師器 甕	床直層 破片	口 — 底 4.7 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	鈍褐	紐作り。体部・底部は寛削り。器内面は横削 で。	藤岡系
375-6 214	須恵器 大甕	床直層 破片	口 27.4 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。口唇直下に突帯を廻らす。	秋間系
375-7 213	雜器 不詳	掘り方内 完存	長 14.6 幅 5.4 重 334.9	滑結凝灰岩	—	—	上面は磨減する。	

B区第20号住居跡

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
377-1 214	須恵器 坏	掘り方内 互残存	口 14.2 底 6.1 高 4.0	白色微粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
377-2 214	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 5.6 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
377-3 214	土師質土 器 埴 地	カマド・ 掘り方・ 覆土内 破片	口 15.2 底 7.5 高 5.3	微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。内・外面横し延 唐を施す。	吉井・藤 岡系
377-4 214	須恵器 埴 地	掘り方内 破片	口 — 底 8.3 高 —	白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
377-5 214	須恵器 埴 地	カマド内 破片	口 — 底 7.3 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系か 栗附系
377-6 214	土師器 甕	床直層 互残存	口 17.2 底 13.9 高 —	透明鉱物粒子 微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙 浅黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は寛削り、 口縁部は横削で、内面割部は寛削り。	藤岡系
377-7 214	土師器 甕	カマド内 破片	口 10.0 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は寛削り、 口縁部は横削で、内面割部は寛削り。	藤岡系
377-8 214	石製品 砥石	覆土内 一部欠損	厚 2.2 重 134.7	砥沢石	—	—	手持砥。旧状の周縁部中心が左上がりに減っ ている。利手は左手。	
377-9 214 瓦-447	瓦 一 瓦	掘り方内 破片	厚 0.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当面の大半を欠損する。瓦当意匠は不詳。 瓦当部は印刷付。	吉井系
377-10 214 瓦-448	瓦 一 瓦	掘り方内 破片	厚 2.4	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当面の大半を欠損する。瓦当意匠は不詳。 胎土からすれば因寺創建意匠の単弁5葉蓮 華文と思われる。	笠懸系

遺物一覧表

棟内番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
377-11 214 瓦-365	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	半截作り。底面き文字凡判断不能(凸面)。凸面平行叩き	吉井系
377-12 214	瓦 男 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色微粒子 黒色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凹面布合わせ目痕。粘土板割ぎ取り痕。凸面横軸換機で整形。	笠懸系
378-1 214	瓦 女 瓦	掘り方内 破片	長 22.2 厚 1.6	シルト粗粒	中性焰	灰黄	一枚作り。凹面布合せ目痕。布目痕で消し。凸面丁字罫叩き。側面取り2回、側面取り1回。	秋間系
378-2 215	瓦 女 瓦	覆土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	酸化焰	黄緑	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面細砂痕。側面取り1回。	秋間系

B区第21号住居跡

棟内番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
380-1 215	土師土器 破片	覆土内 破片	□ 14.1 底 6.0 高 1.6	微粒状雲母 小礫 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄緑	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤岡系
380-2 215	須恵器 埴	覆土内 破片	□ — 底 8.0 高 —	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	栗附系
380-3 215	須恵器 埴	覆土内 破片	□ — 底 6.8 高 —	微粒状雲母 白色微粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系か 藤岡系
380-4 215	鉄 不評	覆土内 破片	重 (7.1)	微粒状雲母 白色微粒子	—	—	断面正方形状を呈する。両端を欠損する。釘と思われる。	
380-5 215	瓦 男 瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦軸の無で整形。	吉井系
380-6 215	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 2.2	夾	還元焰	暗灰	一枚作りか。凹面青木板・粘土板割ぎ取り痕。凸面罫叩き(密)後換機で整形。離砂痕。側面取り4回。	秋間系
380-7 215	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面換機で整形。側面に布目有。	秋間系
380-8 215	瓦 女 瓦	床直層 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面丁字罫叩き(密)。側面に布目有。	秋間系

B区第22号住居跡

棟内番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
381-1 215	内黒土器 坏	覆土内 与残存	□ 13.1 底 6.0 高 3.8	微粒状雲母 透明鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。内面横し処理。暗文を施す。	藤岡系
381-2 215	須恵器 坏	覆土内 与残存	□ 15.7 底 6.6 高 6.6	白色針状物	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。胎土内の針状物からすれば、武蔵(比企郡)からの搬入品と考えられる。	南比企か
381-3 215	須恵器 埴	カマド・ 底 7.2 覆土内 与残存 高 5.1	□ 13.6 底 7.2 高 5.1	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	栗附系
381-4 215	須恵器 埴	掘り方・ 覆土内 与残存	□ (14.4) 底 (8.3) 高 (5.1)	微粒状雲母	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
381-5 215	須恵器 埴	掘り方・ 覆土内 与残存	□ 14.7 底 7.9 高 4.8	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
382-1 215	須恵器 埴	掘り方・ 覆土内 与残存	□ 14.5 底 7.2 高 7.8	黒色微粒子 シルト質	中性焰	灰黄	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系

調査番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
382-2 215	土師質土 器 埴 壇	掘り方・ 覆土内 に残存	口 15.7 底 (7.8) 高 4.7	黒色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋田系
382-3 215	土師質土 器 埴 壇	カマド・ 掘り方内 に残存	口 11.0 底 6.6 高 3.1	デイスait 微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
382-4 215	須志器 皿	床直層 破片	口 13.5 底 7.3 高 2.6	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋田系
382-5 215	須志器 皿	掘り方内	口 14.1 底 7.7 高 2.6	白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋田系
382-6 215	土師器 壺	カマド・掘り 方・覆土内 破片	口 10.2 底 — 高 —	微粒状雲母 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は直撫で。	藤岡系
382-7 215	土師器 壺	床直層 破片	口 18.0 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は直撫で。	藤岡系
382-8 215	土師器 壺	掘り方・ 覆土内 破片	口 22.1 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母 白色微粒子	酸化焰	黄橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は直撫で。	藤岡系
382-9 215	須志器 壺	覆土内 破片	口 (7.4) 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は短く立ち上がる。紐作り後轆轤成形(右回転)。	栗岡系
382-10 216	須志器 壺	覆土内 破片	口 18.4 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤成形(右回転)。	秋田系
382-11 216	須志器 壺	覆土内 破片	—	黒色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	黄灰	紐作り後叩き整形。外面は轆轤再整形により、叩き具は不詳。内面宛具は素文。	栗岡系
382-12 216	土製品 土 壺	カマド・ 掘り方内 完形	長 4.6 幅 1.6	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	外面は撫で整形。	藤岡系
382-13 216	土製品 土 壺	カマド・ 掘り方内 に残存	幅 1.6	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	上半を欠損する。外面は撫で整形。	藤岡系
382-14 216	加輪陶器 灰 輪 瓶	掘り方・ 覆土内 破片	最大径 15.8	密	良好	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部下半は回転 施作り。	
382-15 216	加輪陶器 灰 輪 瓶	覆土内 破片	口 — 底 13.9 高 —	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
382-16 216	鉄 器 刀 子	覆土内 破片	重 (3.8)	—	—	—	鋒のみが残存する。	
382-17 216	鉄 器 刀 子	覆土内 破片	重 (9.0)	—	—	—	刀身及び茎欠損する。	
382-18 216	鉄 器 刀 子	覆土内 破片	重 (3.8)	—	—	—	茎のみの破片である。	
382-19 216	鉄 器 釘	床直層 一部欠損	重 (22.2)	—	—	—	断面正方形状を呈し、尖端を欠損する。	
382-20 216	鉄 器 釘	床直層 一部欠損	重 (53.3)	—	—	—	頭部及び尖端を欠損する。	
382-21 216	鉄 器 釘 か	覆土内 破片	重 (7.8)	—	—	—	断面正方形状を呈する。両端欠損。	
382-22 216	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (3.2)	—	—	—	両端欠損する。	
382-23 216	鉄 器 不 詳	覆土内 破片	重 (2.3)	—	—	—	両端欠損する。	
383-1 216	羽 口	掘り方内 破片	厚 2.1	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	
383-2 216	羽 口	掘り方内 破片	厚 2.5	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
383-3 216	羽口	掘り方内 破片	厚 1.8	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	
383-4 216 瓦-266	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半軟作り。篋編き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦横線で整形。	吉井系
383-5 216	瓦 男瓦	掘り方内 破片	厚 2.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	半軟作りか。凸面平行叩き。	秋間系
383-6 216	瓦 男瓦	カマド右端 %残存	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半軟作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り3回、端面取り2回。	吉井系
383-7 216	瓦 男瓦	掘り方内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半軟作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕、右目撫で消し。凸面縦叩き整形。側面取り4回。	吉井系
383-8 216	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.7	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半軟作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り3回、端面取り1回。	秋間系
383-9 216	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 小礫	還元焰	灰白	半軟作り。凸面縦叩き後撫で整形。側面取り1回、端面取り1回。	吉井系
383-10 217	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行叩き。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面取り2回、端面取り3回。	吉井系
384-1 217 瓦-367	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。篋編き文字瓦「足」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。側面取り1回。	吉井系
384-2 217	瓦 女瓦	カマド左端 破片	幅 27.3 厚 2.2	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦叩き、磨砂直有。側面取り3回。	乗附系
384-3 217	瓦 女瓦	掘り方内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面縦位の撫で整形。凸面縦叩き、縦横線で整形。側面取り2回、端面取り1回。	吉井系か 秋間系
384-4 217	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 0.8	黒色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凹面側を欠損する。凸面平行叩き(磨)。	藤岡系か 秋間系
384-5 217	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面取り2回、端面取り1回。	吉井系

B区第23号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
385-1 217	須恵器 坏	床直層 %残存	口 15.2 底 (7.7) 高 3.6	シルト粒	還元焰	白灰	縦縞成形(右回転)。	秋間系
385-2 217	土質質 器 坏	覆土内 破片	口 7.8 底 7.8 高 —	微粒状雲母 白色微粒子 ダイヤモンド	酸化焰	鈍黄橙	縦縞成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
385-3 217	須恵器 甕	床直層 破片	—	黒色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面内具は青陶製文)。	秋間系
385-4 217	須恵器 甕	覆土内 破片	口 30.0 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反し、9本1単位の波状文を廻らす。紐作り後縦縞整形(右回転)。	秋間系
385-5 217	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面内具は放射状)。	乗附系か 秋間系
385-6 217	鉄器 釘	覆土内 一部欠損	重 (18.0)	—	—	—	両端断面長方形を呈する。下半を欠損する。	
385-7 217	鉄器 鏝	床直層 %残存	重 (13.5)	—	—	—	右上左端側が直角に折れ更に先端部は曲がっている。	
385-8 218	鉄器 不詳	床直層 破片	重 (6.8)	—	—	—	断面長方形を呈する。両端欠損。	
385-9 218	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (15.2)	—	—	—	全体に薄く平たい。両端部に孔を配する。	
385-10 218	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (4.3)	—	—	—	断面長方形を呈する。両端を欠損する。	
385-11 218	鉄器 不詳	覆土内 破片	重 (1.9)	—	—	—	断面長方形を呈する。両端を欠損する。	

B区(23・24・25号住居跡)

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
385-12 217	鉄 器	床直層	厚 重 (43.8)	—	—	—	全体に錆が存する為、詳細不詳。	
386-1 218 瓦-368	瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦筋文字瓦判読不能(凹面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の側で整形。	吉井系
386-2 218	瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦横側で整形。側面取り2回。端部面取り1回。粘土板接合痕はZ。	秋間系
386-3 218	瓦	床直層 破片	厚 2.0	夾	酸化焰	鈍黄橙	横書き造り。凹面横骨痕。凸面縦叩き(密)。	吉井系
386-4 218	瓦	床直層 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凸面不定方向の横で整形。側面面取り3回。端部面取り2回。	吉井系

B区第24号住居跡

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
387-1 218	土師器 坏	床直層 完形	口 10.7 底 — 高 3.6	黒色鉱物粒子 炭粉状遺母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り。口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型傷を残す。	藤岡系
387-2 218	須恵器 甕	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	全体にハゼが多い。外面は縦横整形。	秋間系
387-3 218	雜器 不詳	掘り方 覆土内 完存	長 11.8 幅 4.4 重 397.8	砂岩	—	—	特別な使用痕が認められない。	
387-4 218	雜器 不詳	床直層 完存	長 14.4 幅 7.1 重 561.5	粗粒安山岩	—	—	平面が磨滅する。	

B区第25号住居跡

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
388-1 218	土師器 坏	覆土内 破片	口 12.7 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は篋削り。口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型傷を残す。	藤岡系か
388-2 218	須恵器 坏	覆土内 破片	口 11.6 底 (7.0) 高 3.5	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	縦横成形(右回転)。	秋間系
388-3 218	土師器 甕	覆土内 破片	口 — 底 4.0 高 —	白色微粒子	酸化焰	橙	底部は篋削り。器内面は横撫で。	藤岡系
388-4 218	須恵器 甕	覆土内 破片	厚 0.3~0.7	赤色粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	紐作り後縦横整形(右回転)。	秋間系
388-5 218	羽口	覆土内 破片	厚 1.8	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	
388-6 218	瓦	覆土内 破片	厚 1.9	夾	酸化焰	浅黄橙	半截作り。凸面縦叩き(密)。	葉形系
388-7 218	瓦	覆土内 破片	厚 1.9	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凸面縦叩き。細砂痕有。	秋間系
388-8 219	瓦	覆土内 破片	厚 0.7	白色鉱物粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凸面縦叩き(密)。	秋間系
388-9 218	瓦	覆土内 破片	厚 1.8	—	還元焰	灰黒	一枚作り。凸面縦叩き(密)。側面面取り4回。	秋間系
388-10 218	瓦	覆土内 破片	厚 1.2	シルト粒	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦撫で(密)。側面面取り5回。	秋間系
388-11 218	瓦	覆土内 破片	厚 2.7	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦叩き。側面面取り4回。	笠懸系
388-12 218	瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	橙	一枚作り。凸面縦位の側で整形。	葉形系
388-13 218	瓦	覆土内 破片	厚 1.6	黒色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凸面縦位の側で整形。	秋間系

遺物一覧表

B区第27号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
389-1 219	土師器 甕	カマド・ 掘り方内 瓦残存	口 9.1 底 5.3 高 3.4	黒色鉱物粒子 砂粒	酸化焰	浅黄緑	横轆成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
389-2 219	土師器 土釜	床直層 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄緑	紐作り後篋形。側面は直線。	吉井系
389-3 219	瓦 女瓦	カマド・ 掘り方内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。寛き文字瓦「大」(凸面)。端部面取り2回。	吉井系
389-4 219	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	半截作り。凸面側の側で整形。側面面取り3回。端部面取り3回。	秋田系
389-5 219	瓦 男瓦	カマド内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面側で整形。側面面取り3回。端部面取り1回。	吉井系
389-6 219	瓦 女瓦	カマド左 袖 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄緑	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面粘土板剥ぎ取り痕。縦位の側で整形。側面面取り3回。端部面取り2回。	吉井系
390-1 219	瓦 女瓦	カマド内 瓦残存	厚 1.8	シルト顆粒	酸化焰	橙	幅巻き造り。凹面横骨痕。粘土板剥ぎ取り痕有。凸面横轆成形。	東附系

B区第28号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
391-1 219	須恵器 坏	カマド・ 覆土内 瓦残存	口 12.8 底 5.6 高 3.6	微粒状雲母	還元焰	灰褐	横轆成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
391-2 219	須恵器 埴	覆土内 破片	口 — 底 7.7 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	横轆成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
392-1 219	土師器 甕	カマド内 破片	口 12.5 底 — 高 —	微粒状雲母 黒色鉱物粒子	還元焰	褐	口縁部は外反する。紐作り。外面側部は篋形。口縁部は横轆で、内面側部は直線。	藤岡系
392-2 219	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 13.4 高 —	微粒状雲母	還元焰	灰	紐作り後横轆整形(右回転)。	東附系か 藤岡系
392-3 219	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凸面側で整形。側面面取り2回。	吉井系

B区第29号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
394-1 219	土師器 坏	覆土内 破片	口 14.4 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形。口縁内外面は横轆で、内・外面体部は側で整形。外面底部に傷りを認める。	藤岡系
394-2 219	須恵器 高台坏	覆土内 破片	口 — 底 12.8 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	横轆成形(右回転)。	秋田系
394-3 219	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	吉井系か 東附系
394-4 219	須恵器 甕	覆土内 破片	—	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。外面平行叩き・内面宛具は不詳。	東附系
394-5 219	雑器 不詳	床直層 完存	長 6.9 幅 4.2 重 82.2	実質安山岩	—	—	特別な使用痕は認められない。	

B区第30号住居跡

棟号 図面番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
395-1 229	須恵器 埴	掘り方内 破片	口 12.3 底 — 高 —	微粒状雲母 透明鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	
395-2 229	土師質土 器 埴	掘り方内 破片	口 12.9 底 — 高 —	白色微粒 微粒状雲母	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	藤岡系
395-3 229	土師質土器 足高台付 埴	掘り方内 破片	口 — 底 12.0 高 —	黒色鉱物粒子 微粒状雲母	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。	藤岡系
396-1 220	羽釜	掘り方内 破片	口 20.2 底 — 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 雲粒状雲母	中性焰	灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井・藤岡系
396-2 220	羽釜	掘り方内 破片	口 20.2 底 — 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 雲粒状雲母	中性焰	灰黄	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系
396-3 220	羽釜	掘り方内 破片	口 — 底 6.2 高 —	白色鉱物粒子 チャート	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。胴部下半・底部は削り。吉井型羽釜。	吉井系
396-4 220	瓦 男瓦	掘り方内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	半截作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕・側面取り2回。	吉井・藤岡系

B区第31号住居跡

棟号 図面番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
398-1 220	須恵器 坏	覆土内 破片	口 13.6 底 6.8 高 3.3	黒色粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋岡系
398-2 220	須恵器 コップ型 土器	覆土内 破片	口 — 底 4.9 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋岡系か 果附系
398-3 220	土師質土器 2羽付付洗 部	覆土内 破片	口 — 底 16.0 高 —	白色粒子	酸化焰	鈍黄橙 暗橙	轆轤成形(右回転)。	
398-4 220	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	中性焰	灰黄 浅黄橙	半截作り。凸面平行叩き。粘土板接合痕はS。側面取り3回。	吉井系
398-5 220	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凸面叩き。側面取り3回。	秋岡系
398-6 220	瓦 女瓦	カマド内 掘り方内	厚 1.8	赤色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面寄木痕か。凸面丁字横叩き(密)。側面取り1回。側面取り1回。	秋岡系
398-7 220	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の櫛で整形。端部は横位の櫛で。側面取り3回。側面取り3回。	果附系か
398-8 220	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 3.0	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦位の櫛で整形。側面取り2回。	吉井系

B区第38号住居跡

棟号 図面番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
401-1 220	内黒土器 埴	キマド・掘り 方・覆土内 破片	口 — 底 6.1 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 赤色粒子	還元焰	黒灰	轆轤成形(右回転)。付高台。内面暗文、横し処理を施す。	
401-2 220	須恵器 壺蓋	覆土内 破片	—	白色微粒	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	果附系
401-3 220	土 釜	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 —	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	紐作り後轆轤整形。	吉井・藤岡系

遺物一覧表

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
401-4 220	土 蓋	覆土内 破片	口 18.2 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後磨面で整形。	吉井系
401-5 220	土 蓋	覆土内 破片	口 — 底 8.3 高 —	白色粒子 雲母 小円礫	酸化焰	鈍橙	紐作り後磨面で整形。	吉井・藤 岡系
402-1 220	内黒土器 鉢	床直層 瓦残存	口 35.0 底 15.0 高 14.9	砂鉄(ハス) 白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	黒褐	紐作り後磨面で整形。内・外面磨し処理、月夜野系を施す。	月夜野系
402-2 220	羽 蓋	カマド・ 掘り方内 瓦残存	口 23.0 最大径 26.1	黒色鉱物粒子 白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	淡黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後縁部整形(右回転)。脚は貼り付け、胴部下半・底部は磨面。	吉井系
402-3 220	土 師 器 不詳	覆土内 破片	厚 1.2	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り整形。片側の内面から粘土紐を押しつける。	吉井系
402-4 221	鉄 器 鏝か	覆土内 一部欠損	重 (17.8)	—	—	—	93-4・5・6と同様の物と思われる。	
402-5 221	鉄 器 鏝か	床直層 一部欠損	重 (45.6)	—	—	—	93-4・5・6、402-5と同様の物と思われる。	
402-6 221	玉 縁 付 男 瓦	カマド内 破片	厚 2.0	白色粒子 透明鉱物粒子	還元焰	黄橙	半截作り。凸面縦位の無で整形。玉縁部は縦位の無で整形。側面取り2回、端部面取り1回。	笠懸系
403-1 221 瓦-370	瓦 瓦	床直層 瓦残存	幅 14.2 厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。鋭縮き文字瓦「木」(凸面)、2ヶ所有。凹面・凸面縦位の無で整形。側面取り1回。	吉井系
403-2 221	瓦 瓦	カマド・ 掘り方内 瓦残存	長 41.0 狭端部13.8 幅 21.4	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	半截作り。凸面縦位の無で整形。側面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
404-1 221	瓦 瓦	カマド内 瓦残存	長 39.4 狭端部11.9 幅 16.0	白色鉱物粒子 デイスイト	酸化焰	鈍黄橙	半截作り。凹面凸合せ目面。凸面平行引き後縦位の無で整形。側面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
404-2 222	瓦 瓦	カマド内 瓦残存	幅 17.0 厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦位の無で整形。側面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
405-1 221	瓦 瓦	カマド内 瓦残存	狭端部11.9 幅 10.0 厚 3.0	白色鉱物粒子 細礫粒	酸化焰	橙	半截作り。凸面縦位の無で整形。側面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
405-2 222	瓦 瓦	カマド内 瓦残存	幅 16.0 厚 1.6	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	半截作り。凸面縦位の無で整形。側面取り3回。	吉井系
405-3 222 瓦-371	瓦 瓦	カマド内 瓦残存	厚 2.2	白色鉱物粒子 雲母	還元焰	灰	一枚作り。鋭縮き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の無で整形。	吉井系
405-4 223	瓦 瓦	覆土内 細片	厚 2.0	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側面取り2回、側端部に布目。	秋岡系
406-1 222	瓦 瓦	カマド内 破片	幅 24.0 厚 2.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面無で。側面取り左4回・右3回。	吉井系
406-2 222	瓦 瓦	カマド内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	柄巻き造りか。凹面横骨板。凸面縦位の無で。縦横磨面で整形。側面取り2回。	吉井系
406-3 222	瓦 瓦	カマド内 瓦残存	長 39.8 厚 1.9	白色鉱物粒子 デイスイト	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦位の無で整形。側面取り2回。	吉井系

B区第39号住居跡

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
407-1 223	土師質土 器	床直層 破片	口 — 底 (7.4) 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	橙	縦線成形(右回転)。付高台。	笠懸系か
408-1 223	土師質土 器	床直層 瓦残存	口 — 底 8.0 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	縦線成形(右回転)。付高台。	藤岡系

B区 (39号住居跡)

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	寸法 (cm) 直径 (φ)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
408-2 223	土師瓦土 器 地	床直層 与残存	口 — 底 7.7 高 —	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰 純黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
408-3 223	須恵器 小型西瓦 査	覆土内 破片	口 9.0 底 — 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰白	肩部に耳を4ヶ所に張り付ける。耳は欠損す る。	秋間系
408-4 223	須恵器 盤	床直層 破片	口 — 底 16.0 高 —	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
408-5 223	須恵器 壺	覆土内 破片	口 24.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。	吉井・藤 岡系
408-6 223	羽蓋	床直層 破片	口 24.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 透明鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰 黄橙	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。踵は貼り付け、胴部下半・底部は削削り。 月夜野型羽蓋。	月夜野系
408-7 223	土蓋	覆土内 破片	口 — 底 (10.0) 高 —	黒色鉱物粒子 砂粒	酸化焰 黄橙	紐作り整形。底部は寛推で。	吉井・藤 岡系
408-8 223	石製土 垂	覆土内 破片	上面径 (4.0)	滑石	—	側面は多面整形により曲面を成形している。	
408-9 223	施釉陶器 灰釉段皿	覆土内 破片	—	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。内面に段を有する。
408-10 223	施釉陶器 灰釉皿	覆土内 与残存	口 11.0 底 6.2 高 1.9	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は浸掛。
408-11 223	須恵器 大壺 転用皿	床直層 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形。外面平行引き後推で整形。 内面使用痕、磨減している。体部片を利用し 縁辺を階円形状に整形する。	秋間系
409-1 223	須恵器 大壺 転用皿	床直層 破片	—	白色微粒子	還元焰 灰	紐作り。内面叩きは背海状文。外面は縦位の 無で整形。内面はやや磨減している。体部片 を利用して縁辺を階円形状に整形している。	兼聚系か
409-2 223	石造品 不詳	覆土内 破片	重 825.6	二ツ岳緑石	—	—	園分二寺の堂宇の基壇化粧の羽目石が斬石の 破片と考えられる。
409-3 223	石製品 砥石	覆土内 与残存	幅 8.9 長 7.3 重 2500.0	粗粒安山岩	—	—	4面共使用されている。特に図上左端側は研 磨主体の刃部が大きく湾曲気味のものと思わ れる。
409-4 223	礫器 台石	床直層 与残存	重 8406.0	アズライト	—	—	石材からすると、小鍛冶に共なる鍛造時の叩 き台石と考えられる。
409-5 223	礫器 不詳	床直層 完存	長 3.5 幅 4.5 重 109.5	粗粒安山岩	—	—	全体に球形である。上面が磨減する。
409-6 223	礫器 不詳	覆土内 完存	長 4.7 幅 3.6 重 81.1	粗粒安山岩	—	—	全体に球形である。上面が磨減する。
409-7 223	礫器 不詳	覆土内 完存	長 3.9 幅 3.8 重 34.9	二ツ岳緑石	—	—	特別な使用痕は認められない。
410-1 223	瓦 玉縁付 男瓦	覆土内 与残存	厚 1.8	白色鉱物粒子	中性焰 灰黄	半截作り。凸面轆轤機軸で整形。側面取り 2回、端部取り1回。	吉井系
410-2 224 五-372	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	還元焰 暗灰	一枚作り。意匠き文字瓦「十」(凸面)。凹面 粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の無で整形。側 面取り2回、端部取り2回。	吉井系
410-3 224	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.1	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	横巻き造り。凹面横骨痕。凸面丁字横叩き (密)。側面取り4回。	秋間系
410-4 224	瓦 女瓦	床直層 与残存	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰 灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位 の無で整形。側面取り2回、端部取り2回。	吉井系
410-5 224	瓦 女瓦	コマド内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	酸化焰 浅黄橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面無 で整形。側面取り4回、端部取り2回。	吉井系

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
410-6 224	女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色黏物粒子	中性焼	灰黄	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縦位の撫で整形。軸線横撫で整形。側面面取り3回、端部面取り2回。	笠懸系

B区第40号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
412-1 224	土師器 坏	覆土内 破片	口 12.8 底 — 高 —	白色粒子	酸化焼	橙	原作り成形。体部は鼠削り。口縁は内外面横撫で、内面体部は撫で整形。外面の被熱による発泡が認められる。	
412-2 224	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焼	灰	轆轤成形（右回転）。	秋間系
412-3 224	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 8.9 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焼	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転未切り。	秋間系
412-4 224	須恵器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焼	灰	組作り後轆轤整形（右回転）。	粟附系
412-5 224	石造品 支脚	覆土内 破片	—	—	—	—	上端部のみ残存し、周縁は縦位の鼠削りにより整形する。	
412-6 224	石造品 不詳	床直層 片残存	重 2800.0	二ツ岳顆石	—	—	四分二等の堂宇の基礎化整の羽目石が栲石の破片と考えられる。	
412-7 224	羽口	覆土内 下半部残存	厚 1.8	—	—	—	使用に伴なう色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
412-8 224	羽口	覆土内 破片	厚 2.0	—	—	—	使用に伴なう色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
412-9 224	羽口	覆土内 破片	厚 2.8	—	—	—	使用に伴なう色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
412-10 224	羽口	覆土内 破片	厚 1.9	—	—	—	使用に伴なう色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
412-11 224	羽口	覆土内 破片	厚 2.5	—	—	—	使用に伴なう色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
412-12 224	羽口	覆土内 破片	厚 2.5	—	—	—	使用に伴なう色調変化が顕著で、先端部側にスラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
412-13 224	スラグ	—	—	—	—	—	下面側は伊奈面から剥れている。	
412-14 224 瓦-448	瓦 釧瓦	床直層 片残存	厚 2.9	白色微粒子	還元焼	灰	五当意匠は単弁5葉蓮華文。空懸の前建意匠。	笠懸系
413-1 225	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.3	白色粒子	中性焼	灰黄	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り成。凸面轆轤横撫で整形。側面面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
413-2 225	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.3	白色粒子	中性焼	灰黄	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り成。凸面轆轤横撫で整形。側面面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
413-3 225	瓦 女瓦	床直層 破片	厚 1.4	白色黏物粒子	中性焼	灰黄	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面面取り1回。	秋間系
413-4 225	瓦 女瓦	覆土内 細片	厚 2.0	白色黏物粒子 シルト粒	還元焼	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縞叩き後撫で整形。	秋間系

B区第41号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
414-1 225	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 6.4 高 —	白色微粒子	中性焼	灰黄	轆轤成形（右回転）。底部は回転未切り。	秋間系
414-2 225	須恵器 坏	覆土内 破片	口 — 底 (7.8) 高 —	黒色粒子	還元焼	灰	轆轤成形（右回転）。底部は回転未切り。	秋間系

B区(40・41・42・44号住居跡)

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 目目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
414-3 225	須志器 坏	覆土内 破片	口 底 高 (8.0) — —	白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転未切り。	秋間系か 栗附系
415-1 225	須志器 高坏 脚	覆土内 破片	口 底 高 10.8 — —	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。脚部外面に絞りの痕跡が認められる。	栗附系
415-2 225	須志器 壺	覆土内 破片	—	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面兎具は放射状)。	秋間系
415-3 225	瓦 女瓦	ホマド左袖 破片	厚 2.0	白色微粒子			一枚作り。凹面縦位の撫で整形。側部面取り1回、端部面取り2回。	笠懸系
415-4 225	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色微粒子		灰	手載作り。凸面自然輪顯著。部分的に縦位の撫で整形。側部面取り2回、端部面取り3回。	吉井系
415-5 225	瓦 床直層 瓦残存	厚 1.8	12.3	白色微粒子		灰白	手載作り。凸面叩き(密)、轆轤横撫で整形。側部面取り3回。	吉井系

B区第42号住居跡

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 目目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
416-1 225	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 高 — — —	黒色微粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。肩部・体部は寛削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型痕を残す。	藤岡系
416-2 225	土師器 坏	覆土内 破片	口 (14.6) 底 高 — — —	デザート 白色微粒子 赤色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。肩部・体部は寛削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型痕を残す。	藤岡系
416-3 225	須志器 壺	覆土内 破片	口 底 高 (11.0) — —	黒色微粒子 微粒状質母	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
416-4 225	須志器 壺	覆土内 破片	厚 0.9	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面は掻き目を施す。内面自然輪着。	秋間系

B区第44号住居跡

棟号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 目目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
417-1 226	土師器 坏	覆土内 破片	口 12.0 底 — 高 — — —	黒色微粒子 白色微粒子 赤色微粒子	酸化焰	橙	型作り整形。体部は寛削り整形。口縁部内縁に横線を施す。	藤岡系
417-2 226	土師器 坏	覆土内 破片	口 12.0 底 — 高 — — —	黒色微粒子	酸化焰	橙	型作り整形。体部は寛削り整形。口縁部は短かく直立する。	藤岡系
417-3 226	須志器 壺	覆土内 破片	口 底 (4.0) 高 — — —	黒色微粒子 白色微粒子 微粒状質母	還元焰	褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。体部下平は寛削り。	藤岡系
417-4 226	土師質土 器 瓦残存	覆土内 片残存	口 底 6.4 高 — — —	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	栗附系か 藤岡系
417-5 226	須志器 壺	覆土内 破片	口 底 7.0 高 — — —	微粒状質母 デザート	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井系
417-6 226	須志器 蓋(掬部)	覆土内 破片	幅 4.0	黒色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。	秋間系
417-7 226	須志器 瓶	覆土内 破片	口 底 (15.0) 高 — — —	黒色微粒子	酸化焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	秋間系
417-8 226	須志器 盤	覆土内 破片	—	黒色微粒子	酸化焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。付高台。	秋間系
417-9 226	須志器 瓦	覆土内 破片	—	黒色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面兎具は背海鼓文)。外面は掻き目を施す。	秋間系
417-10 226	瓦 床直層 男瓦	厚 2.5	2.5	白色微粒子	還元焰	灰	手載作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕、布目撫で消し。凸面縦位の撫で整形。側部面取り1回。	吉井系

遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
417-11 226	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰 灰	桶巻き造り。凹面横骨筋。凸面端叩き後撫で整形。	笠懸系	
417-12 226	瓦 カマド・ 掘り方内 破片	厚	1.3	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面端叩き(密)。横縫横撫で整形。側面面取り1回。	藤岡系	
417-13 226	瓦 女瓦	貯蔵穴内 破片	厚	1.2	白色微粒子	中性焰 黄灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面斜拵り叩き。	笠懸系
418-1 226	須恵系 大甕	床直層 破片	—	白色粒子	還元焰 灰	紐作り後撫で整形(右回転)。	乗附系	

B区第45号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
419-1 226	須恵系 甕	覆土内 破片	厚 0.9	白色粒子	還元焰 灰	紐作り後横縫成形(右回転)。外面は荒撫で整形。	乗附系
419-2 226	須恵系 埴	床直層 片残存	口 底 15.0 高 6.9 5.8	白色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	横縫成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系
420-1 226	須恵系 甕	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)後横縫可整形。内面は磨滅している。	吉井系
420-2 226	須恵系 甕	覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 白色粒子 黒色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)後横縫可整形。内面は磨滅している。	乗附系
420-3	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰 灰	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。側面面取り2回。端面面取り2回。	笠懸系
420-4 226	瓦 男瓦	覆土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	中性焰 黄灰	半載作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面横縫横撫で整形。側面面取り3回。端面面取り3回。	笠懸系
420-5 226	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰 褐	半載作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
420-6	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	中性焰 黄灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面端叩き後撫で横縫横撫で整形。側面面取り2回。端面面取り3回。	吉井系
420-7 227	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰 灰	桶巻き造り。凹面横骨筋・布目撫で消し。凸面端叩き後撫で、横縫横撫で整形。側面面取り3回。端面面取り2回。	藤岡系
420-8 227	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 シレットブロック	酸化焰 浅黄橙	一枚作り。凹面布合わせ目痕。粘土板剥ぎ取り痕。凸面端叩き。側面面取り1回。	秋間系
420-9 227	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.3	白色粒子	還元焰 白灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面板目叩きか平行叩き後撫で整形。側面面取り2回。端面面取り2回。	秋間系
420-10 226	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.8	透明鉱物粒子 白色粒子	還元焰 灰	桶巻き造り。凹面横骨筋・布目撫で消し。凸面縦位の撫で、横縫横撫で整形。端面面取り2回。	笠懸系
420-11 227	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焰 褐灰	桶巻き造り。凹面横骨筋。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回。端面面取り2回。	笠懸系

C区4号井戸

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
422-1 227	土師質土 器 坏	埋土内 片残存	口 8.2 底 4.0 高 2.4	白色鉱物粒子	酸化焰 鈍黄橙	横縫成形(右回転)。底部は回転未切り。	吉井系か
422-2 227	土師質土 器 坏	埋土内 破片	口 3.4 底 5.0 高 3.2	白色粒子	酸化焰 浅黄橙	横縫成形(右回転)。底部は回転未切り。	乗附系か 藤岡系
422-3 227	土師質土 器 坏	埋土内 完形	口 9.7 底 5.2 高 3.1	白色粒子	中性焰 灰	横縫成形(右回転)。底部は回転未切り。外面磨りを認める。	乗附系 系りを認める。

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	深目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
422-4 227	土師質土器 坏	埋土内 片残存	口 9.8 底 5.0 高 3.4	微粒状雲母 白色粒子	酸化焰	黄	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
422-5 227	土師質土器 坏	埋土内 片残存	口 10.0 底 5.0 高 3.4	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
422-6 227	土師質土器 坏	埋土内 片残存	口 10.0 底 5.0 高 3.0	白色粒子	酸化焰	浅黄橙	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。	栗野系か
422-7 227	土師質土器 坏	埋土内 破片	口 10.2 底 5.0 高 2.6	雲母 砂粒	酸化焰	橙	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
422-8 227	土師質土器 坏	埋土内 片残存	口 10.2 底 5.0 高 3.2	黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
422-9 227	土師質土器 坏	埋土内 破片	口 10.4 底 5.0 高 3.5	黒色鉱物粒子	中性焰	浅黄橙	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。	栗野系か
422-10 227	土師質土器 坏	埋土内 完形	口 10.6 底 9.0 高 2.6	微粒状雲母	酸化焰	橙	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系か
422-11 227	土師質土器 坏	埋土内 片残存	口 10.6 底 5.0 高 3.6	白色粒子	酸化焰	浅黄橙	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。	栗野系
422-12 227	土師質土器 坏	埋土内 片残存	口 11.0 底 5.0 高 3.5	白色粒子	酸化焰	橙	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系か
422-13 227	土師質土器 坏	埋土内 片残存	口 11.0 底 6.0 高 3.7	黒色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	浅黄	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。	栗野系か
422-14 227	土師質土器 坏	埋土内 片残存	口 11.1 底 5.5 高 3.2	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。	栗野系か 吉井・藤岡系
422-15 227	土師質土器 坏	埋土内 片残存	口 11.4 底 4.8 高 3.2	白色鉱物粒子 雲母	酸化焰	橙	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。	栗野系か
422-16 227	須恵器 坏	埋土内 片残存	口 12.0 底 7.0 高 3.3	黒色粒子	還元焰	灰	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
422-17 227	須恵器 坏	埋土内 片残存	口 12.2 底 7.0 高 3.3	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	罐織成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
422-18 227	土師質土器 塊	埋土内 片残存	口 13.2 底 6.0 高 4.4	微粒状雲母 黒色粒子	還元焰	灰	罐織成形(右回転)。高台穴掘(付高台)。	吉井・藤岡系
422-19 227	土師質土器 塊	埋土内 片残存	口 10.0 底 6.0 高 4.1	赤褐色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	罐織成形(右回転)。付高台。	栗野系か
422-20 227	土師質土器 塊	埋土内 片残存	口 10.0 底 6.0 高 4.9	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	罐織成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
422-21 227	土師質土器 塊	埋土内 片残存	口 10.0 底 5.6 高 5.9	白色粒子	還元焰 気味	灰白	罐織成形(右回転)。付高台。底部から高台にかけて有機質附着。	吉井・藤岡系
422-22 227	土師質土器 塊	埋土内 片残存	口 10.8 底 5.4 高 4.8	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	罐織成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系
422-23 227	土師質土器 塊	埋土内 片残存	口 11.4 底 6.8 高 5.6	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	罐織成形(右回転)。付高台。	吉井・藤岡系

遺物一覧表

博覧番号 図収番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 単位 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
422-24 227	土師質土器 埴	埋土内 瓦残存	口 11.8 底 6.0 高 5.4	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か 吉井・藤 岡系
423-1 227	土師質土器 埴	埋土内 破片	口 13.8 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	灰黄褐	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	笠懸系か 吉井・藤 岡系
423-2 227	土師質土器 埴	埋土内 瓦残存	口 13.9 底 7.4 高 5.7	白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
423-3 227	内黒土器 埴	埋土内 ほぼ完整	口 14.0 底 5.4 高 7.2	黒色鉱物粒子 微粉状雲母 白色粒子	酸化焰	灰黄褐	轆轤成形 (右回転)。付高台。内面横し処理・ 贈文を施す。	吉井・藤 岡系
423-4 227	土師質土器 埴	埋土内 破片	口 14.0 底 — 高 —	白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	乗附系か
423-5 227	土師質土器 埴	埋土内 破片	口 14.9 底 7.6 高 5.9	白色粒子	酸化焰	黄灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か
423-6 227	土師質土器 埴	埋土内 瓦残存	口 15.0 底 9.6 高 6.0	白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か
423-7 228	土師質土器 埴	埋土内 瓦残存	口 16.0 底 9.0 高 6.1	白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
423-8 228	土師質土器 埴	埋土内 瓦残存	口 21.8 底 9.6 高 9.5	白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。内・外面有機質 附着。	吉井・藤 岡系
423-9 228	土師質土器 埴	埋土内 破片	口 — 底 6.2 高 —	白色粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
423-10 228	土師質土器 埴	埋土内 瓦残存	口 — 底 8.4 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。高台内面有機質 附着。外面横し処理を施す。	藤岡系
423-11 228	須恵器 埴	埋土内 瓦残存	口 — 底 8.6 高 —	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。高台内面有機質 附着。外面横し処理を施す。	秋田系
423-12 228	土師質土器 瓦葺高台付埴 脚部	埋土内 台部残存	口 — 底 10.8 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。	吉井・藤 岡系
423-13 228	土師質土器 瓦葺高台付埴 脚部	埋土内 台部残存	口 — 底 11.0 高 —	白色微粒子	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形 (右回転)。	乗附系か
423-14 228	土師質土器 瓦葺高台付埴 脚部	埋土内 台部残存	—	白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。	吉井・藤 岡系
423-15 228	土師質土器 瓦葺高台付埴 脚部	埋土内 破片	—	透明鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	淡黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井・藤 岡系
423-16 228	土師質土器 瓦葺高台付埴 脚部	埋土内 破片	—	白色微粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	乗附系か
423-17 228	須恵器 瓦葺高台付埴 脚部	埋土内 破片	—	黒色微粒子 透明微粒子	酸化焰	濁灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。比重は非常に少 ない。	乗附系か
423-18 228	須恵器 瓦葺高台付埴 脚部	埋土内 破片	—	黒色微粒子 雲母	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
423-19 228	須恵器 埴	埋土内 破片	—	白色微粒子 微粉状雲母	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	不詳

邦国番号 図版番号	種別 器種	出土位置 保存状態	径目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
424-1 228	須恵器 蓋	埋土内 瓦残存	横 — 底 9.2 高 —	白色微粒子	還元焰 灰	輪轆成形(右回転)。上半部は回転削り。秋間系	
424-2 228	土師器 鉢	埋土内 破片	口 19.0 底 — 高 —	白色微物粒子 白色粒子	酸化焰 橙	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。吉井・藤岡系	
424-3 228	土師器 鉢	埋土内 破片	口 15.0 底 — 高 —	白色粒子	酸化焰 橙	口縁部は外反する。体部・底部は削り、口縁部・器内面は横溝で。藤岡系	
424-4 228	土師器 土蓋	埋土内 破片	—	雲母 砂粒	酸化焰 鈍橙	紐作り後体部削溝で。吉井系	
424-5 228	須恵器 長頸壺	埋土内 破片	口 14.0 底 — 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面自然釉附着。秋間系	
424-6 228	須恵器 広口壺	埋土内 破片	口 16.6 底 — 高 —	白色微物粒子 黒色粒子	還元焰 灰	口縁部はひどく外反する。乗附系	
424-7 228	須恵器 壺	埋土内 破片	口 20.0 底 — 高 —	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 黒灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。乗附系	
424-8 228	須恵器 壺	埋土内 破片	口 18.0 底 — 高 —	黒色微物粒子	還元焰 褐灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は素文)。乗附系	
424-9 228	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰 灰	口唇部は平埴で口唇直下に突帯を越らす。7本1単位の波状文を刻する。紐作り後轆轤整形(右回転)。秋間系115-3と同一個体か乗附系	
424-10 228	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は素文)。秋間系か乗附系	
424-11 228	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 暗褐灰	紐作り整形。内面は磨滅している。秋間系か乗附系	
424-12 228	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は素文)。乗附系	
424-13 229	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は素文)。乗附系	
424-14 229	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は素文)。乗附系	
424-15 229	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 黒褐	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は素文)。内面は磨滅する。乗附系	
424-16 229	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は素文)。内面は磨滅する。乗附系	
424-17 229	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微物粒子 白色粒子	中性焰 暗灰黄	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は素文)。内面は磨滅する。吉井・藤岡系	
425-1 229	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は素文)。内面は磨滅する。乗附系	
425-2 229	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は素文)。内面は磨滅する。乗附系か	
425-3 230	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 褐灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は青海波文)。乗附系	
425-4 230	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は素文)。秋間系	
425-5 229	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は素文)。吉井系	
425-6 229	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微物粒子 白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面短具は素文)。乗附系	
425-7 230	須恵器 鉢	埋土内 破片	口 22.0 底 — 高 —	白色微粒子 白色微物粒子	中性焰 灰黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。外面はさらに削り調整。藤岡系	
425-8 230	須恵器 片口鉢	埋土内 破片	—	白色微粒子 白色微物粒子	酸化焰 橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁を外方に横溝み出している。吉井・藤岡系	

遺物一覧表

検出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	数量 (個)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
425-9 230	須恵器 甌	埋土内 破片	数量 14.6	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子 黒色粒子	中性焰	灰黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。口縁を外方に折み出している。	吉井系
426-1 230	羽蓋	埋土内 破片	—	白色粒子 白色粒子	還元焰	褐灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。器厚は薄く小さい。吉井型羽蓋。	吉井系
426-2 230	羽蓋	埋土内 破片	口 21.0 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	褐灰	口縁部は直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井・藤岡系
426-3 230	羽蓋	埋土内 破片	口 21.0 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	灰白	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
426-4 230	羽蓋	埋土内 破片	口 23.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
426-5 230	羽蓋	埋土内 破片	口 23.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	黒褐	口縁部は内湾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
426-6 230	羽蓋	埋土内 破片	口 24.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子 白色粒子 デイスイト	酸化焰	鈍橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は貼り付け。吉井型羽蓋。	吉井系
426-7 230	施釉陶器 灰釉段皿	埋土内 破片	口 12.0 底 — 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。	
426-8 230	施釉陶器 灰釉皿	埋土内 破片	口 10.9 底 6.2 高 2.5	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
426-9 230	施釉陶器 灰釉皿	埋土内 破片	口 12.0 底 (6.2) 高 2.3	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
426-10 230	施釉陶器 灰釉皿	埋土内 片残存	口 14.0 底 7.1 高 3.2	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
426-11 230	施釉陶器 灰釉段皿	埋土内 片残存	口 14.2 底 7.2 高 2.2	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
426-12 230	施釉陶器 灰釉碗	埋土内 片残存	口 12.2 底 6.3 高 4.0	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	
426-13 230	施釉陶器 灰釉碗	埋土内 片残存	口 16.0 底 — 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。施釉は浸掛け。	
426-14 230	施釉陶器 灰釉碗	埋土内 片残存	口 17.0 底 8.6 高 6.6	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
426-15 230	施釉陶器 灰釉碗	埋土内 破片	口 — 底 4.7 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛け。	
426-16 230	施釉陶器 長頸瓶	埋土内 破片	口 9.9 底 — 高 —	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
426-17 231	施釉陶器 甌	埋土内 破片	—	密	良好	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	
427-1 231	須恵器 甌	埋土内 破片	—	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形。内面は磨減している。	吉井・藤岡系か
427-2 231	須恵器 大壺 転用甌	埋土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面格子叩きか・内面瓦具は素文)。周縁部を磨き、甌形状に成形している。	乗附系か
427-3 231	須恵器 大壺 転用甌	埋土内 破片	—	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面瓦具は素文)。甌形状に成形し胴部を丸く打ち欠いている。	乗附系か

C区(4号井戸)

神田番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	直径 (cm)	厚 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
427-4 231	瓦	埋土内 破片	厚	2.2	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	女瓦を転用する。詳細不詳。周辺全体を四角く成形している。	吉井・藤岡系
427-5 231 瓦-417	瓦	埋土内 破片	厚	1.2	白色微粒子 黒色粒子 微粒状骨髄	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。外区は重圓、内区中房の子葉は1+5。男瓦部は半軟作りか。接合はA型。	笠懸系
427-6 231 瓦-418	瓦	埋土内 破片	厚	1.8	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。外区は素文。男瓦部は不詳。	笠懸系
427-7 231 瓦-414	瓦	埋土内 破片	厚	2.1	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。男瓦当接合部は字付。同型。	吉井系
427-8 231 瓦-416	瓦	埋土内 破片	厚	1.2	白色鉱物粒子 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。男瓦当接合部は字付。同型。	吉井系 427-9と同一個体
427-9 231 瓦-415	瓦	埋土内 破片	厚	1.4	白色鉱物粒子 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。男瓦当接合部は字付。同型。	吉井系 427-8と同一個体
427-10 231 瓦-419	瓦	埋土内 破片	厚	1.2	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁8葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。男瓦部は欠損。	吉井系
427-11 231	瓦	埋土内 破片	厚	1.5	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当部欠損。男瓦部は半軟作り。凸面縦位の状態で後不定方向の態で整形。	乗附系
427-12 232 瓦-497	字瓦	埋土内 破片	厚	2.2	白色粒子	還元焰	暗灰褐	瓦当意匠は重弧文。内置は浅い。女瓦部は桶巻き造り。凹面横骨痕、布目磨り消し。凸面は平行叩き。	乗附系
428-1 231 瓦-494	字瓦	埋土内 破片	厚	3.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は重弧文。内置は浅い。女瓦部は桶巻き造り。凹面横骨痕、布目磨り消し。凸面は平行叩き。	乗附系
428-2 232 瓦-568	字瓦	埋土内 破片	厚	2.8	黒色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は播磨文。接合部は刊米に菊紋。428-10(瓦-486)・478-20(瓦-519)と接合。	秋岡系 瓦-493
428-3 232 瓦-496	字瓦	埋土内 破片	厚	2.9	白色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は重弧文。女瓦部は桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面指撫で整形。側部削取り3回。	乗附系
428-4 232 瓦-496	字瓦	埋土内 破片	厚	2.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は重弧文。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面指撫で整形。側部削取り2回。	吉井系
428-5 232 瓦-491	字瓦	埋土内 破片	厚	2.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右隣行唐草文。関分寺前建続一帯匠。顎は曲線型。女瓦部は一枚作りか。凹面布目磨り消し。凸面叩き。	笠懸系
428-6 232 瓦-490	字瓦	埋土内 破片	厚	3.5	白色粒子 黒色粒子	酸化焰	橙	瓦当意匠は右隣行唐草文。意匠は小振りで上座川縁部は幅が広い。	吉井系
428-7 233 瓦-567	字瓦	埋土内 破片	厚	2.6	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右隣行唐草文。女瓦部は一枚作りか。凸面撫で整形。273-1(瓦-483)と接合。	吉井系 瓦-487
428-8 232 瓦-498	字瓦	埋土内 破片	厚	2.3	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右隣行唐草文。女瓦部は一枚作りか。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の態で整形。瓦当部は印籠付。顎は段型。	吉井系
428-9 233 瓦-489	字瓦	埋土内 破片	厚	2.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右隣行唐草文。女瓦部は一枚作りか。瓦当部は印籠付。女瓦部凸面叩き(密)後撫で整形。外面自然釉附着。	吉井系
428-10 233 瓦-568	字瓦	埋土内 破片	厚	4.2	黒色粒子	還元焰	暗灰	428-2と同文。428-2(瓦-493)・478-20(瓦-519)と接合。	秋岡系 瓦-486
428-11 233 瓦-492	字瓦	埋土内 破片	厚	1.7	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は不詳(素文か)。女瓦部作りは不詳。凸面赤色顔料痕有。	笠懸系か
429-1 233 瓦-488	字瓦	埋土内 破片	厚	2.2	赤褐色粒子	中性焰	灰黄	瓦当意匠は横杉文。女瓦部は一枚作りか。瓦当部は印籠付。顎は段型。女瓦部凹面。粘土板割ぎ取り痕。凸面指撫で。	秋岡系

遺物一覧表

探検番号 図録番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	直径 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
429-2 233	男瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半織作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の襷で整形。側面面取り4回。	笠懸系
429-3 233	瓦 玉縁付 男瓦	埋土内 破片	厚 3.0	白色粒子	還元焰	暗灰	半織作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の襷で整形。自然粘附着。側面面取り3回。	乗附系
429-4 233 瓦-247	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	半織作り。寛縁き文字瓦判読不能(凸面)。側面面取り2回、端部面取り1回。	吉井系
429-5 234 瓦-231	瓦 男瓦	埋土内 破片	広幅 20.0 厚 2.0	白色微粒子	還元焰	暗灰	半織作り。寛縁き文字瓦「十」(凹面)。凸面縦位の襷で整形。凹面広端部に布のかたまりによる凹みがある。側部・端部面取り2回。	吉井系
430-1 234 瓦-232	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半織作り。寛縁き文字瓦「牛」(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の襷で整形。側部・端部面取り3回。	吉井系
430-2 233 瓦-241	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 2.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半織作り。寛縁き文字瓦「夫」(凸面)。凹面布目無で消し。凸面縦位の襷で整形。側面面取り3回、端部面取り2回。	吉井系
430-3 234	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色粒子 赤褐色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	半織作り。凸面縄印き後横位の襷で整形。	吉井系
430-4 234	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	半織作り。凸面縄印き(密)後横位の襷で整形。側面面取り3回、端部面取り2回。	秋回系
430-5 234	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色粒子	酸化焰	黄緑	半織作り。凹面縦位の布目無で消し。凸面正格子印き(密)。	乗附系
430-6 234	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	暗灰	半織作り。凸面平行印き。	乗附系
430-7 234	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.7	黒色粒子	還元焰	赤褐灰	半織作り。凹面布合せ目尻・粘土板割ぎ取り痕。凸面平行印き。側面面取り2回、端部面取り2回。	秋回系
430-8 234	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	暗灰	紐作り。凸面平行印き。側面面取り1回。	乗附系
430-9 234	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	暗灰	半織作り。凹面布目無で消し。凸面縦位の襷で整形。側面面取り4回。	笠懸系
430-10 235	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	暗灰	紐作り。凸面縦位の襷で整形。側面面取り3回。	笠懸系
431-1 234	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り。凹面横位の襷で後縦位の襷で整形。凸面縦位の襷で整形。側面面取り3回、端部面取り3回。	乗附系
431-2 234	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半織作り。凹面粘土板割ぎ取り痕、布目無で消し。凸面縦位の襷で整形。側面面取り3回。粘土板接合痕は2。	乗附系
431-3 235	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.7	黒色粒子	還元焰	灰	半織作り。凹面横位の襷で整形。凸面縦位の襷で整形。側面面取り3回、端部面取り2回。	乗附系
431-4 235	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 2.8	黒色粒子	還元焰	暗灰	半織作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の襷で整形。自然粘附着。側面面取り3回。端部面取り2回。粘土板接合痕は2。	乗附系か 月夜野系
431-5 235	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	半織作り。凹面布合せ目尻。凸面縦位の襷で整形。側部未調整。	笠懸系
431-6 235	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。凹面布目無で消し。側面面取り2回。	藤岡系
431-7 235	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.6	白色粒子	還元焰	灰	半織作り。凸面正格子印き(密)。側面面取り2回。紐作りの可能性有。	秋回系か 笠懸系
431-8 235	瓦 男瓦	埋土内 破片	幅 20.4 厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。凸面縦位の襷で整形。凹面指無で。側面面取り3回。	吉井系
431-9 235	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半織作り。凸面縦位の寛縁で整形。凹面布合せ目尻。側面面取り1回。	吉井・藤岡系
432-1 235	瓦 男瓦	埋土内 破片	幅 15.5 厚 2.0	白色鉱物粒子	酸化焰 (2成焼)	鈍橙	半織作り。凸面縦位の襷で整形。側面面取り3回、端部面取り1回。	吉井系
432-2 235	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.4	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	半織作り。凸面縄印き(密)後横縁無で整形。	乗附系

C区(4号井戸)

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
432-3 235	男瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	半截作り。凸面縦線無で整形。側面凹取り2回。	笠懸系
432-4 235 瓦-237	女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	作り不詳。瓦端き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系
432-5 235 瓦-240	瓦	埋土内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦端き文字瓦「工」か(凸面)。凸面粘土板剥ぎ取り痕。不定方向の無で整形。凹面粘土板剥ぎ取り痕。	吉井系
432-6 236	女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦端き文字瓦「一」か(凹面)。文字でない可能性が強い窪み。凹面布目擦り消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
432-7 235 瓦-246	瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。瓦記号瓦意味不詳(凸面)。側面凹取り2回。	吉井系
432-8 236 瓦-248	瓦	埋土内 破片	厚 2.6	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。瓦端き文字瓦判読不能(凸面)。凸面自然釉附着。側面凹取り3回。端部凹取り3回。	吉井系
432-9 236 瓦-244	女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦端き文字瓦判読不能(凹面)。凹面布目擦り消し。凸面縦位の無で整形。	乗附系
432-10 236 瓦-239	女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。瓦端き文字瓦「千」(凸面)。凸面木目叩き。	吉井系
432-11 236 瓦-245	瓦	埋土内 破片	厚 3.0	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。瓦端き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の無で整形。	吉井系
432-12 236 瓦-251	女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。瓦端き文字瓦か。判読不能(凹面)。凸面縦位の無で整形。	吉井系
432-13 236 瓦-257	瓦	埋土内 破片	厚 2.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦端き文字瓦「家成」(凸面)。「家成」は多胡郡可石上家成か。	吉井系
432-14 236 瓦-249	女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。瓦端き文字瓦か。判読不能(凸面)。側面凹取り2回。	吉井系
433-1 236 瓦-242	女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦端き文字瓦判読不能(凹面)。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦叩き(密)後無で整形。	吉井系
433-2 236 瓦-250	女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦端き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の無で整形。	吉井系
433-3 236 瓦-238	女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦端き文字瓦「工」か(凸面)。凸面縦位の窪り状縦位の無で整形。端部凹取り1回。	吉井系
433-4 236 瓦-252	瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦端き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の無で整形。側面凹取り3回。	乗附系
433-5 236 瓦-233	女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦端き文字瓦「生」(凸面)。凸面不定方向の無で整形。	吉井系
433-6 236 瓦-235	女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦端き文字瓦「手」(凸面)。凸面縦位の無で整形。側面凹取り2回。	吉井系
433-7 236 瓦-243	瓦	埋土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。瓦端き文字瓦「十」か(凹面)。凹面横脊痕・布合わせ目痕有。凸面縦叩き(密)。側面凹取り2回。端部凹取り3回。	吉井系
433-8 236	女瓦	埋土内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。瓦端き文字瓦「大」か(凸面)。側面突出段有。凸面縦叩き(密)。側面凹取り1回。	秋岡系

遺物一覧表

博物館 図録番号	種別	出土位置 遺存状態	厚 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
433-9 237 瓦-234	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色黏物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦「十」(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面不定方向の撫で整形。側面面取り2回、端面面取り3回。	吉井系
433-10 237 瓦-236	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色黏物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦「次」か「凸」(凸面)。凸面不定方向の撫で整形。	吉井系
434-1 237 瓦-258	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 2.5	白色黏物粒子	酸化焰	橙	手轆作り。寛播き文字瓦「半神人帝子船渡」(凸面)。「半」は半か。側面面取り1回、端面面取り1回。	吉井系 440-10と同一個体
434-2 237 瓦-259	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.6	白色微粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。寛播き文字瓦片読不能(凸面)。側面面取り2回、端面面取り3回。	笠懸系
434-3 237 瓦-254	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「蘭田」(凸面)。凹面水を多く使った手撫で。粘土板接合痕はZ。	笠懸系
434-4 237 瓦-255	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「不詳」(凸面)。凹面布目撫で消し。	笠懸系
434-5 237 瓦-256	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色黏物粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「雷」(凸面)。側面面取り1回。	吉井系
434-6 237 瓦-253	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「雷」(凹面)。凸面撫で整形。側面面取り3回。	笠懸系
434-7 237 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰	橙褐	一枚作り。刻印文字瓦「勢」(凸面)。凸面鑄叩き側面面取り2回。	笠懸系
434-8 237 女瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色黏物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面磨砂痕。凸面鑄叩き(密)・磨砂痕・織消し有。側面面取り2回、端面面取り3回。	吉井系
434-9 237 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.3	白色黏物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕。凸面鑄叩き(密)。	吉井系
434-10 237 女瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面鑄叩き。磨砂痕有。	秋田系
434-11 237 女瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色黏物粒子	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面鑄叩き(密)。側面面取り3回、端面面取り2回。	笠懸系
434-12 237 女瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面鑄叩き・磨砂痕有。側面面取り1回、端面面取り2回。	秋田系
435-1 237 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色黏物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面輪軸整形後鑄叩き(密)。側面面取り2回、端面面取り3回。粘土板接合痕はS。	笠懸系か 吉井系
435-2 238 女瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	黒色粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。凹面布目擦り消し。側面割ぎ出し段有。凸面鑄叩き(密)・磨砂痕有。側面面取り2回。	秋田系
435-3 238 女瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色黏物粒子 白色粒子	酸化焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面輪軸整形後鑄叩き(密)。粘土板接合痕はZ。側面面取り2回、端面面取り2回。	吉井系
435-4 238 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.3	黒色粒子 細塵	中性焰	灰黄	一枚作りか。凸面鑄叩き(密)。	秋田系
435-5 238 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.7	白色微粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面輪軸整形後鑄叩き(密)。側面面取り3回。	藤河系
435-6 238 女瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.6	白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面鑄叩き(密)。粘土板接合痕はZ。	吉井系
435-7 238 女瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面鑄叩き(密)・磨砂痕有。粘土板接合痕はZ。側面面取り3回。	秋田系
435-8 238 瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色黏物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面横骨痕・横位の撫で整形。凸面輪軸整形後鑄叩き(密)。端面面取り2回。	吉井系
435-9 238 女瓦	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.5	白色黏物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造りか。凹面横骨痕・布目を強い腹撫でで消し。凸面輪軸整形後鑄叩き(密)。	吉井系

標識番号 図説番号	種別 瓦	出土位置 遺存状況	厚目 厚目 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
435-10 238	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕・布目磨り消し・磨砂痕有。凸面網叩き(密)・磨砂痕有。	秋関係
436-1 238	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面布目叩き後網叩き。側面面取り2回。	笠懸系
436-2 238	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	紐作り。凹面紐作り痕・磨目痕有。凸面網叩き(単)全面。側面面取り1回。	中之条系か
436-3 238	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面網叩き後網叩き(密)。側面面取り3回。	笠懸系
436-4 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.7	白色鉱物粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰 か	暗緑	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面網叩き(密)後網叩き再整形。粘土板接合痕は乙。	吉井系
436-5 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	デイヤイト 白色鉱物粒子	酸化焰 か	淡黄緑	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕・布目磨り消し。凸面網叩き(密)後網叩き再整形。側面面取り2回。	乗附系
436-6 238	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面網叩き(密)。側面面取り2回。端面面取り2回。	笠懸系
436-7 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面網叩き(密)後網叩き再整形。側面面取り3回。端面面取り2回。	吉井系
436-8 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.5	雲母 黒色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面網叩き(密)。粘土板接合痕は乙。側面面取り3回。	
436-9 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.4		還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕。凸面網叩き後網叩き(密)。	乗附系
436-10 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面網叩き(密)・ループ状の網の端部の圧痕有。	秋関係
437-1 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	黒灰	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面網叩き(密)・粘土板割ぎ取り痕有。側面面取り2回。端面面取り2回。	笠懸系
437-2 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目磨り消し・粘土板割ぎ取り痕。凸面正格子叩き・粘土板割ぎ取り痕。側面面取り3回。	笠懸系
437-3 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面正格子叩き。側面面取り2回。	笠懸系
437-4 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面正格子叩き全面。端面面取り1回。胎土の比重は重い。	乗附系か 秋関係
437-5 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面正格子叩き全面。端面面取り1回。胎土の比重は重い。	乗附系か 秋関係
437-6 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目磨り消し・粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格子叩き・粘土板割ぎ取り痕。側面面取り3回。	笠懸系
437-7 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 3.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面網叩き。側面面取り2回。	笠懸系
437-8 238	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	黒褐	一枚作り。凹面布目磨り消し・粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格子叩き・粘土板割ぎ取り痕。	笠懸系
437-9 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	黒褐	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面斜格子叩き。側面面取り1回。	笠懸系
437-10 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色粒子	還元焰	暗灰	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面正格子叩き(全面)。端面面取り1回。胎土の比重は重い。	秋関係
437-11 239	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
437-12 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目磨り消し・粘土板割ぎ取り痕。凸面斜格子叩き・粘土板割ぎ取り痕。	秋関係
437-13 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面横位の布目磨り消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
437-14 240	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	暗灰	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。凸面正格子叩き(全面)。端面面取り1回。胎土の比重が重い。	秋関係

遺物一覧表

博物館番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 目録 (#)	胎土	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考	
437-15 240	瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面斜格子印き。	笠懸系
437-16 240	瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面斜格子印き。	笠懸系
438-1 240	瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面斜格子印き。	笠懸系
438-2 240	瓦	埋土内 破片	厚 2.8	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面斜格子印き。肩部面取り 2 回。	笠懸系
438-3 240	瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面斜格子印き。側面面取り 2 回。	笠懸系
438-4 240	瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	暗黄	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面斜格子印き。側面面取り 2 回。肩部面取り 1 回。	笠懸系
438-5 240	瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面斜格子印き。	笠懸系
438-6 240	瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色微粒子	還元焰	灰黄	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面斜格子印き。	笠懸系
438-7 241	瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面斜格子印き。側面面取り 2 回。	笠懸系
438-8 240	瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面横骨痕。凸面平行印き。側面面取り 3 回。肩部面取り 2 回。	東附系
438-9 240	瓦	埋土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子 デイスait	中性焰	灰黄	桶巻き造り。凸面平行印き。粘土板接合痕有。	吉井系
438-10 240	瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 デイスait	還元焰	灰	桶巻き造り。凸面平行印き。粘土板接合痕有。側面面取り 2 回。	吉井系
439-1 241	瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	中性焰 (2次燃)	鈍黄橙	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面平行印き。側面面取り 1 回。肩部面取り 1 回。粘土板接合痕は S。	吉井系 439-5 と 同一個体
439-2 241	瓦	埋土内 破片	厚 2.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凸面平行印き(密)。側面面取り 1 回。	東附系か
439-3 240	瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造りか。凸面平行印き。側面面取り 2 回。	杖間系
439-4 241	瓦	埋土内 破片	厚 2.6	黒色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面縦線整形後、鈍印き(密)。側面面取り 3 回。	東附系
439-5 241	瓦	埋土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	中性焰 (2次燃)	鈍黄橙	439-1 と同文。	東附系 439-1 と 同一個体
439-6 241	瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面平行印き。側面面取り 2 回。	吉井系
439-7 241	瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	酸化焰 か	暗	一枚作りか。凸面縦線の最厚り後木目叩き。側面面取り 1 回。	吉井系
439-8 241	瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	暗黄	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面板目叩き。側面面取り 2 回。	笠懸系
439-9 241	瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面縦線の最厚り後。側面面取り 1 回。	笠懸系
439-10 241	瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面木目叩き後撫で整形。側面面取り 2 回。肩部面取り 2 回。452-5・7 と同一個体	笠懸系
439-11 241	瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面縦線撫で整形。	吉井系
440-1 242	瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦線の撫で整形。側面面取り 3 回。	吉井系
440-2 241	瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面縦線撫で整形。	吉井系
440-3 242	瓦	埋土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目摺り消し。凸面粘土板剥ぎ取り痕。側面面取り 2 回。	笠懸系
440-4 242	瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦線の撫で整形。側面面取り 3 回。	吉井系
440-5 241	瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦線の撫で整形。	吉井系
440-6 242	瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 か	鈍黄橙	桶巻き造りか。凹面布合せ目板。凸面縦線の撫で整形。	笠懸系

B区(1号并戸跡)

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 目録 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
440-7 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色微粒子	中性焰	黄褐	桶巻き造り。凹面横骨痕・布目摺り消し有。 凸面輪縁横線で後縁位の撫で整形。側面取り 2回、端面取り2回。	杖間系
440-8 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割き取り痕 有。凸面輪縁横線で整形。端面取り3回。	栗附系か 吉井系
440-9 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面横骨痕か・布目有。凸面 縁位の撫で整形。	吉井系
440-10	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.8	黒色鉱物粒子	酸化焰	橙	平載作り。凸面縁位の撫で整形。側面取り 2回。	吉井系 434-1と 同一個体
440-11 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面粘土板割き取り痕。凸面 正格子印き(密)。	栗附系
440-12 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凹面布端部圧痕有。凸面平行印き・ 側面取り1回、端面取り1回。	吉井系
441-1 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割き取り痕 有。凸面輪縁横線で整形。粘土板接合痕。	吉井系
441-2 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	中性焰	鈍黄橙	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割き取り痕 有。凸面縄印き(密)後輪縁内整形。側面取り 2回。	吉井系
441-3 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰褐	一枚作りか。凹面粘土板割き取り痕。凸面不 定方向の撫で整形。側面取り2回、端面取 り2回。	吉井系
441-4 243	瓦 女瓦	埋土内 破片	幅 27.4 厚 2.1	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面輪縁横。側面 面取り3回、端面取り3回。粘土板接合痕 はS。	吉井系
441-5 243	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面粘土板割き取り痕・布合 わせ目録2ヶ有。凸面粘土板割き取り痕・ 縁位の撫で整形。側面取り3回。	吉井系
442-1 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り。凹面に紐作り痕を残し、撫で整形。 凸面縁位の撫で整形。側面取り2回。	吉井系
442-2 242	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面輪縁横・粘土 板割き取り痕。側面取り3回、端面取り 2回。	吉井系
442-3 243	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	平載作り。凹面布合わせ目録。凸面輪縁横。 側面取り1回。	吉井・藤 岡系
442-4 243	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面粘土板割き取り痕。凸面縁 位の撫で整形。側面取り2回。	吉井・藤 岡系
442-5 243	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 3.5	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	桶巻き造りか。凹面粘土板割き取り痕。凸面 木目印き後撫で整形。端面取り2回。	吉井・藤 岡系
442-6 243	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 4.4	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	一枚作りか。凹面粘土板割き取り痕。凸面 縁位の撫で整形。側面取り4回。	吉井系
442-7 243	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割き取り痕。 凸面輪縁横。側面取り2回。	笠懸系

B区第1号并戸跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 目録 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
443-1 244	須恵器 坏	埋土内下層 完形	口 13.2 底 6.5 高 4.1	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。外面 体部に「法花守」を墨書する。	藤岡系
444-1 244	土器 坏	埋土内 破片	口 12.0 底 — 高 3.6	黒色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部は寛削り。口縁は内外面横 撫で、内外面体部・底部は撫で整形。体部に 甘い型腐を残す。	藤岡系
444-2 244	土器 坏	埋土内 完形	口 12.0 底 — 高 3.6	輪状炭素母	酸化焰	橙	型作り成形。底部は寛削り。口縁は内外面横 撫で、内外面体部・底部は撫で整形。体部に 甘い型腐を残す。	藤岡系
444-3 244	須恵器 坏	埋土内 %残存	口 12.4 底 6.4 高 4.0	白色粒子	還元焰	白灰	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系

遺物一覧表

博覧番号 収蔵番号	種別 器種	出土位置 保存状態	度量 器目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
444-4 244	須恵器 坏	埋土内 互残存	口 (12.6) 底 6.9 高 3.0	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	
444-5 244	須恵器 坏	埋土内 互残存	口 (14.0) 底 (7.5) 高 3.7	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
444-6 244	須恵器 坏	埋土内 互残存	口 底 (8.0) 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
444-7 244	須恵器 坏	埋土内 互残存	口 底 6.8 高 —	黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
444-8 244	須恵器 坏	埋土内 互残存	口 底 7.3 高 —	白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
444-9 244	須恵器 坏	埋土内 破片	口 底 8.5 高 —	白色微粒子 黒色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
444-10 244	須恵器 坏	埋土内 破片	—	白色微粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
444-11 244	須恵器 坏	埋土内 破片	口 15.0 底 — 高 —	白色微粒子 白色微粒子	中性焰	灰青	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系
444-12 244	須恵器 坏	埋土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子 微粒状雲母	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	藤岡系か 笠懸系
444-13 244	土師器 甕	埋土内 破片	口 11.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	赤褐	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	
444-14 244	土師器 甕	埋土内 破片	口 20.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
444-15 244	土師器 甕	埋土内 破片	口 20.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
444-16 244	土師器 甕	埋土内 破片	口 20.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
444-17 244	土師器 甕	埋土内 破片	口 21.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
444-18 244	土師器 甕	埋土内 破片	口 22.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	赤褐	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系
445-1 245	土師器 ほぼ球形	埋土内 ほぼ球形	口 20.3 底 3.4 高 26.1	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	
445-2 245	土師器 甕	埋土内 ほぼ球形	口 19.8 底 5.2 高 28.0	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。紐作り、外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	
445-3 246	土師器 甕	埋土内 破片	口 底 3.6 高 —	白色微粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面割部は寛削り、内面割部は寛撫で。	藤岡系
445-4 246	土師器 甕	埋土内 破片	口 底 3.7 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り。外面割部は寛削り、内面割部は寛撫で。	藤岡系
446-1 245	土師器 甕	埋土内 ほぼ球形	口 20.1 底 4.5 高 27.5	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面割部は寛削り、口縁部は横撫で、内面割部は寛撫で。	藤岡系

B区(1号井戸跡)

簿記番号 国庫番号	種別	出土位置 埋存状態	寸法 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
446-2 245	土師器 罍	埋土内 ほぼ充形	口 21.0 底 4.0 高 28.1	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。縦作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
446-3 246	土師器 罍	埋土内 与残存	底 3.0 最大径 22.3	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	縦作り。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
446-4 246	土師器 罍	埋土内 与残存	口 20.0 最大径 21.6	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	「コ」の字状口縁。縦作り、外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋撫で。	
447-1 246	土師器 罍	埋土内 破片	底 4.4 最大径 25.3	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	縦作り。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
447-2	土師器 罍	埋土内 破片	底 4.3 最大径 22.0	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	縦作り。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
447-3 246	土師器 罍	埋土内 破片	口 — 底 3.6 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	縦作り。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
447-4 246	土師器 罍	埋土内 破片	口 — 底 3.6 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	縦作り。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
447-5 246	土師器 罍	埋土内 破片	口 — 底 3.8 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	縦作り。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
447-6 246	土師器 罍	埋土内 破片	口 — 底 3.8 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	縦作り。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
447-7 246	土師器 罍	埋土内 破片	口 — 底 4.0 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	縦作り。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
447-8 247	土師器 台付罍	埋土内 破片	—	黒色鉱物粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	橙	縦作り。外面胴部は篋削り、内面胴部は篋撫で。	藤岡系
447-9 247	須恵器 壺	埋土内 与残存	底 9.0 最大径 17.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	縦作り後輪軸整形(右回転)。付高台。肩部上半欠損。	吉井系
448-1 247	須恵器 罍	埋土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	縦作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	栗附系
448-2 247	須恵器 罍	埋土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	縦作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は素文)。	栗附系
448-3 247	須恵器 壺	埋土内 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	縦作り後輪軸整形(右回転)。	秋間系
448-4 247	須恵器 大罍 瓶用型	埋土内 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	縦作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具は青得段文)。内面は磨減顯著。	秋間系
448-5 247	雑器 不詳	埋土内 完存	長 11.8 幅 9.5 重 97.5	—	—	—	特別な使用痕は認められない。	
448-6 247	雑器 不詳	埋土内 完存	長 14.9 幅 10.0 重 235.4	—	—	—	平坦面が磨減する。	
448-7 247	雑器 不詳	埋土内 完存	長 18.0 幅 7.9 重 410.5	—	—	—	平坦面が磨減する。	
448-8 247 瓦-449	瓦 甃瓦	埋土内 与残存	厚 3.3	透明鉱物粒子 ダイヤモンド	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。男瓦部は欠損。	藤岡系
448-9 247 瓦-450	瓦 甃瓦	埋土内 破片	厚 1.0	ダイヤモンド 白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	大半の瓦当面及び男瓦部を欠損している。瓦当意匠は単弁4葉蓮華文か。	笠懸系

遺物一覧表

押図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 保存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の 特徴	備考
448-10 247 瓦-535	瓦 宇瓦	埋土内 破片	厚 3.8	白色微粒子	還元焰 灰	瓦当意匠は抽象文。瓦当面の大半、男瓦部は欠損。	秋間系
448-11 247	瓦 玉縁付 男瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色微粒子 透明鉱物粒子	酸化焰 鈍黄橙	半截作り。凸面縦横襷で整形。側面取り3回。	秋間系
448-12 247	瓦 玉縁付 男瓦	埋土内 破片	厚 1.9	黒色粒子	還元焰 暗灰	半截作り。凸面罫印き後縦横襷で整形。側面取り3回。	吉井系
449-1 248	瓦 男瓦	埋土内 残存	厚 1.5	白色粒子	還元焰 灰白	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦横襷で。側面取り3回、端部取り2回。	秋間系
449-2 247	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰 灰	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面罫印き。側面取り3回、端部取り3回。	吉井系
449-3 247	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	酸化焰 浅黄橙	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面罫印き後襷で消し。側面取り3回。	吉井系
449-4 248	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.9	黒色粒子	中性焰 灰黄	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面罫印き後襷で整形。粘土板接合痕。	秋間系
449-5 247	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	酸化焰 橙	半截作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面罫印き後襷で整形。	吉井系
449-6 247	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面木目印きか。後襷で消し。側面取り3回、端部取り3回。	笠懸系
449-7 248	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	黒色粒子	還元焰 灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。布目無で消し。凸面罫印き。自然軸附存。端部取り3回。	秋間系か 藤岡系
450-1 248	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 白灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面罫印きで整形。	垂附系
450-2 247	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.2	赤色粒子 黒色粒子	酸化焰 橙	一枚作り。凸面罫印き。離砂質有。	垂附系か 秋間系
450-3 248	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 白色粒子 シルト粒	還元焰 白灰	一枚作り。凸面縦位の襷で整形。	吉井系
450-4 248	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色微粒子	中性焰 黄灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面粘土板割ぎ取り痕、横位の襷で整形。側面取り2回、端部取り1回。	藤岡系
450-5 248	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰 灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面不定方向の襷で整形。側面取り3回、端部取り2回。	吉井系
450-6 248	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	赤色粒子 白色粒子	還元焰 灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦横襷で整形。側面取り2回。	吉井系
450-7 248	瓦 男瓦	埋土内 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子 角砂粒	酸化焰 浅黄橙	一枚作り。凸面縦位の襷で整形。側面取り2回。	吉井系
451-1 248 瓦-374	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	中性焰 黄灰	一枚作り。隠掘き文字瓦利説不能(凹面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の襷で整形。側面取り1回、端部取り2回。	吉井系
451-2 249 瓦-375	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 灰	一枚作り。隠掘き文字瓦「生」[玉] (凸面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の襷で整形。	吉井系
451-3 248	瓦 女瓦	埋土内 残存	厚 1.9	白色鉱物粒子	酸化焰 鈍橙	一枚作り。凸面墨書有「縁」。凹面・凸面粘土板割ぎ取り痕。側面取り3回、端部取り2回。	吉井系
451-4 248	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子	酸化焰 浅黄橙	一枚作り。凹面頸項圧痕。凸面罫印き後襷で整形。側面取り2回、端部取り2回。	吉井系
451-5 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色微粒子 白色鉱物粒子	中性焰 黄灰	柄巻き造り。凹面横骨痕・布合わせ目・布目無で消し有。側面取り2回、端部取り3回。	笠懸系
451-6 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰 灰	柄巻き造り。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕有。側面取り3回。	吉井系
451-7 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰 鈍橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面罫印き後襷で整形。側面取り3回、端部取り3回。	笠懸系

B区土坑群

探図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
452-1 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.5	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面正格子印き後縦位の撫で整形。 側面面取り2回。	秋間系
452-2 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.3	黒色粒子 白色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面斜格子印き。	秋間系
452-3 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面斜格子印き。縦位の撫で整形。側面面取り2回。	笠懸系
452-4 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面平行印き。	吉井系
452-5 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.6	白色粒子	還元焰	白灰	一枚作り。凸面平行印き。側面面取り2回。 439-10と同一体	秋間系
452-6 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.2	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面平行印き。縦位の撫で整形。側面面取り3回、端部面取り2回。	笠懸系
452-7 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.6	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。側面面取り3回、端部面取り2回。	乗附系 439-10と同一一体
453-1 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。布合わせ目痕。凸面縦位の撫で整形。	乗附系
453-2 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
453-3 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	ダイヤサイト	酸化焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕・布合わせ目痕。凸面粘土板刺ぎ取り痕・縦位の撫で整形。側面面取り2回、端部面取り1回。	藤岡系
453-4 249	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り4回、端部面取り2回。	吉井系
454-1 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。布目痕で消し。凸面縦位の撫で整形。側面面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
454-2 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。側面面取り3回、端部面取り2回。	乗附系
454-3 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 2.4	白色粒子	中性焰	黄灰	桶巻き造り。凹面横骨痕・粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦横撫で整形。側面面取り2回、端部面取り2回。	笠懸系
454-4 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面縦横撫で整形。側面面取り2回、端部面取り2回。	吉井系
454-5 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色粒子 黒色粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦印き後撫で整形。	笠懸系
454-6 250	瓦 女瓦	埋土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面縦印き後撫で整形。	笠懸系

B区土坑群

探図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
455-1 251	須恵器 埴	B区43土坑 埋土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 —	白色微粒子	中性焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	乗附系
455-2 251	須恵器 坏	B区43土坑 埋土内 破片	口 — 底 (6.0) 高 —	黒色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
455-3 251	須恵器 蓋	B区43土坑 埋土内 破片	径 (9.0) 底 (7.8) 高 —	白色粒子	還元焰	灰白	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転荒削り。天は手押荒削り。撫は不詳。	秋間系
455-4 251	羽釜	B区43土坑 埋土内 破片	最大径 21.8	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。脚は張り付け。吉井彫り釜。	吉井系

遺物一覧表

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
455-5 251	土師器 坏	B区65土坑 覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は蓋削り、口縁は内 外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。 口縁直下に甘い型磨を残す。	藤岡系
455-6 251	土師器 坏	B区65土坑 覆土内 破片	口 (16.0) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	橙	型作り。底部・体部は蓋削り、口縁内、外面 は横撫で、口縁部は外反する。	藤岡系か
455-7 251	須恵器 坏 片	B区65土坑 覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。	秋間系
455-8 251	須恵器 埴	B区65土坑 覆土内 破片	口 — 底 (9.5) 高 —	白色微粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	東附系
456-1 251	須恵器 蓋	B区65土坑 覆土内 破片	口 (18.5) 横 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。 上半部は回転蓋削り。肩部は短かく横み出し ている。	秋間系
456-2 251	須恵器 甕	B区65土坑 覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。	東附系
456-3 251	須恵器 甕	B区65土坑 覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。	秋間系か
456-4 251	石製 砥石	B区65土坑 覆土内 写残存	幅 3.8 厚 3.6 重 187.1	流紋岩 (脈沢 石)	—	—	中央部に向い使い減っている。手持砥。側面 に孔を有する。	
456-5 251	瓦 女瓦	B区65土坑 覆土内 破片	厚 2.7	白色鉱物粒子	中性焰	黄灰	桶巻き造り。凹面横骨筋。凸面叩き(密)。 側面取り2回。	藤岡系か 笠懸系
456-6 252	瓦 女瓦	B区65土坑 覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子 雲母	中性焰	黄灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取り 1回、端部取り1回。	笠懸系か
456-7 252	土師器 坏	B区65土坑 覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	型作り成形。底部・体部は蓋削り、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁直下に甘い型磨を残す。	藤岡系
456-8 252	須恵器 蓋	B区65土坑 覆土内 破片	口 13.1 横 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。 上半部は回転蓋削り。受部は折り返す。	秋間系
456-9 252	須恵器 蓋	B区65土坑 覆土内 破片	口 13.4 横 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。 上半部は回転蓋削り。受部は折り返す。	秋間系
456-10 252	須恵器 蓋	B区65土坑 覆土内 破片	口 15.7 横 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形 (右回転)。 上半部は回転蓋削り。	秋間系
456-11 252	土師器 甕	B区65土坑 覆土内 破片	口 17.0 底 — 高 —	微粒状雲母 ダイヤサイト 赤色粒子	酸化焰	橙	口縁部は外反する。紐作り。外面縦位の蓋削 り、口縁部は横撫で、内面側部は横撫で。	吉井・藤 岡系
456-12 252	須恵器 甕	B区65土坑 覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形 (右回 転)。	東附系
456-13 252	羽蓋	B区65土坑 覆土内 破片	口 20.0 最大径 22.5	黒色鉱物粒子 砂礫粒	酸化焰	橙	口縁部は直立する。紐作り後撫で整形 (右回 転)。踵は貼り付け。吉井羽蓋。	吉井・藤 岡系か
456-14 252	施釉陶器 灰釉 碗	B区65土坑 覆土内 破片	口 — 底 8.0 高 —	密	良好	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。施釉は投掛。	吉井系
456-15 252	土師器 土蓋	B区65土坑 覆土内 破片	—	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り。外面縦位の撫で整形。内面横位の撫 で整形。	吉井系
456-16 252	土師器 坏	B区65土坑 覆土内 写残存	口 11.0 底 — 高 3.7	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰	橙	型作り成形。底部・体部は蓋削り、口縁内外 面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口 縁直下に甘い型磨を残す。	藤岡系

B区土坑群

探洞番号 図帳番号	種別 器	出土位置 遺存状態	層目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
456-17 252	土師器 坏	B区土坑群 覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰 橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。	藤岡系
456-18 252	土師器 坏	B区土坑群 覆土内 瓦残存	口 11.2 底 — 高 3.3	白色微粒子 微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰 橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型青を残す。	藤岡系
456-19 252	土師器 坏	B区土坑群 覆土内 破片	口 (11.8) 底 — 高 (3.4)	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰 橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型青を残す。	藤岡系
456-20 252	土師器 坏	B区土坑群 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	白色微粒子 微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰 橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型青を残す。	藤岡系
456-21 252	土師器 坏	B区土坑群 覆土内 瓦残存	口 13.4 底 — 高 —	白色微粒子 微粒状雲母	酸化焰 橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。口縁直下に甘い型青を残す。	藤岡系
456-22 252	土師器 坏	B区土坑群 覆土内 瓦残存	口 (13.8) 底 — 高 (4.0)	白色微粒子 微粒状雲母 黒色鉱物粒子	酸化焰 橙	型作り成形。底部・体部は篋削り、口縁内外面は横撫で、内面体部・底部は撫で整形。	藤岡系
456-23	須恵器 蓋	B区土坑群 覆土内 破片	口 10.0 柄 — 高 —	白色微粒子	還元焰 灰	口唇部は下方に折り返す。轆轤成形(右回転)。上半部は回転篋削り。受部は折り返し。	兼附系
456-24 252	土師器 壺	B区土坑群 覆土内 破片	口 (10.6) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰 黄緑	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋削り。	藤岡系か
456-25 252	土師器 壺	B区土坑群 覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰 純黄橙	口縁部は外反する。紐作り。外面胴部は篋削り、口縁部は横撫で、内面胴部は篋削り。	藤岡系
457-1 252	須恵器 埴	B区土坑群 覆土内 瓦残存	口 (15.4) 底 5.8 高 8.0	白色微粒子 黒色鉱物粒子	還元焰 灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	藤岡系
457-2 252	土師質土 器 埴	B区土坑群 覆土内 破片	口 — 底 7.6 高 —	微粒状雲母	還元焰 白灰	轆轤成形(右回転)。付高台。外面底部に暗文を施す。	秋田系
457-3 252	須恵器 壺	B区土坑群 覆土内 破片	口 (26.0) 底 (18.9) 高 (3.0)	白色微粒子	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋田系
457-4 252	須恵器 壺	B区土坑群 覆土内 破片	—	黒色粒子	還元焰 灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋田系
457-5 252	須恵器 埴	B区土坑群 覆土内 破片	口 — 底 5.3 高 —	白色微粒子	還元焰 灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	兼附系
457-6 253	須恵器 鉢	B区土坑群 覆土内 破片	口 — 底 6.0 高 —	白色微粒子	還元焰 灰白	底部・体部下半は篋削り。	秋田系
457-7 252	須恵器 壺	B区土坑群 覆土内 破片	—	白色微粒子	還元焰 灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋田系
457-8 252	須恵器 壺	B区土坑群 覆土内 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰 灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	兼附系
457-9 253	須恵器 鉢	B区土坑群 覆土内 破片	口 (17.0) 底 — 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋田系
457-10 253	石製品 砥石	B区土坑群 覆土内 破片	重 342.2	粗粒安山岩	—	各面の角度は130°~140°程度、全体が多面体だったと思われる。砥面の横断面は弧を描いており、研磨主体の刃部が弧を呈していると思われる。	
457-11 253	鏡 不詳	B区土坑群 覆土内 一部欠損	長 11.5 厚 3.3 重 403.8	桂賀頁岩	—	特別な使用痕は認められない。	

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種 類	別 種	出土位置 保存状態	埋 藏 層 目 番 目 (#)	輪 土	焼 成	色 調	器 形 ・ 技 法 等 の 特 徴	備 考
457-12 253	漆 器	漆 器	B区土坑群 覆土内 一部欠損	626.1	柱貫貫岩	—	—	平頭面が磨滅する。	
457-13 253	羽	口	B区土坑群 覆土内 破片	厚 3.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	
457-14 253	羽	口	B区土坑群 覆土内 破片	厚 2.6	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	
458-1 253	羽	口	B区土坑群 覆土内 破片	厚 3.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	
458-2 253	羽	口	B区土坑群 覆土内 破片	厚 2.8	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	
458-3 253	羽	口	B区土坑群 覆土内 破片	厚 3.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側にスラグが附着し、ケイ酸分が付着する。	
458-4 253	羽	口	B区土坑群 覆土内 破片	厚 2.4	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、細片の為、スラグ等は認められない。	
458-5 253 瓦-453	瓦 體	瓦	B区土坑群 覆土内 瓦-453	厚 1.4 径 16.1	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は復弁7葉蓮華文で復弁7葉が描像化されたもので弁間に開弁を配する。中房子葉は1+6。外区は6ヶ所の珠文帯を配する。	秋間系
458-6 253	瓦	瓦	B区土坑群 覆土内 瓦残存	厚 2.3	白色粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	半載作り。凸面正格子印き後縦位の跡で整形。側面取付2回、端面取付1回。	秋間系
458-7 253	瓦	瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦位の跡で整形。側面取付2回。	吉井系
458-8 254	瓦	瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目跡で消し。凸面粘土板刺ぎ取り痕。	笠懸系
459-1 254 瓦-452	瓦 體	瓦	B区土坑群 覆土内 瓦形	厚 3.8 径 18.0	赤褐色粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	瓦当意匠は半弁5葉蓮華文。中房の子葉は環状子葉。開弁を配する。	笠懸系
459-2 254	瓦	瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦印き(密)後横で整形。	吉井系
459-3 254	瓦	瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦印き(密)後横で整形。	笠懸系
459-4 254	瓦	瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 1.2	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。凹面・凸面横位の跡で整形。側面取付3回。	栗附系
459-5 254	瓦	瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰	半載作り。凹面布合わせ目痕。凸面縦横両方で整形。	笠懸系
460-1 254	瓦	瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面縦印き後横で整形。端面取付2回。	笠懸系
460-2 254	瓦	瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 ダイサイト シルト粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面平行印き。側面取付1回。	栗附系
460-3 254	瓦	瓦	B区土坑群 覆土内 破片	厚 2.2	白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面縦位の手面で整形。側面取付3回、端面取付2回。	笠懸系

C区土坑

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	埋没 深目 (cm)	土質	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
463-1 254	土師質土 器 カワラケ	C区13土坑 覆土内 %残存	口 12.1 底 6.7 高 3.2	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	轆轤成形(左回転)。底部は回転糸切り。	15世紀前半
463-2	須恵器 埴 塊	C区17土坑 覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	瀬岡系か
463-3	須恵器 埴 塊	C区17土坑 覆土内 破片	—	白色鉱物粒子	還元焰	鈍褐	轆轤成形(右回転)。二次焼成の高温加熱により融変・発泡している。	瀬岡系か
463-4	須恵器 埴 塊	C区17土坑 覆土内 破片	口 — 底 6.9 高 —	白色鉱物粒子	還元焰	暗褐	轆轤成形(右回転)。二次焼成の高温加熱により融変・発泡している。	瀬岡系か
463-5 254	須恵器 埴 塊	C区17土坑 覆土内 破片	口 — 底 9.6 高 —	白色鉱物粒子	還元焰	暗褐	轆轤成形(右回転)。二次焼成の高温加熱により融変・発泡している。	瀬岡系か
463-6	須恵器 埴 塊	C区17土坑 覆土内 破片	口 — 底 7.1 高 —	白色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。二次焼成の高温加熱により融変・発泡している。	瀬岡系か
463-7	須恵器 大 壺	C区18土坑 覆土内 破片	—	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面刃具は青銅製文)。	瀬岡系か
464-1	須恵器 足高 付 埴 塊	C区17土坑 覆土内 ほぼ完形	—	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍褐	轆轤成形(右回転)。付高台。高温加熱により融変・発泡している。	瀬岡系か
464-2	須恵器 大 壺	C区17土坑 覆土内 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面刃具は青銅製文)。	瀬岡系か
464-3	瓦 男 瓦	C区17土坑 覆土内 破片	厚 2.3	—	還元焰	灰	平截作り。凸面輪轆無で整形。側面取り3回。	
464-4	瓦 女 瓦	C区17土坑 覆土内 破片	厚 1.7	—	還元焰	灰	一枚作りか。凸面縦位の無で整形。	吉井系
465-1	須恵器 足高 付 埴 塊	C区17土坑 覆土内 %残存	—	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍褐	轆轤成形(右回転)。付高台。高温加熱により複数の個体が融着・発泡している。467-17と同一個体か。	瀬岡系
465-2	須恵器 埴 塊	C区18土坑 覆土内 破片	口 — 底 (7.8) 高 —	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	吉井・瀬岡系か
465-3	土師質土 器 埴 塊	C区27土坑 覆土内 破片	口 — 底 4.6 高 —	白色粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形(右回転)。付高台。底部両面に凹みがある。	瀬岡系か
465-4	須恵器 埴 塊	C区27土坑 覆土内 破片	口 14.8 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	瀬岡系か
465-5	土師質土 器 埴 塊	C区40土坑 覆土内 破片	口 — 底 (6.8) 高 —	白色粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。付高台。	瀬岡系か
465-6	土師質土 器 皿	C区53土坑 覆土内 破片	口 (9.0) 底 (5.0) 高 (1.6)	白色粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形(右回転)。	瀬岡系か
465-7	須恵器 埴 塊	C区53土坑 覆土内 破片	口 — 底 5.6 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。底部は回転糸切り。	瀬岡系か

遺物一覧表

C区遺構外

神宮寺 園庭番号	種別	出土位置 遺存状態	埋没 層目 (g)	土質	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
466-1	縄文式土器 深鉢	C区IV層 破片	—	黒色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	地文・縄文・Lrを施し、平縁竹管を横位に 施す。	清瀬B式
466-2	縄文式土器 深鉢	C区表土 破片	—	白色粒子 黒色鉱物粒子 パミス	酸化焰	黄橙	地文・縄文・Lrを施し、平縁竹管を横位に 施す。	清瀬B式
466-3	縄文式土器 深鉢	C区表土 破片	—	白色粒子 黒色鉱物粒子 パミス	酸化焰	黄橙	地文・縄文・Lrを施し、平縁竹管を横位に 施す。	清瀬B式
466-4	縄文式土器 深鉢	C区土坑 破片	—	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	全面に沈線を施す。	清瀬C式
466-5	縄文式土器 深鉢	C区表土 破片	—	白色粒子 黒色粒子 黒粒状炭母	酸化焰	鈍橙	隆帯文を施し、隆帯文下端に爪跡文を加飾す。 る。	勝板式
466-6	縄文式土器 深鉢	C区IV層 破片	—	白色粒子 黒色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	深鉢の把手で、隆帯文を加飾する。	加曾利E式
466-7	縄文式土器 深鉢	C区表土 破片	—	白色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	沈線により、隆帯文を表出し沈線間に縄文(Lr) を充喫する。	加曾利E式
466-8	縄文式土器 台	C区III層 破片	—	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	地文素文で、窓縁辺に突帯を施す。	加曾利E式
466-9	縄文式土器 深鉢	C区表土 破片	—	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	外面は粗い面を施す。	掘の内C式
466-10	縄文式土器 深鉢	C区表土 破片	—	黒色粒子 白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	黒灰	横位の帯状文を施す。縄文はR。黒色に施す。 内外面研磨を施す。	加曾利B1式か 安行式か
466-11	石器 鏃	C区III層 鏃欠損	重 2.5	黒色安山岩	—	—	有茎平根三角形鏃形式。鏃を欠損する。	
466-12	石器 削片石	C区表土 完存	—	黒色頁岩	—	—	側面に刃部を有する。	
466-13	石器 斧	C区表土 完存	重 43.2	黒色頁岩	—	—	先端欠損。短冊型石付。	
466-14	石器 斧	C区III層 完存	重 79.6	細粒安山岩	—	—	先端欠損。短冊型石付。	
466-15	石器 鏃	C区覆土 内 完存	重 410.8	頁岩	—	—	両面に刃部を有する。	
466-16	石器 斧	C区III層 完存	重 139.4	灰色安山岩	—	—	上端欠損。楔型。片面に磨面を残す。	
466-17	石器 鏃	C区III層 完存	重 101.2	珸質頁岩	—	—	削片の片方に磨面を残し、側面に刃部を有す る。	
466-18	土器 台付甕	C区III層 破片	—	白色粒子	酸化焰	黒褐	台付甕の脚部・底部の周辺で、脚と甕部との 接合には、付加粘土を施す。付加粘土は粗く ない。	
466-19	土器 台付甕	C区III層 破片	—	白色粒子	酸化焰	褐	胴部片で、刷毛目を施す。	
466-20	土器 台付甕	C区III層 破片	—	黒色鉱物粒子 砂粒	酸化焰	淡黄橙	胴部片で、刷毛目を施す。	
466-21	土器 台付甕	C区III層 破片	—	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	胴部片で、刷毛目を施す。	
466-22	埴輪 円筒埴輪	C区表土 破片	—	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	外面縦位に刷毛目を施す。	藤岡系か
466-23	埴輪 円筒埴輪	C区表土 破片	—	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	甕を施す。甕は上面が平坦である。外面縦位・ 内面に刷毛目を施す。	藤岡系か

C区土坑

探頭番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	口径 (cm) 底径 (φ) 底高 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
466-24	土師器 坏	C区表探 破片	口 (13.3) 底 — 高 (4.5)	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部は丸く、口縁部は外反する。 底部は篋形。内外面は横撫で。外面に強い 稜を有する。	藤岡系
466-25	土師器 坏	C区II層 破片	口 15.4 底 — 高 —	赤褐色粒子 白色微粒子	酸化焰	橙	底部を欠損。体部・口縁部は丸味を帯びて立ち 上がる。体部は篋形。口縁下に甘い型 膚を残す。口縁部・内面は横撫で。内面放射 状暗文を施す。	藤岡系
466-26	土師器 坏	C区II層 与残存	—	白色微粒子	酸化焰	橙	型作り成形。底部は平底か。体部は篋形。 内面は横撫で。内面に稜を施す。	藤岡系
466-27	土師質土 器 皿	C区II層 破片	口 9.7 底 4.0 高 2.0	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	藤岡系
466-28	土師質土 器 皿	C区 破片	口 9.3 底 6.3 高 2.0	白色粒子	酸化焰	黄橙	輪縁成形(右回転)。付高台。	
466-29	土師質土 器 皿	C区表土 破片	口 9.2 底 3.8 高 2.0	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
466-30	土師質土 器 皿	C区表土 与残存	口 9.3 底 4.0 高 1.9	白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	栗野系
466-31	土師質土 器 皿	C区表土 与残存	口 9.6 底 4.4 高 1.9	白色粒子	酸化焰	鈍橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	栗野系
466-32	土師質土 器 皿	05-C- 40 与残存	口 9.6 底 5.4 高 2.2	白色粒子 黒色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤岡系
466-33	土師器 坏	C区II層 破片	口 9.6 底 — 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍橙	型作り成形(右回転)。内面放射状暗文を施す。 内面有機質(漆)附着。体部は篋形。口縁部・ 内面横撫で。	
466-34	土師質土 器 皿	C区表土 破片	口 (10.0) 底 5.6 高 2.0	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・ 外面有機質(漆)附着。	
466-35	土師質土 器 皿	C区II層 破片	口 (10.2) 底 (6.4) 高 3.0	白色微粒子 微粒状貴母	酸化焰	橙	輪縁成形(右回転)。	吉井・藤岡系
467-1	土師質土 器 坏	C区II層 破片	口 — 底 4.4 高 —	黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部 は摩滅している。	吉井・藤岡系
467-2	須恵器 坏	C区表土 与残存	口 9.6 底 5.2 高 3.0	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰褐	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。底部 に孔有。	秋田系
467-3	土師質土 器 坏	C区II層 完形	口 10.0 底 4.4 高 3.4	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
467-4	土師質土 器 坏	C区表土 破片	口 (10.3) 底 (6.4) 高 3.9	白色微粒子	酸化焰	明橙	輪縁成形(右回転)。	藤岡系
467-5	土師質土 器 坏	C区表土 与残存	口 10.6 底 6.0 高 3.8	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
467-6	土師質土 器 坏	C区暗室 破片	口 4.8 底 5.4 高 3.9	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・ 外面有機質附着。	吉井系
467-7	須恵器 坏	C区表土 内 破片	口 — 底 8.0 高 —	白色粒子	還元焰	灰	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系
467-8	須恵器 坏	C区表土 破片	口 — 底 7.0 高 —	白色粒子	還元焰	灰白	輪縁成形(右回転)。内面赤色顔料塗布。外面 燻し処理を施す。	吉井・藤岡系

遺物一覧表

標記番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
467-9	須志器 環	C区II層 56残存	口 (12.4) 底 (6.9) 高 3.5	白色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
467-10	須志器 環	C区II層 56残存	口 (12.6) 底 8.0 高 3.5	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
467-11	須志器 環	C区表土 破片	口 13.3 底 9.0 高 3.2	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
467-12	須志器 環	C区表土 56残存	口 13.1 底 6.9 高 3.6	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	東附系か 秋間系
467-13	須志器 環	C区表土 56残存	口 13.5 底 6.4 高 4.1	白色鉱物粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	吉井系か 太田系
467-14	土師質土 器 環	C区II層 56残存	口 — 底 6.8 高 —	白色微粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系か
467-15	須志器 環	C区II層 破片	口 — 底 9.5 高 —	黒色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。底部周辺回転歪み有り。底 部に遺書「型か」。底部は回転糸調整。	太田系か 笠懸系
467-16	須志器 環	C区表土 破片 (納)	口 4.0	白色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。口縁は貼り付け。	秋間系か 東附系
467-17	須志器 塊	C区II層 破片	—	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	轆轤成形 (右回転)。高熱焙焼により融変・発 泡している。465-1と同一個体か。	東附系
467-18	土師質土 器 塊	C区II層 破片	口 11.0 底 — 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	東附系
467-19	土師質土 器 塊	C区II層 破片	口 12.0 底 5.8 高 4.7	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙褐	轆轤成形 (右回転)。付高台。	吉井系
467-20	土師質土器 足高台付 塊	C区香土 内 56残存	口 12.4 底 9.0 高 6.7	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	東附系か
467-21	須志器 塊	C区表土 56残存	口 (13.5) 底 (7.6) 高 5.7	白色粒子 黒色粒子	還元焰	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。口縁部外周溝し 処理を施す。	秋間系
467-22	土師質土 器 塊	C区表土 56残存	口 (13.8) 底 6.0 高 4.9	微粒状雲母 シルト質 黒色鉱物粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系
467-23	土師質土器 足高台付 塊	C区II層 56残存	口 16.2 底 — 高 —	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	轆轤成形 (右回転)。高台欠損 (付高台)。	東附系か
467-24	須志器 塊	C区表土 56残存	口 (15.0) 底 (7.3) 高 5.7	黒色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
467-25	黒釉陶器 灰 軸 輪	C区表土 破片	口 — 底 7.8 高 —	密	良好	白灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	
468-1	土師質土 器 塊	C区表土 56残存	口 (16.2) 底 (8.2) 高 4.4	白色微粒子	中性焰	灰黄	轆轤成形 (右回転)。付高台。	藤岡系か 東附系
468-2	須志器 塊	C区II層 56残存	口 (17.2) 底 8.2 高 5.9	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	秋間系
468-3	須志器 高台環 脚	C区表土 破片	—	黒色鉱物粒子	還元焰	灰	轆轤成形 (右回転)。付高台。	東附系
468-4	土師質土器 足高台付 脚	C区表土 破片	口 — 底 12.7 高 —	透明 粗粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	轆轤成形 (右回転)。付高台。	笠懸系か 月夜野系

発掘番号 図記番号	種別	出土位置 遺存状況	厚さ 長さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
468-5	須恵器 埴	C区II層 破片	口 10.2 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	白灰	輪軸成形(右回転)。付高台。	秋間系
468-6	須恵器 高台付埴	C区表土 破片	口 — 底 12.0 高 —	黒色粒子 密	還元焰	灰	輪軸成形(右回転)。付高台。	東海系か
468-7	土師質土 埴	C区III層 破片	口 12.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	輪軸成形(右回転)。付高台。内面贈文を施す。	吉井系
468-8	須恵器 鉢	C区表土 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	輪軸成形(右回転)。付高台。	秋間系か 乗附系
468-9	土師器 鉢	C区III層 破片	—	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	輪軸成形(右回転)。内面交正状贈文を施す。 同一個体の未接合物が3点ある。	乗附系
468-10	須恵器 高台付埴	C区II層 破片	—	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	輪軸成・整形(右回転)。	東海系
468-11	須恵器 埴	C区III層 破片	口 (22.4) 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰	白灰	輪軸成・整形(右回転)。内面に横き目を残す。	秋間系
468-12	須恵器 埴	C区内 破片	口 (32.0) 底 (25.0) 高 3.2	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	輪軸成形(右回転)。底部は回転寛削り。	秋間系
468-13	須恵器 埴	C区表土 破片	口 14.3 底 — 高 —	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面刃具 は青海波文)後輪軸可整形。外面に横き目を 残す。	乗附系か
468-14	須恵器 広口壺	C区II層 破片	口 17.0 底 — 高 —	白色粒子 黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。紐作り後輪軸整形(右回 転)。口縁部・内面に有横貫(津)附着。	藤岡系
468-15	須恵器 埴	C区III層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。外面有機質附着。 外面に墨痕有。	秋間系
468-16	須恵器 鉢	C区表土 破片	口 24.0 底 — 高 —	黒色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り後輪軸整形(右回転)。	乗附系
468-17	土師器 鉢	C区表土 破片	口 25.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	紐作り後輪軸整形(右回転)。	吉井系
468-18	須恵器 鉢	C区III層 破片	口 (26.6) 底 — 高 —	黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。口縁部に波状文 を施らし、突帯を配する。	吉井系
469-1	須恵器 土師質鉢	C区III層 破片	口 25.5 底 — 高 —	黒色鉱物粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	紐作り後輪軸整形(右回転)。	吉井・藤 岡系
469-2	須恵器 鉢	C区III層 破片	口 30.4 底 — 高 —	白色鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。	吉井系
469-3	須恵器 脚轆不詳	C区表土 破片	—	白色粒子 白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	還元焰	灰	紐作り後輪軸整形(右回転)。	藤岡系
469-4	須恵器 鉢	C区表土 破片	口 — 底 9.0 高 —	白色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	紐作り後輪軸整形(右回転)。内面足込みは脚 で整形。底部に刺突状のもので刺突した痕跡 有。	乗附系
469-5	土師器 土蓋	C区表土 破片	口 24.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り整形。外面は縦位の寛削で。口縁・内 面は横撫で。	吉井・藤 岡系
469-6	土師器 土蓋	C区表土 破片	口 24.4 底 — 高 —	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り整形。外面は縦位の寛削で。口縁・内 面は横撫で。	吉井系
469-7	土師器 土蓋	C区表土 破片	口 27.0 底 — 高 —	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外反する。体部・底部は頸削り、口 縁部・器内面は横撫で。	吉井系か 乗附系

遺物一覧表

博覧番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	寸目 (cm) 寸目 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
469-8	土師器 土釜	C区表土 破片	口 28.2 底 — 高 —	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	口縁部は外反する。腰部・底部は削り、口縁部・胎内面は横撫で。	吉井系
469-9	須恵器 耳壺	C区田層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に粘土紐を貼り付け耳とする。	乗附系か 松岡系
469-10	須恵器 耳壺	C区田層 破片	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	断面不整形円形状を呈する。	秋間系
469-11	須恵器 耳壺	C区表土 破片	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	断面不整形円形状を呈する。	秋間系
469-12	須恵器 長頸壺	C区表土 破片	口 6.8 底 — 高 —	白色鉱物粒子 デイスайт	還元焰	黒灰	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。内面自然輪附置。	乗附系
469-13	須恵器 長頸壺	C区田層 破片	口 11.2 底 — 高 —	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	口縁部は外反する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
469-14	須恵器 壺	C区表土 破片	—	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
469-15	須恵器 短頸壺	C区田層 破片	口 7.2 底 — 高 —	白色粒子	還元焰	灰	口縁部は短かく直立する。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
469-16	須恵器 長頸壺	C区表土 破片	—	白色粒子 白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
469-17	須恵器 長頸壺	C区表土 破片	最大径 17.6	白色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に轆轤を残す。	秋間系
469-18	須恵器 長頸壺	C区表土 破片	口 — 底 5.5 高 —	白色微粒子	還元焰	灰褐	胴部外面は回転磨撫で。高台は付高台。	秋間系
469-19	須恵器 平瓶	C区表土 破片	底 8.0 最大径 12.0	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。腰部は手持ち寛振りか。	秋間系
469-20	須恵器 高台付杯	C区表土 破片	底 10.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋間系
469-21	須恵器 短頸壺	C区田層 破片	底 11.4 最大径 14.9	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰褐	紐作り後轆轤整形(右回転)。全体に扁平な器形。	秋間系
469-22	須恵器 脚付長頸壺	C区表土 破片	底 9.8 最大径 19.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。脚部は貼付後轆轤整形。	秋間系
470-1	須恵器 瓶	C区表土 破片	—	白色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面内具は素文)後轆轤再整形。	乗附系
470-2	須恵器 脚付長頸壺	C区表土 破片	口 — 底 14.3 高 —	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。脚部は貼付後轆轤成形。	秋間系
470-3	須恵器 平瓶	C区表土 破片	口 — 底 16.0 高 —	白色粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。脚部は貼付後轆轤成形。	秋間系
470-4	須恵器 脚(不詳)	C区1号 脚 破片	—	白色鉱物粒子 白色粒子	中性焰	灰黄	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
470-5	須恵器 瓶	C区田層 破片	口 — 底 20.0 高 —	白色粒子	還元焰	灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面内具は素文)後轆轤再整形。	乗附系
470-6	須恵器 大壺	C区表層 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。頸部を施し更に二条の横線を施す。	乗附系
470-7	須恵器 大壺	C区田層 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	4本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。115-3と同一個体。	乗附系
470-8	須恵器 大壺	C区表土 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	12本1単位の波状文を廻らす。紐作り後轆轤整形(右回転)。	秋間系
470-9	須恵器 瓶	C区表土 破片	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系

探検番号 図章番号	種別	出土位置 遺存状況	検目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考	
470-10	須恵器 甕	C区田層 破片	—	白色鉱物粒子 デイスイト	還元焰 灰	紐作り後轆轤整形(右回転)。内面に支え穴を 施す。	吉井系	
470-11	須恵器 甕	C区田層 破片	—	白色微粒子	還元焰 灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	秋間系	
470-12	須恵器 甕	C区田層 破片	—	白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。内面は磨減している。	乗附系 は素文)。	
470-13	須恵器 甕	C区田層 破片	—	白色粒子 黒色微粒子	還元焰 灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。	秋間系	
471-1	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色鉱物粒子 黒色粒子	還元焰 褐灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。	乗附系	
471-2	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。内面はやや磨減している。	秋間系	
471-3	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	乗附系	
471-4	須恵器 甕	C区田層 破片	—	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。	乗附系	
471-5	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。内面は磨減している。	秋間系	
471-6	須恵器 甕	C区田層 破片	—	白色粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。内面は磨減している。	笠懸系か	
471-7	須恵器 甕	C区田層 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。内面は磨減している。	秋間系	
471-8	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。内面は磨減している。	乗附系か	
471-9	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。内面は磨減している。	乗附系	
472-1	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	乗附系	
472-2	須恵器 甕	C区客土 内 破片	—	白色粒子 黒色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(内・外面とも素文)後轆 轤再整形。	秋間系	
472-3	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)後轆轤再整形。内面は磨減している。	吉井系か	
472-4	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色微粒子 黒色粒子	還元焰 灰	紐作り。外面は撫で整形。内面叩き(宛具は 素文)。	吉井系か	
472-5	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色微粒子 白色鉱物粒子 磨礫	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。内面は磨減している。	乗附系か	
473-1	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。内面は磨減している。	乗附系か	
473-2	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。内面は磨減している。		
473-3	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰白	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は青海波文)。	吉井系か 藤岡系	
473-4	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子 白色粘土 盤粒状炭母	還元焰 灰白	紐作り。外面は撫で整形。内面叩き(宛具は 素文)後轆轤再整形。		
473-5	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子	還元焰 灰	紐作り。叩き整形(外面平行叩き・内面宛具 は素文)。内面自然物附着。		
473-6	須恵器 甕	C区表土 破片	—	白色粒子	還元焰 灰	紐作り。外面は撫で整形。内面叩き(宛具は 素文)。内面は磨減している。		
473-7	羽釜	C区表土 破片	口底 — — 高	(18.0) — — —	白色鉱物粒子	中性焰 黄橙	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。踵は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系か 乗附系
473-8	帯蓋不詳	C区表土 破片	口底 — — 高	20.3 — — —	白色粒子	還元焰 灰	口縁部は外傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。踵は逆位の状態で貼り付け。蓋の可能性 もある。内・外面自然物附着。	乗附系
474-1	羽釜	C区表土 破片	口底 — — 高	26.0 — — —	白色鉱物粒子	中性焰 灰黄	口縁部は内傾する。紐作り後轆轤整形(右回 転)。踵は貼り付け。吉井型羽釜。	吉井系

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (個)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
474-2	羽釜	不詳 破片	—	白色黏物粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。	藤岡系
474-3	須恵器 甌	C区表土 破片	—	白色黏物粒子 白色粒子	酸化焰	鈍橙	紐作り後轆轤整形(右回転)。	吉井系
474-4	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-5	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-6	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-7	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-8	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-9	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-10	施釉陶器 緑釉碗	C区田層 破片	□ (13.0) 底— 高—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-11	施釉陶器 緑釉碗	C区田層 破片	□ (16.0) 底— 高—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-12	施釉陶器 緑釉碗	C区田層 破片	□ (17.2) 底— 高—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-13	施釉陶器 緑釉碗	C区田層 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-14	施釉陶器 緑釉碗	C区田層 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-15	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-16	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-17	施釉陶器 緑釉碗	C区田層 破片	□ — 底 6.0 高 —	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-18	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	□ — 底 (6.0) 高 —	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-19	施釉陶器 緑釉碗	C区表土 破片	□ — 底 8.0 高 —	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-20	施釉陶器 緑釉碗	C区内 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤成形(右回転)。	
474-21	施釉陶器 緑釉碗	C区田層 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤整形(右回転)。器内面に陰刻花文を施す。	
474-22	施釉陶器 緑釉碗	C区田層 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤整形(右回転)。器内面に陰刻花文を施す。	
474-23	施釉陶器 緑釉碗	C区田層 破片	—	密	須恵質	オリ ブ灰	轆轤整形(右回転)。器内面に陰刻花文を施す。	
474-24	施釉陶器 緑釉碗	C区田層 破片	—	密	軟質	灰黄	轆轤整形(右回転)。器内面に陰刻花文を施す。	
474-25	施釉陶器 緑釉碗	C区田層 破片	□ — 底 (5.7) 高 —	密	須恵質	灰黄	轆轤整形(右回転)。内外面、曇化。	
474-26	施釉陶器 灰釉碗	C区内 破片	—	密	須恵質	灰白	轆轤整形(右回転)。	
474-27	施釉陶器 灰釉碗	C区表土 破片	□ — 底 6.3 高 —	密	須恵質	灰白	轆轤整形(右回転)。	

神国番号 図面番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 目録 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
474-28	施釉陶器 灰釉碗	C区表土 破片	口 — 底 11.0 高 —	密	須恵質	黄灰	轆轤整形 (右回転)。	
474-29	施釉陶器 白磁 玉縁碗	C区内 破片	—	密	須恵質	乳白	轆轤成形 (左回転)。	北方諸部 系
474-30	施釉陶器 白磁 玉縁碗	C区内 破片	口 — 底 7.0 高 —	密	須恵質	乳白	轆轤成形 (左回転) 蛇の目高台。化粧土を施す。	北方諸部 系
474-31	施釉陶器 青磁碗	C区内 破片	—	密	須恵質	オリブ 灰	轆轤成形 (左回転)。	北方諸部 系
474-32	石製品 磁石 破片	C区1号 溝	幅 1.9 厚 1.5 重 21.5	流紋岩 (磁沢)	—	—	手持砥。利き手は右手。断面は方形を呈する。	
474-33	石製品 磁石 破片	C区表土 破片	幅 3.8 厚 3.0	流紋岩 (磁沢)	—	—	手持砥。利き手は右手。断面は方形を呈する。	
474-34	石製品 磁石 破片	C区表土 破片	幅 2.5 厚 2.2 重 82.4	流紋岩 (磁沢)	—	—	手持砥。利き手は右手。断面は方形を呈する。	
474-35	石製品 磁石 破片	C区表土 破片	幅 3.5 厚 3.0 重 136.8	流紋岩 (磁沢)	—	—	手持砥。利き手は右手。断面は方形を呈する。	
474-36	石製品 磁石 破片	C区南東 表土	幅 2.9 厚 2.7 重 135.6	磁沢石	—	—	手持砥。利き手は右手。断面は方形を呈する。	
475-1	石製品 磁石 破片	C区田磨 破片	重 44.9	黒玄武岩	—	—	手持砥。利き手は右手。断面は方形を呈する。	
475-2	須恵器 大連 転用碗	C区田磨 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。叩き整形 (外周正格子叩き・内周短 貝は素文) 後轆轤再整形。	秋田系
475-3	石製品 石 破片	C区田磨 破片	長 3.2 幅 2.2 厚 1.7 重 11.5	実質凝灰岩	—	—	整形痕等は認められない。	
475-4	瓦製円盤	C区田磨 破片	厚 1.6	—	—	—	凹面縦位の布目無で消し。凸面斜格子叩き。	笠懸系
475-5	瓦製円盤	C区田磨 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焰	灰	凸面縦位の撫で整形。	笠懸系
475-6	瓦製円盤	C区田磨 破片	厚 1.6	白色微物粒子 黒色粒子	還元焰	灰	凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面叩き (密)。	笠懸系
475-7	瓦製円盤	C区表土 破片	厚 1.5	白色微物粒子 白色粒子	還元焰	灰	凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の磨削り。	吉井系
475-8	瓦製円盤	C区表土 破片	厚 1.5	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰	凹面粘土板割ぎ取り痕・布目無で消し。凸面 縦目。縦位の撫で整形。	秋田系
475-9	羽	C区田磨 破片	厚 1.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-10	羽	C区表土 破片	厚 1.4	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-11	羽	C区田磨 破片	厚 2.2	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-12	羽	C区表土 破片	厚 2.6	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-13	羽	C区田磨 破片	厚 1.8	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-14	羽	C区表土 破片	厚 2.8	—	—	—	使用に伴う色調変化が認められるが、縦片 の為、スラグ等は認められない。	
475-15	羽	C区表土 破片	厚 2.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-16	羽	C区田磨 破片	厚 3.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状況	厚目 数量 (個)	土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
475-17	羽口	C区III層 破片	厚 2.0	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-18	羽口	C区III層 破片	厚 2.5	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-19	羽口	C区III層 破片	幅 6.8 厚 2.2	—	—	—	使用に伴う色調変化が顕著で、先端部側に スラグが融着し、ケイ酸分が付着する。	
475-20	鉄滓	C区埋戻	—	—	—	—	塊形鋼滓。	
475-21	金属 鏝	C区III層 破片	重 (4.9)	—	—	—	材質は白銅と考えられる。両面扁平で断面 状である。	
475-22	鉄器 釘	C区表土 破片	重 (5.1)	—	—	—	頭部は叩き潰したあと折り返している。下端 欠損。	
475-23	鉄器 釘	C区表土 破片	重 (9.1)	—	—	—	頭部は叩き潰したあと折り返している。下端 欠損。	
475-24	鉄器 釘	C区表土 破片	重 (11.9)	—	—	—	上端側欠損。断面正方形状を呈する。	
475-25	鉄器 釘	C区III層 破片	重 (10.4)	—	—	—	断面正方形状を呈する。両端欠損。	
475-26	鉄器 釘	C区III層 破片	重 (10.4)	—	—	—	断面正方形状を呈する。両端欠損。	
475-27	鉄器 釘	C区III層 破片	重 (27.4)	—	—	—	尖端側及び頭部先端欠損。断面正方形状を呈 する。	
475-28	鉄器 釘	C区内 破片	重 (8.1)	—	—	—	頭部は立方体状を呈する。下半欠損。断面正 方形状を呈する。	
475-29	鉄器 釘	C区内 一部欠損	重 (10.5)	—	—	—	尖端側及び上端側欠損。断面正方形状を呈す る。	
475-30	鉄器 不詳	C区II層 破片	重 (3.3)	—	—	—	両端欠損。断面正方形状を呈する。	
475-31	鉄器 不詳	C区I層 破片	重 (1.0)	—	—	—	尖端側の破片で全体に細長い。利器等の茎か。	
475-32	鉄器 不詳	C区南東 表土 破片	重 (2.0)	—	—	—	両端欠損。断面正方形状を呈する。	
475-33	鉄器 不詳	C区南東 表土 破片	重 (1.9)	—	—	—	尖端側の破片で全体に細長い。利器等の茎か。	
475-34	鉄器 釘	C区西南 表土 破片	重 (30.5)	—	—	—	全体に太い。頭部欠損。断面正方形状を呈す る。	
476-1	鉄器 不詳	C区II層 破片	重 (16.9)	—	—	—	断面長方形状を呈する。	
476-2	鉄器 釘	C区II層 破片	重 (7.3)	—	—	—	両端欠損。断面正方形状を呈する。	
476-3	鉄器 不詳	C区表土 破片	重 (35.1)	—	—	—	鉄板を管状に成形し、下端側に尖る形状をして いる。鉄板の継合わせは錆化により不分明。 石突か。	
476-4	鉄器 刀子	C区表土 破片	重 (8.2)	—	—	—	研ぎ減りが非常に著しい。刃面を有するが形 体状、特異である。	
476-5	鉄器 不詳	C区表土 破片	重 (2.1)	—	—	—	両端欠損。断面長方形状を呈する。	
476-6	鉄器 不詳	C区表土 破片	重 (10.5)	—	—	—	断面三角形状を呈する。錆化が著しく利器と しての判断はしがたい。	
476-7	鉄器 防錆車 組	C区III層 防錆部欠 損	重 (14.1) 径 4.5	—	—	—	軸を欠損する。	
476-8	鉄器 鉄片	C区水路 南表土 破片	重 (10.7)	—	—	—	錆化が著しく形状判断不能。	
476-9	鉄器 鉄片	C区内 破片	重 (119.6)	—	—	—	錆化が著しく形状判断不能。	

C区土坑

発掘番号 図章番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
476-10	鉄器 鏝	C区40— C-13 破片	口 7.8 底 (5.0) 高 1.8	—	—	—	研ぎ減りは比較的少ない。片写で出土地の周辺には遺構は認められなかった。	
476-11	土師質土器 カワラケ	C区表土 破片	口 8.0 底 (5.5) 高 1.9	黒色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	浅黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	15世紀前半
476-12	土師質土器 カワラケ	C区内 破片	口 8.4 底 (4.0) 高 2.0	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。	15世紀中頃
476-13	土師質土器 皿	D区表土 破片	口 8.3 底 6.0 高 1.7	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。内面有機質附着。	
476-14	土師質土器 カワラケ	C区田層 破片	口 — 底 7.6 高 —	白色微粒子	中性焰	灰黄	輪縁成形(右回転)。底部は回転糸切り。内・外面有機質附着。	秋田系
476-15	土師質土器 環	C区1号 破片	口 26.0 底 — 高 —	白色微粒子 黒色微粒子 透明微粒子	酸化焰	黄橙	紐作り後輪縁整形(左回転)。	15世紀初頭
476-17	軟質陶器 内耳鍋	C区田層 破片	口 31.1 底 — 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙 黒灰	紐作り後輪縁整形(左回転)。	15世紀前半
476-18	軟質陶器 鉢	C区表土 破片	口 34.6 底 — 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後輪縁整形(左回転)。	15世紀前半
476-19	軟質陶器 鉢	C区田層 破片	口 36.9 底 — 高 —	白色微粒子	酸化焰	鈍黄橙	紐作り後輪縁整形(左回転)。	15世紀
476-20	軟質陶器 鉢	C区田層 破片	口 39.8 底 — 高 —	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り後輪縁整形(左回転)。	15世紀
477-1	施釉陶器 即 皿	C区田層 破片	口 14.9 底 — 高 —	密	良好	灰白	輪縁成形(左回転)。口唇縁部が平坦で、外縁に強い網織痕を残す。	美濃系 14・15世紀
477-2	施釉陶器 灰 釉 即 皿	C区南東 表土 破片	口 15.2 底 — 高 —	密	良好	灰白	輪縁成形(左回転)。口唇縁部が平坦で、外縁に強い網織痕を残す。	美濃系 14・15世紀
477-3	施釉陶器 鉄軸茶壺	C区表土 破片	口 15.2 底 — 高 —	密	良好	褐赤 灰赤	紐作り後輪縁整形(左回転)。外面に鉄軸を施す。	瀬戸系 15・16世紀
477-4	磁器 人形	C区内 完形	高 3.5 重 7.0	密	良好	白	型作り成形。側部粘土噴出しを削る。左手を上げ家内安全を表わしている。部分的に上絵付有。	伊万里系 19・20世紀
477-5	石製品 石 罎	C区田層 破片	厚 1.1	滑石	良好	白	内面は使用痕と磨き整形の区別がつかずらい。外面は敲打整形仕上げ。	
477-6	石製品 すり鉢	C区内 破片	口 (19.2) 底 — 高 —	粗粒安山岩	—	—	内面は使用痕と磨き整形の区別がつかずらい。外面は敲打整形仕上げ。	
477-7	瓦 鬼瓦	C区14号 破片	厚 2.0	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	鬼面の目及び頬の部分で、外面には赤色顔料及び金彩を塗布する。胎土は(中世瓦胎土)の1型。	15世紀前半
477-8 瓦一296 瓦一426	瓦 體瓦	C区客土 内 瓦残存	厚 2.0	黒色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は複弁7葉蓮華文。珠点中層。外縁は素文。舟間に珠文を配する。放光寺跡御理意匠群の複弁7葉蓮華文に似ている。	秋田系

遺物一覧表

博物館番号 図版番号	種別 器	出土位置 遺存状態	度量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
477-9 瓦-422	瓦 敷瓦	C区暗渠 破片	厚 2.0	黒色粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は複弁7葉蓮華文。珠点中房。外区は素文。弁間に珠文を配する。放光寺跡創建意匠群の複弁7葉蓮華文に祖型がある。	秋間系
477-10 瓦-443	瓦 敷瓦	C区田層 破片	厚 2.3	黒色粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は単弁9葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は8ヶ所の珠文帯を配する。男瓦部は欠損。	秋間系
477-11 瓦-434	瓦 敷瓦	C区田層 破片	厚 1.0	黒色粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文乃至単弁5葉蓮華文。男瓦部は欠損。	秋間系
477-12 瓦-423	瓦 敷瓦	C区暗渠 破片	厚 1.7	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	瓦当面の大半及び男瓦部は欠損。	笠懸系
477-13 瓦-429	瓦 敷瓦	C区南東 表土 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。外区は重弧。文様は枕縁状で片切ではない。男瓦部欠損。	笠懸系
477-14 瓦-437	瓦 敷瓦	C区4号 溝 破片	厚 1.8	白色微粒子 白色鉱物粒子 黒色粒子	中性焰	灰黄	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。外区は重弧。文様は、枕縁状で片切ではない。男瓦部欠損。	笠懸系
477-15 瓦-432	瓦 敷瓦	C区田層 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。瓦当部大半、男瓦部欠損。	笠懸系
477-16 瓦-433	瓦 敷瓦	C区田層 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。瓦当部大半、男瓦部欠損。	吉井系
477-17 瓦-441	瓦 敷瓦	C区田層 残存	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。	吉井系
477-18 瓦-430	瓦 敷瓦	C区内 残存	厚 2.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	黒灰	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。	吉井系
477-19 瓦-428	瓦 敷瓦	C区1号 掘立 覆土内 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	黒灰	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中房は3つの珠帯を配する。	吉井系
477-20 瓦-440	瓦 敷瓦	C区田層 破片	厚 2.2	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	浅黄橙	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文。中房の子葉は1+4。	吉井系
477-21 瓦-435	瓦 敷瓦	C区表土 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。外区は素文。男瓦部は欠損。	笠懸系
477-22 瓦-431	瓦 敷瓦	C区40- C-02 田層 破片	厚 2.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。外区は左偏行唐草文。男瓦部は欠損。	吉井系
477-23 瓦-444	瓦 敷瓦	C区表土 破片	厚 2.2	白色粒子	中性焰	灰黄	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文らしい。瓦当面大半・男瓦部欠損。	吉井系
477-24 瓦-424	瓦 敷瓦	C区暗渠 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房子葉は1+5。因分寺創建意匠。	秋間系
477-25 瓦-295 瓦-425	瓦 敷瓦	C区瓦群 破片	幅 16.2 厚 1.9	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉乃至、4葉蓮華文と思われる。男瓦部は半截作り。凸面部位の側で整形、赤色顔料塗彩。	吉井系
478-1 瓦-421	瓦 敷瓦	C区田層 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は単弁5葉乃至4葉蓮華文と考えられ、T字状半弁が残るのみである。	吉井系
478-2 瓦-436	瓦 敷瓦	C区1号 溝 破片	厚 1.6	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文と考えられる。	吉井系
478-3 瓦-420	瓦 敷瓦	C区田層 破片	厚 1.7	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は不詳。外区のみ残存する。	東附系か 藤岡系
478-4 瓦-424	瓦 敷瓦	C区田層 破片	厚 1.9	—	—	—	瓦当部欠損。側面取り2回。	
478-5 瓦-554	瓦 敷瓦	C区田層 破片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	暗灰	瓦当部欠損。周縁のみ残存。男瓦部破位の側で整形。側面取り1回。	笠懸系
478-6 瓦-500	字 瓦	C区表土 破片	厚 2.9	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は重弧文。頸は直線物。	吉井系
478-7 瓦-504	字 瓦	C区暗渠 破片	厚 3.5	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は重弧文。頸は直線物。女瓦部は横巻き造り。	東附系か
478-8 瓦-516	字 瓦	C区田層 破片	厚 3.3	白色微粒子	中性焰	鈍黄橙 黒	瓦当意匠は右偏行唐草文。外区に珠点を配する。因分寺創建統一意匠。	笠懸系

拝啓番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	厚目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
478-9 瓦-508	瓦 宇瓦	C区31号 土坑基礎 破片	厚 3.5	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右編行唐草文。外区に珠点を配する。国分寺創建統一意匠。	笠懸系
478-10 瓦-499	瓦 宇瓦	C区表土 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は右編行唐草文。外区に珠点を配する。国分寺創建統一意匠。半割れが認められる。	笠懸系
478-11 瓦-515	瓦 宇瓦	C区II層 破片	厚 2.5	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右編行唐草文。外区に珠点を配する。国分寺創建統一意匠。	笠懸系
478-12 瓦-518	瓦 宇瓦	C区45- C-4 破片	厚 2.5	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右編行唐草文。外区に珠点を配する。国分寺創建統一意匠。	吉井系
478-13 瓦-529	瓦 宇瓦	C区曲道 表層 破片	厚 3.0	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右編行唐草文。外区に珠点を配する。国分寺創建統一意匠。	笠懸系
478-14 瓦-524	瓦 半瓦	C区西南 破片	厚 2.6	白色微粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は右編行唐草文。子葉は短い。	吉井系
478-15 瓦-502	瓦 半瓦	C区表土 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰白	478-14と同題。	吉井系
478-16 瓦-523	瓦 宇瓦	C区1号 溝 破片	厚 4.0	白色微粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は左編行唐草文。頸は段頸。瓦当接合部は平付。凹面自然軸附着。	吉井系
478-17 瓦-514	瓦 宇瓦	C区III層 破片	—	白色微粒子 白色微粒子	中性焰	灰黄	瓦当意匠は均整唐草文。頸は段頸。	吉井系
478-18 瓦-520	瓦 宇瓦	C区III層 破片	厚 1.6	白色微粒子 白色微粒子 シルト粒	還元焰	灰	瓦当意匠は飛雲文と左編行唐草文の折束式と考えられる。頸は段頸。瓦当接合部は平付。	吉井系
478-19 瓦-566	瓦 半瓦	C区水路 南 破片	厚 2.0	—	還元焰	灰	瓦当意匠は均整唐草文。曲線頸。女瓦部は一枚作りか、凸面縦位の横で整形。側面取り2回。165-8 (瓦-478)・167-3 (瓦-558)と接合。	吉井系 瓦-513
478-20 瓦-568	瓦 宇瓦	C区内 破片	厚 2.5	黒色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は抽象文。接合部は刊木に掲載。428-2 (瓦-493)・428-10 (瓦-486)と接合。	秋岡系 瓦-519
479-1 瓦-509	瓦 宇瓦	C区南東 表土 破片	厚 3.0	白色粒子 シルト粒	還元焰	暗灰	瓦当意匠は瓦-514に類すると思われるが、文様が定型に入っていない為不明である。	吉井系
479-2 瓦-521	瓦 宇瓦	C区表土 破片	厚 2.5	白色微粒子	還元焰	白灰	胎土は秋岡系であることから、意匠は横杉文の可能性がある。	秋岡系
479-3 瓦-501	瓦 宇瓦	C区III層 破片	厚 3.2	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は横杉文。同范例は前刊第3分冊記中のD区1号并戸瓦-119と同范である。	秋岡系
479-4 瓦-517	瓦 宇瓦	C区II層 破片	厚 2.0	白色微粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	瓦当意匠は抽象文。実形での同范例は確認できず。	秋岡系
479-5 瓦-511	瓦 宇瓦	C区II層 破片	厚 3.0	黒色粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は横杉文。第3分冊記中のD区1号并戸、瓦-119と同范。女瓦部は一枚作り。	秋岡系
479-6 瓦-510	瓦 半瓦	C区II層 破片	厚 2.3	黒色粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は横杉文。第3分冊記中のD区1号并戸、瓦-119と同范。女瓦部は一枚作り。	秋岡系
479-7 瓦-512	瓦 宇瓦	C区表土 水路南 破片	厚 1.6	黒色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は粗雑な横杉文である。頸は曲線頸。	秋岡系
479-8 瓦-505	瓦 宇瓦	C区暗渠 破片	厚 4.0	黒色粒子	還元焰	白灰	瓦当意匠は不詳。	笠懸系
479-9 瓦-507	瓦 宇瓦	C区客土 内 破片	厚 3.9	黒色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は飛雲刺刺文。頸は曲線頸。	吉井系
479-10 瓦-506	瓦 宇瓦	C区4号 溝 破片	厚 2.4	黒色粒子 白色微粒子 赤褐色粒子	酸化焰	黄橙	瓦当意匠は飛雲文。破損が著しく詳細な不明。	藤岡系
479-11 瓦-503	瓦 半瓦	C区III層 破片	厚 2.6	白色微粒子 白色粒子 シルト粒	還元焰	灰	瓦当部欠損。周縁部のみ残存。女瓦部は一枚作り。凹面粘土板取りが取り底。凸面無整形。	吉井系

遺物一覧表

押図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
479-12	瓦	C区表土	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	黒灰	瓦当部欠損。周縁部のみ残存。女瓦部・凹面 布目磨り消し。	兼附系
479-522	字瓦	C区表土	厚 2.5	黒色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	瓦当部欠損。女瓦部は一枚作りか。凹面粘土 板割ぎ取り痕。瓦一486の意匠か。	秋間系
479-14	瓦	C区内 片残存	厚 1.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半載作り。寛播き文字瓦判読不能(凹面)。凸 面縦位の無で整形。側面取り3回。	吉井系
479-15	瓦	C区内	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子 シルト粒	酸化焰	橙褐色	半載作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凸 面刻印有。判読不能。側面取り2回、端部 面取り1回。	兼附系か 藤岡系
479-16	瓦	C区暗渠 細片	厚 1.2	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	半載作り。寛播き文字瓦判読不能(凹面)。側 面取り3回。	吉井系
479-17	瓦	C区内 破片	厚 1.2	白色粒子 黒色粒子 赤褐色粒子	中性焰	灰黄	半載作り。凸面縦横両側で整形。側面取り 2回、端部取り2回。	秋間系か
480-1	瓦	C区暗渠 破片	厚 2.0	白色粒子 シルト粒	還元焰	暗灰	半載作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凸 面自然釉附着。側面取り4回。	吉井系
480-2	瓦	C区田圃 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙	半載作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面粘土板割ぎ取り痕。側面取り3回。	吉井系
480-3	瓦	C区表土	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍橙	半載作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。側 面取り1回。	吉井系
480-4	瓦	C区田圃 破片	厚 2.0	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰	半載作り。寛播き文字瓦「千」(凸面)。側 面取り2回。	吉井系
480-5	瓦	C区内 破片	厚 2.1	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	半載作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面粘土板割ぎ取り痕。側面取り3回。	吉井系
480-6	瓦	C区暗渠 破片	厚 1.5	白色微粒子 白色鉱物粒子	還元焰	灰白	半載作り。寛播き文字瓦判読不能(凹面)。	笠懸系
480-7	瓦	C区表土 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 シルト粒 白色粒子	還元焰	暗灰	半載作り。凸面不定方向の撫で整形。	吉井系
480-8	瓦	C区内 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子 シルト粒 白色粒子	還元焰	暗灰	半載作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面粘土板割ぎ取り痕。	吉井系
480-9	瓦	C区表土	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	暗灰	半載作り。凹面布の上からの押型痕。凸面木 葉痕。	吉井系
480-10	瓦	C区暗渠 細片	厚 1.2	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	半載作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。側 面取り2回。	秋間系
480-11	瓦	C区田圃 細片	厚 1.9	黒色粒子	還元焰	白灰	半載作り。寛播き文字瓦判読不能(凹面)。	秋間系
480-12	瓦	C区田圃 細片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	白灰	半載作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面横位の撫で整形。側面取り1回。	笠懸系
480-13	瓦	C区暗渠 片残存	厚 1.7	赤色粒子 白色粒子	酸化焰	鈍黄橙	半載作り。凹面布合せ目痕。凸面縦向き後従 位の撫で整形。側面取り2回、端部取り 2回。	吉井・藤 岡系
480-14	瓦	C区暗渠 細片	厚 1.0	黒色粒子	還元焰	灰	半載作り。凸面縦向き後撫で整形。	秋間系
480-15	瓦	C区4号 溝 細片	厚 1.4	白色微粒子 黒色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	半載作り。凸面縦向き後撫で整形。側面取り 3回。	吉井系
480-16	瓦	C区暗渠 細片	厚 1.1	白色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰	黄橙	半載作り。凸面木目印き。凹面欠損。	吉井系
480-17	瓦	C区暗渠 細片	厚 1.4	白色鉱物粒子 黒色粒子	中性焰	灰黄	半載作り。凹面撫で整形。凸面布目有。	兼附系か 藤岡系
480-18	瓦	C区田圃 破片	厚 1.8	透明鉱物粒子 黒色粒子 白色微粒子	中性焰	灰黄	半載作り。凸面縦横両側で整形。側面取り 2回、端部取り1回。	笠懸系
481-1	瓦	C区20号 土坑 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰白	半載作り。凸面縦横両側で整形。側面取り 2回、端部取り1回。	笠懸系
481-2	瓦	C区内 破片	厚 1.6	白色粒子	中性焰	灰黄 黒	半載作り。側面取り2回。	笠懸系

C区土坑

発掘番号 図添番号	種別 性別	出土位置 遺存状況	深目 厚目 (cm)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
481-3	瓦 男	C区4号 溝 破片	厚 1.3	黒色粒子 白色粒子	還元焰 灰	手載作り。凸面縦位の頸飾で、側面面取り2回。	秋閑系	
481-4	瓦 男	C区暗渠 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 灰	手載作り。凸面平行叩き。側面面取り2回。	藤岡系か 瀬附系	
481-5	瓦 玉 緑 付 男	C区4号 溝 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	還元焰 灰	手載作り。側面面取り2回。凸面鈍叩き(密) 後縁無縁で。	吉井系	
481-6	瓦 男	C区4号 溝 破片	厚 1.8	—	—	手載作り。粘土板接合痕はZ。	吉井系	
481-7	瓦 玉 緑 付 男	C区4号 溝 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	中性焰 浅橙	手載作り。凸面輪縁直。	吉井系	
481-8	瓦 男	C区田册 破片	厚 1.6	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰 か	鈍橙	手載作りか。凸面不定方向の無で整形。	笠懸系
481-9	瓦 男	C区表土 細片	厚 2.1	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰 白灰	手載作り。凸面輪縁直。	秋閑系	
481-10	瓦 男	C区内 破片	厚 1.6	黒色粒子 シルト粒	還元焰 灰白	手載作り。凸面輪縁直。端部面取り3回。	秋閑系	
481-11	瓦 男	C区田册 破片	厚 1.2	白色鉱物粒子	酸化焰 黄橙	手載作り。凸面輪縁直。凸面端部側に突起を有する。	吉井系	
481-12	瓦 男	C区表土 細片	厚 1.2	白色粒子	還元焰 白灰	手載作り。凸面輪縁直。	秋閑系	
481-13	瓦 男	C区暗渠 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰 灰	手載作り。凸面輪縁直・縦位の頸飾で整形。	吉井系	
481-14	瓦 男	C区4号 溝 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰 鈍橙	手載作り。凸面輪縁直後定位の無で整形。	笠懸系	
481-15	瓦 男	C区暗渠 破片	厚 2.0	白色粒子	酸化焰 橙	作りは不詳。凸面縦位の無で整形。凹面粘土板割ぎ取り。	笠懸系か	
481-16	瓦 男	C区内 破片	厚 1.5	白色粒子 赤褐色粒子	中性焰 灰黄	手載作りか。凹面粘土板割ぎ取り・布合わせ目痕有。	秋閑系	
481-17	瓦 男	C区4号 溝 細片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰 灰	手載作り。凸面輪縁直。	吉井系	
481-18	瓦 男	C区暗渠 細片	厚 1.0	白色粒子 白色鉱物粒子	還元焰 灰	手載作り。凸面輪縁直。	吉井系	
481-19 瓦-559	瓦 男	C区表土 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰 灰	手載作りか。篋編き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の無で整形。	瀬附系	
481-20 瓦-338	瓦 女	C区表土 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 黒色粗粒子	還元焰 灰	一枚作り。篋編き文字瓦「山鳥口」(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り。側面面取り3回。端部面取り3回。	瀬附系か 吉井系	
481-21 瓦-292	瓦 女	C区暗渠 細片	厚 1.5	白色鉱物粒子	酸化焰 鈍橙	一枚作りか。篋編き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の無で整形。	吉井・藤岡系	
482-1 瓦-305	瓦 女	C区田册 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰 浅黄橙	一枚作り。篋編き文字瓦「王王」(凹面)。凸面縦位の無で整形。側面面取り2回。端部面取り2回。	吉井系	
482-2 瓦-304	瓦 女	C区田册 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色微粒子	酸化焰 赤褐	一枚作り。篋編き文字瓦「里か」(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り。側面面取り4回。端部面取り2回。	吉井系	
482-3 瓦-561	瓦 女	C区表土 破片	厚 1.8	赤褐色粒子	中性焰 灰黄	一枚作り。篋編き文字瓦判読不能(凸面)。凹面布合せ目痕。凸面輪縁直で整形。191-4(瓦-200)・483-16(瓦-560)と接合	秋閑系	
482-4 瓦-330	瓦 女	C区暗渠 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 暗灰	一枚作り。篋編き文字瓦「長女」(凸面)。凸面縦位の無で整形。端部面取り2回。	吉井系	
482-5 瓦-314 瓦-315	瓦 女	C区暗渠 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰 灰	一枚作り。篋編き文字瓦判読不能(凹面)。刻印文字瓦「多」(凸面)。	吉井系	

遺物一覧表

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
482-6 瓦-302 瓦-303	女瓦	C区2号 整欠 破片	厚 2.1	白色臍物粒子 赤褐色粒子	酸化焰	橙褐	一枚作り。寛播き文字瓦「十」(凸面)。刻印 文字瓦判読不能(凸面)。端面面取り2回。	吉井系
482-7 瓦-310	女瓦	C区田層 破片	厚 2.4	白色臍物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄緑	一枚作り。寛播き文字瓦「大」(凸面)。凹面 粘土板割ぎ取り痕。	吉井系
482-8	女瓦	C区田層 細片	厚 1.9	黒色粒子 砂粒	還元焰	暗灰	一枚作り。	吉井系
482-9 瓦-319	女瓦	C区内 破片	厚 2.0	白色臍物粒子 白色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。寛播き文字瓦「十」(凹面)。凹面 粘土板割ぎ取り痕。凸面板目叩き。	秋間系
482-10 瓦-274	女瓦	C区田層 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	白灰	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面横位の撫で整形。	吉井系
482-11 瓦-275	女瓦	C区西南 表土 細片	厚 2.0	白色粒子 シルト粒	還元焰	暗灰	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。側 面面取り3回。	秋間系
483-1 瓦-261	女瓦	C区表土 破片	厚 2.7	白色臍物粒子 白色微粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面粘土板割ぎ取り痕。凸面本目叩き。側面 面取り4回。	笠懸系
483-2 瓦-298	女瓦	C区II層 破片	厚 2.4	白色臍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凸 面縦位の撫で整形。側面面取り2回。	吉井系
483-3 瓦-306	女瓦	C区田層 破片	厚 2.6	白色臍物粒子 シルト粒	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦「可」(凸面)。側 面面取り2回。	栗附系
483-4 瓦-285	女瓦	C区内 破片	厚 1.6	白色粒子 黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。寛播き文字瓦「大か」(凸面)。側 面面取り4回。	秋間系
483-5 瓦-265	女瓦	C区内 破片	厚 2.3	白色臍物粒子	還元焰	灰白	半織作り。厚播き文字瓦判読不能(凸面)。側 面面取り2回。粘土板接合痕はS。	吉井系
483-6 瓦-270	女瓦	C区若土内 破片	厚 1.9	白色臍物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凹面)。凸 面縦位の撫で整形。側面面取り2回。	吉井系
483-7 瓦-282	男瓦	C区内 破片	厚 1.6	白色臍物粒子	還元焰	暗灰	半織作り。寛播き文字瓦判読不能(凹面)。側 面面取り3回。	栗附系
483-8 瓦-299	女瓦	C区表土 破片	厚 2.2	白色臍物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。寛播き文字瓦「子」(凸面)。	吉井系
483-9 瓦-273	女瓦	C区田層 破片	厚 1.8	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦か。判読不能(凸面)。 側面面取り2回。	笠懸系
483-10 瓦-556	女瓦	C区内 破片	厚 2.0	白色臍物粒子	—	—	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。側 面面取り3回。	吉井系
483-11 瓦-280	女瓦	C区II層 細片	厚 2.0	白色臍物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系
483-12 瓦-280	女瓦	C区内 破片	厚 1.5	白色臍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦「十か」(凸面)。	吉井系
483-13 瓦-313	女瓦	C区内 細片	厚 1.5	白色臍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。	吉井系
483-313 瓦-333	女瓦	C区34号 土坑墓 破片	厚 2.3	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凸 面縦位の撫で整形。	吉井・藤 岡系
483-14 瓦-283	女瓦	C区内 破片	厚 2.8	白色臍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面粘土板割ぎ取り痕。	笠懸系か
483-15 瓦-329	女瓦	C区暗渠 細片	厚 1.5	白色臍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。	栗附系
483-16 瓦-561	女瓦	C区表土 細片	厚 1.4	赤褐色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凹 面布合わせ目痕。凸面輪縁撫で整形。191-4 (瓦-200)・482-3(瓦-551)と接合。	秋間系 瓦-560
483-17 瓦-287	女瓦	C区表土 細片	厚 2.3	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凹面)。	吉井系
484-1 瓦-301	女瓦	C区表土 破片	厚 2.5	白色臍物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凸 面撫で整形。	吉井系
484-2 瓦-308	女瓦	C区III層 破片	厚 2.8	白色臍物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凸 面撫で整形。	吉井系
484-3 瓦-307	女瓦	C区田層 破片	厚 1.3	白色臍物粒子	還元焰	灰	柄巻き造り。寛播き文字瓦「十か」(凹面)。 凸面縄叩き(密)。	吉井系
484-4 瓦-263	女瓦	C区表土 破片	厚 2.0	白色臍物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凸 面撫で整形。	吉井系

発掘番号 図版番号	種別 器	出土位置 保存状態	度量 量目 (φ)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
484-5 瓦-278	瓦 女瓦	C区客土 内 破片	厚 1.3	白色粒子 赤褐色粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛簡き文字瓦「十か」(凸面)。凹面粘土板刺ぎ取り痕、凸面撫で整形。	乗附系
484-6 瓦-316	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 2.6	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛簡き文字瓦判読不能(凸面)。文字部分に撫でが入り、文字をつよめている。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
484-7 瓦-547	瓦 女瓦	C区田層 破片	厚 1.6	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛簡き文字瓦判読不能(凸面)。凸面撫で整形。	笠懸系
484-8 瓦-336	瓦 女瓦	C区2井 戸 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。寛簡き文字瓦「万呂」(凸面)。凸面撫で整形。	吉井系
484-9 瓦-318	瓦 女瓦	C区II層 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	柄書き造りか。寛簡き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板刺ぎ取り痕。	吉井系
484-10 瓦-320	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛簡き文字瓦「日か」(凸面)。凹面粘土板刺ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
484-11 瓦-281	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 2.1	白色粒子	酸化焰	黄橙 黒	一枚作り。寛簡き文字瓦判読不能(凸面)。	笠懸系
484-12 瓦-322	瓦 女瓦	C区4号 溝 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛簡き文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板刺ぎ取り痕、凸面撫で整形。	吉井系
484-13 瓦-286	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。寛簡き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系
484-14 瓦-334	瓦 女瓦	C区1号 土坑 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛簡き文字瓦「大口(大里か)」(凸面)。側面取付3回。	吉井系
484-15 瓦-276	瓦 女瓦	C区内 細片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛簡き文字瓦判読不能(凸面)。凹面布目撫で消し。	笠懸系
484-16 瓦-341	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 1.5	白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。寛簡き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦向き(逆)。	笠懸系
484-17 瓦-279	瓦 女瓦	C区田層 細片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。寛簡き文字瓦判読不能(凸面)。	吉井系
484-18 瓦-314	瓦 女瓦	C区内 細片	厚 1.5	赤褐色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面撫で整形。	秋岡系
484-19 瓦-549	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 2.3	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。刻印文字瓦「山田」(凸面)。凹面布目撫で消し。	笠懸系
484-20 瓦-321	瓦 女瓦	C区1号 土坑 破片	厚 2.7	白色微粒子	酸化焰	桃橙	一枚作り。刻印文字瓦「藤田(文字は認められない)」(凸面)。凹面布合せ目痕、布目撫で消し。凸面正格子叩き。	笠懸系
484-21 瓦-323	瓦 女瓦	C区4号 溝 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	酸化焰	桃橙	一枚作り。寛簡き文字瓦「十か田」(凸面)。	吉井系
484-22 瓦-300	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。寛簡き文字瓦「南」(凸面)。凸面撫で整形。	吉井系
485-1 瓦-339	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。寛簡き文字瓦「人」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
485-2 瓦-264	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。刻印文字瓦「多大」(凸面)。凸面粘土板刺ぎ取り痕。文字は多朝郡大字彌か。	吉井系
485-3 瓦-552	瓦 女瓦	C区僧寺 表層 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。刻印文字瓦「佐」及び「勢」(凸面)。	笠懸系
485-4 瓦-342	瓦 女瓦	C区内 細片	厚 2.9	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。寛簡き文字瓦「万呂か」(凸面)。凸面撫で整形。	吉井系
485-5 瓦-268	瓦 女瓦	C区客土内 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。寛簡き文字瓦判読不能(凸面)。凸面撫で整形。	吉井系
485-6 瓦-287	瓦 女瓦	C区田層 破片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	橙	柄書き造り。寛簡き文字瓦判読不能(凸面)。窪傷か。凸面撫で整形。	笠懸系
485-7 瓦-266	瓦 女瓦	C区田層 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。寛簡き文字瓦判読不能(凸面)。窪傷か。凸面撫で整形。	吉井系
485-8 瓦-284	瓦 女瓦	C区田層 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。寛簡き文字瓦判読不能(凸面)。窪傷か。凸面撫で整形。	吉井系

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	厚目 長さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
485-9 瓦-291	瓦	C区II層 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦「壬」か(凸面)、凸面無で整形。	吉井系
485-10 瓦-272	瓦	C区表土 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)、凸面無で整形。	乗附系
485-11 瓦-548	瓦	C区III層 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)、凸面無で整形。	吉井系
485-12 瓦-309	瓦	C区II層 破片	厚 1.3	白色粒子 赤褐色粒子	酸化焰	淡黄橙	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)、凸面無で整形。	秋岡系
485-13 瓦-325	瓦	C区内 瓦残存	厚 2.5	白色鉱物粒子	酸化焰	黄橙	一枚作り。寛播き文字瓦「人」か(凹面)。凹面粘土板割き取り痕。凸面平行印き(密)有。	吉井・藤岡系
485-14 瓦-260	瓦	C区表土 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦「武井万風」(凸面)、凸面無で整形。	吉井系
485-15 瓦-332	瓦	C区31号 土坑墓 破片	厚 2.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦「十」(凸面)。粘土板接合痕は乙。凸面無で整形。側部面取り4回。端部面取り4回。	吉井系
486-1 瓦-550	瓦	C区表土 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	播き塗り。寛播き文字瓦判読不能(凹面)。凹面横骨痕及び溝・粘土板割き取り痕。凸面縦線有。側部面取り4回。端部面取り2回。	乗附系
486-2 瓦-271	瓦	C区表土 破片	厚 1.3	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦「八」(凸面)。側部面取り2回。端部面取り2回。	吉井系
486-3 瓦-551	瓦	国分寺中 門周辺 破片	厚 2.2	白色粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。刻印文字瓦「藤田」(凸面)。側部面取り1回。端部面取り1回。	笠懸系
486-4 瓦-331	瓦	C区2号 土坑 瓦残存	厚 2.7	白色鉱物粒子	酸化焰	赤橙	一枚作り。寛播き文字瓦「里」(凸面)、凸面無で整形。端部面取り2回。	吉井系
486-5 瓦-546	瓦	C区表土 破片	厚 2.3	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。刻印文字瓦「藤田」(凸面)。端部面取り1回。	笠懸系
486-6 瓦-288	瓦	C区暗渠 破片	厚 2.4	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	播き塗り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凹面横骨痕。凸面布目無で消し。端部面取り1回。	吉井系
486-7 瓦-262	瓦	C区表土 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	酸化焰	淡黄橙	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)。凹面布目無で消し。端部面取り3回。	吉井系
486-8 瓦-277	瓦	C区II層 破片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。寛播き文字瓦判読不能(凸面)、凸面無で整形。端部面取り1回。	吉井系
486-9 瓦-269	瓦	C区表土 破片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛播き文字瓦「一か」(凸面)、凸面無で整形。端部面取り2回。	吉井系
486-10	瓦	C区2号 址 瓦残存	厚 2.2	黒色粒子 シルト粒	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割き取り痕。凸面鑄印き(密)後無で整形・磨砂有。側部面取り1回。端部面取り2回。	秋岡系
486-11	瓦	C区暗渠 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子 藍紋状雲母	中性焰	灰黄	一枚作り。無で整形。側部面取り2回。	吉井系
486-12	瓦	C区内 破片	厚 1.9	白色粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	一枚作り。凸面鑄印き(密)・磨砂有。凹面布目無で消し。	秋岡系
487-1	瓦	C区2号 址 破片	厚 2.5	白色微粒子 シルト粒	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面丁字鑄印き(密)・磨砂有。側部面取り3回。端部面取り1回。	乗附系
487-2	瓦	新緑塚 墓	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板割き取り痕・横骨痕有。凸面鑄印き(単)多。側部面取り2回。	乗附系か 藤岡系
487-3	瓦	C区II層 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面格子印き。	乗附系
487-4	瓦	C区1号溝 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割き取り痕。凸面正格子印き。	笠懸系
487-5	瓦	C区II層 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面布目無で消し。凸面斜格子印き。粘土板割き取り痕有。	笠懸系
487-6	瓦	C区内 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面鑄印きの無で整形。凸面正格子印き。	笠懸系
487-7	瓦	C区暗渠 破片	厚 2.5	白色粒子	酸化焰	灰白	一枚作り。凸面正格子印き。	笠懸系
487-8	瓦	C区暗渠 破片	厚 1.3	白色微粒子	酸化焰	灰白	一枚作り。凸面・凹面粘土板割き取り痕。凸面斜格子印き。	笠懸系

標記番号 図章番号	種別	出土位置 遺存状態	厚目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
487-9	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	灰白	一枚作り。凸面斜格子印き・粘土板割ぎ取り痕。側面面取り2回。	笠懸系
487-10	瓦 女瓦	C区4号溝 細片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰	灰	一枚作り。凸面斜格子印き。凹面布目磨り消し。	笠懸系
487-11	瓦 女瓦	C区暗渠 細片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰	灰	一枚作り。凸面粘土板割ぎ取り痕・正格子印き。	笠懸系
487-12	瓦 女瓦	C区4号溝 細片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	灰	一枚作り。凸面・斜格子印き。凹面布目磨り消し。	笠懸系
487-13	瓦 女瓦	C区内 破片	厚 1.9	白色微粒子	酸化焰	灰	桶巻き造り。凹面横骨痕。凸面不整格子印き。側面面取り2回、端面面取り2回。	乗附系
487-14	瓦 女瓦	C区内 破片	厚 1.7	—	酸化焰	灰	一枚作り。凸面不整格子印き。側面面取り3回、端面面取り2回。254-1と同一個体。	笠懸系
487-15	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	灰	一枚作り。凹面布目磨り消し。凸面斜格子印き。	笠懸系
487-16	瓦 女瓦	C区II層 細片	厚 1.4	白色微粒子	酸化焰	灰	一枚作り。凹面撫で整形。凸面正格子印き。	笠懸系
487-17	瓦 女瓦	C区I号溝 細片	厚 2.2	白色微粒子	酸化焰	鈍黄緑	一枚作り。凸面平行印き。	笠懸系
487-18	瓦 女瓦	C区暗渠 細片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凸面平行印き。	笠懸系
487-19	瓦 女瓦	C区II層 破片	厚 2.3	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面木目印き。凹面布目磨り消し。側面面取り3回。	笠懸系
487-20	瓦 女瓦	C区II層 細片	厚 1.9	白色微粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。凸面撫で整形。端面面取り3回。	吉井系
487-21	瓦 女瓦	C区II層 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰黒	一枚作り。凸面叩印き・布目有。側面面取り2回。	笠懸系
488-1	瓦 女瓦	C区II層 与残存	厚 1.9	黒色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縦位の寛撫で整形。側面面取り1回。	伏間系
488-2	瓦 女瓦	C区暗渠 細片	厚 1.0	白色微粒子	中性焰	灰黄	一枚作りか。	藤岡系
488-3	瓦 女瓦	C区1号溝 細片	厚 1.5	黒色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面磨砂痕。凹面側部粘土はみ出し。	乗附系
488-4	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 1.4	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面磨砂痕。	藤岡系
488-5	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面縦位の指撫で整形。	笠懸系
488-6	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.5	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凸面撫で整形。	笠懸系
488-7	瓦 女瓦	C区II層 細片	厚 1.4	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作り。凹面欠損。凸面寛撫で。	笠懸系
488-8	瓦 女瓦	C区1号溝 細片	厚 2.3	白色微粒子 シルト粒	還元焰	灰	一枚作り。凹面横骨痕。凸面側部粘土はみ出し。	伏間系
488-9	瓦 女瓦	C区1号溝 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	暗灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面撫で整形。	笠懸系
488-10	瓦 女瓦	C区4号溝 細片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目撫で消し。凸面斜格子印き。	笠懸系
488-11	瓦 女瓦	C区内 細片	厚 1.9	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面同心円の刺突痕有。	乗附系
488-12	瓦 女瓦	C区4号溝 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面斜格子印き。	笠懸系
488-13	瓦 女瓦	C区客土内 破片	厚 2.2	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。	吉井・藤岡系
488-14	瓦 女瓦	C区4号溝 細片	厚 2.2	白色微粒子	酸化焰	淡黄緑	一枚作り。凸面斜格子印き。	笠懸系
488-15	瓦 女瓦	C区II層 細片	厚 1.1	—	還元焰	灰	一枚作り。凸面斜格子印き。	
488-16	瓦 女瓦	C区表土 細片	厚 1.3	白色微粒子 白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面叩印き(密)。	乗附系

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	直径 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
488-17	瓦 女瓦	C区内 破片	厚 2.2	シルト粒 白色粒子	還元焰	灰白	桶巻き造りか。凹面横骨痕。凸面平行印さ。	秋田系
488-18	瓦 女瓦	C区1号 溝 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面横骨痕。凸面縄叩き(密)。	栗附系
488-19	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.7	白色微粒子 白色鉱物粒子	酸化焰	鈍黄橙	桶巻き造りか。凹面横骨痕。凸面凹で整形。 側面取取り3回。	笠懸系
488-20	瓦 女瓦	C区内 破片	厚 1.8	白色微粒子	酸化焰	橙	一枚作りか。凹面布目摺り消し。凸面粘土板 剥ぎ取り痕。	藤岡系
488-21	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。凸面縦位 の無で整形。	吉井系
488-22	瓦 女瓦	C区暗渠 破片	厚 1.6	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面布目摺で消し。凸面縦位無で 整形。側面取取り1回、端面取取り1回。	吉井系
488-23	瓦 女瓦	C区II層 破片	厚 1.9	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の無で整形。側面取取り 2回、端面取取り3回。	笠懸系
489-1 瓦-555	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 2.4	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面赤色顔料塗布。側面取取り2 回。端面取取り1回。	笠懸系
489-2	瓦 女瓦	C区III層 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面凹で整形。焼成前に釘穴を施 す。側面取取り3回。	吉井系
489-3	瓦 残瓦	C区表土 破片	—	微粒状青母	還元焰	灰	一枚作り。凸面凹で整形。焼成前に釘穴を施 す。側面取取り3回。	藤岡系
489-4 瓦-438	瓦 餅瓦	C区表土 破片	厚 2.3	白色微粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は 1+5。	笠懸系
489-5 瓦-439	瓦 餅瓦	C区III層 破片	厚 2.8	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉乃至4葉蓮華文。	吉井系
489-6 瓦-427	瓦 餅瓦	C区4号 溝 破片	—	白色鉱物粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉乃至4葉蓮華文。	吉井系
489-7	瓦 餅瓦	C区表土 破片	厚 1.5	白色微粒子	酸化焰	浅黄橙 黒	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文と思われる。瓦当 部欠損。男瓦部は半載作り。	吉井系
489-8 瓦-553	瓦 宇 破片	C区2号井 戸 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	浅黄橙	瓦当部欠損。葉は段型。	吉井系
489-9	瓦 男瓦	C区II層 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 白色粒子 粗粒	還元焰	灰	半載作り。凸面平行印さ。側面取取り3回。	吉井系
489-10 瓦-340	瓦 女瓦	C区表土 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。葉巻き文字瓦「文」(凹面)。凸面 縦位の無で整形。	吉井系
489-11	土師質土 器 埴 埴	C区表土 %残存	口 13.5 底 5.0 高 3.9	白色鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	轆轤成形(右回転)。底部は回転承切り。	藤岡系
489-12	土師質土 器 埴 埴	C区表土 %残存	口 — 底 8.4 高 —	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。体部・口縁部欠 損。	秋田系
489-13	須恵器 埴 埴	C区表土 %残存	口 14.0 底 8.0 高 2.6	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋田系
489-14	須恵器 長頸壺	C区表土 破片	厚 1.0	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰白	紐作り後轆轤整形(右回転)。肩部に膠目の刺 突を施す。	
489-15	石 打製石斧	C区II層 完存	—	細粒安山岩	—	—	片面に磨面を残す。短冊を残す。	
489-16	礫 石	C区暗渠 完存	長 15.3 幅 7.6 重 942.8	粗粒安山岩	—	—	両端部に敲打痕が認められる。	
489-17	須恵器 埴 埴	C区2号 井戸 %残存	口 — 底 8.3 高 —	黒色粒子	還元焰	灰	轆轤成形(右回転)。付高台。	秋田系
489-18	瓦 玉縁付 男瓦	C区2号 井戸 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 透明鉱物粒子	酸化焰	浅黄橙	半載作り。凸面縄叩き(密)。側面取取り2回。	吉井系

押印番号 図版番号	種別 種類	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
489-19	瓦 女瓦	C区1号伊 瀬片	厚 1.4	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面鑄印キ(密)・摩砂痕有。	秋間系
489-20	瓦 女瓦	C区2号伊 瀬片	厚 1.3	白色微粒子	酸化焰	橙	稀巻き造りか。凹面模骨痕。凸面鑄印キで整形。	吉井系
490-1	瓦 男瓦	C区2号 井戸 瓦残存	厚 1.8	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	平截作り。凹面布合せ目痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面鑄印キ(密)後軸鑄印キで整形。粘土板接合痕はS。側面取り3回、端面取り1回。	秋間系
490-2	瓦 瓦	C区1号伊 瀬片	幅 22.2 厚 2.1	白色微粒子 黒色粒子	還元焰	灰	稀巻き造り。凹面粘土板剥ぎ取り痕。模骨痕有。凸面鑄印キ(密)後軸鑄印キで整形。	吉井系
491-1	瓦 女瓦	C区2号 井戸 瓦残存	厚 2.0	白色微粒子 黒色粒子	酸化焰	灰	一枚作り。凹面模骨痕・粘土板剥ぎ取り痕。凸面丁字鑄印キ(密)・摩砂痕有。粘土板接合痕はS。側面取り1回、端面取り1回。	秋間系
491-2	瓦 女瓦	C区2号 井戸 瓦残存	厚 1.9	黒色粒子 白色粒子	酸化焰	灰	稀巻き造り。凹面模骨痕・布目無で消し。凸面鑄印キで整形。側面取り3回、端面取り2回。	秋間系
492-1	須恵器 埴	C区20号 土坑 瓦残存	口 12.8 底 6.0 高 3.7	白色微粒子 黒色微粒子	酸化焰	灰	軸鑄成形(右回転)。底部は回転糸切り。	吉井・藤 岡系
492-2	須恵器 埴	C区48号 土坑 破片	口 16.0 底 — 高 —	白色微粒子 黒色微粒子	酸化焰	灰	軸鑄成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井・藤 岡系
492-3	須恵器 埴	C区48号 土坑 破片	口 (16.0) 底 — 高 —	白色微粒子 黒色微粒子	酸化焰	灰	軸鑄成形(右回転)。高台欠損(付高台)。	吉井系
492-4	須恵器 埴	C区48号 土坑 瓦残存	口 — 底 8.0 高 —	白色微粒子 黒色微粒子	酸化焰	灰	軸鑄成形(右回転)。付高台。内面に墨書「成」。	吉井系
492-5	施釉陶器 灰 軸皿	C区31号 土坑 瓦残存	口 12.6 底 6.5 高 1.9	密	良好	灰白	軸鑄成形(右回転)。付高台。施釉は浸掛。	
492-6	須恵器 大 埴	C区24号 土坑 破片	—	白色微粒子	還元焰	灰	紐作り。外面平行印キ。内面は指擦で、やや磨滅している。	笠懸系
492-7 瓦-825	瓦 字	C区内 破片	厚 2.4	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は右騎行唐草文。	吉井系
492-8 瓦-345	瓦 女瓦	C区II号 破片	厚 2.1	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。前印文字瓦「蓮田」(凸面)。	笠懸系
492-9 瓦-344	瓦 女瓦	C区II号 破片	厚 1.8	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。前印文字瓦「勢」(凸面)。凸面無で整形。側面取り1回。	笠懸系

B区遺構外

押印番号 図版番号	種別 種類	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
490-1 瓦-454	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 1.8	黒色粒子 白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁7葉蓮華文。中房の子葉は1+6。	秋間系
492-2 瓦-466	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 1.4	白色微粒子	酸化焰	黄褐色	瓦当意匠は複弁8葉蓮華文と考えられる。寺井焼寺系の復元か。	太田系
493-3 瓦-460	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 2.9	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉乃至4葉蓮華文。	吉井系
493-4 瓦-465	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 2.4	黒色粒子 白色粒子	還元焰	灰白	瓦当意匠は復弁7葉蓮華文の抽象化した意匠。	秋間系
493-5 瓦-456	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 1.7	白色微粒子 白色粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+5。	笠懸系
493-6 瓦-455	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+6。背面有目目。	笠懸系
493-7 瓦-563	瓦 女瓦	B区1号溝 瓦残存	厚 1.2	白色微粒子 透明微粒子	還元焰	灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中房の子葉は1+4。背面無で整形。116-2(瓦-407)と接合。	吉井系

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 長さ (cm) 直径 (φ)	胎土	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考
493-8 瓦-457	瓦 總瓦	B区1号溝 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰 灰白	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文。中別の子葉は1+4。背面布目。一本造り。	吉井系
493-9 瓦-458	瓦 總瓦	B区1号溝 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰 灰	瓦当意匠は単弁8葉蓮華文。中別の子葉は1+4。背面は撫で整形。	吉井系
493-10 瓦-459	瓦 總瓦	B区1号溝 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰 灰	瓦当意匠は単弁4葉蓮華文と考えられる。既存例での同范围係は未確認。	笠懸系
493-11 瓦-467	瓦 總瓦	B区1号溝 破片	厚 0.7	白色鉱物粒子	酸化焰 黄橙	瓦当面欠損。一本造り。	吉井系
493-12 瓦-461	瓦 總瓦	B区1号溝 破片	厚 2.1	白色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	瓦当意匠は単弁5葉蓮華文か。	笠懸系
493-13 瓦-464	瓦 總瓦	B区1号溝 破片	厚 1.4	白色鉱物粒子	還元焰 灰	瓦当面は、大半を欠損。単弁系。一本造り。	吉井系
493-14 瓦-462	瓦 總瓦	B区1号溝 破片	厚 1.5	白色微粒子 黑色鉱物粒子	酸化焰 黄橙	瓦当面欠損。男瓦部は不整格子(密)。	
493-15 瓦-462	瓦 總瓦	B区1号溝 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子 シルト粗粒	中性焰 灰黄	瓦当面欠損。男瓦部は半載作り、縦位の撫で整形。一本造り。	吉井系
494-1 瓦-463	瓦 總瓦	B区1号溝 破片	厚 1.3	白色鉱物粒子	還元焰 灰白	瓦当面及び背面欠損。詳細不詳。	吉井系か 笠懸系
494-2	瓦 總瓦	B区1号溝 破片	厚 1.9	白色微粒子 白色粒子	還元焰 暗灰	瓦当面欠損。	吉井系
494-3 瓦-539	瓦 字瓦	B区1号溝 破片	厚 2.6	白色粒子	酸化焰 黄橙	瓦当意匠は重弧文。額は段額。女瓦部は横書き造り。	藤岡系
494-4 瓦-537	瓦 字瓦	B区1号溝 破片	厚 3.4	白色鉱物粒子	還元焰 暗灰	瓦当意匠は右行唐草文。女瓦部は一枚作り。額は段額。	吉井系
494-5 瓦-541	瓦 字瓦	B区1号溝 破片	厚 2.1	白色鉱物粒子	還元焰 灰白	瓦当意匠は左行唐草文。額は段額。	笠懸系
494-6 瓦-528	瓦 字瓦	B区1号溝 破片	厚 3.3	白色鉱物粒子 赤色粒子	酸化焰 黄橙	494-5と同范。	吉井系
494-7 瓦-540	瓦 字瓦	B区1号溝 破片	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰 灰	瓦当面及び凹面欠損。	吉井系
494-8 瓦-536 瓦-376	瓦 字瓦	B区1号溝 破片	厚 3.3	白色微粒子	還元焰 灰	瓦当意匠は抽象的な唐草文。唐草をS字状に表出する。女瓦部は一枚作り。瓦当文字瓦「十」(凹面)。凹面布目磨り消し。額部に赤色塗彩有。	笠懸系
494-9 瓦-377	瓦 男瓦	B区1号溝 破片	厚 2.9	白色鉱物粒子	還元焰 灰	半載作り。瓦当文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。額部面取り3回。	吉井系
494-10 瓦-379 瓦-380	瓦 男瓦	B区1号溝 破片	厚 2.6	白色鉱物粒子	還元焰 灰	半載作り。瓦当文字瓦「真か」(凹面)。刻印文字瓦「富」(凸面)。凹面縦位の撫で整形。	吉井・藤岡系
494-11 瓦-542	瓦 字瓦	B区1号溝 破片	—	黒色粒子	還元焰 灰	瓦当意匠は横杉文。女瓦部及び瓦面大半を欠損する。	秋岡系
495-1 瓦-384	瓦 男瓦	B区1号溝 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子	酸化焰 鈍黄橙	半載作り。瓦当文字瓦「得」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。額部面取り2回。	吉井系
495-2 瓦-382	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰 灰	一枚作り。刻印記号瓦「同心円」(凸面)。凹面布目一部撫で消し。凸面撫で整形。額部面取り2回。	吉井系
495-3 瓦-381	瓦 男瓦	B区1号溝 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	還元焰 灰	半載作り。刻印記号瓦「同心円」(凸面)。凸面撫で整形。額部面取り3回。	吉井系
495-4 瓦-397	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子	酸化焰 橙	一枚作り。瓦当文字瓦判読不能(凸面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面撫で整形。	吉井系
495-5 瓦-383	瓦 男瓦	B区1号溝 破片	厚 2.0	白色鉱物粒子 デイスカイト	酸化焰 橙	半載作り。表面が割れている為、詳細不詳。	吉井系
495-6 瓦-378	瓦 男瓦	B区1号溝 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰 灰	半載作り。瓦当文字瓦判読不能(凹面)。凸面縦位の撫で整形。額部面取り2回。	笠懸系
495-7 瓦-393	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 1.5	白色粒子 白色微粒子	還元焰 灰	一枚作り。瓦当文字瓦「二か」(凸面)。凹面布目撫で消し。	笠懸系
495-8 瓦-385	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 1.9	白色鉱物粒子 白色粒子	還元焰 灰	一枚作り。瓦当文字瓦「□□」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	笠懸系
495-9 瓦-387	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	還元焰 灰	一枚作り。瓦当文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系

B区遺構外

発掘番号 図版番号	種別 器	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
495-10 瓦-390	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	酸化焰	灰	一枚作り。寛楯き文字瓦判読不能(凹面)。凹面粘土板割ぎ取り痕。	吉井系
495-11 瓦-385	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 2.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛楯き文字瓦「田」(凹面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
495-12 瓦-388	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.7	白色粒子	還元焰	白灰	柄杓き造り。寛楯き文字瓦判読不能(凹面)。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕。凸面隅叩き(密)・縦縫痕。	吉井系
495-13 瓦-395	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.8	白色鉱物粒子 白色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。寛楯き文字瓦「糸」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。側面取3回。端面取り3回。	吉井・藤岡系
495-14 瓦-389	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.7	白色鉱物粒子	酸化焰	橙	柄杓き造り。寛楯き文字瓦判読不能(凸面)。凸面縦縫痕。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕。	吉井・藤岡系
495-15 瓦-386	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.6	白色粒子	還元焰	灰	一枚作り。寛楯き文字瓦「人」(凹面)。凸面縦位の撫で整形。	吉井・藤岡系
495-16 瓦-391	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 2.0	雲母 白色粒子	酸化焰	橙	一枚作り。刻印文字瓦「勝」(凸面)。凸面斜格子叩き。	笠懸系
496-1 瓦-396	瓦 男瓦	B区1号溝 細片	厚 2.0	白色微粒子	酸化焰	灰	半截作り。寛楯き文字瓦判読不能の窪み。(凸面)。凹面右合わせ目痕。	笠懸系
496-2 瓦	瓦 男瓦	B区1号溝 破片	厚 1.5	黒色鉱物粒子 白色粒子	還元焰	鈍橙	半截作り。凹面右目無で消し。凸面縦縫痕。端部側に縦縫成形の段を有する。	笠懸系
496-3 瓦	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 1.3	白色微粒子	還元焰	灰	柄杓き造り。凹面横骨痕。凸面縦縫痕で鈍叩き密。	吉井系
496-4 瓦	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.5	白色粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凸面平行叩き(密)。側面取2回。	乗附系
496-5 瓦	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 2.0	白色微粒子	還元焰	黄橙	一枚作り。凹面右目無で消し。凸面粘土板割ぎ取り痕、隅叩き(単)有。側面取2回。端面取2回。	笠懸系
496-6 瓦	瓦 女瓦	B区1号溝 与残存	厚 2.1	白色鉱物粒子	還元焰	鈍橙	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面平行叩き(密)。側面取2回、端面取1回。	吉井系
496-7 瓦	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.9	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面撫で整形。	吉井系
496-8 瓦	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.7	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	吉井系
496-9 瓦	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.6	黒色鉱物粒子 白色粒子 微粒状雲母	酸化焰	浅黄橙	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。側面取1回、端面取1回。	笠懸系
496-10 瓦	瓦 女瓦	B区1号溝 細片	厚 1.7	白色微粒子	還元焰	灰	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面縦位の撫で整形。	笠懸系
496-11 瓦-394	瓦 瓦製円盤	B区1号溝 完形	厚 1.8	白色鉱物粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面右目無で消し。凸面隅叩き(密)。縁辺を打ち欠く。	吉井系
496-12 瓦	瓦 瓦製円盤	B区1号溝 完形	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作りか。凹面横骨痕・粘土板割ぎ取り痕。縁辺を打ち欠く。	吉井系
496-13 瓦	瓦 瓦製円盤	B区1号溝 完形	厚 1.5	白色粒子	還元焰	灰白	一枚作り。凹面粘土板割ぎ取り痕。凸面隅叩き(密)。縁辺を打ち欠く。	吉井系
496-14 瓦	瓦 瓦製円盤	B区1号溝 完形	厚 1.5	白色鉱物粒子	還元焰	灰	一枚作り。凸面縦位の撫で整形。縁辺を打ち欠く。	吉井系
496-15 瓦-382	瓦 瓦	B区1号溝 破片	厚 2.5	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	一枚作り。寛楯き文字瓦「真」(凸面)。凸面縦位の撫で整形。端面取1回。	吉井系
497-1 瓦	須志 器 坏	B区1号溝 破片	口(14.4) 底(7.2) 高 3.6	白色粒子	還元焰	白灰	縦縫成形(右回転)。底部は回転糸切り。	秋間系
497-2 瓦	須志 器 版	B区1号溝 破片	最大径 15.4	白色鉱物粒子	還元焰	白灰	縦縫成形(右回転)。	乗附系
497-3 瓦	須志 器 脚付盤	B区1号溝 破片	口(23.8) 底(17.8) 高 3.0	白色粒子 白色鉱物粒子	中性焰	灰黄	縦縫成形(右回転)。脚部欠損。	秋間系
497-4 瓦	須志 器 高坏	B区1号溝 破片	—	白色微粒子	還元焰	白灰	縦作り後縦縫整形(右回転)。	秋間系

遺物一覧表

発掘番号 図記番号	種別	出土位置 保存状態	寸法 (cm)	胎土	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考
497-5	須恵器 長頸壺	B区1号 溝 破片	口 (16.1) 底 — 高 —	白色酸粒子	酸化焰 銅橙	口縁部は外反する。組作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
497-6	須恵器 壺	B区1号 溝 破片	口 (21.0) 底 — 高 —	黒色粒子	還元焰 白灰	口縁部は外反する。組作り後轆轤整形 (右回転)。内・外面自然胎附着。	伏間系
497-7	施釉陶器 灰釉瓶	B区1号溝 破片	—	密	良好 白灰	組作り後轆轤整形 (右回転)。施釉は投掛。	
497-8	須恵器 短頸壺	B区1号 溝 破片	口 24.5 底 — 高 —	白色酸粒子	良好 灰	口縁部は短かく外反する。組作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
497-9	須恵器 短頸壺	B区1号 溝 破片	口 (25.2) 底 — 高 —	白色酸粒子	良好 灰	口縁部は短かく直立する。組作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
497-10	須恵器 壺	B区1号 溝 破片	口 (32.0) 底 — 高 —	白色酸粒子	良好 黒灰	口縁部は外反する。組作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
497-11	須恵器 短頸壺	B区1号 溝 破片	口 (13.5) 底 — 高 —	黒色粒子 白色鉱物粒子	良好 灰	口縁部は短かく内傾する。組作り後轆轤整形 (右回転)。外面自然胎附着。	伏間系
497-12	須恵器 瓶	B区1号 溝 破片	口 — 底 (19.4) 高 —	白色粒子 黒色粒子	良好 灰	組作り後轆轤整形 (右回転)。	吉井・藤間系
498-1	須恵器 壺	B区1号 溝 破片	—	白色鉱物粒子 細砂粒 白色粒子	良好 暗灰	12本1単位の披状文を施す。組作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
498-2	須恵器 壺	B区1号 溝 破片	—	微粒状雲母 黒色鉱物粒子 白色酸粒子	還元焰 灰白	6本1単位の披状文を施す。組作り後轆轤整形 (右回転)。	乗附系
498-3	須恵器 壺	B区1号溝 破片	—	白色酸粒子	還元焰 白灰	組作り。叩き型 (外面平行叩き・内面丸具は青銅製文)。	東海系か
498-4	土師器か ミニチュア 土器	B区1号 溝 破片	口 — 底 2.2 高 —	白色鉱物粒子	酸化焰 銅橙	底部は磨減する。詳細不詳。	
498-5	施釉陶器 陶枕	B区1号溝 破片	—	密	良好 黄灰	宝相華文を加飾する。加飾は細い覆状工具の先端で施文する (火中している)。	
498-6	施釉陶器 陶枕	B区1号溝 破片	—	密	良好 オリーブ 灰	宝相華文を加飾する。加飾は細い覆状工具の先端で施文する (火中している)。	
498-7	施釉陶器 灰釉瓶	B区1号溝 破片	—	密	良好 白灰	轆轤成形 (右回転)。	
498-8	施釉陶器 緑釉瓶	B区1号 溝 破片	口 — 底 (13.2) 高 —	軟質	良好 オリーブ 灰	轆轤成形 (右回転)。	
498-9	瓦 字瓦	B区1号溝 破片	厚 3.2	白色鉱物粒子	酸化焰 浅黄橙	瓦当意匠は右編行唐草文。外区に珠点を配する。国分寺創建統一意匠。頸は段頸。	笠懸系
498-10	瓦 字瓦	B区1号溝 破片	厚 2.3	白色鉱物粒子	還元焰 灰白	瓦当意匠は右編行唐草文。女瓦部は一枚作り。頸は段頸。	吉井系
498-11	瓦 字瓦	B区1号溝 破片	厚 2.2	白色鉱物粒子	還元焰 灰白	瓦当意匠は綾杉文が格子文。利金としない。女瓦部は一枚作り。頸は段頸。	吉井系
498-12	瓦 字瓦	B区1号溝 破片	厚 1.6	白色鉱物粒子	還元焰 灰白	瓦当意匠は右編行唐草文。国分寺創建意匠の破片か。	笠懸系
498-13	瓦 字瓦	B区1号溝 破片	厚 1.2	白色粒子	還元焰 灰白	瓦当意匠は有節重郭文。頸は段頸。女瓦部欠損。	吉井系
498-14	瓦 女瓦	B区1号溝 破片	厚 1.5	白色鉱物粒子	酸化焰 浅黄橙	一枚作り。磨減著しい。布目は非常に粗い。	吉井系

J区第1号住居跡

検出番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
564-1 257	土器 坏	27cm 瓦残存	口 11.4 底 — 高 3.4	黒色鉱物粒多 砂粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に明瞭な線を有し、口縁部は直立する。底部から体部は削り、口縁部は横撫でを施す。	
564-2 257	土器 坏	覆土内 瓦残存	口 12.0 底 — 高 3.2	黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部は短く直立する。また、体部との境の境は明瞭でない。底部から体部は削り、口縁部は横撫でを施す。	
564-3 257	土器 坏	壁溝 7cm 瓦残存	口 10.4 底 — 高 3.2	白色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部は直立する。体部との境の境は明瞭でない。底部から体部は削り、口縁部は横撫でを施す。	
564-4 257	土器 坏	14cm 瓦残存	口 12.0 底 — 高 3.8	砂粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部が「C」字状に強く内湾する。底部から体部は削り、口縁部は横撫でを施す。	
564-5	土器 坏	壁溝11cm 瓦残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.5)	黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部はゆるく内湾する。体部は削り、口縁部横撫でとの間に調整不明瞭な部分はないと思われる。	
564-6	土器 坏	19cm 瓦残存	口 (10.7) 底 — 高 (4.5)	黒色鉱物粒少 白色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。体部との境の境はあまり明瞭でない。底部から体部は削り、口縁部は横撫でを施す。	
564-7 257	土器 坏	壁溝11cm 瓦残存	口 16.0 底 — 高 5.1	砂粒少 黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。底部から体部は削り、口縁部は体部との境が緩となる位強い横撫でを施す。	
564-8 257	土器 坏	3cm 瓦残存	口 16.2 底 — 高 (6.5)	白色鉱物粒少 褐色細粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 軟質	橙	器高が比較的高く丸底と考えられる。体部は横位削り、口縁部横撫でを施す。	
564-9 257	須恵器 坏	壁溝14cm 瓦残存	口 8.6 底 — 高 2.9	白色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰	楕圓形(右回転)。浅い丸底で、受部は若干上方を向き、口縁部は短く内傾する。作りは雑で、底部の回転削りとは2段程度である。見込み部には指先の痕が残されている。	断面セビ あり。外面 自然釉。
564-10	須恵器 坏	3cm 破片	口 (10.6) 底 — 高 (3.2)	白色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰	楕圓形(右回転)。底部は丸底で、受部はわずかに上方を向き、口縁部は内傾する。底部は回転削りをする。	外面受部 以外自然 釉。
564-11	須恵器 高坏	7cm 破片	口 — 底 (9.8) 高 (5.6)	白色細粒少	還元焰 硬質	褐灰	楕圓形(右回転)。1段と考えられる長方形三方遺しを有する。脚端部は屈曲する。	
564-12 257	土器 壺	3cm、7cm 破片	口 20.8 底 — 高 (6.7)	黒色鉱物粒多 砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、肩部の張りは弱い。口縁部横撫で後胴部斜位(下→上)の削り。	
564-13	土器 壺	カマド内 8cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (7.1)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部はやや厚手で「く」字状に外反し、肩にわずかに張りを有する。口縁部を横撫で後、胴部斜位(下→上)の削りをする。	
564-14 257	土器 壺	カマド内 8cm 瓦残存	口 17.8 底 — 高 (15.1)	黒色鉱物粒多 砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は強く外反し、胴部は長脚で張りは弱い。口縁部横撫で後胴部斜位(下→上)削り、内面横位の横撫でを施す。	
565-15	須恵器 壺	4cm 瓦残存	口 — 底 — 高 (17.8)	白色鉱物粒少	還元焰 やや硬質	灰	紐作り叩き整形。丸底で胴部上半に最大径を有する。内面に青海波文を残し、外面は平行叩きと思われる。	
565-16	須恵器 横	4cm 破片	口 — 底 — 高 (7.7)	白色鉱物粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り楕圓形(右回転)。全体形は不明。底部にカキ目をする。	厚 0.7
565-17 257	石器 磨削み石	覆土内 完形	長 15.5 幅 6.3 厚 6.0	石英閃緑岩			下半分が磨然している。使用痕は不明である。	重 951.0
565-18 257	石器 磨石	覆土内 完形	長 12.8 幅 6.9 厚 4.2	石英閃緑岩			上部部剝離痕があり、下部部に敲打痕が認められる。	重 545.7
565-19 257	石器 磨石	覆土内 完形	長 13.3 幅 4.9 厚 4.0	石英閃緑岩			上・下部部、左側面に敲打痕が認められる。	重 324.8

遺物一覧表

探発番号 図形番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
565-20 257	鉄器 刀子	貯蔵穴内 破片	長 (4.9) 幅 (1.0) 重 11.6				茎と思われる。木質が見られる。	

J区第2号住居跡

探発番号 図形番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
566-1 258	土器 罎	貯蔵穴内 -20・-40 cm ほぼ完形	口 12.2 底 — 高 4.6	白・黒色鉱物 粒少 砂粒多 褐色内粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部横 撫で、底部は篋削りを施し、内面は全面撫で 調整後、立ち上がり部に放射状肌磨きを施す。	
566-2	土器 罎	貯蔵穴覆 土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (4.8)	白・黒色鉱物 粒微 褐色内粒少	酸化焰 硬質	明赤褐	底部丸底で、口縁部は内湾する。内外両面 で調整し、内面に放射状肌磨きを施す。底部は 篋削りと考えられる。	
566-3 257	土器 罎	貯蔵穴内 3cm 瓦残存	口 22.2 底 7.4 高 25.3	白・黒色鉱物 粒多 褐色細粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	口縁部は「く」字状に屈曲し、胴部は球割に 近く、中位に最大径を有する。底部はわずかに 突出し、磨面が激しい。外面胴部上半斜位 (下→上)中位横位(右→左)の篋削り後口縁部 横撫で、内面横位の撫でを施す。	
566-4 257	土器 罎	貯蔵穴内 -5cm 完形	口 20.0 底 6.0 高 16.2	細砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焰 やや硬 質	橙	口縁部は「C」字状に外反し、上端で屈曲し 短く直立する。胴部の張りは強く上半に最大 径を有する。外面胴部上半は斜位(下→上)下 半縦位(上→下)の篋削り後口縁部横撫で、内 面は縦位の撫でを施す。	内面に炭 化物付着
567-5 257	石器 磨礪み石	13cm 完形	長 12.5 幅 4.0 厚 3.8	ひん岩			使用痕は不明。	重 329.0
567-6 257	鉄器 刀子	覆土内 破片	長 (3.5) 幅 (1.7) 重 9.8				先端部及び刃部は錆の進行で欠損している。	
567-7 257	石器 磨石	覆土内 一部欠損	長 2.1 幅 2.0 厚 0.6	頁岩			器面は研磨され、丁寧に整形されている。	重 3.3
567-8 257	青磁	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —			明緑灰	器形不明。軸の厚さは0.5mm程で、外面に軸の たまりがある。	

J区第3号住居跡

探発番号 図形番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
569-1 258	土器 罎	8cm 完形	口 11.9 底 — 高 4.0	細粒砂少 褐色粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に明瞭な線を有 し、口縁部は外傾する。底部は篋削り、口縁 部は横撫でを施す。	
569-2	土器 罎	11cm 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	細粒砂少 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に線を有 し、口縁部は弱く外反する。底部は篋削り、 口縁部は横撫でを施す。	
569-3	土器 罎	11cm 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.5)	黒色鉱物粒微 褐色細粒多 砂粒微	酸化焰 軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に線を有し、口 縁部は外反する。底部は篋削り、口縁部は横 撫でを施す。	
569-4 258	土器 罎	15cm 瓦残存	口 12.3 底 — 高 (4.0)	砂粒少 褐色細粒多 黒色鉱物粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に明瞭な線を有 し、口縁部は直立し、上端が弱く外反する。 底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
569-5 258	土器 罎	1cm 瓦残存	口 13.6 底 — 高 4.1	黒色鉱物粒少 細粒砂多 褐色内粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に明瞭な 線を有し、口縁部はやや内湾ぎみに外傾する。 口唇部内面に沈線状の凹みの痕跡がみられ る。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	内面は赤 色染形し たような 色調。

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目(8)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
569-6 258	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.2)	黒色紅物粒少 細砂粒多	酸化焙 やや軟 質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。 底部寛削り後口縁部横撫でを施す。削りは横 撫で部まで及び、調整不明な部分はみられない。	
569-7	須恵器 蓋	4cm 片残存	口 11.8 横 — 高 3.5	細砂粒多 黒色内粒少	還元焙 硬質	灰	輪軸整形(左回転)?天井部は扁平な丸底を呈 し、口縁部は内湾のみである。天井部に手持 ち旋削りを施す。	
569-8	土師器 小型甕	13cm 破片	口 (11.4) 底 — 高 (6.0)	砂粒少	酸化焙 軟質	橙	胴部は丸味が強く、口縁部との境に横を有し、 口縁部は内傾する。また、口縁部中位に不明 瞭ではあるが横が認められる。胴部は横位の 荒削り、口縁部は横撫で、内面は横位の撫で を施す。	
569-9	土師器 甕	7cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (10.2)	砂粒多 黒色紅物粒少	酸化焙 軟質	にぶい 橙	胴部は丸味が強く、口縁部は短く反り丸味に 内傾する。器面の粗れが激しく、器面調整は 不明。	
569-10 258	土師器 甕	貯蔵穴内 4cm 片残存	口 15.1 底 — 高 (12.4)	黒色紅物粒多 砂粒多	酸化焙 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外反し、上端がわずか に屈曲する。胴部は球胴に近く、上半に最大 径を有するものと思われる。胴部斜位(下→ 上)の荒削り後、口縁部に横撫でを施す。内面 横位の置撫で。	
569-11 258	須恵器 壺	9cm 破片	口 — 底 — 高 (5.1)	白色細粒多	還元焙 硬質	灰黄	紐作り輪軸整形(右回転)。肩部に張りをも 有する扁平な器形で、肩部に沈線を1条、下に 懸垂波状文を一帯施す。胴部下半は回転荒削り を施す。	
569-12 258	須恵器 横瓶	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (6.7)	白色細粒少	還元焙 硬質	褐灰	紐作り輪軸整形(?)。頸部と胴部の接合部は 断面でも明確に観察することができる。	内外面に 自然釉。
569-13 258	須恵器 壺	5cm 片残存	口 — 底 — 高 (12.3)	黒色円粒少 白色細粒少	還元焙 やや硬 質	灰白	紐作り輪軸整形(右回転)。肩部に最大径を有 する球胴形で、肩部に一帯の懸垂波状文が施 されている。頸部内部に接合痕が認められる。	
569-14 258	須恵器 瓶	7cm 破片	口 — 底 — 高 (5.1)	白色細粒少	還元焙 硬質	灰	紐作り輪軸整形(?)。肩部に屈曲を有し、沈 線を2条、上下に帯の刺突文を施す。	
569-15 258	須恵器 横瓶	10cm 破片	口 — 底 — 高 (12.9)	細砂粒少	還元焙 硬質	灰	全体形は不明。器面にカキ目の痕跡を残す。	
570-16	須恵器 壺	1cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焙 硬質	灰黄褐	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波 文。外面に発泡した部分のみられる。	厚 0.9
570-17	須恵器 壺	5cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒微	還元焙 硬質	黒褐 黒	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青海波 文。	厚 1.1 外面に自 然釉。
570-18 258	石器 磨礪み石	覆土内 片残存	長 (11.4) 幅 6.2 厚 5.3	石英閃緑岩			一端が截断されている。	重 575.6
570-19 258	石器 敲石	覆土内 完形	長 13.3 幅 5.4 厚 4.2	石英閃緑岩			上・下端、右側面に敲打痕あり。	重 479.7
570-20 258	石器 敲石	覆土内 完形	長 14.4 幅 7.1 厚 4.0	粗粒安山岩			実測面左上を一部欠損し、断面三角のえぐり が数本みられる。側面周辺に敲打痕が認めら れる。	重 516.7
570-21 258	石器 磨石	覆土内 片残存	長 (11.8) 幅 8.2 厚 4.0	石英閃緑岩			截断面が摩滅している。	重 698.1

遺物一覧表

J区第4号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
571-1	土師器 壺	P、1cm 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒少 褐色粒少	酸化焰 やや軟 質	灰 黄	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。底 部は裏割り、口縁部は横撫でを施す。口縁部 横撫でと底部裏割りの間に調整不明瞭な部分 がある。	
571-2 258	須志器 壺	11cm 片残存	口 13.2 底 7.8 高 3.7	細砂粒多	還元焰 硬質	灰	縦横整形(右回転)。体部はわずかに内湾気味 に立ち上がる。底部は回転裏切り無調整。	
571-3 258	須志器 壺	カマド内 破片	口 (12.0) 底 (6.6) 高 3.5	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	縦横整形(右回転?)。体部はわずかに内湾気味 に外傾する。底部は回転裏切り無調整と考 えられる。	
571-4	土師器 小型壺	覆土内 破片	口 (8.0) 底 — 高 (3.5)	黒色鉱物粒少 白色細粒微	酸化焰 軟質	灰 黄	胴部上半に張り有し、口縁部は短く直立す る。胴部は横位から斜位の裏割り後、口縁部 に横撫でを施す。	
571-5	土師器 壺	不明 破片	口 (20.0) 底 — 高 (4.6)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	明赤褐	口縁部は「く」字状に外反する。胴部上半横 位(左→右)裏割り後、口縁部に横撫でを施す。	
571-6 258	石器 磨石?	覆土内 片残存	長 (8.9) 幅 7.2 厚 3.2	粗粒安山岩			半截されているが磨滅している。使用の為 か?不明である。	重 289.2
571-7 258	石製品 白玉	8cm 完形	径 1.9 厚 0.8 孔 0.4	滑石			七角形を呈し、各面は確に磨かれている。穿 孔は一方側からであり、一面に孔部を通る溝 状の凹みが認められる。	重 4.9

J区第5号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
577-1	土師器 壺	覆土内 片残存	口 (14.4) 底 — 高 (4.0)	白色細粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	黄	口縁部は直線的に外傾し、底部は丸底を呈す る。整形は、底部手持ち裏割り後、口縁部横 撫で、内面は全面撫でを施す。	
577-2	土師器 高壺	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.7)	白色細粒少	酸化焰 硬質	黄	口縁部はやや肥厚し、内湾気味に外傾し、体 部との境に強い段を有する。整形は体部外面 裏割り後口縁部横撫で、内面は撫で後射状 の磨きを施す。	
577-3	土師器 壺	5cm ほぼ完形	口 10.9 底 4.0 高 5.0	砂粒多 褐色円粒多	酸化焰 硬質	黄	底部は平直で、体部は内湾気味に立ち上がる。 体部は指先の押えで下から底部に裏割りを 施す。口縁部は横撫で、内面は撫でである。 全体に作りは粗く、厚手である。	
577-4	土師器 壺	7cm 片残存	口 (12.5) 底 — 高 (3.7)	白・黒色鉱物 粒微	酸化焰 やや軟 質	灰 黄	口縁部は「く」字状に内傾し、底部は丸底を 呈する。整形は、口縁部横撫で、底部裏割 りで、内面は撫でを施す。	
577-5	土師器 壺	11cm 片残存	口 (10.4) 底 — 高 (3.7)	黒色鉱物粒少 白色細粒少	酸化焰 軟質	灰 黄	口縁部は弱く内傾し、底部は丸底を呈する。 整形は、口縁部横撫で後底部に裏割りを施す。	
577-6 259	土師器 壺	28cm 片残存	口 11.2 底 — 高 3.0	黒色鉱物粒多 白色細粒少	酸化焰 硬質	黄	底部は丸底で、口縁部は短く内傾する。底部 裏割り後口縁部に横撫でを施す。	
578-7	土師器 壺	覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	黄	口縁部は「く」字状に内傾し、底部は丸底を 呈する。整形は底部裏割り後口縁部に横撫 でを施す。	
578-8 259	土師器 壺	27cm 片残存	口 11.2 底 — 高 3.6	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬 質	黄	底部は丸底で、口縁部は短くわずかに内傾す る。底部は裏割り後口縁部を横撫でする。間 に調整不明瞭な部分は認められない。	
578-9 259	土師器 壺	覆土内 片残存	口 11.2 底 — 高 (3.5)	黒色鉱物粒少 白色細粒少	酸化焰 軟質	黄	底部は丸底で、口縁部は「く」字状に短く内 湾する。体部には指爪痕を明確に残し、底部 中央に裏割り、口縁部に横撫でを施す。	
578-10 259	土師器 壺	住居外 36cm 片残存	口 11.2 底 — 高 3.4	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	黄	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。底部 裏割り後口縁部横撫でを施す。	

J区(4・5号住居跡)

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 (cm)	土質	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
578-11 259	土器 坏	20cm 片残存	口 10.8 底 — 高 3.5	細砂粒少	酸化焰 やや軟 質	橙	底部は丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。底部は寛削り、口縁部に横撫でを施し、間に調整不明瞭な部分が見られる。	
578-12 259	土器 坏	総高 4cm 片残存	口 11.0 底 — 高 3.7	細砂粒多 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。底部は寛削り、口縁部は横撫でを施す。口縁部横撫で部と寛削りとの間に調整不明瞭な部分があり、接合痕が観察できる。	
578-13 259	土器 坏	床下 片残存	口 11.8 底 — 高 (3.0)	黒色鉱物粒少	酸化焰 やや軟 質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。体部には指頭痕が明瞭に認められ、寛削りは底部の中央部だけに施されている。口縁部は横撫で。	
578-14 259	土器 坏	不明 片残存	口 10.4 底 — 高 4.0	黒色鉱物粒少 白色細粒多	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は「く」字状に内湾する。底部から体部は寛削り、口縁部は横撫でを施す。	
578-15 259	土器 坏	19cm 片残存	口 12.1 底 — 高 3.5	黒色鉱物粒多 白色細粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。底部寛削り後口縁部に横撫でを施す。	
578-16 259	土器 坏	覆土内 片残存	口 14.2 底 — 高 4.3	黒色鉱物粒多 白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。底部は寛削り口縁部は横撫でを施し、間に調整不明瞭な部分が見られる。	
578-17 259	土器 坏	5cm 片残存	口 14.2 底 — 高 (3.9)	黒色鉱物粒微 白色細粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。底部は寛削り、口縁部は横撫で、間に調整不明瞭な部分が見られる。	
578-18 259	土器 坏	8cm 片残存	口 (15.1) 底 — 高 (4.2)	黒色鉱物粒多 白色細粒多	酸化焰 やや硬 質	明黄褐色	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。整形は底部寛削り、口縁部横撫で、間に調整不明瞭な部分が見られる。接合痕が明瞭に観察できる。	
578-19 259	土器 坏	4cm 片残存	口 14.8 底 — 高 5.6	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で深く、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で後底部寛削りで、削りは横撫で部に及ぶ。	
578-20 259	土器 坏	8cm 片残存	口 15.0 底 — 高 (5.6)	黒・白色鉱物 粒少	酸化焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で深く、口縁部は内湾する。底部から体部寛削り後口縁部に横撫でを施す。	
578-21 259	土器 坏	21cm 片残存	口 16.0 底 — 高 (5.7)	黒色鉱物粒多 白色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で深く、口縁部は「C」字状に内湾する。底部から体部寛削り後口縁部に横撫でを施す。	
578-22	土器 坏	床下土坑 覆土 破片	口 (18.0) 底 — 高 (4.3)	黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 やや硬 質	橙	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部寛削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。内面は撫でを施す。	
578-23	土器 鉢	4cm 片残存	口 (22.0) 底 — 高 (7.2)	黒色鉱物粒微 細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	口縁部は弱く内湾し、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、他は指痕の跡が微しく不明瞭、内面は撫でを施す。	
578-24	土器 坏	4cm 破片	口 (18.2) 底 — 高 (6.8)	黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焰 軟質	ぶい 橙	口縁部は内湾し、底部は深く丸底を呈する。整形は、底部寛削り後口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
578-25	土器 高坏	14cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (4.6)	褐色円粒少	酸化焰 硬質	ぶい 黄橙	口縁部強く外湾し、体部との間に強い段を有する。体部寛削り後口縁部横撫で、内面は中央放射状、周辺傾位置斜後黒色処理を施す。	
578-26	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (10.0) 底 — 高 (2.8)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(右回転?)。口縁部は弱く外湾している。天井部との間に強い段を有する。天井部外面は手持ち削り施す。	
578-27	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (9.6) 底 — 高 (2.3)	細砂粒少 褐色粒微	還元焰 軟質	灰白	輪縁整形(右回転)。口縁部は弱く外反する。天井部は手持ち削り施す。	
578-28 259	須恵器 蓋	30cm 片残存	口 12.7 底 2.0 高 2.6	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(右回転)。扁平な器形で、底部に丸味を有する。蓋は圓珠形。かえりは比較的長く下方を向いている。天井部外面は2段に回転削り施し、調整後端を貼付している。	外面に自然輪。
578-29	須恵器 蓋	覆土内 片残存	口 (13.0) 底 — 高 (1.8)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	輪縁整形(右回転)。かえりは比較的長く、反り気味に内湾する。	外面に自然輪。

遺物一覧表

博物館番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成色調	器形・技法等の特徴	備考
578-30 259	須恵器 蓋	覆土内 瓦残存	口 10.6 柄 — 高 (1.9)	褐色内粒少 砂粒少	還元焰 硬質	轆轤整形(右回転)。体部は丸味が強く、柄は欠損し不明、かえりは鋭いがシャープである。天井部外面に回転置りを施す。	
578-31	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.0)	細砂粒多 —	還元焰 硬質	轆轤整形(左回転?)。底部は比較的深い丸窩で、受部は短く水平を向き、口縁部は反り気味に直立する。整形は底部に回転置りを施す。	
578-32	須恵器 坏?	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.5)	白色細粒少 —	還元焰 硬質	轆轤整形(右回転)。口縁部は直線的に外傾している。底部は丸窩を呈する。底部は手持ちの置りを施す。	
579-33 259	須恵器 蓋	25cm 瓦残存	口 12.1 底 — 高 5.9	黒色内粒少 —	還元焰 硬質	轆轤整形(右回転?)。底部は扁平な丸窩で、口縁部との境で屈曲し、口縁部は反り気味に直立する。底部は手持ち置りを施す。	外面に自然釉。
579-34 259	須恵器 高台付皿	—1cm 瓦残存	口 (24.4) 底 11.4 高 (7.0)	砂粒少	還元焰 軟質	轆轤整形(右回転?)。脚の張りが高く口縁部は内湾気味に短く立ち上がる。口唇部はやや平坦気味で内傾している。脚部は底部切り離し後に貼付しており、3方向に円形通しを施している。	
579-35	須恵器 高台付皿	11cm 破片	口 (18.0) 底 — 高 (3.2)	細砂粒多	還元焰 硬質	轆轤整形(右回転)。口縁部はやや内湾気味で、腰に比較的高く張りをもつ。高台は彫落の痕跡が明瞭である。底部切り離しは不明。	
579-36	須恵器 高台付皿	覆土内 破片	口 (22.8) 底 — 高 (3.5)	細砂粒少	還元焰 軟質	轆轤整形(右回転)。口縁部は強く外反し、口唇部は平坦で外傾する。高台が付くと思われるが残存していない。体部は回転置り、見込み部にはカキ目を残す。	
579-37	須恵器 皿	—5cm 破片	口 (24.1) 底 — 高 (2.5)	黒色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	轆轤整形(右回転)。口縁部は短く外傾し、口唇部は若干凹んだ状態で外傾する。口縁部と体部の境には明瞭な線を有する。	
579-38	須恵器 高台	15cm 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒少	還元焰 硬質	轆轤整形(?)。胴部に欠損存し、三角形の三方通しがある。	
579-39 259	土師器 小煎薬	27cm 瓦残存	口 11.5 底 — 高 (5.2)	黒色鉱物粒多 白色細粒微	酸化焰 やや軟質	胴部が球形に近い器形で、口縁部は反り気味に立ち上がる。胴部は横状(右→左)の置りを後口縁部に横置を施す。	
579-40	土師器 台付壺	カマ下覆 土内 破片	口 — 底 7.5 高 (1.9)	白色細粒少	酸化焰 硬質	下半で強く外反する形態で、貼付部から剝離している。	内面の磨減は特に激しい。
579-41 259	土師器 壺	2cm 破片	口 22.0 底 — 高 (6.1)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	口縁部は器厚が厚く、「く」字状に外反する。口縁部横置で後胴部に斜位(下→上)の置りを施す。	
579-42 259	土師器 壺	37cm 破片	口 22.1 底 — 高 (8.1)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	胴部に張りをもつ。口縁部はゆるく「く」字状に外反する。胴部置り後口縁部に横置を施す。口縁部中に接合痕が観察された。	
579-43	須恵器 壺	5cm 破片	口 (15.4) 底 — 高 (6.3)	褐色粒多	還元焰 硬質	紐作り叩き整形。口縁部は外反し、内外面に段を有する。外面は平行印、内面は背海波文。	口縁部内面に自然釉付着。
579-44	須恵器 壺	8cm 破片	口 — 底 — 高 (7.6)	褐色粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	紐作り轆轤整形。外面は平行印、内面は背海波文。	
579-45	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒少	還元焰 硬質	紐作り轆轤整形。口縁部段を有し、頸部に帯彫波状文と比喩を数段刷りこむ。	厚 1.0
580-46	須恵器 壺	5cm 破片	口 (23.6) 底 — 高 (4.7)	白色細粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	紐作り轆轤整形。口縁部は強く外反し、上端に段を有する。	
580-47	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	紐作り轆轤整形(?)。胴部に平行比喩と、櫛状工具の刷突文を施す。	厚 0.95

J区(6号址)

探出番号 図版番号	種別	出土位置 保存状態	度量 単位 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
580-48	須恵器 平 瓶	3cm 破片	口 底 高	— — —	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り轆轤整形(?)。頸部の貼付部は明瞭である。	外面に自然釉。
580-49	瓦 女 瓦	貯蔵穴覆 土内 破片	厚	1.6	黒色角粒多 白色鉱物粒微	還元焰 やや硬質	灰白	一枚作り?凸面瓦削り。	
580-50	鉄 器 259 刀 子	覆土内	長 幅 重	(8.3) (1.6) 25.8				先端の刃部はやや厚く磨の進行が激しい。	
580-51	石 製 品 260 砥 石	5cm 完形	長 幅 厚	12.3 5.8 6.1	礫状石			砥面が3面。	重 600.0
580-52	石 製 品 260 臼 玉	盤溝 完形	径 厚 孔	1.3 0.75 0.25	滑石			形状は円形で上下端部に僅かに磨痕がみられる。穿孔は一方向である。片面に孔部を通るような溝状の凹みがみられる。	重 2.6
580-53	石 製 品 260 白 玉	P ₁ 完形	径 厚 孔	1.4 0.7 0.3	滑石			形状は円形で、孔は一方向からの穿孔である。片面に孔部を通るような溝状の凹みがみられる。	重 2.1
580-54	石 製 品 260 白 玉	23cm 完形	径 厚 孔	1.55 0.6 0.35	滑石			形状は円形で上下端部と側面に磨痕がみられる。穿孔は一方向からである。	重 2.4
580-55	石 製 品 260 白 玉	覆土内 完形	径 厚 孔	1.1 0.3 0.3	滑石			円形で穿孔は一方向からで端部に僅かに磨痕がみられる。	重 0.6
580-56	石 器 260 不 明	7cm 片残存	長 幅 厚	(6.9) (6.7) 2.9	石英閃緑岩			半截されている。使用痕は不明である。	重 176.2
580-57	石 器 260 瓶 石	覆土内 完形	長 幅 厚	11.2 6.2 3.0	石英閃緑岩			上・下端に敲打痕あり。	重 387.8
580-58	石 器 260 磨盤み石	—1cm 完形	長 幅 厚	11.6 5.1 4.2	粗粒安山岩			使用痕は不明。	重 453.1
580-59	石 器 260 磨盤み石	1cm 完形	長 幅 厚	11.8 5.0 5.2	溶結凝灰岩			使用痕なし。	重 470.0
580-60	石 器 260 磨盤み石	床直 完形	長 幅 厚	12.2 5.3 3.7	粗粒安山岩			使用痕は不明。	重 352.2
580-61	石 器 260 磨盤み石	9cm 完形	長 幅 厚	10.5 4.6 4.0	凝灰岩			使用痕なし。	重 351.6

J区第6号址

探出番号 図版番号	種別	出土位置 保存状態	度量 単位 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
582-1	土 師 器 260 坏	覆土内 破片	口 底 高	(10.0) — (2.5)	白色細粒少	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに外反する。整形は底部瓦削り後口縁部横撫でを施す。	
582-2	土 師 器	覆土内 破片	口 底 高	(14.0) — (4.0)	細砂粒少 白色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は「C」字状に内湾する。底部瓦削り、口縁部横撫でと考えられるが、器面の粗れが激しく不明瞭である。	
582-3	須 恵 器 高 坏	29cm 破片	口 底 高	— — (3.0)	褐色粒少 黒色粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	にぶい 赤褐	轆轤整形(左回転?)。脚部に三角形の三方透しを有する。整形は、坏部底部に回転瓦削りを施す。	
582-4	土 師 器 嬰	覆土内 破片	口 底 高	(12.0) — (5.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、胴部に張りはないものと考えられる。口縁部横撫で後胴部は斜位(下→上)の寛削りを施す。	

遺物一覧表

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
582-5	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (8.8)	黒色細粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後横位にカキ目状の平行沈線を施し、格子状にしている。内面は青海波文。	
582-6	須恵器 壺	不明 破片	口 — 底 — 高 (9.8)	黒色粒少 細砂粒少	還元焰 やや軟質	灰白	紐作り叩き整形。外面格子叩き、内面青海波文。	
582-7	須恵器 高台付皿	覆土内 破片	口 (14.4) 底 — 高 —	細砂粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部はやや内湾気味に立ち上がり、口縁部は受け状を呈する。体部下平に回転覆削りを施す。	
582-8	須恵器 高台付皿	覆土内 破片	口 (13.5) 底 — 高 —	黒色円粒微 白色細粒少	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は短く外傾し、口縁部は平坦で水平である。整形は体部に回転覆削りを施す。	
582-9	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (1.5)	黒色粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部は直線的に立ち上がるものと思われる。底部切り離しは不明で、高台は削り出しである。見込み部にカキ目状の痕跡が認められる。	
582-10	石器 石	覆土内 片残存	長 (13.2) 幅 13.1 厚 8.3	粗粒安山岩			側面にわずかに敲打痕がみられる。	重2085.0

J区第7号住居跡

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
584-1 260	土師器 杯	カマド内 5cm 完形	口 12.4 底 — 高 4.6	褐色粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に襷を有し、口縁部は直線的でわずかに外傾する。底部は覆削り、口縁部は横撫でを施す。	
584-2 260	土師器 杯	覆土内 片残存	口 12.2 底 — 高 4.2	黒色鉱物粒微 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短くやや内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部は覆削りを施す。	
584-3	土師器 杯	カマド内 8cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.5)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	口縁部は内湾し、底部は平直気味の丸底である。口縁部横撫で、底部覆削りで、間に整形不明瞭な部分が見られ、内面全面撫でを施す。	
584-4 260	土師器 杯	カマド内 5cm 完形	口 12.6 底 — 高 3.2	黒色鉱物粒少 褐色粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部覆削りで、間に幅広の調整不明瞭な部分が見られる。	
584-5	須恵器 杯	11cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.5)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰黄	轆轤整形(右回転)。体部の外傾は比較的強く、口縁部は外反しない。	
585-6	須恵器 皿	カマド内 破片	口 (25.0) 底 — 高 (3.5)	黒色粒微	還元焰 硬質	灰黄	轆轤整形(右回転?)。体部は丸味があり、口縁部は強く外傾する。	
585-7	土師器 壺	カマド付 近5cm 破片	口 (23.0) 底 — 高 (8.7)	砂粒多	酸化焰 軟質	橙	口縁部は強く外反し、肩部に張りみられぬい。整形は口縁部横撫で後、割部斜位(下→上)の覆削り、内面撫でを施す。	
585-8	鉄器 刀子	15cm	長 (11.1) 幅 (0.9-1.1) 重 24.7				形状、厚み等から刀子と思われる。	

J区第8号住居跡

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
587-1 260	土師器 杯	—3cm 片残存	口 12.7 底 — 高 3.0	黒色鉱物粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は平直気味の丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は覆削りで、間に調整不明瞭な部分が見られる。	
587-2	土師器 杯	—5cm 破片	口 (12.4) 底 — 高 (2.8)	黒色鉱物粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部は内湾する。底部覆削り、口縁部は横撫でを施し、間に調整不明瞭な部分が見られる。	

J区(7・8・9号住居跡)

探訪番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
587-3 260	須恵器 埴	-3cm 瓦残存	口 17.2 底 12.1 高 4.6	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	縦軸整形(右回転?)。腰部にわずかに張り有りし、口縁部は直線的に外傾す。底部は回転置切り後の付高台で、角高台である。また、底部は高台貼付に伴ない無で調整されている。	
587-4 260	須恵器 蓋	-5cm 瓦残存	口 15.1 横 4.1 高 3.7	砂粒多	還元焰 硬質	灰	縦軸整形(右回転)。体部にわずかに丸味を有し、口縁部はわずかに内側を向く。横は環状溝で、天井部に2段の回転置切り後に貼付している。	
587-5	須恵器 壺	-3cm 破片	口 - 底 - 高 -	白色細粒少	還元焰 硬質	にぶい 靑	外面平行叩き。内面青海波文。	厚 0.6
587-6 260	鉄器 釘?	覆土内	長 (2.1) 幅 (0.4) 重 3.5				両端を欠損し、断面は正方形を呈する。	

J区第9号住居跡

探訪番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
591-1 260	土器器 坏	カマド埋 出し部 瓦残存	口 (12.9) 底 - 高 (3.7)	細砂粒少 褐色粒少	還元焰 やや軟 質	橙	口縁部は弱く外反し、底部との間に強い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、底部置削り後、口縁部横削りと思われるが、底部の置削りは器面の粗れが激しく不明確である。内面は内面である。	
591-2 260	土器器 坏	壁溝 -3cm 瓦残存	口 12.3 底 - 高 4.5	褐色細粒少	還元焰 やや硬 質	橙	底部は丸底で口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに内高気味に内傾する。口縁部横削りで、底部置削りを施す。	
599-3 261	土器器 坏	床直 完形	口 11.8 底 - 高 4.4	細砂粒微 褐色細粒少	還元焰 硬質	橙	底部は丸底で口縁部との境に明瞭な稜を有し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部は横削りで、底部置削りを施す。	
591-4 261	土器器 坏	壁溝 -1cm ほぼ完形	口 12.1 底 - 高 4.6	細砂粒少 褐色細粒少	還元焰 硬質	橙	底部は丸底で口縁部との境に稜を有し、口縁部は外傾する。整形は口縁部横削りで、底部置削りを施す。	
591-5 261	土器器 坏	覆土内 破片	口 (10.0) 底 - 高 (4.0)	褐色粒少 黒色鉱物粒微	還元焰 やや硬 質	橙	口縁部は内傾し、中位に段を有する。体部と口縁部の境には、強い稜を有する。体部横削り置削り。口縁部器内面は、横削り。	
591-6 261	土器器 坏	覆土内 破片	口 (17.2) 底 - 高 (5.0)	黒色鉱物粒多 白色細粒少	還元焰 やや軟 質	にぶい 黄緑	底部はやや深い丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部はやや内傾する。口縁部横削りで、底部横削り置削り、内面は無である。	
591-7 261	土器器 高坏	壁溝23cm 完形	口 13.2 底 10.3 高 7.8	細砂粒微 褐色粒少	還元焰 軟質	橙	坏部は体部と口縁部の境に明瞭な稜を有し、口縁部は外反する器形で、脚部は基部から開き、端部で水平方向に開いている。口縁部と脚部は横削りで、体部は置削りと思えるが、器面の磨減が激しいため不明。	
591-8 261	土器器 高坏	壁溝9cm 完形	口 13.0 底 9.2 高 8.1	細砂粒微	還元焰 軟質	橙	坏部は体部と口縁部との境に稜を有し、口縁部が外反する器形で、脚部は短く強く開く。口縁部横削りで、体部は置削り後脚部貼付に伴ない無で施されている。脚部には縦位の弱い面取りがされ、端部は横削りを施す。	
591-9 261	土器器 高坏	壁溝7cm 完形	口 13.6 底 9.2 高 8.2	褐色粒少	還元焰 軟質	橙	坏部は体部と口縁部との境に明瞭な稜を有し、口縁部は外反する。脚部は短く基部は強く開いている。口縁部横削りで、体部置削りを施すが脚部貼付に伴ない無で施される。脚部は横削りで、基部は縦位の置削りで面取り状になっている。	
591-10 261	須恵器 高坏	壁溝 -8cm 脚部破片	口 - 底 12.2 高 (9.0)	褐色粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り縦軸整形(?)。脚部は棒状で、器面が強く開く。	

遺物一覧表

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状況	度量 量目 (g)	胎土	焼色 色調	器形・技法等の特徴	備考
591-11	土師器 甕	貯蔵穴覆 土内 破片	口 20.0 底 — 高 (6.4)	黒色鉱物粒多 黒色粒多 白色粒少	酸化焙 硬質	橙 口縁部は「く」字状に強く外反し、口唇部内 面に沈状の凹みがみられる。口縁部強く横 撫で後外面縦位(下→上)の寛削り、内面は横 位の磨撫でを施す。	
591-12 261	土師器 甕	5cm 破片	口 23.3 底 — 高 (13.9)	小礫多 砂粒多	酸化焙 硬質	橙 口縁部は「く」字状に屈曲し、口唇部は平坦 で強く外傾する。口縁部横撫で後割部縦位(上 →下)の寛削りを施す。内面は斜位の磨撫で である。	
591-13 261	土師器 甕	床直 瓦残存	口 22.7 底 6.8 高 38.2	砂粒多 小礫多	酸化焙 硬質	橙 口縁部は「く」字状に強く外反し、割部に張 りをもたない。口縁部横撫で後、割部に縦位 (下→上)の寛削りを施す。底部に木葉痕と思 われる痕跡が認められる。	
592-14 261	土師器 甕	床直 破片	口 23.8 底 — 高 (12.8)	黒・白色鉱物 粒多	酸化焙 硬質	橙 口縁部は強く外反し、割部に張りをはみられ ない。口縁部横撫で後割部に縦位(下→上)の 寛削りを施す。内面は撫でと思われる。	
592-15 261	石器 敲石	13cm 瓦残存	長 (8.3) 幅 7.3 厚 4.3	粗粒安山岩		半載されている。左側面に敲打痕あり。	重 350.9
592-16 261	石器 敲石	7cm 完形	長 13.6 幅 6.6 厚 4.6	粗粒安山岩		端部に敲打痕あり。	重 709.6
592-17 261	石器 磨削み石	10cm 完形	長 13.7 幅 5.3 厚 4.1	粗粒安山岩		使用痕なし。	重 521.6
592-18 261	石器 磨削み石	壁溝33cm 完形	長 13.6 幅 5.4 厚 3.3	砂岩		使用痕不明。	重 364.1
592-19 261	石器 磨削み石	覆土内 完形	長 12.7 幅 8.2 厚 3.0	粗粒安山岩		使用痕不明。	重 484.8
592-20 261	石器 敲石	1cm 完形	長 13.6 幅 7.7 厚 5.0	粗粒安山岩		左側面に敲打痕あり。	重 747.5
592-21 261	石器 磨削み石	41cm 瓦残存	長 (7.1) 幅 6.7 厚 3.3	粗粒安山岩		半載されている。	重 259.7
592-22 261	石器 磨削み石	床下 完形	長 8.6 幅 4.6 厚 2.9	砂岩		使用痕不明。	重 242.6

J区第10号住居跡

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状況	度量 量目 (g)	胎土	焼色 色調	器形・技法等の特徴	備考
596-1 261	土師器 杯	13cm 瓦残存	口 11.4 底 — 高 3.7	黒色鉱物粒少 褐色細粒多 細砂粒少	酸化焙 やや硬 質	橙 底部は扁平な丸底で、口縁部との境に明瞭な 稜を有し、口縁部はわずかに外傾する。底部 寛削り、口縁部横撫でを施す。	
596-2 261	土師器 杯	覆土内 瓦残存	口 12.0 底 — 高 3.9	細砂粒少	酸化焙 硬質	橙 底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有 し、口縁部はわずかに内湾気味に外傾する。 口縁部横撫で、底部寛削りを施す。	
596-3 261	土師器 杯	8cm 瓦残存	口 11.9 底 — 高 4.4	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焙 硬質	橙 底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口 縁部は外傾し上端でわずかに屈曲する。底部 は寛削り、口縁部横撫でを施す。	
596-4 262	土師器 杯	13cm 瓦残存	口 13.2 底 — 高 4.9	細砂粒微 褐色粒少	酸化焙 やや軟 質	橙 底部は丸底で、口縁部との境に明瞭な稜を有 し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底 部は寛削りであるが、口縁部との境に調整不 明瞭な部分が幅広く認められる。	
596-5	土師器 杯	13cm 瓦残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.9)	黒色細粒多 褐色細粒多	酸化焙 やや硬 質	淡橙 底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、 口縁部は直立する。底部は寛削り、口縁部は 横撫でを施す。	

J区(10号住居跡)

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	直径 (cm) 底面 (φ)	胎土 構成	色調	器形・技法等の特徴	備考	
596-6 262	土師器 坏	覆土内 瓦残存	口 (13.0) 底 — 高 (3.8)	褐色粒多	酸化焰 硬質	褐色	底部は丸底で、口縁部との境に線を有し、口縁部はわずかに内傾する。底部は寛削り、口縁部は横撫でを施す。	
596-7	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.1)	褐色粒少	酸化焰 硬質	褐色	底部は丸底で、口縁部との境に強い線を有し、口縁部は直立する。口縁部は横撫で、底部は煎削りを施す。	
596-8	土師器 坏	24cm 瓦残存	口 (14.0) 底 — 高 (4.2)	褐色粒少	酸化焰 軟質	褐色	底部は丸底で器厚が非常に厚く、口縁部との境に明瞭な線を有し、口縁部はやや内湾気味に直立する。口縁部横撫で、底部は煎削りを施す。	
596-9 262	土師器 坏	11cm 瓦残存	口 13.1 底 — 高 (4.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	褐色	底部は丸底で、口縁部との境に強い線を有し、口縁部はやや内湾気味に直立する。底部煎削り、口縁部は横撫でを施す。	
596-10	土師器 坏	4cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.2)	褐色粒少	酸化焰 硬質	褐色	底部は丸底で、口縁部との境に強い線を有し、口縁部は直立する。底部は煎削り、口縁部は横撫でを施す。	
596-11	土師器 坏	23cm 瓦残存	口 (14.0) 底 — 高 (3.0)	細砂粒少	酸化焰 軟質	褐色	底部は丸底で、口縁部との境に線を有し、口縁部は直立する。底部は煎削り、口縁部は横撫でを施す。	
596-12	土師器 坏	17cm 瓦残存	口 — 底 — 高 (2.8)	黒色鉱物粒多 褐色粒多	酸化焰 やや硬質	褐色	底部は丸底で、口縁部は直立するものと考えられる。底部は煎削りを施す。	
596-13 262	土師器 坏	15cm 瓦残存	口 16.4 底 — 高 (5.1)	砂粒多 白色鉱物粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや軟質	褐色	底部は丸底で、口縁部との境に線を有し、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部煎削りと考えられるが、器面の粗れが微しく不明。	
596-14 262	須恵器 蓋	17cm ほぼ完整	口 14.8 底 — 高 2.8	白色粒微	還元焰 硬質	青灰色	輪軸整形(石回転)。体部は丸く、口縁部は水平に開き、口唇部は肥厚する。器厚は非常に薄い。天井部外面は回転煎削り、内面一方向の指先による撫でを施す。	外面に自然輪 34住から 同種出土
596-15 262	土師器 高坏	16cm 瓦残存	口 19.9 底 — 高 (8.6)	細砂粒多 黒色鉱物粒少 褐色細粒多	酸化焰 軟質	褐色	体部は扁平で、口縁部との境に強い線を有し、口縁部は強く外傾する。胴部は円筒状で下端で開くものと考えられる。体部から胴部煎削り、口縁部は横撫でを施す。	
562-16 262	須恵器 甕	P、 瓦残存	口 — 底 — 高 (7.3)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	縦作り輪軸整形(?)。胴部はやや扁平な球状で、やや上位に胴部最大径を有する。この胴部最大部に2本の平行沈線を超らせ、間に棒状工具の刺突を施し、1カ所に穿孔する。胴部上半と下半は別工程の製作と考えられ、内面にわずかに接合痕を残している。	
596-17 262	土師器 鉢	覆土内 破片	口 (24.0) 底 — 高 (6.6)	砂粒少	酸化焰 硬質	褐色	底部は丸底と考えられ、口縁部は強く外反し、2段の屈曲を有する。口縁部は横撫で、底部は煎削りを施す。	
596-18 262	須恵器 瓶	24cm 瓦残存	口 — 底 — 高 (8.8)	黒色円粒多	還元焰 硬質	灰	縦作り輪軸整形。底部はやや丸底気味の平底で、胴部中位にわずかに張り有し、胴部への屈曲部に沈線を1本超らせる。胴部と肩部は別工程で製作されたものと思われ、肩部内面に接合痕が明瞭に残っている。胴部下半横位(左→右)手持ち煎削り、底部も同様である。	
596-19	土師器 小型壺	4cm 瓦残存	口 (12.0) 底 — 高 (8.2)	細砂粒多 白色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	ぶい 褐色	胴部が喉部に近く、口縁部は「く」字状に外反する。胴部横位～斜位の煎削り後、口縁部に横撫でを施す。	
596-20 262	土師器 小型壺	4cm 瓦残存	口 14.6 底 — 高 (11.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒少 褐色粒少	酸化焰 やや硬質	褐色	縦作り。肩部にわずかに張り有し、口縁部は「く」字状に外傾する。胴部(下→上)、胴部上半(下→上)、下半(上→下)のそれぞれ斜位の煎削り後、口縁部を横撫でする。底部は焼成後に打ち欠かれたものと思われ、甑として機能した可能性が高い。	
597-21 262	土師器 壺	8cm 破片	口 21.2 底 — 高 (7.0)	黒色鉱物粒微 褐色粒少 白色細粒少	酸化焰 硬質	褐色	胴部に比較的張り有し、口縁部は「C」字状にゆるく外反する。口縁部横撫で後、胴部縦位(下→上)の煎削りを施す。	

遺物一覧表

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 単位 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
597-22	土師器 壺	28cm 破片	口 (21.0) 底 — 高 (6.5)	砂粒少 褐色粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	明赤褐	胴部は強く張り、口縁部は強く「く」字状に屈曲する。口縁部横撫で後、胴部を縦位(上→下)の彫工具による撫でを施す。	
597-23 262	石器 砥石	19cm 与残存	長 (12.3) 幅 (12.3) 厚 4.9	粗粒安山岩			平載されており、裏面に左上下に割離痕が見られる。上端部、右側面に敲打痕が認められる。	重 899.8
597-24 262	石器 砥石	割り方 P ₄ -23cm 完形	長 17.2 幅 13.3 厚 5.5	ひん岩			端面に片側からの割離がみられる。その他の使用痕はなし。	重 1,966.5
597-25 262	石器 磨削み石	5cm 完形	長 13.5 幅 6.1 厚 3.9	かんらん岩			使用痕なし。	重 428.7
597-26 262	石器 磨削み石	40cm 与残存	長 (10.7) 幅 7.3 厚 4.6	ひん岩			平載されている。使用痕は不明である。	重 596.7
597-27 262	石器 磨削み石	25cm 完形	長 11.7 幅 5.7 厚 3.9	ひん岩			使用痕なし。	重 387.1

J区第11号住居跡

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 単位 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
600-1 263	土師器 坏	壁溝 5cm ほぼ完形	口 12.1 底 — 高 4.0	砂粒多 褐色粒多 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部はわずかに内傾する。底部寛削り、口縁部横撫でを施す。	
600-2 263	須恵器 蓋?	カマド内 破片	口 (15.0) 柄 — 高 (3.5)	砂粒微 黒色粒少	中性焰 硬質	淡橙	縦横整形(右回転?)。口縁部はわずかに内湾気味である。口唇部内面に比線状の凹みがみられる。	
600-3 263	土師器 壺	カマド内 ±0cm 破片	口 14.3 底 — 高 (6.0)	砂粒多 白色鉱物粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は「C」字状に外反し、胴部にやや張りを有する器形で、胴部斜方向箇所後口縁部に横撫でを施す。内面は横位磨面である。	
600-4	土師器 鉢	覆土内 破片	口 (33.0) 底 — 高 (4.6)	砂粒微 褐色粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	口縁部にゆるい屈曲が認められる。口縁部横撫で後体部縦位の撫でを施す。	
600-5 263	石製品 白玉	壁溝 3cm 完形	径 1.0 厚 0.9 孔 0.25	滑石			他に比較して厚みがある。側面の整形は縦方向の粗い研磨である。	重 1.5
600-6 262	石製品 砥石	床直 完形	長 16.2 幅 12.8 厚 9.9	粗粒安山岩			第1面は楕円形状で中央がわずかに凹む磨面を有し、その他側面に敲打痕がみられる。	重 2,380.9

J区第14号住居跡

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 単位 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
603-1 263	土師器 坏	4cm 与残存	口 11.2 底 — 高 (4.3)	褐色粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。底部寛削り、口縁部は横撫でと考えられる。	
603-2 263	土師器 坏	壁溝 -10cm 与残存	口 11.2 底 — 高 3.8	黒色鉱物粒微 細砂粒少 褐色粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は横撫でを施す。	
603-3 263	土師器 坏	4cm 与残存	口 11.2 底 — 高 (3.5)	夾雑物なし	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境で屈曲し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は縦削りと思われるが、軟質で器面が粗れ不明瞭である。	歪みが激しい。
603-4	須恵器 蓋	4cm 破片	口 (14.4) 柄 — 高 (3.5)	細砂粒少 白色鉱物粒微 黒色鉱物粒微	還元焰 やや軟質	灰白	縦横整形(?)。体部は丸底が強く、天井部は丸底状と考えられる。天井部外面は手持ち寛削りを施す。	

J区(11・14・15号住居跡)

縄文番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
603-5 263	須臾器 蓋	床直 瓦残存	口 11.8 — 高 4.0	白色粒多	還元焰 硬質	灰	楕圓形(右回転)。天井部は丸底で、口縁部はやや内筒気味に直立する。口縁部上端外面には2本の沈線を超らせている。天井部外面は5段の回転彫りを施す。	
604-6 263	土師器 杯	床直 ほぼ完形	口 16.9 — 底 高 6.5	白色微粒少	還元焰 硬質	橙	体部の丸味は強く、口縁部上端でわずかに外に屈曲し、内面にわずかな稜を形成する。底部は丸底であるが、中央部がわずかに突出し、周囲はドーナツ状に凹む。外面は全面に無地を施し、口縁部横に、体部は弧状に磨き、底部は一方の彫削り後、両側に直角方向の彫削りを施す。内面は全面無地、見込み部周囲から体部に放射状、見込み部にラセン明文を施し、口縁部内面に斜位の磨きを施す。	焼内産と 考えられる。
604-7 263	土師器 甕	カマド内 5cm、4cm ほぼ完形	口 21.5 底 4.1 高 39.2	灰白色粒多 白色鉱物粒多 黒色鉱物粒少	還元焰 やや軟質	橙	口縁部は厚く強く外反し、胴部の強りは強くない。口縁部横に後胴部に3段の縦位(下→上)の彫削りを施す。	
604-8 263	石製品 白玉	覆土内 完形	径 1.25 厚 0.7 孔 0.25	滑石			円形に近い形状で、穴の穿孔は一方からである。	重 1.9
604-9 263	石器 磨礪み石	壁溝 -10cm 完形	長 12.7 幅 6.1 厚 4.0	滑結凝灰岩			使用痕不明。	重 576.5
604-10 263	石器 磨礪み石	壁溝 -3cm 完形	長 13.5 幅 7.0 厚 4.1	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 585.8
604-11 263	石器 磨礪み石	壁溝 ±0cm 完形	長 15.0 幅 6.7 厚 4.0	石英閃緑岩			熱を受けたものか表面にハゼがみられる。使用痕は不明。	重 623.7
604-12 263	石器 磨礪み石	壁溝 ±0cm 完形	長 12.6 幅 4.8 厚 4.7	石英閃緑岩			熱を受けたものか、表面全面が剝離している。	重 441.4
604-13 263	石器 敲石	壁溝 ±0cm 完形	長 13.5 幅 5.8 厚 3.7	滑結凝灰岩			一端にわずかに敲打痕が認められる。	重 435.2
604-14 263	石器 磨礪み石	壁溝 -10cm 完形	長 14.0 幅 7.2 厚 4.1	石英閃緑岩			熱を受けたものか、二分され、割傷が深い。使用痕は不明。	重 559.8
604-15 263	石器 磨石	壁溝 -3cm 完形	長 13.4 幅 6.5 厚 4.0	ひん岩			平面面に磨痕が認められる。	重 529.0
604-16 263	石器 敲石	覆土内 完形	長 5.3 幅 5.0 厚 2.3	粗粒安山岩			側面全面に敲打痕が認められる。	重 101.9

J区第15号住居跡

縄文番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
605-1 263	土師器 杯	不明 完形	口 10.0 — 高 3.4	黒色鉱物粒微	還元焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は短く内傾する。口縁部は横無で、底部彫削りて間にわずかなはみがあるが調整不明瞭な部分が認められる。	
605-2	土師器 杯	覆土内 破片	口 (11.0) 底 高 (3.0)	黒色鉱物粒微 細砂粒少	還元焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短くやや内筒気味に立ち上がる。口縁部横無で、底部彫削りと考えられる。	
605-3	土師器 甕	カマド強 り方 破片	口 (23.0) 底 高 (3.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	還元焰 硬質	橙	口縁部は強く外反し、胴部に強い稜はないものと考えられる。口縁部横無で、胴部縦位(下→上)の彫削りを施す。	

遺物一覧表

J区第16号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
606-1	土師器 坏	カマド内 12cm 破片	口 (11.6) 底 — 高 (2.7)	黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。口縁部は横撫で、底部は寛削りを施し、間に調整不明瞭な部分が比較的幅広く認められる。	

J区第17号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
608-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (12.2) 底 — 高 (3.5)	褐色鉱物粒少	酸化焰 軟質	黒褐	口縁部は外傾し、上端がわずかに内湾する。底部との境に不明瞭な線を有し、底部は丸底と考えられる。口縁部は横撫で、底部は寛削りである。	内外面黒色塗彩、外面には光沢あり
608-2 263	土師器 坏	床下 破片	口 (13.9) 底 — 高 (4.4)	褐色粒少	酸化焰 軟質	にぶい 橙	口縁部は外傾し、上端がわずかに内湾する。底部との境に線を有し、底部は丸底と考えられる。口縁部横撫で、底部は寛削りである。	内外面黒色塗彩。
608-3 264	土師器 坏	17cm 片残存	口 (12.0) 底 — 高 (5.8)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	口縁部はやや反り気味に内傾し、中位に線を有する。底部との境には明瞭な線を有し、底部は丸底である。口縁部は横撫で、底部は寛削りである。	
608-4	土師器 短別煮	掘り方 10cm 破片	口 (12.2) 底 — 高 (5.4)	細砂粒少	酸化焰 軟質	明赤褐	口縁部はやや反り気味に内傾し、中位に線を有する。体部との境に明瞭な線を有し、底部は丸底と考えられる。口縁部横撫で、体部横位の寛削りを施す。	
608-5	須恵器 壺	掘り方 7cm 破片	口 (20.8) 底 — 高 (5.3)	黒色粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り輪縁部形(?)。口縁部は外反し、上端が外側肥厚し有段口縁となる。肥厚部下端には沈線を1本廻らせる。	内面に厚く自然釉
608-6	須恵器 壺	掘り方 10cm 破片	口 — 底 — 高 —	褐色粒少	還元焰 硬質	灰	外面平行叩き。内面青黄藍文。	厚 0.9
608-7	石器 磨礪み石	覆土内 完形	長 10.7 幅 5.0 厚 3.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 290.3
608-8 263	石器 白玉	7cm 完形	径 1.05 厚 0.5 孔 0.35	滑石			一部調査に伴い削られている。穿孔は一方からで、片面に孔を通る溝状の凹みが認められる。	重 0.8

J区第19号住居跡

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
610-1	土師器 坏	覆土内 破片	口 (11.4) 底 — 高 (3.0)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	口縁部は「く」字状に内傾し、底部は丸底を呈する。底部寛削り後口縁部に横撫でを施す。	
610-2	土師器 坏	15cm 片残存	口 (17.4) 底 — 高 (4.7)	黒色鉱物粒微 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「C」字状に内湾し、底部は丸底を呈する。底部寛削り後口縁部に横撫でを施す。	
610-3	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (10.7) 底 — 高 (2.8)	白色細粒少 細砂粒微	還元焰 硬質	灰	輪縁部形(右回転)。扁平な丸底で、受部はごく短く、口縁部も短く内傾する。底部上半は回転取削り、下半は手持ち取削りを施す。	
610-4	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 底 — 高 (1.5)	白色細粒多 細砂粒少	還元焰 硬質	灰	輪縁部形(?)。扁平な天井部を有する。天井部外面は手持ち取削りを施す。	
610-5	土師器 壺	5cm 破片	口 (23.2) 底 — 高 (11.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外反し、2段のゆるい屈曲を有する。肩部の張りはなく、胴部の張りも弱い。胴部斜位(上一下)の寛削り後、口縁部に横撫でを施す。	
610-6	土師器 壺	20cm 破片	口 (24.0) 底 — 高 (5.8)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は強く外反し、肩部に張りを有する。整形は、口縁部横撫で後胴部上半斜位(右→左)取削りを施す。内面は横位の撫である。	

J区(16・17・19・21号住居跡)

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
610-7	土師器 甕	4cm 破片	口 18.0 底 — 高 (13.0)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は「く」字状に外傾し、胴部に張りがなく、胴部中位におわずかに張りを有する。口縁部横撫で後、胴部は斜位(上→下)の尻削りを施す。	
611-8	須恵器 壺	掘り方 ±0cm 破片	口 — 底 — 高 (8.3)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	外面平行印き後かき目、内面青海波文。	
611-9 264	石製品 砥石	覆土内 互残存	長 3.9 幅 3.9 厚 1.4	角閃石安山岩			上端に3面の使用面が認められ、1面に断面「V」字状の浅い溝が割られている。	重(13.0)
611-10 264	石器 砥石	床直 完形	長 12.3 幅 6.4 厚 3.9	粗粒安山岩			側面に敲打痕有り。	重 496.2
611-11 264	石器 磨石	壁溝 7cm 完形	長 11.6 幅 6.4 厚 4.2	変質安山岩			1面に磨痕が認められる。	重 586.1
611-12 264	石器 磨石	2cm 完形	長 15.7 幅 5.3 厚 3.7	変質玄武岩			使用痕不明。	重 402.5
611-13 264	石器 磨石	4cm 完形	長 14.0 幅 4.8 厚 4.3	砂岩			使用痕不明。	重 352.3
611-14 264	石器 磨石	壁溝 ±0cm 完形	長 12.2 幅 5.3 厚 2.9	粗粒安山岩			側面からの打撃によって剥離面が形成されている。使用に伴うものと考えられる。	重 307.9
611-15 264	石器 磨石	1cm 完形	長 12.5 幅 6.5 厚 3.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 456.6
611-16 264	石器 磨石	3cm 完形	長 13.5 幅 7.7 厚 4.9	変質蛇紋岩			使用痕不明。	重 702.5
611-17 264	石器 磨石	4cm 完形	長 11.8 幅 6.3 厚 3.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 321.1

J区第21号住居跡

押印番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
613-1	土師器 坏	11cm 破片	口 (15.0) 底 — 高 (3.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	口縁部は弱く内傾し、底部は丸底を呈する。整形は、口縁部横撫で、底部手持ち尻削りで、間に整形不明瞭な部分が見られる。内面は撫でを施す。	
613-2	須恵器 坏	覆土内 互残存	口 (11.0) 底 — 高 (4.5)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(右回転?)。底部はやや丸底気味で、口縁部は直線的に外傾する。底部は手持ち尻削りを施す。	
613-3	須恵器 蓋	18cm 破片	口 (15.0) 横 — 高 (2.4)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	輪縁整形(右回転)。体部の丸味は弱く、口縁部は強く横に開く。内面のかえりは短く、口縁部との間隔も広い。天井部外面に5段の回転尻削りを施す。	
613-4 264	須恵器 蓋	15cm 互残存	口 11.8 横 — 高 (3.4)	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(右回転)。体部の丸味が強く、口縁部はあまり外反しない。内面のかえりは比較的長く内傾している。筒は欠損しているため形状不明である。天井部外面に回転尻削りを施す。	外面に自然蝕。
613-5 264	土師器 甕	床直 互残存	口 20.2 底 — 高 (12.7)	黒色鉱物粒多 細砂粒多 細色細粒多	酸化焰 やや軟質	橙	口縁部はゆるく外反し、胴部中位におわずかに張りを有する。胴部は斜位(上→下)尻削り後、口縁部横撫で、内面横位直撫でを施す。	
613-6 264	土師器 甕	床直 互残存	口 17.4 底 — 高 (4.7)	細砂粒多 小微	酸化焰 軟質	橙	口縁部は「く」字状に外傾し、胴部に強い張りを有する。口縁部横撫で後胴部は斜位(下→上)尻削りを施す。	

遺物一覧表

博図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
613-7	須恵器 甕	～7cm 破片	口底高 (5.5)	砂粒多	還元焰 硬質	灰黄	紐作り轆轤整形(右回転)。肩部が強く張り、肩部以外は回転削り加えられる。	
613-8	須恵器 甕	覆土内 破片	口底高 (11.3)	砂粒少 黒色細粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面背海波文。	
613-9	須恵器 長頸瓶	11cm 脚部欠残 存	口底高 (5.4)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。肩部は強く開き端部に段を有する。脚部は紐作り後の轆轤整形と思われる。内面に接合痕(?)がみられる。	
613-10 264	石器 磨石	～5cm 完形	長幅厚	粗粒安山岩			一端に敲り痕あり。	重 237.0
613-11 264	石器 磨石	覆土内 完形	長幅厚	変質安山岩			使用痕不明。	重 131.1
613-12 264	石器 磨石	覆土内 完形	長幅厚	頁岩			使用痕不明。	重 48.2
613-13 264	鉄器 紡錘車	不明	長(16.0) 幅(9.4×9.3) 重 45.6				軸が2つに割れている状態で錆が進行して付着している。紡錘部は周辺欠損。	
613-14 264	土師器 埴	～3cm 完形	口底高	褐色胎物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は良味があり、口縁部がわずかに外反する。底部は回転糸切り後、端部が凹む角高台状の高台を貼付している。器面調整は比較的雑である。	胎土粉っぽい。
613-15 264	土師器 瓦残存	～5cm 瓦残存	口底高	褐色粒多 褐色胎物粒微	還元焰 軟質	黒	轆轤整形(右回転)。腰部がやや張り、口縁部は外反する。底部は回転糸切り加調整と思われる。わずかに突出するが、切り離し後わら状の物の上に置かれたものと考えられ、圧痕がみられる。	いよし焼成?
613-16 264	青磁 痕?	覆土内 破片	口底高			灰	内面の轆轤目は強く、軸は内外面共にみられ、外面は0.5mm厚。	近世 厚 0.5
613-17 265	陶器 鉢	覆土内 破片	口底高			灰白	口縁部は外に突出し、突出部分は欠損している。内外面軸がかり、軸厚は約0.5mm。	近世
613-18 264	陶器 埴	覆土内 破片	口底高			灰	高台は付高台。軸は内外面(高台部を除く)にかり、軸厚は約0.5mm。	厚 0.6
613-19 264	陶器 小埴	覆土内 破片	口底高			灰白	軸は内外面にかり、軸厚は約0.5mm程。	近世 厚 0.6

J区第22号住居跡

博図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
616-1 265	土師器 埴	埋溝36cm 瓦残存	口底高 (4.5)	褐色粒多 黒色胎物粒微	酸化焰 軟質	灰	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は短く直立する。口縁部は横櫛で、底部は蓋削りで、周に調整不明瞭な部分がわずかに認められる。	内外面に 黒色地彩 の痕跡有
616-2	土師器 埴	覆土内 破片	口底高 (3.4)	褐色胎物粒少 砂粒多	酸化焰 やや軟質	明赤褐	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。口縁部は横櫛で、底部は蓋削りを施す。	
616-3	土師器 破片	20cm 破片	口底高 (4.0)	褐色胎物粒微 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	淡黄	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外傾する。口縁部横櫛で、底部は蓋削りを施す。	
616-4	土師器 埴	覆土内 破片	口底高 (4.0)	褐色粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。口縁部は横櫛で、底部は蓋削りを施す。	

J区 (22号住居跡)

探検番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	寸法 (cm)	土質	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
616-5 265	土器 坏	3cm 片残存	口 13.0 底 — 高 5.5	黒色鉱物粒少 褐色粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に「く」字状に屈曲し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	口縁部内 外面に黒 色塗彩の 痕跡。
616-6	土器 坏	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.0)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は平底気味の丸底で、体部におおむね張り有り、口縁部は外反する。口縁部横撫で、底部篋削りて間に調整不明瞭な部分のみみられる。	
616-7	土器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (2.6)	黒色鉱物粒微 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、体部は丸味を有し、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。底部篋削り。口縁部横撫でで、間に調整不明瞭な部分認められる。	
616-8	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 (15.0) 底 — 高 (2.8)	褐色細粒微	還元焰 やや硬質	灰黄	縦橢圓形(右回転)。口縁部は直立し、体部との境で屈曲する。	
616-9	須恵器 高坏 (無蓋)	覆土内 破片	口 (14.0) 底 (12.0) 高 —	褐色細粒多	還元焰 硬質	灰	縦橢圓形(?)。坏部は口縁部がやや内湾気味に直立し、底部との境に皺を有し、底部は扁平な丸底状を呈する。脚部は長脚二段の三方透しと考えられる。坏部底面にはカキ目施されている。	同一個体 ?
616-10	土器 高坏?	11cm 破片	口 (30.0) 底 — 高 (6.4)	細砂粒少 褐色粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は外傾し、体部との境で屈曲する。口縁部横撫で後、体部縦位(下→上)の篋削りを施す。内面は横撫で。	
616-11	土器 壺	床直 8cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (5.1)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は強く外反し、胴部に張りほとんどみられない。口縁部横撫で後胴部は縦位(下→上)の篋削り、内面は横撫でを施す。	
616-12	土器 壺	壁溝 ±0cm 破片	口 (16.0) 底 — 高 (5.9)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	灰褐	胴部はやや張り有り、口縁部は「く」字状に外傾し、上端でさらに外反する。脚部は横位(左→右)篋削り後口縁部に横撫でを施す。内面は横撫でと思われる。	口縁部外 面に黒化 物が厚く 付着。
616-13	土器 壺	貯蔵穴内 6cm 破片	口 (26.6) 底 — 高 (7.4)	砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部はゆるく外反し、胴部に張り有りする。口縁部横撫で後、胴部は横位(右→左)の篋削り、内面は撫でを施す。	
616-14	土器 小型壺	覆土内 破片	口 13.0 底 — 高 (6.9)	褐色粒多	酸化焰 軟質	橙	口縁部は「く」字状に外傾し、胴部上半に最大径を有する。胴部を縦位(下→上)篋削り後、口縁部に横撫でを施す。	
616-15	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰黄	縦作り叩き型。外面は平行叩きを重ねることにより格子叩きとしている。内面は青黄灰文。	厚 1.1
616-16 265	鉄器 不明	覆土内	長 (5.1) 幅 (1.0) 重 11.5				断面長方形で側面欠損。	
616-17 265	鉄器 釘	覆土内	長 (7.3) 幅 (0.6) 重 24.9				断面方形で、上端も欠損していると思われる。	
616-18 265	青磁 碗	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (2.6)			灰オー ープ	口縁部は内湾する。胎厚約0.5mm程。	近世
616-19 265	青磁 龍泉堂系 碗	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —			オー ープ灰	外面しのぎの蓮弁文。	
617-20 265	白磁 肥前系 破片	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —			灰白	胎厚約0.3mm程。	
617-21 265	石器 磨石 ほほ完形	床直	長 10.9 幅 5.7 厚 5.6	安賀安山岩			端部が欠損している。その他使用痕は不明。	重 533.8
617-22 265	石器 磨石?	床直 片残存	長 10.0 幅 7.1 厚 4.8	安賀安山岩			手織されており、截断面は使用に伴うと考えられる磨減がみられる。	重 673.4

遺物一覧表

探訪番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
617-23 265	石器 磨礪み石	11cm 完形	長 11.5 幅 6.2 厚 4.0	粗粒安山岩		使用痕不明。	重 379.2
617-24 265	石器 磨礪み石	床直 完形	長 14.5 幅 7.7 厚 3.4	粗粒安山岩		使用痕不明。	重 574.5
617-25 265	石器 磨礪み石	2cm 完形	長 12.4 幅 6.3 厚 3.5	粗粒安山岩		使用痕不明。	重 430.4
617-26 265	石器 磨礪み石	3cm 完形	長 16.3 幅 6.5 厚 5.0	粗粒安山岩		使用痕不明。	重 822.6
617-27 265	石器 磨礪石	整調 3cm 完形	長 12.2 幅 5.8 厚 5.5	粗粒安山岩		端部にわずかに敲打痕がある。	重 624.2
617-28 265	石器 磨礪み石	床直 完形	長 13.9 幅 7.7 厚 4.4	粗粒安山岩		使用痕不明。	重 791.6
617-29 265	石器 磨礪石?	2cm 完形	長 13.9 幅 6.8 厚 3.4	変質安山岩		端部と側面に打撃に伴うと思われる剥離面が認められる。	重 530.9

J区第23号住居跡

探訪番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
618-1 266	石器 磨石?	4cm 完形	長 11.9 幅 5.9 厚 3.6	粗粒安山岩		端部が平坦に磨滅している。	重 872.8

J区第24号住居跡

探訪番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
619-1	須恵器 環	5cm 破片	口 (11.6) 底 (7.0) 高 4.0	白色微粒微	還元焰 硬質	輪縁整形(右回転)。底部回転糸切り無調整。 口縁部は内湾気味に立ち上がる。	
619-2 266	須恵器 埴	3cm 片残存	口 (14.9) 底 — 高 (5.1)	白色粒多 小礫微	還元焰 硬質	輪縁整形(右回転)。底部回転糸切り後付高台、 高台部欠損。口縁部は弱く外反する。	内面に炭 化物付着
619-3 266	土師器 埴	床直 破片	口 19.8 底 — 高 (10.7)	細砂粒少	酸化焰 やや硬 質	口縁部は「フ」字状を呈し、胴部上半に最大 径を有している。口縁部横線で後部部横位(右 一左)、胴部斜位(下→上)の展開、内面は横 位の横でを施す。口縁部上半に接合痕が認め られる。	内面に炭 化物付着
619-4 266	鉄器 不明	床直	長 横(9.0) 縦(5.8) 重 47.6			平板で台形状を呈するものと思われ、一端が 折れ曲っている。工具か?	

J区第25号住居跡

探訪番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
621-1	須恵器 埴	覆土内 片残存	口 — 底 7.0 高 (2.3)	黒色軟物粒多 細砂粒多	中性焰 やや軟 質	輪縁整形(右回転)。底部回転糸切り後の付高 台。	
621-2 266	灰輪陶器 埴	20cm 片残存	口 12.8 底 6.6 高 3.7	美濃系		輪縁整形(右回転)。体部は丸味があり、口縁 部がわずかに外反する。口縁部内面には一本 の沈線状の凹が廻っている。高台は底部回転 糸切り後の付高台である。施釉は濃く掛け。	外面に不 明な付着 物あり

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
621-3	須恵器 瓶	4cm 破片	口 (11.6) 底 — 高 (8.7)	黒色粒少 砂粒少 小礫微	還元焰 硬質	灰	縦縞整形(?)。口縁部上半がわずかに内傾する。外面は縦位に磨みを施し、2本単位の平行沈線を2段廻らせている。	内面に自然釉あり
621-4	土器 壺	不明 破片	口 (24.2) 底 — 高 (11.4)	黒色鉱物粒少 白色鉱物粒少 褐色粒多 砂粒多	酸化焰 軟質	浅黄褐色	口縁部は短く、強く外反し、胴部に張りはみられない。口縁部横撫で、胴部縦位の磨削りと思われるが、器面の磨削が激しく不明である。	
621-5 266	須恵器 羽蓋	10cm 破片	口 19.9 底 — 高 (6.9)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り縦縞整形(右回転)。口縁部はやや反り気味に内傾し、胴部最大部上位に磨を貼り付けている。口唇部は平坦でわずかに内傾している。磨の貼り付けは丁寧である。	
622-6	須恵器 羽蓋	10cm 破片	口 (23.0) 底 — 高 (12.0)	黒色鉱物粒少 砂粒少	中性焰 やや硬質	灰黄褐色	紐作り縦縞整形(右回転)。口縁部はわずかに反り気味に内傾し、胴部上半に磨りを有する。磨の貼り付けは丁寧で、胴部最大部直上に位置する。口唇部は平坦で、ほぼ水平である。	外面胴部下に帯状に炭化物付着。
622-7	瓦 男瓦	11cm 破片	厚 1.7	細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐色	端部に強い段がみられることから、玉縁付である可能性がある。凸面平行印字、凹面布目の様な磨削がみられる。	
622-8	瓦 男瓦	8cm 破片	厚 1.7	砂粒少	中性焰 やや軟質	褐色	一枚作り。	
622-9	瓦 女瓦	10cm 破片	厚 2.2	黒色粒少 砂粒少	還元焰 硬質	灰	横巻作り。凹面に横板痕及び粘土板未切り痕が残る。凸面は刷印き後わずかに磨で磨かれている。側端部は2面の面取りがなされている。	
622-10 266	鉄器 鏝	覆土内	長幅 (5.4) (1.8) 重 13.1				先端部のみ残存。錆が進み表面の剥落が激しい。	
622-11	石器 不明	覆土内 破片	長幅 (13.4) (8.8) 厚 4.2	粗粒安山岩			内面が平坦であるが、使用に伴うものではない。	重 987.4

J区第26号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
624-1 266	土器 杯	3cm 片残存	口 13.2 底 — 高 3.9	褐色粒多 細砂粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 褐色	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い横を有し、口縁部は短くわずかに内傾する。底唇部は磨削り、口縁部は横撫でを施す。	内外面黒色塗彩。
624-2 260	土器 杯	覆土内 片残存	口 13.4 底 — 高 (3.3)	褐色粒少 白色細粒少	酸化焰 軟質	にぶい 褐色	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に横を有し、口縁部は内傾する。口縁部は横撫で、底唇部は磨削りを施す。	内外面黒色塗彩の痕跡あり
624-3	土器 杯	15cm 破片	口 (10.6) 底 — 高 (3.7)	褐色細粒多 細砂粒微	酸化焰 軟質	にぶい 黄褐色	底部は丸底で、口縁部との境に横を有し、口縁部はわずかに内傾気味に立ち上がる。口縁部横撫で、底唇部は磨削りと思われる。	内外面黒色塗彩の痕跡あり
624-4 266	土器 杯	-2cm 片残存	口 12.2 底 — 高 (4.0)	細砂粒微 褐色粒少	酸化焰 やや硬質	にぶい 褐色	底部は丸底で、口縁部との境に横を有し、口縁部はわずかに外反する。口縁部横撫で、底唇部は磨削りを施す。	内外面黒色塗彩の痕跡あり
624-5 266	土器 杯	2cm 片残存	口 13.5 底 — 高 (4.6)	褐色粒多 白色粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 褐色・黒	底部は扁平で浅い丸底で、口縁部との境に横を有し、口縁部は直線的に外傾し、中に横を有する。口縁部は横撫で、底唇部は磨削り、内面は全面撫で後黒色処理を施す。	外面は黒色塗彩。
624-6 266	土器 杯	床直 完形	口 12.5 底 — 高 5.0	黒色鉱物粒少 細砂粒少 白色細粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐色	底部は丸底で、口縁部との境に弱い横を有し、口縁部はわずかに反り気味に直立する。口縁部横撫で、底唇部磨削り、内面は全面撫でを施す。	口縁部内面に粗れが激しい
624-7 266	須恵器 埴	7cm 片残存	口 14.0 底 7.8 高 6.0	細砂粒少 白色細粒少	還元焰 硬質	灰	縦縞整形(右回転)。体部はわずかに磨りを有し、口縁部はほとんど外反しない。底部は回転未切り後の付高台で、高台貼り付内部面の調整は確である。	

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
624-8 266	須恵器 環	6cm 片残存	口 14.3 底 7.7 高 4.1	黒色細粒少	還元焰 硬質	明灰 縦横整形(右回転)。底部はわずかに突出し、 体部にやや張り有り。口縁部はほとんど外 反しない。		
625-9 266	土師器 甕	貯蔵穴内 -20cm 一部欠損	口 14.1 底 — 高 (22.3)	黒色紅物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	横 口縁部は中位で直曲し外反する。肩の張りは 弱く胴部中位に最大径を有する。器面は、口 縁部横撫で後縦位(下→上)を基本とした撫で を施す。内面は悪磨であり、内外面共に接 合痕を顕著に残している。		
625-10 266	土師器 甕	3cm 片残存	口 24.0 底 — 高 (26.6)	褐色粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙 口縁部は外反し、胴部に張りをとまない。口 縁部横撫で後、胴部上半(下→上)、下半(上→ 下)の縦位削り、内面は縦位の粗い塊磨きを 施す。口縁部内外面及び、胴部内面に明瞭な 接合痕が認められる。		
625-11	土師器 甕	5cm 破片	口 (19.4) 底 — 高 (7.8)	褐色粒多	酸化焰 やや軟 質	黄橙 口縁部は「く」字状に弱く外反し、胴部に強 い張りを有する。胴部上半斜位(左→右)削り 後、口縁部に横撫でを施す。		
625-12	須恵器 甕	7cm 破片	口 — 底 — 高 —	褐色粒微	還元焰 硬質	淡黄橙 紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青黄波 文。		
625-13	須恵器 甕	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白 紐作り叩き整形。外面平行叩き、内面青黄波 文。		
625-14	瓦 男瓦	6cm 破片	厚 2.1	黒色粒少	還元焰 硬質	灰白 横巻作り、凹面に粘土板余切り痕がみられる。 凸面は純叩きで、横位に縦に撫で消されてい る。側面面取りは一面。		
625-15 267	瓦 男瓦	4cm 片残存	厚 1.7 反 8.5	白色粒多 褐色粒多	還元焰 硬質	灰 一枚作り?口縁部凹面に面取り、側面面取り は2面である。凸面は全面に撫でが施されて いる。側面面取りは一面。		
625-16 266	鉄器 釘	2cm	長 (5.2) 幅 (0.4) 重 8.3				断面正方形で、両端共に欠損。	
225-17 266	鉄器 釘	3cm	長 (8.4) 幅 (0.5) 重 20.98				断面正方形で、両端共に欠損し、「く」字状に 折れ曲がっている。	
626-18 267	石器 縦石	—1cm 片残存	長 (18.9) 幅 (14.7) 厚 6.0	粗粒安山岩			半載されており、実側面及び上部に敲打痕 がみられる。右側面に使用に伴うものか剝離 面がある。	重2160.0
626-19 267	石器 不明	6cm 片残存	長 (25.4) 幅 (13.2) 厚 8.1	ひん岩			半載されており、熱を受けた痕跡がある。	重3950.0
626-20 267	石器 縦石	6cm 尖形	長 15.1 幅 7.4 厚 2.8	砂岩			下部に使用に伴うと考えられる剝離がされて いる。	重 523.5
626-21	石器 厚幅凸石	6cm 片残存	長 (6.7) 幅 5.7 厚 4.7	粗粒安山岩			半載されている。使用痕は不明。	重 254.0
626-22 267	石器 砥石	15cm 尖形	長 23.1 幅 18.3 厚 12.5	粗粒安山岩			自然礫を利用したもので、一面に磨り面があ り、断面「V」状の使用痕が刻まれている。	重5700.0
626-23 267	石器 不明	5cm 片残存	長 (11.2) 幅 (19.9) 厚 (7.8)	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 2,870.0

J区第27号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
628-1 267	土師器 環	12cm 片残存	口 12.0 底 — 高 3.7	褐色粒多 細砂粒少	還元焰 やや硬 質	横 底部は扁平な丸底で、口縁部との境に接を有 し、口縁部はわずかに内傾する。口縁部横撫 で、底部黒磨りを施す。	

探図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
628-2 267	土師器 甕	7cm 破片	口 (18.0) 底 — 高 (13.7)	黒色紅物粒少 砂粒多	酸化焰 硬質	橙	肩はあまり強らず、口縁部に一本の強い稜を有し、やや外反気味に直立する。整形は胴部斜位(下→上)の旋削り、口縁部横撫である。内面は横位磨撫である。	
628-3 267	土師器 鉢	3cm 写残存	口 19.3 底 7.0 高 12.7	黒色粒多 黒色紅物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	黒	口縁部はわずかに外反し、腰部中に張り有りし、底部がわずかに突出する。体部は横位(右→左)の雑な磨で、口縁部は横撫で施す。底部にはわずかに木炭痕が認められる。	

J区第28号住居跡

探図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
629-1	土師器 坏	覆土内 写残存	口 (9.4) 底 — 高 (2.9)	細砂粒少	酸化焰 軟質	橙	口縁部は内湾し、底部は丸底を呈する。整形は口縁部横撫で、底部は旋削りしたものと思われるが、器面の粗れが激しく、不明瞭である。内面は全面撫で施す。	
629-2 267	土師器 坏	4cm ほぼ完整	口 13.2 底 — 高 4.9	細砂粒少	酸化焰 硬質	黄橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに外反し、口唇部内面は内斜口縁状を呈する。内面は撫で後放射状磨文を施す。外面は底部旋削り後、口縁部に横撫で施す。	縦内産物 文土師器 の模倣か
629-3 267	土師器 坏	5cm 写残存	口 13.6 底 — 高 4.4	黒色紅物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はやや反り気味に直立し、口唇部内面はわずかに内斜する。内面は撫で後見込み面から密な放射状磨文を施す。外面は底部旋削り後、口縁部に横撫で施す。	縦内産物 文土師器 の模倣か
629-4	須恵器 蓋	覆土内 写残存	口 (11.0) 横 — 高 (1.7)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	輪縁整形(左回転)。扁平な体部を有し、柄は欠損している。口縁部はわずかに外に開き、かえりは比較的長く強く内傾する。天井部外面の回転旋削りは口縁部近くまで及んでいる。	
629-5	須恵器 蓋	覆土内 写残存	口 (10.0) 横 — 高 (1.9)	褐色粒少	還元焰 硬質	灰白	輪縁整形(右回転)。口縁部は厚手でわずかに開き、かえりは短く内傾する。天井部外面に回転旋削りを施している。	
629-6 267	須恵器 坏	3cm 完整	口 11.3 底 — 高 3.5	砂粒少	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(右回転)。底部はやや平底気味で、受け部は短く水平のび、口縁部は内傾する。底部は4段の回転旋削りを施す。	
629-7	須恵器 甕	覆土内 破片	口 (6.6) 底 — 高 (4.6)	白色紅粒多	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(?)。わずかに外傾する口縁部のみが残存。	
629-8	須恵器 甕	7cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 黒色粒微 白色紅物粒少	還元焰 硬質	灰白	紐作り型整形。外面格子印き、内面青海苔文。	
629-9 267	石製 模造品 包玉	カマド付 近 完整	長 3.9 幅 2.0 厚 0.5	絞紋磨			「コ」字状の形状で、側面は密で整形している。穿孔は一方方向のものである。	重 6.0 孔 0.2
629-10 267	石製品 白玉	カマド付 近 写残存	径 1.8 厚 0.7 重 1.6	滑石			表面の整形は非常に雑である。片面の穿孔部に沈線状の凹の痕跡が認められる。	

J区第29号住居跡

探図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
631-1 267	土師器 坏	4cm 写残存	口 13.3 底 — 高 3.8	黒色紅物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は手持ちでラセン状の旋削りを施し、間に調整不明瞭な部分が見られる。	
631-2	土師器 坏	カマド内 破片	口 (12.2) 底 — 高 (3.5)	黒色細粒少 褐色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。整形は、底部旋削り、口縁部横撫で、内面撫でを施す。	

遺物一覧表

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
631-3	土師器 杯	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.4)	褐色粒多 黒色粒少	酸化焙 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾気味である。整形は、高部削り、口縁部横撫で、内面は撫でを施す。	
631-4	須恵器 高杯	覆土内 破片	口 — 底 (12.0) 高 (4.5)	白色細粒微 黒色細粒多	還元焙 硬質	灰黄	輪縁整形(右回転)。胴部のみの残存で、強く外に開き、端部に屈曲を有する。通しは三方である。	
631-5	土師器 壺	覆土内 破破片	口 (20.0) 底 — 高 (4.0)	砂粒多	酸化焙 硬質	橙	口縁部は外反する。整形は口縁部横撫で、肩部削り、内面は撫でを施す。	
631-6 268	土師器 壺	カマド内 土0cm 瓦残存	口 22.3 底 — 高 (13.2)	黒色鉱物粒多 細砂粒多 褐色粒少	酸化焙 やや硬 質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、口唇部に沈線状の凹が1本彫り、胴部上半にわずかに張り有する。口縁部横撫で後胴部は縦位(下→上)の削り、内面は横位の距離を施す。	
631-7	須恵器 壺	カマド内 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒多 褐色粒少	還元焙 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面平行叩き後カキ目、内面青海文。	厚 0.7
632-8	須恵器 壺	掘り方 7cm 破片	口 — 底 — 高 —	黒色粒少	還元焙 硬質	灰黄	紐作り叩き整形。外面平行叩き。内面青海文。	厚 1.0
632-9 267	石製品 砥石	覆土内 破片	長 (2.3) 幅 2.2 厚 1.1	砂岩			断面長方形形状を呈したものと考えられる。破片であるが、下砥と思われる。	重 6.7
632-10 267	石 碓	壁溝 -3cm 宛形	長 12.6 幅 6.3 厚 4.1	ひん岩			上部部に敲打痕が少しみられる。	重 440.8
632-11 267	石 磨	覆土内 宛形	長 12.7 幅 6.0 厚 4.6	閃緑岩			使用痕不明。	重 572.3
632-12	石 磨	覆土内 宛形	長 12.7 幅 5.8 厚 5.0	溶結凝灰岩			表面に擦痕がわずかにみられる。	重 589.5
632-13 267	石 碓	壁溝 2cm 宛形	長 13.3 幅 7.5 厚 5.5	石英閃緑岩			上部部にわずかに敲打痕がみられる。	重 878.3
632-14 267	石製品 白玉	27cm 宛形	径 2.3 厚 0.7 孔 0.4	滑石			円形に近い形状であるが、面の調整は輪で、削った形をそのままとめている。穴の穿孔は一方からである。	重 4.1

J区第30号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
634-1 268	土師器 杯	床直 瓦残存	口 11.7 底 — 高 4.4	褐色細粒少	酸化焙 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い線を有し、口縁部は弱く外反する。底部削り後口縁部に横撫でを施す。	
634-2 268	土師器 杯	貯蔵穴上 層 瓦残存	口 12.3 底 — 高 4.2	褐色細粒多 砂粒少	酸化焙 軟質	にぶい 黄橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に線を有し、口縁部は弱く外傾する。口縁部横撫で後、底部に削り方を施す。	
634-3 268	土師器 杯	カマド覆 土内 瓦残存	口 13.7 底 — 高 (3.7)	黒色鉱物粒微 細砂粒少 褐色細粒多	酸化焙 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に強い線を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、底部削り方を施す。	
634-4	土師器 杯	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (4.0)	白・黒色鉱物 粒少 細砂粒少	酸化焙 硬質	橙	口縁部は厚く内湾気味に立ち上がり、口縁部との境にわずかに段を有する。口縁及び内面に共に横撫で。	
634-5 268	土師器 杯	4cm 瓦残存	口 9.7 底 — 高 3.3	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焙 硬質	にぶい 黄橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部横撫で、底部削り方を施し、間に調整の不明な部分がわずかに認められる。	見込み部に焼成前の距離を「×」印。
634-6	土師器 高杯	覆土内 脚部残存	口 — 底 (15.4) 高 (3.8)	砂粒少	酸化焙 やや硬 質	黄橙	胴部で、ゆるい屈曲がみられ、端部はやや内湾気味である。上半縁位(下→上)の削り、端部は撫でを施す。	

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
634-7	須恵器 台付瓶	要清55cm 破片	口 — 底 (13.0) 高 (3.5)	細砂粒少 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(右回転)。高台部は厚手で強く外反する。底部は高台貼り付けに伴い撫で調整されている。	
634-8	土師器 高坏	カマド内 破片	口 — 底 — 高 —	細砂粒多	酸化焰 硬質	明黄褐	外側削り、内面輪積み痕が明確に残っている。	
634-9 268	石 器 磨盤み石	4cm 完形	長 12.0 幅 6.4 厚 4.7	ひん岩			使用痕不明。	重 559.4
634-10 268	石 器 磨盤み石	3cm 完形?	長 13.2 幅 5.7 厚 3.4	石英閃緑岩			熱によって全面剥落している。	重 360.0
634-11 268	石 器 磨盤み石	4cm 完形	長 15.4 幅 7.0 厚 4.7	溶結凝灰岩			使用痕不明。	重 678.0
634-12 268	石 器 敲石	4cm 完形	長 9.8 幅 5.8 厚 4.0	粗粒安山岩			敲打によると思われる痕跡がある。	重 336.0
635-13 268	石 器 磨石	3cm 完形	長 14.4 幅 6.3 厚 7.4	実質玄武岩			両端部に磨痕有り。	重 950.0
635-14 268	石 器 敲石	3cm 完形	長 13.5 幅 7.2 厚 4.3	実質安山岩			端部と側面に敲打痕有り。	重 652.9
635-15 268	石 器 磨盤み石	4cm 完形	長 14.4 幅 11.1 厚 4.5	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 709.3
635-16 268	石 器 磨石	床直 片残存	長 (8.5) 幅 6.8 厚 4.2	粗粒安山岩			平截されており、両面共に磨痕が顕著で、端部及び側面にわずかに敲打痕が認められる。	重 387.4

J区第31号住居跡

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
637-1 268	須恵器 高坏	貯蔵穴内 - 3cm 片残存	口 15.0 底 8.3 高 3.8	細砂粒微 黒色細粒多	還元焰 硬質	灰白	輪縁整形(右回転)。体部上半に張り有し、口縁部は外反する。底部は回転未切り無調整であるが、2度の切り直しを行っているようだ。	
637-2	須恵器 高坏	貯蔵穴内 - 8cm 破片	口 (13.0) 底 (7.0) 高 (3.5)	黒色粒微 小粒微	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(右回転)。体部に比較的強い張りを有し、口縁部はゆるく外反する。底部は回転未切り無調整である。	
637-3 268	須恵器 埴	覆土内 片残存	口 15.0 底 8.3 高 5.6	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(右回転)。体部にやや張りを有し、口縁部は弱く外反する。底部は回転未切り後の付高台である。底部に墨書「田?」あり。	
637-4 268	須恵器 埴	覆土内 ほぼ完形	口 13.8 底 6.8 高 5.4	細砂粒少 白色細粒多	還元焰 やや硬質	灰	輪縁整形(右回転)。体部の張りは弱く、口縁部はわずかに外反する。底部は回転未切り後の付高台である。	
637-5 268	須恵器 埴	貯蔵穴内 - 2cm ほぼ完形	口 15.1 底 7.8 高 6.3	白・黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(右回転)。体部の張りは比較的強く、口縁部はわずかに外反する。底部は回転未切り後の付高台と考えられるが、貼り付けに伴う撫でが施され、未切り痕は残存しない。	
637-6 268	須恵器 皿	カマド付 近6cm 破片	口 (14.0) 底 (7.6) 高 (2.9)	細砂粒微	還元焰 硬質	灰白	輪縁整形(右回転)。口縁部は強く外反し、底部は回転未切り後付高台。	
637-7 268	須恵器 皿	覆土内 片残存	口 14.8 底 6.6 高 2.6	細砂粒多	還元焰 やや軟質	灰	輪縁整形(右回転)。体部にわずかに張りを有し、口縁部は外反する。底部は回転未切り後の付高台である。	
637-8	土師器 小型罽	貯蔵穴内 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.4)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焰 硬質	暗赤褐	口縁部は外反し、口縁部内外面撫で後、胴部を横位及び斜位に削削りをする。	

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
637-9	土師器 甕	覆土内 破片	口 (22.0) 底 — 高 (5.3)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焙 硬質	口縁部は「コ」字状を呈し、外面に接合痕を顕著に残している。胴部は横位(右→左)の裏割り後口縁部に横撫でを施す。	
637-10	土師器 台付甕	カマド覆 土内 破片	口 — 底 (9.8) 高 (5.2)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焙 やや硬 質	脚部は「ハ」字状に強く開く。胴部下半は縦位置削り、脚部は横撫でを施す。	
637-11	須恵器 甕	3cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多 小砂少	還元焙 硬質	外面平行叩き。内面素文。	厚 1.2
637-12	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 1.7	白色細粒多 褐色粒少	酸化焙 硬質	凹面に粘土板糸切り痕がみられる。凸面斜格子叩き。	
637-13	瓦 女瓦	貯蔵穴内 —7cm	厚 2.0	白色粒多	還元焙 硬質	一枚作り。凸面に瓦書き文字。文字は不明。	与残存
637-14 268	鉄器 刀子	4cm	長 (6.5) 幅 (1.0) 重 5.4			形状、厚み等から刀子と思われる。	

J区第32号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	径目 (cm) 重量 (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
639-1	土師器 坏	P. —14cm 与残存	口 (11.0) 底 — 高 3.5	褐色細粒多 細砂粒少	酸化焙 硬質	口縁部は強く外反し、底部との間に弱い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、底部裏割り後口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
639-2 268	土師器 坏	覆土内 与残存	口 11.2 底 — 高 (3.0)	白色細粒少 褐色細粒多 細砂粒少	酸化焙 硬質	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。底部は裏割り、口縁部は横撫でを施す。	
639-3	土師器 坏	—2cm 破片	口 (12.4) 底 — 高 (3.6)	褐色細粒多 細砂粒少	酸化焙 軟質	底部は丸底で、口縁部との間に弱い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部は横撫で、底部は裏割りと考えられる。	
639-4	土師器 坏	貯蔵穴内 —55cm 与残存	口 (13.0) 底 — 高 4.0	褐色細粒多 細砂粒少	酸化焙 やや硬 質	口縁部は強く外反し、底部との間に弱い稜を有する。底部は丸底を呈する。整形は、底部裏割り後口縁部横撫で、内面は全面撫でを施す。	
639-5 268	土師器 坏	壁溝 3cm 与残存	口 12.0 底 — 高 4.3	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焙 硬質	底部は丸底で、口縁部との間に強い稜を有し、口縁部は直立する。底部は裏割り、口縁部は横撫でを施す。	
639-6 269	土師器 坏	壁溝 7cm 与残存	口 14.0 底 — 高 4.2	褐色細粒多 細砂粒微	酸化焙 硬質	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。底部は裏割り、口縁部は横撫でを施す。	
639-7 269	須恵器 高坏	貯蔵穴内 —8cm 半球形	口 12.0 底 10.3 高 13.4	白色砂粒多	還元焙 硬質	縦輪整形(右回転)。体部は丸底状で、口縁部との境にゆるい稜を有し、口縁部はわずかに外傾する。脚部は下半で強く開き、内両気味に屈曲する。透しはみられない。	無蓋
639-8 269	土師器 甕	貯蔵穴内 —29cm 尖形	口 18.3 底 — 高 28.7	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焙 硬質	口縁部は「く」字状に外傾し、胴部上半に最大径を有する球筒形で底部は丸底気味である。胴部斜位(上→下)、胴部下半は2段の斜位置削りを施す。	歪みがある。
639-9	土師器 甕	6cm 破片	口 (20.0) 底 — 高 (7.8)	細砂粒少 褐色細粒多	酸化焙 硬質	口縁部「く」字状に強く外反する。肩はあまり張りずら、胴部中位に最大径を有すると思われる。整形は、胴部上半に縦位(下→上)裏割り後口縁部横撫で、内面は横位置撫でを施す。	
639-10 269	須恵器 甕	貯蔵穴内 —49cm 破片	口 — 底 — 高 (5.9)	細砂粒多	還元焙 硬質	組作り後縦輪整形。胴部中位に最大径を有する。整形は胴部上位に櫛状工具の刺突文が2段に尖羽状に施されている。	
639-11 269	須恵器 横甕?	貯蔵穴内 —52cm 破片	口 (10.6) 底 — 高 (12.3)	白色細粒多	還元焙 硬質	組作り後縦輪整形(右回転)。口縁部は外反気味に直立する。口縁部4本と2本単位の平行沈線を超らせ、間に櫛書き文を縦位に施す。	

J区(32・33号住居跡)

探検番号 図版番号	種別 種類	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
639-12 269	石製品 砥石	貯蔵穴内 -11cm 互残存	長 (7.3) 幅 5.1 厚 2.9	磁沢石			断面は4面。	重 130.7
639-13 269	石製品 白玉	掘り方堀 土内 完形	径 1.3 厚 1.0 孔 0.3	滑石			円形に近い形状で、上・下部には磨痕はみられないが、側面に縦位に磨痕がみられる。	重 3.1
639-14 269	石器 磨削み石	10cm 完形	長 13.6 幅 6.3 厚 4.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 519.0
640-15 269	石器 磨削み石	貯蔵穴内 -43cm 完形	長 14.5 幅 6.8 厚 5.0	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 709.7
640-16 269	石器 磨石	覆土内 完形	長 14.6 幅 8.1 厚 4.1	粗粒安山岩			一面の平坦面全面が磨蝕している。	重 775.6
640-17 269	石器 磨削み石	壁溝 ±0 cm ? 完形	長 11.9 幅 6.3 厚 4.1	石英閃緑岩			熱の為に割れているが一部自然面がみられる。使用痕不明。	重 398.5
640-18 269	石器 砥石	28cm 完形	長 11.5 幅 6.0 厚 4.1	溶結凝灰岩			端部に敲打痕有り。	重 435.6
640-19 269	石器 砥石	貯蔵穴内 -47cm 完形	長 11.9 幅 5.3 厚 4.7	溶結凝灰岩			一端にわずかに敲打痕が認められる。	重 447.8

J区第33号住居跡

探検番号 図版番号	種別 種類	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
642-1 269	土師器 環	カマド掘り方 互残存	口 12.9 底 — 高 4.8	褐色細粒多 細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はゆるく外反する。底部窪削り、口縁部は横撫でを施す。	
642-2 269	土師器 環	貯蔵穴内 -40cm 互残存	口 14.0 底 — 高 (4.5)	褐色細粒多 細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は直線的に外傾する。底部は窪削り、口縁部は横撫でを施す。	
642-3 270	土師器 甕	カマド掘り方 互残存	口 13.0 底 — 高 (11.0)	細砂粒少 褐色粒少	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	口縁部は反り気味に直立し、胴部上半に最大径を有する。胴部外面は全面撫で、内面斜位の窪撫で後、口縁部に横撫でを施す。	
642-4 269	土師器 甕	カマド掘り方 破片	口 (18.0) 底 — 高 (9.4)	黒色鉱物粒少 細砂粒少 小礫微	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	口縁部はゆるく外反し、胴部上半にわずかに張りを有する。胴部は斜位(下→上)の窪削り後、口縁部に横撫でを施す。内面は横撫での撫である。	
642-5 269	鉄器 釘	覆土内	長 (5.6) 幅 (0.5) 重 13.9				両端欠損。断面方形である可能性あり。	
642-6 269	鉄器 釘	覆土内	長(7.1 2.2) 幅(9.3 0.3) 重 4.9 0.8				断面は方形に近いもので、上半が曲っている。	
643-7 270	土師器 甕	5cm 互残存	口 23.0 底 — 高 (25.0)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 黄橙	口縁部は外反し、口唇部はさらに外に屈曲する。胴部上半にわずかに張りを有する。口縁部横撫で後、胴部は斜位(上→下)の窪削り、内面は横撫での撫を施す。	
643-8 270	石器 砥石	貯蔵穴内 1cm 完形	長 15.8 幅 6.8 厚 3.8	頁岩			側面に使用に伴う割離が認められ、割離後さらに使用されたことによって、打穿の面のような状態を呈している。	重 604.9
643-9 270	石器 磨削み石	14cm 完形	長 16.6 幅 7.5 厚 5.2	粗粒安山岩			使用痕不明。	重1000.0

遺物一覧表

検出番号 回収番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目 (cm) (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考
643-10 270	石器 馬蹄石	11cm 完形	長 10.4 幅 6.1 厚 3.9	滑結凝灰岩		端部に敲打痕有り。	重 387.4
643-11	石器 馬蹄石	6cm 完形	長 11.9 幅 5.9 厚 2.4	実質安山岩		使用痕不明。	重 285.5
643-12 270	石器 馬蹄石	10cm 完形	長 10.6 幅 4.8 厚 3.9	粗粒安山岩		使用痕不明。	重 275.2

J区第34号住居跡

検出番号 回収番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目 (cm) (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
644-1 270	土器 壺	床下 瓦残存	口 11.8 底 — 高 (4.9)	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焰 やや硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
644-2	土器 壺	覆土内 破片	口 (13.2) 底 — 高 (4.3)	白色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は内湾気味に直立する。口縁部は横撫で、底部は篋削りを施す。	二次焼成の可能性あり。
644-3 270	土器 壺	不明 瓦残存	口 12.0 底 — 高 (3.7)	黒色鉱物粒微 褐色細粒多 細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
644-4 270	須恵 壺	覆土内 完形	口 15.0 幅 — 高 2.8	白色粒感	還元焰 硬質	青灰	輪縁整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状で、口縁部は体部と比較して厚く、水平に開く。天井部外面は回転篋削り、内面には指先の一撫でが認められる。外面全面に自然輪がかり、一部口縁部内面にも及ぶ。	J区10号住-14と同一。
644-5	須恵 壺	9cm 破片	口 — 底 — 高 —	白色鉱物粒微 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	外面平行叩きで、内面青濁波文。	厚 1.2
644-6 270	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.8	白色細粒多 白色鉱物粒少	還元焰 硬質	褐灰	一枚作り。凸面粗い後で後斜格子叩き、凹面全面撫で。	
644-7 270	石器 敲石	13cm 完形	長 13.6 幅 7.8 厚 3.5	粗粒安山岩			端部側面に敲打痕があり、側面に磨滅痕がみられる。	重 545.7
644-8 270	石器 磨石	12cm 瓦残存	長 (9.0) 幅 5.0 厚 3.6	実質安山岩			裏面と側面に磨痕が有り、端部に敲打による剥離面がみられる。	重 322.8

J区第35号住居跡

検出番号 回収番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目 (cm) (g)	胎土	焼成 色調	器形・技法等の特徴	備考	
648-1 271	土器 壺	床下覆土 瓦残存	口 11.0 底 — 高 (2.9)	黒色鉱物粒多 白色細粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部は短く、わずかに外反する。口縁部横撫で後底部に篋削りを施す。	
648-2 271	土器 壺	覆土内 瓦残存	口 11.5 底 — 高 3.9	黒色鉱物粒少 白色鉱物粒微 褐色細粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部との境の稜は比隣によってより鮮明化している。口縁部は短く外反する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
648-3 271	土器 壺	掘り方 瓦残存	口 10.0 底 — 高 (3.9)	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 やや軟質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は短く直立する。底部は篋削り、口縁部は横撫でを施す。	
648-4	土器 壺	覆土内 破片	口 (14.0) 底 — 高 (4.0)	黒色細粒少 褐色細粒多 砂粒微	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は「く」字状に立ち上り、体部篋削り後口縁部横撫でを施す。	
648-5	土器 壺	覆土内 瓦残存	口 16.0 底 (9.8) 高 (5.7)	白色細粒多 褐色鉱物粒微 褐色粒少	酸化焰 硬質	茶	底部平底で、体部はわずかに内湾し、口縁部がわずかに外反する。底部は内湾方向の手持ち篋削りで、体部内外面は横撫でを施し、内面を黒色処理する。	

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
648-6	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 柄 — 高 (2.7)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	楕圓形(右回転)。天井部は平高状で、体部にわずかに丸味があり、口縁部との境に明瞭な線を有する。天井部外面は手持り寛削りを施し、寛削りがある。	
648-7	須恵器 蓋	覆土内 破片	口 — 柄 — 高 (2.2)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	楕圓形(?)。天井部外面に手持り寛削りを施す。	
648-8	須恵器 蓋	P ₂ -8cm 2cm 破片	口 — 柄 — 高 (13.5)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰白	外面格子印き、内面青海波文。	
648-9	須恵器 蓋	26cm 破片	口 (26.0) 底 — 高 (4.6)	細砂粒多	還元焰 硬質	灰白	紐作り。口縁部は強く外反し、口唇部外面直下に沈線を一本廻らす。	
648-10 271	須恵器 埴	覆土内 瓦残存	口 — 底 (11.2) 高 (4.0)	夾雑物なし	還元焰 やや軟質	灰白	楕圓形(右回転)。底部赤切り後付高台。高台部は丁寧な態を施す。	
649-11 271	土師器 壺	カマド掘り方 瓦残存	口 19.8 底 — 高 (18.4)	細砂粒多 黒色鉱物粒多 褐色粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は強く外反し、長胴で胴中位に張り子を有する。胴部縦位置削り後口縁部横撫で、内面は横位の寛撫でを施す。	
649-12 271	石製品 白玉	床下 完形	径 2.2 厚 0.8 孔 0.25	滑石			周縁及び両面共割られた状態に近く、器面の整形をほとんどしていない。	重 3.5
649-13 271	石器 砥石	床直 完形	長 13.5 幅 7.4 厚 3.7	粗粒安山岩			上端部と側面に敲打痕有り。	重 586.1
649-14 271	石器 磨石	壁溝 —3cm 完形	長 13.2 幅 6.7 厚 4.2	粗粒安山岩			上端部擦痕有り。	重 614.8
649-15 271	石器 磨石	4cm 完形	長 14.0 幅 5.7 厚 3.8	ひん岩			上端部及び側端部に擦痕有り。	重 509.5
649-16 271	石器 磨石	2cm 完形	長 14.0 幅 6.4 厚 3.8	ひん岩			使用痕不明。	重 509.5
649-17 271	石器 磨石	2cm 完形	長 12.6 幅 6.9 厚 3.7	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 472.9
649-18 271	石器 磨石	3cm 完形	長 12.5 幅 5.7 厚 4.2	ひん岩			使用痕不明。	重 430.1
649-19 271	石器 磨石	2cm 完形	長 11.8 幅 7.0 厚 4.7	ひん岩			使用痕不明。	重 558.1
649-20 271	石器 磨石	5cm 完形	長 12.5 幅 7.1 厚 3.1	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 443.7
649-21	石器 磨石	4cm 完形	長 11.5 幅 7.2 厚 4.1	砂岩			使用痕不明。	重 455.9

J区第36号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
650-1 271	土師器 坏	覆土内 ほぼ完形	口 13.3 底 — 高 3.7	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	褐	底部は扁平な丸底で、体部から口縁部にかけてわずかに内湾する。底部は横削り、口縁部は横撫でで、胴に整形不明瞭な部分が認められる。	
650-2 271	須恵器 坏	11cm 完形	口 12.0 底 7.0 高 3.2	黒色円粒少	還元焰 硬質	灰	楕圓形(右回転)。体部はわずかに内湾気味に立ち上がる。底部は回転赤切り無調整。内面に重ね模の痕跡が認められる。	外面に自然釉。

遺物一覧表

棟内番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	寸目 量目 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
650-3 271	須志 壺 坏	9cm 完形	口 13.5 底 8.5 高 3.2	砂粒微	還元焰 硬質	灰	輪廊整形(右回転)。体部はわずかに内湾気味に立ち上がる。底部は回転旋切り無調整である。	
650-4 271	須志 壺 坏	床直 ほぼ完形	口 13.0 底 9.7 高 3.6	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	輪廊整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部は回転旋切り無調整。内外面に歯輪状の付着物が認められる。	
650-5	須志 壺 蓋?	7cm 破片	口 (26.0) 横 一 高 (3.1)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	輪廊整形(右回転)。比較的緩いかえりを有し、外面は回転旋削りを施す。皿の可能性有り。	
650-6	須志 壺 蓋	覆土内 破片	口 一 横 一 高 一	褐色細粒多 白色細粒微	還元焰 硬質	灰	輪廊整形(?)。天井部外縁に段を有し、水平に蹄状に突出する。口縁部はやや外傾するものと考えられる。	
650-7	須志 壺 壺	18cm 破片	口 一 底 一 高 一	褐色粒少	還元焰 硬質	灰黄	外面格子印き。内面青海波文。	
651-8 272	土師 罎 罎	床直 1/2残存	口 21.5 底 一 高 (27.0)	細砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に外反し、肩部に張り有りする。口縁部横撫で後刻部は(下→上)、下半は(上→下)の斜位旋削り、内面は横位の磨撫でを施す。	口縁部に接合痕有り。
651-9 271	土師 罎 鉢	8cm 1/2残存	口 21.0 底 一 高 11.2	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は平湾気味で、体部上半に一段の屈曲を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部は横撫で、屈曲部下半は横位(右→左)の磨削りでは粗い撫でと考えられる。底部は磨削り、内面は横位の丁寧な磨でである。	
651-10 272	石製 品 紡錘 車	6cm 完形	径 7.4 厚 3.5 孔 0.3	角閃石安山岩			周縁は磨削り後に縦に磨で磨り整形している。穿孔は両側から。	重 139.6
651-11 272	石製 品 砥石	5cm 1/2残存	長 (12.7) 幅 10.6 厚 4.0	砥沢石			四面残存し、一面に断面「V」字状の刻みが、他面には縦打痕がみられる。	重 839.6
651-12 272	石製 品 砥石	覆土内 1/2残存	長 (3.8) 幅 3.0 厚 1.4	砥沢石			断面長方形で、砥面は四面である。	重 28.1

J区第37号住居跡

棟内番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	寸目 量目 (mm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
654-1 272	土師 罎 坏	4cm 1/2残存	口 10.3 底 一 高 3.2	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く「く」字状に屈曲する。底部磨削り、口縁部は横撫でを施す。	
654-2	須志 壺 壺	覆土内 1/2残存	口 (10.0) 横 一 高 (1.5)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	輪廊整形(右回転)。比較的強いかがえりを有し、天井部外面は回転旋削りを施す。	外面に自然軸。
654-3	土師 罎 罎	カマド 罎 破片	口 (22.4) 底 一 高 (5.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒多 褐色粒多	酸化焰 やや硬質	橙	口縁部は「く」字状に強く外傾し、整形は口縁部横撫でを施し、内面は撫でを施している。	
654-4 272	土師 罎 罎	罎り方 13cm 1/2残存	口 22.7 底 一 高 (15.0)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	茶	胴部に張りがなく、口縁部は「く」字状に強く屈曲する。口縁部横撫で後、上半(下→上)、下半(上→下)の斜位旋削りを施す。	
654-5 272	青磁	覆土内 破片	口 一 底 一 高 一			オリブ 灰	一	厚0.5
655-6	須志 壺 壺	17cm 破片	口 一 底 一 高 一	細砂粒少 褐色粒少	還元焰 やや軟質	灰白	紐作り印き整形。外面は格子印き後、横位カキ目を数度施す。内面青海波文。頸部付近の剝離面に格子印きの痕跡を明確に残している。	厚0.8
655-7	須志 壺 罎	罎り方 20cm 破片	口 一 底 一 高 (27.0)	小礫微 砂粒少 黒色円粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り印き整形。外面平打り後横位に輪状工具による撫でを施す。内面青海波文。	

J区第38号住居跡

押印番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
658-1	土器 環	カマド内 破片	口 (17.0) 底 — 高 (4.3)	細砂粒少 黒色鉱物粒少	酸化焰 硬質	橙	口縁部は強く内傾し、底部はやや深めの丸底を呈する。口縁部横撫で、内面も回転撫で。底部は寛削りを施す。	
658-2	須恵器 環	カマド内 破片	口 (10.2) 底 — 高 (3.3)	黒色円粒少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(?)。底部は丸底で、受け部は上方を向き、口縁部は比較的長く内傾する。底部は回転寛削りを施す。	
658-3 272	須恵器 高 環	床直 片残存	口 11.8 底 — 高 (5.8)	砂粒多	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(右回転)。体部は丸底状で、口縁部との境で屈曲し、口縁部は内湾気味に直立する。口縁部に2本沈線を通す。脚部は長頸二段造しと考えられる。	無蓋
658-4 272	土師器 壺	2cm 片残存	口 22.0 底 — 高 (15.5)	砂粒多	酸化焰 硬質	黄橙	胴部に張りはなく、口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部を強く横撫で後、胴部を縦位(上→下)削りを施す。内面は横位撫でである。	
658-5	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	砂粒微	還元焰 硬質	灰	口縁部の破片で、口縁部中位に、波状文と沈線を施す。	厚 1.2
658-6	石器 磨 高幅み石	床下覆土 内 完形	長 10.4 幅 5.2 厚 4.8	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 437.8
659-7 273	石器 磨 石?	12cm 一部欠損	長 26.4 幅 19.6 厚 8.6	実質安山岩			一面に使用に伴うと考えられる割傷がみられる。	重6000.0

J区第39号址

押印番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
661-1 273	土師器 壺	15cm 片残存	口 22.1 底 — 高 (18.3)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部に張りはなく、口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部横撫で後胴部上半は斜位(右→左)、下半は縦位(上→下)の削りであるが、一部下半は斜位(下→上)の部分も認められる。内面は横位撫でを施すが、接合痕が明瞭に残っている。	
661-2 273	石器 磨 石	覆土内 完形	長 17.1 幅 13.3 厚 8.4	角閃石安山岩			一面のみ使用されており、断面「V」状の割傷が数条みられる。	重1539.6

J区第40号住居跡

押印番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
661-3	土師器 環	覆土内 破片	口 (16.3) 底 — 高 (3.4)	黒色鉱物粒微 細砂粒少	酸化焰 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。体部から底部を削り後、口縁部に横撫でを施す。内面の撫では丁寧である。	
661-4	土師器 壺	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (9.8)	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焰 軟質	橙	胴部上位に最大径を有し、口縁部は弱く外反する。口縁部横撫で、胴部は斜位の削り。	
661-5 273	土師器 壺	覆土内 片残存	口 22.0 底 — 高 (15.0)	小礫多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	胴部に張りはなく、口縁部は「く」字状に同く。口縁部横撫で後、胴部を縦位(下→上)削りを施す。内面は横位の寛撫である。	
661-6	土師器 壺	覆土内 破片	口 (19.0) 底 — 高 (10.3)	小礫多	酸化焰 軟質	にぶい 橙	胴部に張りはなく、口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部横撫で後、胴部に縦位削りを施す。	
661-7	須恵器 壺	覆土内 破片	口 — 幅 — 高 (2.0)	黒色円粒微 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(?)。天井部は平坦で、外縁に段を有する。突帯は短く水平に延びている。口縁部はやや外に開くものと考えられる。	
661-8	石器 磨 石	覆土内 完形	長 11.3 幅 5.3 厚 3.0	粗粒安山岩			上部と側面に敲打痕有り。	重 295.1

遺物一覧表

J区第41号住居跡

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	直径 (cm) 高さ (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
665-1 273	土師器 坏	24cm 3/4残存	口 13.0 底 — 高 3.8	褐色細粒多 細砂粒少	酸化焰 やや軟質	黄緑	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に縦溝的な稜を有し、口縁部は弱く外反する。外面底部寛削り後、口縁部横撫で、内面見込み部は粗い放射状、口縁部横位の磨削後、黒色処理を施す。	
665-2 273	土師器 坏	4cm 完形	口 12.1 底 — 高 4.0	黒色鉱物粒微	酸化焰 硬質	橙	底部は浅い丸底で、口縁部との境に弱い稜を有し、口縁部は外反する。口縁部横撫で後、底部に寛削りを施す。	
665-3	土師器 坏	覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (3.3)	褐色粒微	酸化焰 軟質	橙	口縁部は外傾し、口縁部との境に段を有する。底部丸底で、底部寛削り、口縁部及び内面は横撫でを施す。器内がうすい。	
665-4	須恵器 坏	覆土内 破片	口 (11.0) 底 — 高 (2.8)	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	縦縞整形(?)。受け部は「く」字状に屈曲し、上方を向き、体部との境は沈線状を呈する。口縁部は内傾し、体部内面との境は「く」字状を呈する。	
665-5	須恵器 蓋	覆土内 3/4残存	口 (13.0) 横 — 高 (4.0)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	縦縞整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状で、口縁部は反り気味に開く。天井部外面にラセン状の回転寛削りを施す。	
665-6 273	須恵器 蓋	覆土内 3/4残存	口 12.0 横 — 高 3.9	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	縦縞整形(右回転)。天井部は丸底状で、口縁部はわずかに内湾する。天井部外面にラセン状の回転寛削りを施す。	
665-7 273	須恵器 蓋	覆土内 3/4残存	口 11.0 横 — 高 4.0	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	縦縞整形(右回転)。天井部は扁平な丸底状で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部はやや反り気味である。天井部外面にはラセン状の回転寛削りを施す。	
665-8	須恵器 蓋	覆土内 3/4残存	口 — 横 — 高 (2.0)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	縦縞整形(左回転)。口縁部はやや内湾気味。底部は回転寛削りを施す。	
665-9	土師器 高坏	覆土内 破片	口 (28.0) 底 — 高 (4.5)	褐色細粒少 細砂粒微	酸化焰 軟質	黄緑	体部と口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は外反する。内面は撫で後黒色処理を施す。	
665-10 273	土師器 小型壺	4cm ほぼ完形	口 10.0 底 — 高 10.2	黒色鉱物粒多 褐色細粒多 細砂粒多	酸化焰 軟質	黄緑	球割丸底で、口縁部はわずかに外反する。胴部は撫で、口縁部は横撫でを施す。	
665-11	土師器 甕	貯蔵穴内 -12cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 (9.6)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部に強い張りほみられず、口縁部は外反する。胴部は斜位(右→左)寛削り、口縁部は横撫で、内面横位→斜位の寛撫でを施す。	
666-12 273	土師器 罐	カマド内 3cm -16cm ほぼ完形	口 23.3 底 6.0 高 41.0	小礫多 褐色粒多	酸化焰 やや軟質	黄緑	口縁部は「く」字状に外反し、肩部及び底部近くに張り有する。胴部外面は縦位寛削りと考えられるが、器面は磨滅し不明瞭である。口縁部は横撫で、内面は横位撫でである。	
666-13 273	土師器 小型壺	10cm 3/4残存	口 12.5 底 — 高 (5.4)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	黄緑	胴部は短形状を呈すると思われ、口縁部はやや反り気味に直立する。胴部は斜位→横位の寛削りと考えられ、口縁部は横撫でである。また、口縁部に3段の稜を有する。	
666-14 273	土師器 甕?	カマド内 15cm, 4cm ほぼ完形	口 21.7 底 — 高 (15.5)	小礫多	酸化焰 硬質	茶	口縁部が強く外反する鉢形を呈する。口縁部横撫で後胴部斜位(下→上)の寛削りを施す。内面は丁寧な横位撫でである。	
666-15	土師器 甕	7cm 破片	口 (23.0) 底 — 高 (8.0)	細砂粒多 褐色細粒多	酸化焰 やや軟質	黄緑	口縁部は外反し、口縁部横撫で後、胴部斜位の寛削りを施す。	
666-16 273	土師器 甕	貯蔵穴 -15cm, カマド付 近3cm 3/4 残存	口 20.8 底 — 高 (10.5)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部上半にわずかに張り有し、口縁部は中に1段の稜を有し、「く」字状に強く外反する。胴部縦位(上→下)の寛削り後、口縁部に横撫でを施す。	

J区(41号住居跡)

発掘番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
666-17	須恵器 壺	2cm 破片	□ (23.0) 底— 高(6.0)	褐色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り後継継整形(右回転)。口縁部は外反し、 上端外面肥厚する。	口縁部内 面に厚く 自然釉。
666-18	須恵器 壺	9cm 破片	□ — 底— 高—	白色鉱物粒少 白色粒多	還元焰 硬質	灰	紐作り叩き整形。外面叩き具不明で、横位に カキ目?を施す。内面は素文道具。	
667-19	須恵器 壺	16cm 破片	□ — 底— 高—	白色粒多	還元焰 硬質	灰	外面平行叩き後、カキ目状継継文。内面背 海渡文。	厚0.8
667-20	須恵器 壺	4cm 破片	□ — 底— 高—	白色細粒少 褐色粒微	還元焰 硬質	灰	紐作り後叩き整形。外面平行叩き、内面は背 海渡文で、指先の側でを粗く施す。	厚0.8
667-21	須恵器 壺	覆土内 破片	□ — 底— 高(6.6)	細砂粒少	還元焰 硬質	灰	口縁部に14本単位の縞縞波状文を施す。	
667-22	瓦 女瓦	覆土内 破片	厚 2.0	黒色粒多 小礫微	還元焰 硬質	灰	一枚作り?凸面網叩きで磨かれ砂が付着。凹面 に粘土板未切り痕がわずかに認められる。	
667-23	瓦 女瓦	19cm 瓦残存	厚 2.5	褐色粒多 砂粒少	酸化焰 硬質	濃い 橙	一枚作り?凸面全面磨で、凹面は縦位の粗い 磨でを施す。凹面に磨を受けた痕跡あり。	
667-24	瓦 女瓦	10cm 破片	厚 2.0	白色細粒多 黒色円粒微	還元焰 硬質	灰	一枚作り。凸面に正格子叩き。	
667-25 273	石器 敲石	床直 宛形	長 17.0 幅 13.5 厚 4.0	粗粒安山岩			側面に敲打痕有り。	重 1,521.6
667-26 274	石器 不明	1cm 瓦残存	長 (13.4) 幅 20.5 厚 6.8	石英閃緑岩			使用痕不明。平截されている。	重 2,845.0
668-27 274	石器 敲石	P ₁ ±0cm 宛形	長 15.8 幅 14.4 厚 4.3	粗粒安山岩			左側面に敲打痕有り。	重 1,465.1
668-28 274	石器 磨石?	-2cm ほぼ宛形	長 16.0 幅 (14.0) 厚 4.3	粗粒安山岩			上端側面に磨痕有り。	重 1,653.1
668-29 274	石器 不明	カマド付 近9cm 瓦残存	長 (16.5) 幅 (12.0) 厚 8.0	石英閃緑岩			使用痕不明。平截されている。	重 2,610.0
668-30 274	石器 不明	床直 瓦残存	長 18.4 幅 (11.8) 厚 4.3	粗粒安山岩			使用痕不明。	重 1,508.2
668-31 274	石器 磨石?	カマド付 近10cm 瓦残存	長 (10.6) 幅 15.3 厚 3.9	粗粒安山岩			上端側面に削磨がみられるが、使用に伴うも のか不明。一面に磨減がみられる。	重 924.0
668-32 274	石器 磨削み石	覆土内 宛形	長 13.7 幅 6.1 厚 4.0	輝緑岩			使用痕不明。	重 615.5
668-33 274	石器 磨削み石	覆土内 宛形	長 13.5 幅 7.1 厚 4.5	ひん岩			使用痕不明。	重 692.2
668-34 274	石器 磨削み石	覆土内 宛形	長 13.8 幅 6.5 厚 3.8	実質安山岩			使用痕不明。	重 532.0
668-35 274	石器 磨削み石	P ₁ 17cm 宛形	長 12.7 幅 6.6 厚 3.7	実質安山岩			使用痕不明。	重 492.8
668-36 274	石器 敲石	3cm 宛形	長 13.3 幅 8.7 厚 5.5	粗粒安山岩			左側面に敲打痕有り。	重 997.2
669-37 274	石器 敲石	覆土内 瓦残存	長 (11.5) 幅 8.6 厚 4.7	粗粒安山岩			平截されており、右側面に敲打痕有り。	重 624.4

遺物一覧表

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
669-38 274	石器 觥	貯蔵穴内 5cm 底 完形	長 12.9 幅 6.8 厚 4.2	実質安山岩			左側面に敲打痕有り。	重 610.8
669-39 274	石器 觥	貯蔵穴内 7cm 底 完形	長 14.3 幅 6.5 厚 4.3	粗粒安山岩			下端側面に使用に伴うと考えられる剝離面がある。	重 571.1
669-40 273	石器 觥	覆土内 底 完形	長 11.4 幅 6.7 厚 3.0	ひん岩			下端側面に使用に伴うと考えられる剝離面がある。	重 344.9
669-41 273	石器 磨製石	9cm 片残存	長 幅 厚 6.6 4.1	実質安山岩			半截されている。使用痕なし。	重 486.9

J区第44号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
673-1 275	土器 器環	貯蔵穴内 -70cm 片残存	口 10.7 底 - 高 3.3	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焙 軟質	ぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。底部は寛削り、口縁部は横撫でを施す。	
673-2 275	須恵器 高環	貯蔵穴内 -74cm 片残存	口 - 底 8.0 高 (6.3)	白・黒色胎粒 少	還元焙 硬質	灰	轆轤整形(?)脚部は「ハ」字状に下半が開く。	

J区第47号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
676-1 275	土器 器環	1cm 片残存	口 13.8 底 - 高 4.7	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焙 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部は短くわずかに内湾する。底部寛削り後口縁部に横撫でを施す。	
676-2 275	土器 小型壺	床直 片残存	口 12.3 底 - 高 (7.2)	黒色鉱物粒少 砂粒少	酸化焙 硬質	橙	胴部は球形状で、口縁部は「C」字状に鋭く外反する。胴部は斜位(左→右)の寛削りで、口縁部は指頭押圧後絶え横撫でを施す。	
676-3 275	土器 壺	-4cm 破片	口 21.0 底 - 高 (11.1)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焙 硬質	ぶい 橙	胴部上位に張り有し、口縁部は「く」字状に強く外反する。口縁部横撫で後、胴部に斜位(下→上)の寛削りを施す。	
676-4 275	土器 壺	床直 破片	口 (22.0) 底 - 高 (7.8)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焙 硬質	ぶい 黄褐	口縁部は「く」字状に強く外反する。整形は外面横撫で後斜位(下→上)の寛削り、口縁部内面に一本の弱い沈線が廻る。内面寛撫で、内・外面に接合面がみられる。	
676-5 275	土器 瓶	床直 -4cm 片残存	口 - 底 10.0 高 (19.5)	小礫少 砂粒多	酸化焙 硬質	ぶい 橙	胴部下半のみで上半は不明。胴部は斜位(下→上)、下端(上→下)の寛削り、内面は斜位の粗い撫でを施す。孔周辺内面は寛削りされている。	

J区第48号住居跡

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
677-1 275	須恵器 壺	6cm ほぼ完形	口 12.8 底 7.0 高 5.0	褐色粒多 砂粒少	中性焙 硬質	黄褐	轆轤整形(右回転)。体部中央におわずかに張りを有し、口縁部は外反する。底部は回転未切り後の付高台。高台貼り付けは襷で、粘土紙状を呈する。	
677-2	須恵器 羽釜	覆土内 破片	口 (20.0) 底 - 高 (7.5)	白色粒少 褐色粒多	中性焙 硬質	ぶい 褐	組作り轆轤整形。胴部上位の張りが強く、最大径は胴部に有する。脚は反り気味で短く、貼り付けは丁寧である。口縁部は内湾し、口唇部は平坦で強く内傾する。	

J区第52号住居跡

検出番号 図版番号	種類	出土位置 遺存状態	寸法 目録	土質	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
680-1 275	土器 環	カマド内 ±0cm 瓦残存	口 12.1 底 — 高 (4.0)	細砂粒微 褐色粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に明確な線を有し、口縁部は直線的に外傾する。底部は寛削り、口縁部は横撫でを施す。	
680-2 275	土器 環	カマド袖 前1cm 完形	口 13.0 底 — 高 4.3	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	黄橙	底部は丸底で、口縁部は反り気味に直立する。底部は寛削り、口縁部は横撫でを施す。内面は横位に粗い磨き後黒色処理を施す。	
680-3 275	土器 鉢	5号床下 土坑 -7cm 瓦残存	口 20.0 底 — 高 (7.6)	細砂粒微 褐色粒多	酸化焰 軟質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に線を有し、口縁部は中位に1段の線を有してわずかに外傾する。底部は寛削り、口縁部は横撫でを施し、内面は全面比較的丁寧な撫で後黒色処理を施す。	
680-4	須恵器 高環	覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (3.7)	白色細粒多	還元焰 硬質	暗灰	輪縁整形(?)。体部は丸底状で、口縁部との無蓋境に強い線を有し、口縁部は内再気味に開く。口縁部中位に一本の沈線を描き出し、縁との間に彫線状伏文、体部にカキ目を施す。	
680-5 275	土器 台付甕	P ₁ -16cm 破片	口 — 底 11.0 高 (5.0)	黒色鉱物粒多 砂粒多 褐色粒多	酸化焰 硬質	黄橙	胴部破片で、「ハ」字状に強く開く。内外面共に撫でを施す。	
680-6 275	土器 小型甕	P ₁ -16cm 破片	口 10.0 底 — 高 (7.0)	細砂粒少 褐色粒多	酸化焰 軟質	橙	胴部は球形状で、頸部はくびれ、口縁部はわずかに外反する。胴部は斜位(左→右)の寛削り、口縁部は強く横撫でを施す。	
680-7 275	土器 甕	カマド内 ±0cm 完形	口 15.5 底 5.0 高 19.7	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	黄	胴部中位に僅かに張り有り、口縁部は「C」字状に強く外反する。口縁部横撫で後、胴部縦位(上→下)の寛削り、内面は横位の磨撫でを施す。	
680-8 275	土器 甕	カマド内 ±0cm 瓦残存	口 24.0 底 4.0 高 31.2	砂粒多	酸化焰 硬質	橙	胴部上位に僅かに張り有り、口縁部は「く」字状に強く外反する。胴部上半斜位(下→上)、下半縦位(上→下)2段の寛削りを施す。	
680-9 275	土器 甕	カマド内 1cm 瓦残存	口 20.0 底 — 高 (19.5)	黒色鉱物粒多 砂粒多 褐色粒多	酸化焰 軟質	黄橙	胴部に張りはみられず、口縁部は「く」字状に外反する。胴部は縦位寛削りと考えられるが、器面の磨撫が微しく不明。	
680-10 275	石器 磨礪み石	6cm 完形	長 13.3 幅 5.0 厚 3.8	砂岩			使用痕不明。	重 396.6
680-11 275	石器 磨礪み石	3cm 完形	長 12.9 幅 5.5 厚 4.2	実質安山岩			使用痕不明。	重 413.3
680-12 276	石器 敲石	8cm 完形	長 12.5 幅 5.9 厚 4.7	石英閃緑岩			端部におそらく敲打痕がある。	重 471.4
680-13 276	石器 磨礪み石	4cm 完形	長 14.2 幅 5.7 厚 4.2	ひん岩			使用痕不明。	重 486.3
681-14 276	石器 磨礪み石	7cm 一部欠損 ?	長 (13.3) 幅 6.2 厚 4.2	石英閃緑岩			一端が端によって剥落している。	重 599.8
681-15 276	石器 不明	5cm 完形	長 10.9 幅 7.4 厚 4.4	石英閃緑岩			使用痕不明。	重 507.6
681-16 276	石器 不明	8cm 瓦残存	長 (9.8) 幅 (5.9) 厚 4.5	石英閃緑岩			熱によって剥落している。使用痕は不明。	重 407.5
681-17 276	石器 磨礪み石	2cm 完形	長 12.0 幅 5.5 厚 4.4	磨礪燧灰岩			使用痕不明。	重 465.9
681-18 276	石器 敲石	6cm 完形	長 12.9 幅 6.6 厚 3.8	粗粒安山岩			端部におそらく敲打痕がみられる。	重 483.6

遺物一覧表

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
681-19 276	石器 不明	1cm 片残存	長 (8.8) 幅 (5.1) 厚 (3.5)	輝緑岩			熱によって器面に割傷している。	重 213.3
681-20 276	石器 不明	17cm 完形	長 18.2 幅 11.7 厚 9.6	粗粒安山岩			使用痕は不明であるが、一部に炭化物の付着がみられる。	重 1,938.3
681-21 276	石器 石	2cm 完形	長 13.1 幅 6.9 厚 6.2	ひん岩			両面に断面「V」字状の刻みがみられ、側面の一部に磨減した部分が認められる。	重 821.5
681-22 276	石器 黒編み石 ?	3cm 一部欠損	長 13.7 幅 6.7 厚 4.3	石英閃緑岩			熱によって器面に割傷がみられる。	重 492.7

J 区第53号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
682-1	土器 器 環	20cm 破片	口 (14.0) 底 — 高 (3.5)	褐色細粒少	酸化焰 やや軟質	黄褐	口縁部は直立し、腰部との間に段をもち、底部は平底気味の丸底である。内外面に黒色塗彩。	
682-2	土器 器 環	20cm 破片	口 (16.0) 底 — 高 (6.5)	白色砂粒多	酸化焰 軟質	灰白 黒褐	胴部は球割と考えられ、口縁部はやや内湾気味に「く」字状に屈曲する。口縁部に指痕状、内面に接合痕が認められる。	
682-3 276	石器 石	覆土内 完形	長 9.9 幅 8.2 厚 4.7 重 385.6	粗粒安山岩			両面中央部に敲打による凹みがみられる。	縄文時代の凹石に類似。

J 区第54号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
683-1	土器 器 環	3cm 破片	口 (11.0) 底 — 高 (3.6)	細砂粒微 褐色細粒微	酸化焰 硬質	にぶい 褐	口縁部は弱く直立し、底部との間に強い段を有する。底部は丸底を呈する。壺形は底部寛がり後口縁部横撫でを施す。	
683-2	土器 器 環	覆土内 破片	口 (12.8) 底 — 高 (4.1)	細砂粒微 褐色細粒多	酸化焰 硬質	橙	口縁部は弱く内湾気味に外傾し、底部との間に強い段を有する。底部は丸底を呈する。壺形は底部寛がり後口縁部横撫でを施す。	
683-3 276	土器 器 環	4cm 片残存	口 14.1 底 — 高 (3.0)	細砂粒少 黒色炭物粒少	酸化焰 やや硬質	黒褐	底部は扁平な丸底状で、口縁部との間に段を有し、口縁部は外反する。底部窪入り、口縁部は横撫でを施す。内面は黒色塗彩の可能性が高い。	
683-4 276	鉄器 釘	覆土内	長 (2.9) 幅 (0.4) 重 2.2				両端が欠損し、断面は方形である。	

J 区第55号住居跡

押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
671-1	須恵器 羽蓋	カマド底 面 破片	口 (18.0) 底 — 高 (6.8)	黒色炭物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 褐	紐作り縦縞彫形。胴部は縦位(上一下)の凹削りを施す。口縁部は弱く内傾し、口唇部は平坦で水平である。胴部上半にやや窪りを有し、脚は断面三角形で比較的丁寧な貼り付けである。内面は横撫でされている。	
671-2	須恵器 羽蓋	カマド底 面 破片	口 (22.0) 底 — 高 (6.5)	黒色炭物粒多 砂粒少 褐色細粒少	中性焰 硬質	にぶい 橙	紐作り縦縞彫形。口縁部は直立し、口唇部は平坦で水平である。脚は三角形で丁寧な貼り付けである。胴部は縦位(上一下)の凹削りを施す。	
671-3 275	石器 黒編み石 ?	カマド底 面 片残存	長 (8.6) 幅 7.7 厚 3.1	蛇紋岩			半截されている。使用痕不明。	重 353.8

J区(53・54・55・56号住居跡)(住居跡追補)(1号掘立柱建物跡)(土坑)

J区第56号住居跡

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
684-1 276	土製品 羽口	2cm	底 孔 1.7				先端部のみ残存し、外面全体に付着物が認められる。	

J区住居跡追補

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
685-1 257	土師器 甕	1号住 カマド内 10cm 瓦残存	口 29.4 底 — 高 (26.6)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	口縁部は「く」字状に強く外反し、胴部上半に張りをもつ。胴部横位(右一左)、胴部縦位(上一下)の寛削り後口縁部に横線を描す。内面は横位磨面。	
685-2 261	土師器 甕	9号住 床直 瓦残存	口 20.7 底 — 高 (18.1)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	黄橙	口縁部は「く」字状に外反し、中に線を有し、胴部中にわずかに張りをもつ。口縁部横位で後胴部は斜位(下一上)の寛削り、内面横位磨面を描す。	
685-3	土師器 甕	33号住カ マド右袖 瓦残存	口 20.3 底 — 高 (25.0)	砂粒少 小礫多	酸化焰 硬質	赤褐	口縁部は短く、「く」字状に外反する。長割で肩部、胴部の張りはない。口縁部横位で、胴部縦位(下一上)寛削りをする。	
685-4 272	土師器 甕	28号住 カマド内 10cm 瓦残存	口 20.1 底 — 高 (21.6)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 黄橙	胴部の張りは非常に弱く、口縁部は「く」字状に外反し、中に強い線を有する。口縁部縦位(下一上)寛削り後口縁部に横線を描す。内面は横位磨面を描す。外面には接合痕が数段認められる。	

J区第1号掘立柱建物跡

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
686-1	土師器 坏	柱穴覆土 破片	口 (13.0) 底 — 高 (5.0)	褐色粒多 白色細粒少	還元焰 硬質	明赤褐	口縁部弱く内湾し、底部はやや深い丸底を呈する。整形は、全面寛削り。内面は放射状肌磨きを施す。	
686-2	須恵器 坏	柱穴覆土 破片	口 — 底 (7.2) 高 (2.5)	白・黒色細粒	還元焰 硬質	灰白	輪縁整形(右回転?)。底部は回転削り調整。	
686-3	須恵器 坏	柱穴覆土 破片	口 — 底 (7.8) 高 (1.6)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(?)。底部は回転削り調整。	
686-4	須恵器 蓋	柱穴覆土 瓦残存	口 (16.0) 底 — 高 (3.9)	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(右回転)。体部にわずかに張りをもつ。口縁部はわずかに突出する。天井部外面は回転削り。	

J区土坑

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度目 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
688-1	須恵器 甕	19号土坑 覆土内 破片	口 (11.5) 底 — 高 (4.0)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	輪縁整形(右回転)。口縁部は上位に線を有し、外傾し、口唇部に段をもつ。	
689-2 277	土師器 坏	14号土坑 覆土内 瓦残存	口 10.0 底 — 高 3.3	黒色鉱物粒少 白色鉱物粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横位で、底部は寛削りをして、間に調整不明瞭な部分認められる。	
689-3 277	土師器 坏	14号土坑 35cm 瓦残存	口 10.3 底 — 高 (2.8)	黒色鉱物粒少 白色細粒少	酸化焰 やや軟質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く直立する。底部は寛削り、口縁部は横位を描す。	器面の磨減が激しい。
689-4 277	土師器 坏	14号土坑 51cm 瓦残存	口 11.0 底 — 高 (3.3)	黒色鉱物粒多 白色細粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。底部寛削り後、口縁部に横線を描す。	

遺物一覧表

押印番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	寸法 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
689-5 277	土器 器 環	14号土坑 48cm ㄥ残存	口 10.7 底 — 高 (3.3)	黒色鉱物粒多 白色粒少	酸化焙 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く、わずかに内傾する。底部寛削り後口縁部に横撫でを施す。	
689-6 277	土器 器 環	14号土坑 25cm ㄥ残存	口 10.7 底 — 高 (3.5)	黒色鉱物粒少	酸化焙 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は寛削りを施し、間にわずかに調整不明瞭な部分が認められる。	
689-7 277	土器 器 環	14号土坑 56cm ㄥ残存	口 10.8 底 — 高 3.6	黒色細粒多 褐色細粒少	酸化焙 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く、わずかに内傾する。口縁部は横撫で、底部は寛削りを施し、間にはわずかに指痕を残している。	
689-8	土器 器 環	14号土坑 22cm ㄥ残存	口 (11.0) 底 — 高 (3.9)	黒色鉱物粒微	酸化焙 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く反り気味に直立する。底部寛削り、口縁部横撫でを施す。	
689-9 277	土器 器 環	14号土坑 覆土内 ㄥ残存	口 11.8 底 — 高 3.9	黒色鉱物粒多 褐色細粒多	酸化焙 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部は横撫で、底部は寛削りを施し、間に調整不明瞭な部分が認められる。	
689-10 277	土器 器 環	14号土坑 覆土内 ㄥ残存	口 12.0 底 — 高 (3.0)	黒色鉱物粒微 細砂粒微	酸化焙 硬質	にぶい 橙	底部は浅い丸底で、口縁部は短く内傾する。口縁部横撫で後底部に寛削りを施す。	
689-11	土器 器 環	14号土坑 47cm 破片	口 (17.7) 底 — 高 (6.2)	白色細粒多 褐色細粒多	酸化焙 硬質	橙	底部は深い丸底で、口縁部は短く、わずかに内湾する。底部寛削り後口縁部に横撫でを施す。	
689-12	土器 器 環	14号土坑 覆土内 破片	口 (16.2) 底 — 高 (4.8)	黒色鉱物粒微 褐色細粒多	酸化焙 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は短く内湾する。口縁部横撫で後、底部に寛削りを施す。	
690-13	土器 器 環	14号土坑 33cm 破片	口 (19.6) 底 — 高 (4.9)	黒色鉱物粒少 褐色細粒少	酸化焙 硬質	橙	底部は丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部は寛削りを施す。内面に比較して外面の磨減が激しい。	
690-14	須恵 器 蓋	14号土坑 51cm ㄥ残存	口 (11.2) 横 1.2 高 2.8	白色細粒多 黒色細粒少	還元焙 硬質	灰	輪縁整形(?)。扁平な体部を有し、天井部外面手持り部を削り後空珠溝を付している。かえりは短い比較的シャープである。	
690-15 277	須恵 器 蓋	14号土坑 覆土内 ㄥ残存	口 11.2 横 — 高 (1.6)	白色細粒多	還元焙 硬質	灰	輪縁整形(?)。扁平な体部を有し、かえりは比較的長くシャープである。天井部外面は手持り部を削り施す。	
690-16 377	土器 器 高 環	14号土坑 不明 破片	口 (18.0) 底 — 高 (5.0)	白色細粒少	酸化焙 硬質	にぶい 黄橙	底部との境に比較的明瞭な段を有し、口縁部は内湾気味に外傾する。体部寛削り、口縁部は横撫で、内面見込み部は放射状、口縁部は横位の磨き後内面黒色処理を施す。	
690-17 277	土器 器 高 環	14号土坑 44cm 破片	口 — 底 — 高 (4.5)	白色細粒少	酸化焙 硬質	にぶい 黄橙	体部中に弱い段を有する。体部寛削り後口縁部横撫で、口縁部に接合痕がみられる。内面は横位磨き後内面黒色処理を施す。	
690-18	土器 器 壺	14号土坑 37cm 破片	口 (22.0) 底 — 高 (7.7)	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焙 やや硬質	橙	口縁部「く」字状に強く外反し、肩はあまり張りみられない。口縁部横撫で後、胴部に斜位(下→上)の寛削りを施す。口縁部には2段の接合痕が観察できる。	
690-19	須恵 器 壺	14号土坑 覆土内 破片	口 (23.8) 底 — 高 (6.2)	黒色内粒少	還元焙 硬質	灰	組作り後輪縁整形(右側)。口縁部は強く外反し、上位に段を有する。	
690-20 276	鉄 器 刀 子	14号土坑 覆土内	長 (5.2) 幅 (0.55) 重 9.5				茎の部分と考えられる。	
690-21	石 器 磨 石	14号土坑 27cm 完形	長 14.3 幅 7.0 厚 4.9	粗粒安山岩			一面に磨減した面がみられる。	重 695.7
690-22	石 器 磨 石	14号土坑 35cm 完形	長 14.2 幅 6.3 厚 4.5	滑結凝灰岩			使用痕不明。	重 580.0
690-23	石 器 磨 石	14号土坑 60cm 完形	長 15.0 幅 7.4 厚 5.0	石英閃輝石			全面剥落している。	重 790.0

J区土坑

探区番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色類	器形・技法等の特徴	備考
690-24	石器 磨石 (穀石)	14号土坑 28cm 突形	共 厚 14.2 幅 7.1 高 4.4	粗粒安山岩			全面に磨滅がみられる他、端部に敲打痕がある。	重 763.0
691-25 277	土器器 環	15号土坑 覆土内 瓦残存	口 底 — 高 3.3	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焙 軟質	ぶい 橙	底部は丸底で、口縁部は短く、わずかに内傾する。底部寛削り後口縁部に横撫でを施す。内面に比較して外面の磨滅が激しい。	
692-26	土器器 環	19号土坑 6cm 瓦残存	口 (11.2) 底 — 高 3.2	黒色鉱物粒少	酸化焙 やや軟 質	橙	口縁部は弱く外反し、底部との間に強い横を有する。底部は扁平な丸底を呈する。底部は寛削り、口縁部は横撫でを施す。	
692-27	土器器 環	19号土坑 14cm 瓦残存	口 (12.0) 底 — 高 (3.8)	夾雑物なし	酸化焙 軟質	橙	口縁部は強く外反し、底部との間に強い横を有する。底部は丸底を呈する。底部は寛削り、口縁部は横撫でを施す。	
692-28 277	土器器 環	19号土坑 18cm 瓦残存	口 13.0 底 — 高 4.3	夾雑物なし	酸化焙 軟質	橙	底部は丸底で、口縁部との境に横を有し、口縁部はわずかに外反する。底部は寛削り、口縁部は横撫でである。	器面の磨滅が激しい。
692-29 277	土器器 環	19号土坑 ±0cm 瓦残存	口 17.5 底 — 高 7.6	褐色細粒多	酸化焙 軟質	橙	底部は深い丸底で、口縁部との境に明確な横を有し、口縁部は反り気味に直立する。底部は凹削り、口縁部は横撫でを施す。	
692-30 277	土器器 環	19号土坑 6cm 瓦残存	口 13.8 底 — 高 (4.2)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焙 硬質	ぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に強い横を有し、口縁部は外反し、上端でわずかに内湾する。また、口縁部中に沈線をも本廻らせる。底部は寛削り、口縁部は横撫でである。	
692-31 277	須恵器 蓋	19号土坑 12cm 瓦残存	口 14.2 柄 — 高 (3.8)	細砂粒多	還元焙 硬質	ぶい 黄橙	輪縁整形(?)。天井部外面は平らで回転寛削りが施されている。	
694-32	土器器 環	21号土坑 覆土内 破片	口 (11.8) 底 — 高 (3.2)	細砂粒微	酸化焙 軟質	橙	口縁部はやや外反し、底部との間に強い横を有する。整形は口縁部横撫で、底部は寛削りを施す。	
694-33	須恵器 高環	21号土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 (2.4)	白色細粒多 褐色細粒多	還元焙 硬質	灰	輪縁整形。体部下半に横を有し、底部にカキ目を施す。	
694-34 277	須恵器 短頸壺	21号土坑 覆土内 破片	口 (9.2) 底 — 高 (5.3)		還元焙 硬質	灰	輪縁整形。肩部の張りは強く、口縁部は短くやや内傾する。肩部に2本の沈線を超らせている。	内外面にカーボン付着。
694-35 277	須恵器 長頸壺	21号土坑 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焙 硬質	灰白	肩部破片で、沈線を超らし、間に樹状工具の衝突を施している。	厚 1.0
694-36 277	須恵器 環	22号土坑 覆土内 破片	口 — 底 (7.2) 高 (3.5)	黒色細粒多 白色細粒少	還元焙 硬質	明オリ 一ツ灰	輪縁整形(右回転)。底部は回転糸切り後の付高台と考えられる。	
694-37 277	須恵器 壺	22号土坑 覆土内 瓦残存	口 (16.4) 底 (11.6) 高 5.1	黒色丹粒少 細砂粒多	還元焙 硬質	灰	輪縁整形(右回転)。体部はわずかに内湾気味に立ち上がる。底部は回転糸切り後、底部周辺及び肩部に回転寛削りを施し、高台を貼付している。	
694-38	土器器 環	23号土坑 覆土内 破片	口 (12.2) 底 — 高 (2.2)	黒色鉱物粒微 細砂粒微	酸化焙 硬質	ぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は短く直立する。底部は寛削り後口縁部に横撫でを施す。	
694-39	土器器 環	23号土坑 覆土内 破片	口 (12.0) 底 — 高 (2.9)	黒色鉱物粒少	酸化焙 やや硬 質	橙	底部は丸底で、口縁部は内湾する。口縁部は横撫で、底部寛削りで間に調整不明な部分認められる。	
694-40 278	土器器 環	24号土坑 覆土内 瓦残存	口 13.0 底 — 高 3.2	黒色鉱物粒少 細砂粒多	酸化焙 軟質	ぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。口縁部は横撫で、底部寛削りで、間に調整不明な部分認められる。	
694-41	土器器 環	36号土坑 覆土内 破片	口 (9.1) 底 — 高 (3.1)	黒色鉱物粒少 細砂粒少	酸化焙 軟質	ぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部は直立する。口縁部横撫で、底部寛削りで、間に調整不明な部分認められる。	
694-42	須恵器 蓋	36号土坑 覆土内 破片	口 (16.2) 底 — 高 (3.6)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焙 硬質	灰オリ 一ツ	輪縁整形(右回転?)。体部の張りが強く、口縁部は短く直立する。天井部外面に回転寛削りを施す。	

J区(調)(遺構外)

探図番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
699-7	瓦 女瓦	3号溝 覆土内	厚 1.6	褐色粒多	還元焰 硬質	明灰	一枚作り?凸面調りき、凹面布目は粗く撫でられている。側面は全面撫でられている。側面は全面撫でられているが、布の圧痕がわずかにみられる。凹面布目は粗く撫で消されている。凹面から側部にかかりカボン付着。	
699-8	瓦 男瓦	3号溝 覆土内	厚 2.2	黒色円粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?凸面は全面撫でられているが、布の圧痕がわずかにみられる。凹面布目は粗く撫で消されている。凹面から側部にかかりカボン付着。	
699-9 278	石 器 不明	3号溝 覆土内 完形	長 14.8 底 13.0 高 4.7	粗粒安山岩			使用直は不明である。	重 1,457.2
699-10	土器 器 環	5号溝 覆土内 破片	口 (13.0) 底 — 高 (4.0)	黒色鉱物粒微 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部丸底で、口縁部との境に強い稜を有し、口縁部は外反する。整形は底部磨削り、口縁部及び内面横撫でを施す。	内外面黒 色塗彩。
699-11	須恵器 器 環	5号溝 覆土内 片残存	口 (11.5) 底 (8.3) 高 3.4	白色砂粒多	還元焰 硬質	灰	輪籠整形(?)。体部は直線的に外傾する。底部は回転盤切り無調整。	
699-12 278	須恵器 器 環	5号溝 覆土内 完形	口 14.3 底 6.7 高 5.1	細砂粒微	還元焰 硬質	灰	輪籠整形(右回転)。体部にわずかに盛りりを有し、口縁部は外反する。底部は回転糸切り後の付高台。	
699-13	須恵器 器 環	5号溝 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	白色細粒多	還元焰 硬質	灰	外部平行印き、内面青海波文。	厚 0.8
699-14	須恵器 器 環	5号溝 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —	赤色粒少 白色細粒少 砂粒微	還元焰 硬質	灰黄	外部平行印き、内面青海波文。	厚 0.8
700-15 278	土器 器 環	8号溝 覆土内 片残存	口 13.8 底 — 高 3.8	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 やや硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに外反する。底部磨削り、口縁部横撫で、間に調整不明瞭な部分認められる。	
700-16	土器 器 環	8号溝 覆土内 片残存	口 13.3 底 — 高 3.8	黒色鉱物粒多 細砂粒少	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は丸底で、口縁部はわずかに内湾する。口縁部横撫で、底部磨削り、間に調整不明瞭な部分認められる。	
700-17	土器 器 環	8号溝 覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 2.8	細砂粒微	酸化焰 軟質	橙	底部は平底で、体部はわずかに丸味を有し、口縁部は内湾気味に立ち上がる。口縁部横撫で、底部磨削りを施し、体部調整は不明。	
700-18	須恵器 器 環	8号溝 覆土内 破片	口 (12.4) 底 — 高 (3.6)	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	輪籠整形(右回転?)。体部はわずかに内湾気味である。底部切り離しは不明。	
700-19	須恵器 器 環	8号溝 覆土内 破片	口 (12.6) 底 — 高 (3.4)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	輪籠整形(右回転)。体部は直線的に立ち上がる。	
700-20	青磁	8号溝 覆土内 破片	口 — 底 — 高 —			オリーブ 灰	—	厚 0.5

J区遺構外

探図番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度目 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
703-1 278	土器 手 掘	表土 片残存	口 6.7 底 7.0 高 4.8	黒色細粒少	酸化焰 軟質	暗褐	非常に厚手で、外面に指痕がみられる。	
703-2 278	土器 器 環	表採 ほぼ完形	口 11.0 底 — 高 3.7	褐色粒少	酸化焰 軟質	橙	底部は扁平な丸底で、口縁部との境に稜を有し、口縁部はわずかに外反する。底部磨削り、口縁部は横撫でを施す。	
703-3 278	土器 器 環	表採 片残存	口 14.0 底 — 高 3.3	黒色鉱物粒多 細砂粒多	酸化焰 硬質	にぶい 橙	底部は扁平な丸底で、口縁部はわずかに内湾気味である。底部磨削り、口縁部横撫で、間に調整不明瞭な部分認められる。	
703-4	須恵器 器 環	表土 破片	口 (9.1) 底 — 高 (3.1)	黒色細粒少	還元焰 硬質	灰白	輪籠整形(?)。底部は丸底で、受け部は短く上方を向き、口縁部も短く直立する。底部は手持ち磨削り。	

遺物一覧表

博覧番号 図版番号	種別	出土位置 遺存状態	度量 (cm) 量目 (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
703-5 278	須恵器 坏	表土 与残存	口 10.8 底 — 高 4.5	砂粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(左回転)。受け部は短く水平に開き、口縁部は比較的長く内傾する。底部は非常に厚手で、平底状に回転削りされている。	
703-6	須恵器 坏	表土 破片	口 (12.0) 底 — 高 (4.3)	白色細粒微	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(?)。口縁部は反り気味に直立する。	
703-7 278	須恵器 坏	表探 ほぼ完形	口 10.3 底 6.0 高 5.1	白色粒少	還元焰 硬質	明灰	轆轤整形(右回転)。体部は直線的に外傾する。底部の切り離し技法は不明で、高台は付高台。	
703-8 278	須恵器 坏	表探 与残存	口 11.0 底 6.5 高 4.5	黒色細粒多	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転?)。体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに内湾する。底部は回転削り後付高台。	内面に自然釉。
703-9	須恵器 高台付甕	表土 破片	口 (16.0) 底 (8.5) 高 2.1	砂粒微	還元焰 硬質	灰白	轆轤整形(右回転)。口縁部はわずかに外反する。底部切り離し技法は不明である。付高台。	
703-10 278	須恵器 坏	表探 与残存	口 — 底 7.8 高 (5.8)	砂粒少	還元焰 硬質	明灰	轆轤整形(右回転)。体部はやや内湾気味に立ち上がる。底部切り離しは不明で、丁寧な整形調整後、角高台を付している。	
703-11	須恵器 皿	表土 破片	口 (24.8) 底 — 高 (2.2)	白・黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	轆轤整形(右回転)。体部は扁平で、口縁部との境に線を有し、口縁部は短く外傾する。口唇部は平坦で外傾する。体部は回転削り。	
703-12 278	須恵器 長頸瓶	表土 破片	口 — 底 12.6 高 (7.8)	褐色粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り後轆轤整形。胴部下半に回転削りを実施す。高台は付高台。肩部は整形調整されている。	
703-13 278	須恵器 瓶	表土 与残存	口 — 底 11.7 高 (11.8)	白色細粒多 黒色細粒少	還元焰 硬質	灰	紐作り後轆轤整形(右回転?)。胴部の張りは弱く、肩部に強く屈曲する。肩曲部には次線を上下に絶らせている。底部は整形調整後の付高台。	外面に融着物有り
703-14 279	土製品 蕃石	表土 完形	長 1.8 幅 1.7 厚 0.7	白・黒色細粒少	酸化焰 硬質		断面特徴状を呈する。	重 1.6
703-15	土製品 耳栓?	11号位埋 土 与残存		黒色細粒少	酸化焰 やや硬質	灰	形體的には滑平状耳栓に近似。文様なし。	
703-16 279	青磁	表探 破片	口 — 底 — 高 —			オリブ黄	—	厚 0.7
704-17 279	瓦 字瓦	表土	厚 3.8	白色粒少	還元焰 硬質	灰	単弁5条。外面及び背面は削りされている。	
704-18 279	瓦 字瓦	表土	厚 2.4	砂粒多	還元焰 やや硬質	灰	単弁。	
704-19	瓦 鬼瓦	表土	厚 —	砂粒多 黒色鉱物粒少	中性焰 硬質	褐灰	外面は指先の擦りで、剥落した痕跡がある。背面布目。	
704-20	瓦 女瓦	表土	厚 1.8	砂粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り。寛隆文字瓦。文字不明(凸面)。	
704-21	瓦 女瓦	表土	厚 2.0	細砂粒少 褐色粒少	中性焰 硬質	黄橙	一枚作り?凸面正格子叩き。凹面全面磨で。	
704-22	瓦 女瓦	表土	厚 2.1	白色粒多 褐色粒少	中性焰 硬質	黄橙	一枚作り?凸面削り後正格子叩き。内面布目は粗く無で消されている。	
704-23	瓦 女瓦	表土	厚 1.6	白色細粒多	中性焰 やや軟質	褐	一枚作り?凸面斜格子叩き。凹面全面磨で。	
704-24	瓦 女瓦	表土	厚 2.0	小礫少 白色細粒多	還元焰 硬質	灰	一枚作り?凸面斜格子叩き。凹面布目の磨消しなし。	
704-25	陶製 円盤	表土	厚 1.2	白色細粒少	還元焰 硬質	灰	周辺は打ち欠いて成形しており、その後の調整は加えていない。	
704-26 279	石製品 白玉	表探 完形	径 1.7 厚 0.6 孔 0.3	滑石			形状は円形で上下端部に磨痕がみられる。穿孔は一方向である。	重 2.4

J区遺構外

拝固番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm) (g)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
704-27 279	石製品 磁石	表土 写残存	長 (5.6) 幅 3.3 厚 2.8	磁沢石			磁面は4面であり、1面にわずかに敲打痕がみられる。	重 85.8
704-28 279	石製品 磁石	土坑群埋 土 写残存	長 (4.4) 幅 2.8 厚 2.1	磁沢石			断面方形で、上下が欠損する。磁面のうち1面にえぐったような痕跡がみられる。	重 49.0
704-29 279	石製品 磁石	表土 破片	長 (6.8) 幅 (2.2) 厚 1.8	瀬灰岩			磁面は4面、上端部欠損。	重 30.2
704-30	石製品 板餅?	表土 破片	長 (8.6) 幅 (8.2) 厚 (0.6)	珪質頁岩			一端に断面「V」状の線刻が認められるが文字とは考えられない。	重 59.0
705-31 279	石製品 多層塔	表土 ほぼ球形	長 (16.2) 幅 12.5 厚 12.4	角閃石安山岩			下半は4面共三角形状にえぐりが入っている。上端は欠損するが、ソケット状に組み合わせられたものと考えられる。	重 2,220.0

G・H区 追補

拝固番号 図版番号	種別 器種	出土位置 遺存状態	度量 量目 (cm)	胎土	焼成	色調	器形・技法等の特徴	備考
714	土師器 壺	H区1住 写残存	口 21.1 底 — 高 (18.8)	小礫多 砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焙 硬質	橙	肩部におずかに張り有し、口縁部は強く外反する。胴部外面縦位(下→上) 削削り後、口縁部に横撫でを施す。内面は横撫でを施す。	外面に接合痕を残す。
714	土師器 壺	H区96住 写残存	口 19.6 底 — 高 (24.5)	砂粒多 黒色鉱物粒少	酸化焙 硬質	橙	胴部下半に張り有し、口縁部は外反する。胴部縦位(上→下) 削削り後、口縁部に横撫でを施す。内面は横撫でを施す。	
715	土師器 壺	G区1号 埋没土器 写残存	口 — 底 — 高 (26.3)	砂粒多 黒色鉱物粒多	酸化焙 硬質	にぶい 橙	胴部上半に最大径を有する球胴形の胴部を有し、底部は丸底状の平底を呈する。胴部中位斜位(上→下)、下半横位(左→右)の削削り、内面横位横撫でを施す。内面下位に接合痕を有する。	底部に黒斑。

群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第103集
上野国分僧寺・
尼寺中間地域(4) 《図表編》
一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第33集一

平成2年3月15日印刷

平成2年3月20日発行

編集・発行／群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

発行／群馬県教育委員会
前橋市大手町1丁目1番1号
電話(0272)23-1111

印刷／朝日印刷工業株式会社
